平成26年第 1 回伊仙町議会定例会

会 期 日 程

平成26年第1回伊仙町議会定例会会期日程表

平成26年3月11日開会～3月20日閉会 会期10日間

月	日	曜	会議別	日 程	備 考
3	11	火	本会議 本会議終了後	<ul style="list-style-type: none"> ○開会 ○会議録署名議員の指名 ○会期の決定 ○諸報告 <ul style="list-style-type: none"> (1) 諸般の報告 (2) 行政報告 ○陳情等 ○条例議案審議（提案理由～質疑～討論～採決） ○補正予算議案審議（提案理由～質疑～討論～採決） ○平成26年度施政方針 ○当初予算議案上程（提案理由の説明） ○当初予算審査特別委員会設置、付託の説明 ○常任委員会（陳情審査） 	
〃	12	水	本会議	○一般質問（平議員・牧議員・美山議員 3名）	
〃	13	木	休 会	（中学校卒業式）	
〃	14	金	本会議	○一般質問（美島議員・岡林議員・琉議員 3名）	
〃	15	⊕	休 会		
〃	16	⊕	休 会		
〃	17	月	委員会	○当初予算審査特別委員会	
〃	18	火	委員会	○当初予算審査特別委員会	

3	19	水	委員会	○現地調査（午前） ○当初予算審査特別委員会（午後）	
〃	20	木	本会議	○議案審議（質疑～討論～採決） ○閉会	

平成26年第 1 回伊仙町議会定例会

第 1 日

平成26年 3 月11日

平成26年第1回伊仙町議会定例会議事日程（第1号）

平成26年3月11日（火曜日） 午前10時 開議

1. 議事日程（第1号）

- 開会の宣言
- 開議の宣言
- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 諸報告
- 日程第4 陳情第2号 TPP（環太平洋連携協定）交渉に関する陳情書
(経済建設常任委員会へ審査付託)
- 日程第5 陳情第3号 日本マルコ株式会社伊仙町事業所及び社員住宅等阿権集落地内誘致の
陳情書 (経済建設常任委員会へ審査付託)
- 日程第6 議案第3号 伊仙町子ども・子育て支援会議条例の制定（提案理由説明～質疑～討
論～採決）
- 日程第7 議案第4号 伊仙町学校施設使用条例の一部を改正する条例（提案理由説明～質疑
～討論～採決）
- 日程第8 議案第5号 伊仙町社会教育委員設置条例の一部を改正する条例（提案理由説明～
質疑～討論～採決）
- 日程第9 議案第6号 伊仙町体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例（提
案理由説明～質疑～討論～採決）
- 日程第10 議案第7号 伊仙町公民館の設置及び管理等に関する条例の一部を改正する条例（提
案理由説明～質疑～討論～採決）
- 日程第11 議案第8号 伊仙町面縄コミュニティセンターの設置及び管理に関する条例の一部
を改正する条例（提案理由説明～質疑～討論～採決）
- 日程第12 議案第9号 伊仙町国民健康保険税条例の一部を改正する条例（提案理由説明～質
疑～討論～採決）
- 日程第13 議案第10号 伊仙町水道給水条例の一部を改正する条例（提案理由説明～質疑～討
論～採決）
- 日程第14 議案第11号 平成25年度伊仙町一般会計補正予算（第7号）（提案理由説明～質疑
～討論～採決）
- 日程第15 議案第12号 平成25年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）（提案理
由説明～質疑～討論～採決）
- 日程第16 議案第13号 平成25年度伊仙町介護保険特別会計補正予算（第4号）（提案理由説

明～質疑～討論～採決)

- 日程第17 議案第14号 平成25年度伊仙町後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)(提案理由説明～質疑～討論～採決)
- 日程第18 平成26年度の施政方針説明
- 日程第19 議案第15号 平成26年度伊仙町一般会計予算(提案理由説明)
- 日程第20 議案第16号 平成26年度伊仙町国民健康保険特別会計予算(提案理由説明)
- 日程第21 議案第17号 平成26年度伊仙町介護保険特別会計予算(提案理由説明)
- 日程第22 議案第18号 平成26年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算(提案理由説明)
- 日程第23 議案第19号 平成26年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算(提案理由説明)
- 日程第24 議案第20号 平成26年度伊仙町簡易水道特別会計予算(提案理由説明)
- 日程第25 議案第21号 平成26年度伊仙町上水道事業会計予算(提案理由説明)
- 日程第26 平成26年度伊仙町一般会計当初予算及び各特別会計予算審査特別委員会の設置について
- 追加日程第1 議案第22号 伊仙町町営住宅設置及び管理条例の一部を改正する条例(提案理由説明～質疑～討論～採決)
- 追加日程第2 議案第23号 普通財産無償貸付契約について(提案理由説明～質疑～討論～採決)

1. 出席議員（14名）

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	平博人君	2番	岡林剛也君
3番	牧徳久君	4番	上木千恵造君
5番	美山保君	6番	永田誠君
7番	福留達也君	8番	前徹志君
9番	明石秀雄君	10番	樺山一君
11番	永岡良一君	12番	伊藤一弘君
13番	琉理人君	14番	美島盛秀君

1. 欠席議員（0名）

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長 明勝良君 事務局係長 佐平勝秀君

1. 説明のため出席した者の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町長	大久保明君	副町長	中野幸次君
総務課長	樺山誠君	企画課長	池田俊博君
税務課長	椛山正二君	町民生活課長	西吉広君
保健福祉課長	松田一郎君	経済課長	上木義一君
建設課長	中熊俊也君	耕地課長	穂浩一君
環境課長	益一男君	水道課長	芳田勇人君
選管書記長	佐平浩則君	農委事務局長	益岡稔君
教育長	茂岡勲君	教委総務課長	鶴永宏造君
社会教育課長	當吉郎君	学給センター所長	永島均君
ほーらい館長	仲武美君		
総務課長補佐	田島輝久君		
総務課長補佐	仲島正敏君		
議会中継班（総括情報戦略室長	関政樹君）		
（終日）伊藤晋吾君・吉田和史君・竹島宏君			

△開 会（開議） 午前10時00分

○議長（琉 理人君）

ただいまから平成26年第1回伊仙町議会定例会を開会します。
これから本日の会議を開きます。

△ 日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（琉 理人君）

日程第1 会議録署名議員の指名をします。

会議録署名議員は、会議規則第120条の規定によって、牧 徳久君、上木千恵造君、予備署名議員を美山 保君、永田 誠君を指名します。

△ 日程第2 会期の決定

○議長（琉 理人君）

日程第2 会期の決定を議題とします。

お諮りします。

本定例会の会期は、本日3月11日から3月20日までの10日間としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。

したがって、本定例会の会期は本日3月11日から3月20日までの10日間と決定いたしました。

なお、会期日程につきましては、お配りいたしております日程表のとおりであります。

△ 日程第3 諸般の報告

○議長（琉 理人君）

日程第3 諸般の報告を行います。

初めに、議長より平成25年第4回定例会以降、本定例会までの諸般の報告を行います。

議長の動静等の報告については、皆様方のお手元にお配りいたしてあります。

したがって、主な項目についてご報告をいたします。

2月14日、徳之島3カ町議会議員大会及び研修会が天城町で開催され、第57回奄美群島市町村議会議員大会への提出議題が「鹿児島県立徳之島農業高校跡地に大島養護学校分校設置を求めることについて」に決定となりました。

次、2月26日、大島郡市町村長議会議長合同会及び大島郡町村議会議長会定期総会に出席いたしました。

以上で、議長の動静等についての報告を終わります。

伊仙町監査委員より、定期監査及び平成26年2月までの例月出納検査の結果、事務事業についてはおおむね適正であるが、改善されるべき点も見受けられるとの報告がなされております。

また、閲覧を希望される方は、事務局に常備いたしておりますので、ご確認ください。

以上で、諸般の報告を終わります。

次に、町長から行政報告の申し出がありましたので、これを許します。

○町長（大久保明君）

おはようございます。5人の新しい議員の方々とともに、14名の全議員とともに、これから4年近くの間、皆さんとともに全伊仙町民の幸せのために全力で頑張っていきたいと思っておりますので、皆さん方一人一人の知恵と能力と、そしてこの奮起と情熱、そういうものをあらゆる力を結集していけば、伊仙町はすばらしい町に間違いなく作っていくことができると思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、12月議会以降の主な行政報告を行ってまいります。

12月23日に、MBCと南日本新聞社で奄美群島復帰60周年記念シンポジウムがございまして、町村会の代表といたしましてパネリストとして参加いたしました。山田洋次監督、元ちとせさんとともに、これから世界自然遺産に向かっていく中で、奄美群島のあるべき姿について、そして今追い風が吹いている奄美群島の「結」、「もてなし」、そういうものをしっかりと打ち出していくと、文化を打ち出していくということが重要であるということなどの議論をしております。

1月20日に、熊本大学の徳野貞雄教授が講演をいたしました。この方は今内閣府の地域おこしの重要な委員でもございますけれども、奄美群島、沖永良部と徳之島でのフィールドワークを中心とした中での子宝の地域について、そしてこういう地域力がこれから日本を引っ張っていくだろうというふうなエールを送っていただきました。

1月22日に、全国町村会会長、副会長の合同会議がございまして、前日、県選出国會議員の先生方、自由民主党の國會議員の先生方との意見交換会がございまして、この中で特に議論になったのは一括交付金の中身に関して、今後、制度設計ができるまでの間に地元の方々の農産物、そして航空運賃、航路の運賃の低減だけでなく、来る方々に対しても助成ができるような仕組みをつくっていききたいというふうな話がございました。

1月26日には、伊仙町議會議員選挙が行われまして、前回無投票から今回は激戦の中で5人の新人を含む皆さん方14人の方が当選をいたしまして、新しく編成されたところでございます。

2月1日には、企業誘致の対象となっております日本マルコ株式会社様が来て、ほーらい館で説明会がございまして、この中で98人の応募者も含めて参加いたしまして、3町より多くの人たちが参加して、日本マルコ株式会社に対する期待があらわれたところでございます。

現在、面接が15日から始まりまして、二十数名の方が今履歴書を持ってきている状況でございます。

同日に、赤土バレイショの「春一番」の出発式がございまして、去年大変な価格暴落にあった中で新たに頑張っていこうということで、永岡部会長が共販率100%を目標としていくという力強い挨拶もございました。

2月3日には、サトウキビの春植え出発式が開催されまして、300ha目標ということで、この数年間非常に厳しい状況であります。25年、26年度も当初予想よりも少なくなって14万t台というふうな形でありますけれども、これは面積もかなり減ってきたということと、去年夏場の大規模な干ばつの影響であります。27年度に関しましては、面積が大幅に増えていく中での産出額の奪回が期待をされるところでございます。

2月7日に、奄美群島世界自然遺産登録推進検討会がございまして、この中で特に問題となったのは、徳之島地域の自然遺産のエリアがちょっと面積が少ないということと、このコアゾーンとバッファゾーンと、それから農地が近いということで、そのバッファゾーン、緩衝地帯を広げるための植林事業というのをこれから2年間かけてやっていくことなどがユネスコに評価されることになるのではないかというふうな提案が国のほうからございました。伊仙町の虹の会の取り組みは今大変高く評価されております。そして、このような流れが大きく生まれつつあります。

2月8日から12日までに、鹿児島県の町村会の鹿児島県知事を含めて海外研修、ベトナム及び上海の視察に行っていました。今、経済成長率が非常に高いベトナムにおいては、日本の昭和30年代から40年代を思わせるような勢い、そのたくましさ、物すごい人たちの動き、ダイナミックさを見て、今日本に失われつつあるものを私たちは学んできたような気がいたします。

今、県の町村会においても職員の海外研修を予定をしております。今後、伊仙町議会においても東アジアを中心にした形での視察研修というのは必要ではないかと思えます。視野を広げ、見聞を広げるという意味においては、これから環黄海経済圏が「ヒト・モノ・カネ」が世界で一番大きく動く地域を視察するということが重要ではないかと改めて思いました。

2月14日には、先ほど議長より話があったとおり、大島養護学校の分校ということで、今回また前後の議員大会に提案するということでもあります。これは言い続けていくと、主張し続けていくということが流れを変えていくということになってくると思えます。

2月15日には、徳之島航路運賃対策協議会が3町の商工会、観光協会を中心に開催されまして、いろんな航空運賃の低減化に関しては地元のほうからいろんなしかけをしていくことが重要であろうと、これはキャンペーン事業など、いろんな観光業界の本土の方々との連携が必要であるということでありました。

同じく、同日に徳之島闘牛連合会の総会、新年会がありまして、闘牛協会も自然遺産に向かって多くの交流人口を増やしていくというために、新たな取り組みとして、小林照幸さん、上原さんという実熊牛の角を持ってきた方を闘牛大使と任命したような報告を受けました。

2月19日、全国離島振興協議会が開催されまして、これは奄美群島が全国離島振興協議会の理事ということで去年から参加するようになった中で、初めて奄美群島、奄美市において、今年の5月

28日から29日にかけて全国離島振興協議会の総会が開催することを決定をいたしました。

同2月20日の奄美群島成長戦略懇話会の中で、これは奄美市の審議会とその諮問機関のような団体でございますけど、各町の代表と審議員が参加して、数値目標として新たに議論になったのは、人口復権対策としての人口の維持です。これは減少をとめるということで、いろいろ議論した結果、数値目標は平成21年度の奄美群島の人口を、これから10年後、維持、同じような人口を維持させていくという目標を設定をいたしました。

21日には、鹿児島県国民健康保険診療施設協議会の研修会で、伊仙町が出生率が高いということと、それから特定健診が全国ではほぼ毎年1位になっているということでの説明の講演を行ってありました。

以上、行政報告といたします。

△ 日程第4 陳情第2号 TPP（環太平洋連携協定）交渉に関する陳情書

△ 日程第5 陳情第3号 日本マルコ株式会社伊仙町事業所及び社員住宅等阿権集落地内誘致の陳情書

○議長（琉 理人君）

日程第4 陳情第2号、TPP（環太平洋連携協定）交渉に関する陳情書、日程第5 陳情第3号、日本マルコ株式会社伊仙町事業所及び社員住宅等阿権集落地内誘致の陳情書の2件を一括して議題とします。

平成25年12月定例会閉会后、これまで受理した陳情は、陳情第1号から第3号までの3件であります。

お手元にお配りいたしましたとおり、日程第4 陳情第2号、TPP（環太平洋連携協定）交渉に関する陳情書、日程第5 陳情第3号、日本マルコ株式会社伊仙町事業所及び社員住宅等阿権集落地内誘致の陳情書については所管の常任委員会に付託いたします。

その他陳情書については、申し合わせのとおり文書配付いたしますので、申し添えておきます。

△ 日程第6 議案第3号 伊仙町子ども・子育て支援会議条例の制定

○議長（琉 理人君）

議案第3号、伊仙町子ども・子育て支援会議条例の制定を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

○町長（大久保明君）

提案理由の説明いたします。

議案第3号、平成25年第1回伊仙町議会定例会に提案した議案第3号について説明をいたします。

議案第3号は、伊仙町子ども・子育て支援会議条例の制定であります。

ご審議賜りますよう、よろしく願いいたします。

○議長（琉 理人君）

補足説明があれば、これを許します。

○町民生活課長（西 吉広君）

補足説明をいたします。

議案第3号、伊仙町子ども・子育て支援会議条例の制定についてご説明申し上げます。

この条例制定は、子育て支援事業計画の策定に係る意見の聴取を行うために条例を定め、審議会、その他合議制の機関を置くための条例を制定するものであります。

どうぞご審議賜りますよう、よろしく申し上げます。

○議長（琉 理人君）

議案第3号、伊仙町子ども・子育て支援会議条例の制定について質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

質疑なしと認めます。

議案第3号について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。

これから議案第3号を採決いたします。

お諮りします。本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。

したがって、議案第3号、伊仙町子ども・子育て支援会議条例の制定については原案のとおり可決することに決定しました。

- △ 日程第7 議案第4号 伊仙町学校施設使用条例の一部を改正する条例
- △ 日程第8 議案第5号 伊仙町社会教育委員設置条例の一部を改正する条例
- △ 日程第9 議案第6号 伊仙町体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例
- △ 日程第10 議案第7号 伊仙町公民館の設置及び管理等に関する条例の一部を改正する条例
- △ 日程第11 議案第8号 伊仙町面縄コミュニティセンターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

○議長（琉 理人君）

日程第7 議案第4号、伊仙町学校施設使用条例の一部を改正する条例から議案第8号、伊仙町面縄コミュニティセンターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例までの5件を一括して議題とします。

提案理由の説明を求めます。

○町長（大久保明君）

議案第4号から議案第8号までについて提案理由の説明をいたします。

議案第4号は、伊仙町学校施設使用条例の一部を改正する条例、議案第5号は、伊仙町社会教育委員設置条例の一部を改正する条例、議案第6号は、伊仙町体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例、議案第7号は、伊仙町公民館の設置及び管理等に関する条例の一部を改正する条例、議案第8号は、伊仙町面縄コミュニティセンターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定であります。

以上、5件について提案理由の説明をいたしました。ご審議賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（琉 理人君）

補足説明があれば、これを許します。

○教委総務課長（鶴永宏造君）

議案第4号、伊仙町学校施設使用条例の一部を改正する条例について補足説明をいたします。

この条例改正は、各小中学校の屋内運動場と校庭の使用料を、本年4月から消費税が5%から8%へ税率が引き上げになるため、使用料を改正するものでございます。

議案書の2ページの裏のほう、新旧対照表をご覧くださいと思います。

この中で、午前、午後とか区分がありますが、午前につきましては8時30分から12時まで、午後が12時から17時まで、午前午後というのが8時半から17時まで、夜間が17時から22時まで、前日というのが8時半から22時までとなっております。

改正前の屋内運動場の午前の使用料が1,030円を改正後は1,080円にするものでございます。

あとは、それぞれまたご覧くださいと思います。

以上、ご審議賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○社会教育課長（當 吉郎君）

続きまして、議案第5号、伊仙町社会教育委員設置条例の一部を改正する条例について補足説明をさせていただきます。

この改正は、平成25年6月、地方分権改革の第3次一括法改定に伴う改正でありまして、あけていただきまして、伊仙町社会教育委員設置条例の一部を次のように改正するという事で、今まで社会教育委員は教育委員会のほうで委嘱していたわけなんです、その条項文の中に「教育委員会が委嘱する」という条文を今回加えることになりました。

審議賜りますよう、よろしくお願いいたします。

続きまして、議案第6号、伊仙町体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の改正であります。

あけていただきまして、主な改正点といたしましては、まず時間を今まで9時から22時の時間でありましたけれども、役場の就業規則に合わせまして午前8時から22時までの利用時間とするものと。あとは各施設の利用時間なんですけど、午前、午後、夜間というふうに分けてありましたが、利用する団体がもう時間単位で利用する団体がほとんどでありまして、そういった関係も含めまして時間単位で、午前、午後、夜間とも1時間当たり、照明代を含めまして時間を設定しているところであります。

ちなみに総合体育館の改正なんですけど、総合体育館のアリーナの1つ、本アリーナとサブアリーナがあるわけなんですけど、1時間、照明を含めまして、アリーナをアマチュアスポーツあるいは文化的催し物に使用するときには1時間当たり1,200円。そして、その他の使用の場合は1,800円。

それから、入場料などを徴収する場合は1時間当たり1,800円。そして、その他の場合は2,400円をいただくことに改正をしてあります。

以上、審議賜りますよう、よろしくお願いをいたします。

続きまして、議案第7号、伊仙町公民館の設置及び管理等に関する条例の一部を改正する条例についてであります。

こちらのほうは、先ほどの学校施設の改正と一緒にありまして、消費税5%の増税に伴いましての料金の改正であります。それと、利用時間を午前8時から午後10時までの改正であります。

審議賜りますよう、よろしくお願いをいたします。

続きまして、議案第8号、伊仙町面縄コミュニティセンターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例についてでありますけど、こちらのほうは文言の改定であります。

今までは「コミュニティーセンター」というふうになっておりました分を「コミュニティ」。小さな「ティ」に横棒を入れて「コミュニティー」を「コミュニティ」に改定する条例の改定であります。

以上、審議賜りますよう、よろしくお願いをいたします。

○議長（琉 理人君）

議案第4号、伊仙町学校施設使用条例の一部を改正する条例について質疑を行います。

○14番（美島盛秀君）

伊仙町学校施設使用条例の一部を改正する条例についての質疑をいたします。

例えば、各集落行事とか、あるいは一般の人たちの借りるときの徴収あるいは手続等、こういうのを手順をどういうふうにしてやっているのか、お伺いいたします。

○教委総務課長（鶴永宏造君）

学校施設を使用する場合は、各学校長に申請をしなければなりません。そして、学校長のほうから教育委員会のほうに使用願いが出てくるという状況でございます。

○14番（美島盛秀君）

そうしますと、各施設を借りた場合に料金を払うわけなんですけれども、過去にそういう例がありますか、各小中学校で。

○教委総務課長（鶴永宏造君）

今までに使用料を徴収したことはないと思います。いわゆる営利目的ではありませんので、学校行事として捉えております。

○14番（美島盛秀君）

この施設の料金のことがちょっと理解しにくいわけなんですけれども、公共施設、教育現場でありますので、営利目的で貸すということはありませんよ。ですから、教室あるいは屋内というのは体育館だと思いますけれども、料金、過去ないということであれば、私は、こういう施設に限って、そういう興行とか利益を目的とかいうようなことを入れないといけないと思うんですけれども、ちょっとこれだけではわかりにくいんですけれども、どうですか。

○教委総務課長（鶴永宏造君）

お答えいたします。

スポーツ少年団等については減免措置がとられておりますが、これと他に社会教育課のほうで伊仙町立小中学校の施設開放という規則を設けまして、この中において、社会人のバレーとか野球とか、こういうのを申請をすれば、この金額から半額を徴収しているという状況です。

○議長（琉理人君）

他に質疑はございませんか。

○3番（牧徳久君）

今、この学校施設の消費税増に伴う料金改正があったんですが、使用料をとる他の課においては、こういった改正はないものか、お願いします。

○企画課長（池田俊博君）

企画課ですけど、企画課においては、犬田布岬公園のほうの喫茶店をやっているところが使用料をとって今5%のほうを徴収をしているんですが、26年度において、その建物の改修を今計画していますので、今借りている方が6月か7月ごろまでですので、一応それが済んでからまた使用料の改正とか規約の改正等を行ってやっていきたいと思っております。

○3番（牧徳久君）

ほーらい館あたりはどうでしょうか。

○ほーらい館長（仲武美君）

平成26年の2月の13日に運営審議会を開きまして、その中で利用料金についてを協議した結果、平成25年の4月1日にデイトム3,800円から5,000円、またフルタイム4,800円から6,000円に、それぞれ1,200円ずつ上げてありますので、このことについては審議員の皆様方から据え置きにするということで話し合いをしてあります。

以上です。

○議長（琉 理人君）

他に質疑ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

質疑なしと認めます。

議案第4号、伊仙町学校施設使用条例の一部を改正する条例について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。

これから議案第4号を採決します。

お諮りします。本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。したがって、議案第4号、伊仙町学校施設使用条例の一部を改正する条例については原案のとおり可決することに決定いたしました。

議案第5号、伊仙町社会教育委員設置条例の一部を改正する条例について質疑を行います。

質疑ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

質疑なしと認めます。

議案第5号、伊仙町社会教育委員設置条例の一部を改正する条例について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。

これから議案第5号を採決します。

お諮りします。本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。したがって、議案第5号、伊仙町社会教育委員設置条例の一部を改正する条例については原案のとおり可決することに決定いたしました。

議案第6号、伊仙町体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について質疑を行います。質疑ございませんか。

○12番（伊藤一弘君）

相撲道場は、どういう具合にどのような使用方法でやっているんですか。

例えば、週に何回とか。まず、小学生、中学生、高校生といらっしゃるんですが、どのような形の使用方法でやっているんですか。

○社会教育課長（當 吉郎君）

昨年度、相撲道場は完成しまして、それを受けまして、社会教育課のほうに相撲の指導をできる中和昭君という方がいらっしゃいますので、彼にぜひ子供たちに相撲を教えていただきたいということで、今詳しい人数はわかりませんが、何名かの子供たちを集めて、週何回か練習をさせている状況でございます。できれば平成26年度あたりにスポーツ少年団等を立ち上げていただきたいということで、こちらのほうでもまた支援をしていただくことを考えております。

それとまた、今年の5月5日だったか、相撲の奄美選手権といいまして、大島の青年会議所主催の相撲がありまして、ぜひうちのほうでやっていただきたいということで、今5月の5日に奄美選手権ですか、ちょっと名前は定かでないんですが、相撲の大会を開くことになっております。

○議長（琉 理人君）

よろしいですか。他にございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

質疑なしと認めます。

議案第6号、伊仙町体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。

これから議案第6号を採決します。

お諮りします。本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。したがって、議案第6号、伊仙町体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例については原案のとおり可決することに決定いたしました。

議案第7号、伊仙町公民館の設置及び管理等に関する条例の一部を改正する条例について質疑を行います。質疑ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

質疑なしと認めます。

議案第7号、伊仙町公民館の設置及び管理等に関する条例の一部を改正する条例について討論を

行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。

これから議案第7号を採決します。

お諮りします。本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。したがって、議案第7号、伊仙町公民館の設置及び管理等に関する条例の一部を改正する条例については原案のとおり可決することに決定しました。

議案第8号、伊仙町面縄コミュニティセンターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について質疑を行います。質疑ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

質疑なしと認めます。

議案第8号、伊仙町面縄コミュニティセンターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。

これから議案第8号を採決します。

お諮りします。本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。したがって、議案第8号、伊仙町面縄コミュニティセンターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例については原案のとおり可決することに決定いたしました。

△ 日程第12 議案第9号 伊仙町国民健康保険税条例の一部を改正する条例

○議長（琉 理人君）

議案第9号、伊仙町国民健康保険税条例の一部を改正する条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

○町長（大久保明君）

議案第9号は、伊仙町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定であります。

ご審議賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（琉 理人君）

補足説明があれば、これを許します。

○税務課長（椋山正二君）

議案第9号、伊仙町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について補足説明をいたします。

地方税法施行令の一部が改正されることに伴い、伊仙町国民健康保険税条例においても、国の準則に合わせ、平成26年4月1日から施行できるよう提案させていただいております。

主な改正点は、国民健康保険税の課税限度額の見直し及び低所得者に係る保険税軽減の拡充を行うものであります。

ご審議賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（琉 理人君）

議案第9号、伊仙町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について質疑を行います。

質疑ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

質疑なしと認めます。

議案第9号について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。

これから議案第9号を採決します。

お諮りします。本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。したがって、議案第9号、伊仙町国民健康保険税条例の一部を改正する条例については原案のとおり可決することに決定いたしました。

△ 日程第13 議案第10号 伊仙町水道給水条例の一部を改正する条例

○議長（琉 理人君）

議案第10号、伊仙町水道給水条例の一部を改正する条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

○町長（大久保明君）

議案第10号は、伊仙町水道給水条例の一部を改正する条例の制定であります。

ご審議賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（琉 理人君）

補足説明があれば、これを許します。

○水道課長（芳田勇人君）

議案第10号、伊仙町水道給水条例の一部を改正する条例について補足説明をいたします。

この改正は、平成26年4月1日から消費税が地方消費税と合わせて5%から8%に引き上げられることになりました。本町の水道料金におきましても、現行の100分の105を100分の108相当額にする条例改正案を本定例会に提案するものでございます。

具体的には、基本料金1,050円だったものが1,080円、1 m³当たり126円だったものが129円と改正するものでございます。

ご審議賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（琉 理人君）

議案第10号、伊仙町水道給水条例の一部を改正する条例について質疑を行います。

質疑ございませんか。

○14番（美島盛秀君）

消費税が8%に上がるための水道料金が上がるわけなんですけれども、こういうことは、我々もちろん議会も町民の皆さんに報告をする義務があるわけなんですけれども、町として、ぜひこれは町民に各家庭に何か文書でも配布して理解をさせていただきたいと思えます。

また水道料も上がったのかと言われぬように、消費税が8%になったからですよという丁寧な説明をぜひお願いいたしたいと思えます。

○水道課長（芳田勇人君）

ただいま美島議員がおっしゃったように、この辺を周知徹底を今後3月中に図ってまいりたいと思えます。

○議長（琉 理人君）

他に質疑ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

質疑なしと認めます。

議案第10号について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。

これから議案第10号を採決します。

お諮りします。本案は、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。したがって、議案第10号、伊仙町水道給水条例の一部を改正する条例については原案のとおり可決することに決定しました。

- △ 日程第14 議案第11号 平成25年度伊仙町一般会計補正予算（第7号）
- △ 日程第15 議案第12号 平成25年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）
- △ 日程第16 議案第13号 平成25年度伊仙町介護保険特別会計補正予算（第4号）
- △ 日程第17 議案第14号 平成25年度伊仙町後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）

○議長（琉 理人君）

議案第11号、平成25年度伊仙町一般会計補正予算（第7号）から議案第14号、平成25年度伊仙町後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）までの4件を一括して議題とします。

提案理由の説明を求めます。

○町長（大久保明君）

議案第11号から議案第14号までについて提案理由の説明をいたします。

議案第11号は、平成25年度伊仙町一般会計、議案第12号は、平成25年度伊仙町国民健康保険特別会計、議案第13号は、平成25年度伊仙町介護保険特別会計、議案第14号は、平成25年度伊仙町後期高齢者医療特別会計の既定の予算に変更が生じたので、地方自治法第218条第1項の規定により提案しております。

以上、議案第11号から議案第14号までの4件について提案理由を説明いたしました。

ご審議賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（琉 理人君）

補足説明があれば、これを許します。

○総務課長（樺山 誠君）

平成25年度一般会計補正予算書をお開きください。

まず、めくっていただきまして、議案第11号、平成25年度伊仙町一般会計補正予算（第7号）について、補足説明をいたします。

既定の歳入歳出予算の総額52億3,304万6,000円に歳入歳出それぞれ1,114万円を減額し、歳入歳出予算の総額を52億2,190万6,000円とするものです。

7ページをお開きください。まず、歳入についてご説明をいたします。

11款分担金及び負担金、補正前の額6,112万9,000円に4万5,000円を減額補正し、6,108万4,000円とするものです。

主な理由といたしましては、職場健診個人負担金の減額によるものでございます。

13款国庫支出金、補正前の額5億3,250万8,000円に24万2,000円を減額補正し、5億3,226万6,000円とするものです。

主な理由といたしましては、参議院議員選挙委託金等の減額によるものでございます。

14款県支出金、補正前の額4億5,644万3,000円に83万6,000円を増額補正し、4億5,727万9,000円とするものです。

主な理由といたしましては、生活交道路線バス維持事業補助金等の増額によるものでございます。

16款です。補正前の額454万2,000円に244万4,000円を増額補正し、698万6,000円とするものでございます。

主な内容といたしましては、きばらでえ伊仙応援寄附金の増額によるものでございます。

17款繰入金、補正前の額6,940万8,000円に、743万3,000円を減額補正し、6,197万5,000円とするものでございます。

主な理由といたしましては、財政調整基金繰入金等の減額によるものでございます。

20款町債費5億6,230万9,000円に、670万円を減額補正し、5億5,560万9,000円とするものでございます。

主な理由といたしましては、防災無線施設整備事業債等の減額によるものでございます。

歳入合計、補正前の額52億3,304万6,000円に1,114万円を減額補正し、52億2,190万6,000円とするものでございます。

歳出についてご説明いたします。8ページをお願いいたします。

2款総務費、補正前の額7億3,929万3,000円に357万3,000円を増額補正し、7億4,286万6,000円とするものです。

主な理由といたしましては、きばらでえ伊仙応援基金積立金等の増額によるものでございます。

3款民生費、補正前の額13億310万6,000円に177万7,000円を減額補正し、13億132万9,000円とするものです。

主な理由といたしましては、人件費等の減額によるものでございます。

4款衛生費、補正前の額5億3,885万7,000円に34万9,000円を減額補正し、5億3,850万8,000円とするものでございます。

主な理由といたしましては、人件費等の減額によるものでございます。

5款農林水産費、補正前の額7億705万9,000円に177万6,000円を減額補正し、7億528万3,000円とするものです。

主な理由といたしましては、人件費等の減額によるものでございます。

7款土木費、補正前の額3億5,713万4,000円に259万5,000円を減額補正し、3億5,453万9,000円とするものです。

主な理由といたしましては、人件費の減額によるものでございます。

8款消防費、補正前の額1億7,053万に248万2,000円を減額補正し、1億6,804万8,000円とするものです。

主な理由といたしましては、防災無線施設整備事業工事請負費等の減額によるものでございます。

9 款教育費、補正前の額 3 億 7,728 万 8,000 円に 573 万 4,000 円を減額補正し、3 億 7,155 万 4,000 円とするものです。

主な理由といたしましては、人件費等の減額によるものでございます。

歳出合計、補正前の額 52 億 3,304 万 6,000 円に 1,114 万円を減額補正し、52 億 2,190 万 6,000 円とするものでございます。

4 ページをお願いいたします。第 2 表、地方債の補正についてご説明いたします。

(1) 過疎対策事業債、補正前限度額 3 億 2,090 万円に生活交通路線維持事業費 250 万円を減額し、3 億 1,840 万円とするものでございます。(6) 緊急防災・減災事業、限度額 1,980 万円を減額し、(7) の一般補助施設整備事業債の限度額を 1,560 万円とするものでございます。緊急防災・減災事業債及び一般補助施設整備事業債については、地方債の項目変更及び事業執行に伴う減額によるものでございます。

合計、補正前限度額 5 億 6,230 万 9,000 円に 670 万円を減額し、補正後限度額を 5 億 5,560 万 9,000 円とするものでございます。

5 ページをお願いいたします。第 3 表、繰越明許費についてご説明いたします。

地方自治法第 213 条第 1 項の規定により、繰り越しして使用する経費は、3 款民生費 3 項児童福祉費、子ども・子育て支援制度システム改修事業費 166 万 9,000 円、7 款土木費 2 項道路橋梁費、地域活力基盤創造交付金事業費 700 万円、効果促進事業費 1,800 万円でございます。

6 ページをお願いいたします。第 4 表、債務負担行為の変更についてご説明をいたします。

戸籍総合システムリース料、限度額 2,232 万 1,000 円に 27 万 4,000 円を減額し、限度額を 2,204 万 7,000 円に変更するものでございます。

戸籍総合システム保守委託料、限度額 1,084 万 7,000 円に 22 万 5,000 円を増額し、限度額を 1,107 万 2,000 円に変更するものでございます。事業執行に伴う変更でございます。

有機物供給センターの指定管理者委託料、限度額 4,267 万 5,000 円に 24 万 4,000 円を増額し、4,291 万 9,000 円とするものでございます。消費税の改正に伴う変更でございます。

以上、ご審議賜りますよう、よろしくをお願いいたします。

○議長（琉 理人君）

議案第 11 号、平成 25 年度伊仙町一般会計補正予算（第 7 号）について質疑を行います。

質疑ございませんか。

○4 番（上木千恵造君）

5 ページの繰越明許費ですけれども、この内容についてもうちちょっと詳しく説明いただければと思いますのでよろしくをお願いいたします。

○建設課長（中熊俊也君）

土木費の説明をいたします。

地域活力基盤創造交付金事業の 700 万円は、用地、今まで義名山グラウンドの上のほうで止まっ

てますが、その上のほうの用地交渉がうまくいなくてちょっと長引かまして、残って、繰り越ししてるといことです。

あと、下の効果促進事業の1,800万は、第二西下線の舗装を各工区ごとにするのでこぼこになったりしますので、1回で、1業者でさせようということで、1,800万残ってますが、これは一応用地交渉もオーケーになってたんですけど、また、ある方から、ここは話あったとこと違うという話が出まして、それでちょっと遅れたことなんですけど、それもやっとな話がつきまして、繰り越しして新年度からはスムーズに進むものだと思います。

以上です。

○3番（牧 徳久君）

11ページ、企画費のところ、お願いします。需用費に476万1,000円組まれておるわけですが、恐らくこれはバッテリーの交換か何かと思いますが、もしバッテリーの交換であれば、これはIRU契約で徳之島ビジョン関西ブロードバンドと今契約しているわけですが、これについては普段から、台風時にも、島の、台風が常襲地帯でありますし、これの管理が、契約者が管理が行き届きということで、バッテリーが壊れたと思いますが、今後この業者を強く指導して、管理を徹底させるような指導はできないのかお伺いします。

○企画課長（池田俊博君）

これは、おっしゃるとおり、光ファイバー伝送サーバーの補修ということで、この機材というのは町の管理下にありまして、町のほうで一応修繕をすると、それは町村会の保険のほうで後で返ってくるということでやっています。

また、保守管理のほうに関しては、また指定管理者のほうにまた強く指導をしてまいりたいと思います。

○3番（牧 徳久君）

これからも非常に光ファイバーに対しましては、町民が期待しているわけがございますので、今後も台風は何度か来るわけですので、この管理体制には十分な体制をとっていただきたいと思います。

以上です。

○企画課長（池田俊博君）

これからもまた、ビジョンさんのほうには強く指導し、万全な体制で管理ができるように指導していきたいと思います。

○14番（美島盛秀君）

15ページの農業費、目の有機物供給センター管理費の11万円、これは確か指定管理で委託をしていると思いますが、今後、こういう補修等修理等が出れば町が責任を持ってやるということですが、この修繕費の内容について伺います。

○経済課長（上木義一君）

美島議員の質問にお答えします。

修繕費の内容といたしましては、第一制御盤等の何種類かありますけど、テール弁の修繕とか、あとパクセル、バレータ、電流計の修繕とかそういう関係の制御盤関係の修理でございます。

○14番（美島盛秀君）

こういう指定管理で委託をしている施設について、町できちんとそういうのを調査したり、あるいは設備等の内容を掌握しているのかどうか、あるいはそういう普通の普段の管理状態を報告を受けてるのかどうか伺います。

○経済課長（上木義一君）

お答えします。

管理してる会社がありまして、その会社のほうから定期的に報告はあります。

4月以降は、私のほうも1月で異動してきましたので、4月以降は定期的にそういう施設を、管理ですね、そして管理者といろいろ説明等を受けながら、今後は修繕、そういったいろんな問題等が発生しないように、指導しながらいきたいと考えております。

○14番（美島盛秀君）

この件に関しては、以前にも、一般質問等でも質問をしたことがあると思えますけれども、そういう関係で、その弁償をしているお金でこういうのを修理しているということなんですけれども、これはもう一般会計で出てますよね。補正をしているわけなんですけれども、これは……。

○議長（琉理人君）

他に、質疑ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉理人君）

質疑なしと認めます。

議案第11号、平成25年度伊仙町一般会計補正予算（第7号）について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉理人君）

討論なしと認めます。

これから議案第11号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり、可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉理人君）

異議なしと認めます。

したがって、議案第11号、平成25年度伊仙町一般会計補正予算（第7号）については、原案のとおり可決することに決定しました。

議案第12号から議案第14号までの補正予算について補足説明を願います。

○保健福祉課長（松田一郎君）

それでは、議案第12号から議案第14号までの3つについて補足説明をいたします。

まず、議案第12号、平成25年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）についてでございます。

既定の歳入歳出予算の総額12億2,621万9,000円に歳入歳出それぞれ54万7,000円を増額し、歳入歳出予算の総額を12億2,676万6,000円とするものでございます。

主な増額分の理由は、国保システムの整備委託料についてであります。これは、国保連合会と保健センターのネット回線の整備ということでございます。

5ページのほうをお開きください。まず、歳入でございます。

4款国庫支出金3項国庫補助金1目国庫補助金ということで、高齢者医療事業円滑化運営事業補助金を財源とするものでございます。

次のページの6ページをお開きください。歳出でございます。

1款総務費1項総務管理費1目一般管理費でございます。主な予算の大きなところで、先ほど申し上げましたとおり、13節の委託料、国保システムネットワーク整備委託ということで、50万の増額が主な理由でございます。

次の7款の共同事業拠出金1項共同事業拠出金、この中においては、財源組み替えで、これは高額医療費の拠出金が多くなったということでの組み替えでございます。

続きまして、議案第13号、平成25年度伊仙町介護保険特別会計補正予算（第4号）についてでございます。

既定の歳入歳出予算の総額9億6,410万6,000円に歳入歳出それぞれ26万円を増額し、歳入歳出予算の総額を9億6,436万6,000円とするものでございます。

これも介護保険システムの改修の委託料ということで、国保連合会との契約に基づく増額でございます。

5ページのほうをお開きください。歳入でございます。

2款国庫支出金2項国庫補助金2目国庫補助金で、介護保険システムの改修補助金として国庫から26万円を増額補正するものでございます。

次のページをお開きください。歳出でございます。

1款総務費1項総務管理費1目の一般管理費でございます。旅費については、これは介護保険の第6期に係る制度設計についての市町村の説明会が予定されているということで、11万1,000円を計上いたしました。

13節の委託料、システム改修ということで、国保と同じくシステムの改修委託ということでございます。

3款の地域支援事業費の1目包括的支援事業ということで普通旅費が組んでありますけれども、これは在宅医療関係と合わせて6期の介護説明会についての旅費と合わせて計上してございます。

続きまして、議案の第14号、平成25年度伊仙町後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）についてでございます。

既定の歳入歳出予算の総額1億7,107万3,000円に歳入歳出それぞれ34万7,000円を増額し、歳入歳出予算の総額を1億7,142万円とするものでございます。

主な理由としては、療養給付費43万2,000円増額等によるものでございます。

5ページのほうをお開きください。歳入として、3款繰入金1項一般会計繰入金2目保険基盤安定繰入金ということで、これを減額して4款の繰越金1項繰越金1目の繰越金、前年度繰越金ということで、43万2,000円を財源として入れております。

次のページ、歳出でございます。

2款後期高齢者医療広域連合納付金、1項同じく、1目同じく、これは療養給付費の43万2,000円でございますけれども、昨年11月までの給付実績に基づく見込みであります。

ここ2、3カ月アップダウンが激しいということで、見込み修正を余儀なくされています。

最終的には、4月の初めの請求に基づいて精算いたしますけれども、見込みとして一応43万2,000円ということで計上し、保険基盤安定負担金8万5,000円減じての予算編成としております。

よろしくお願い申し上げます。

○議長（琉 理人君）

議案第12号、平成25年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）について質疑を行います。質疑ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

質疑なしと認めます。

議案第12号、平成25年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。

これから議案第12号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。したがって、議案第12号、平成25年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）については、原案のとおり可決することに決定しました。

議案第13号、平成25年度伊仙町介護保険特別会計補正予算（第4号）について質疑を行います。質疑ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

質疑なしと認めます。

議案第13号、平成25年度伊仙町介護保険特別会計補正予算（第4号）について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。これから、議案第13号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。したがって、議案第13号、平成25年度伊仙町介護保険特別会計補正予算（第4号）については、原案のとおり可決することに決定いたしました。

議案第14号、平成25年度伊仙町後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）について質疑を行います。質疑ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

質疑なしと認めます。

議案第14号、平成25年度伊仙町後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。

これから議案第14号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。したがって、議案第14号、平成25年度伊仙町後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）については、原案のとおり可決することに決定しました。

ここで暫時休憩をします。午後1時より全員協議会を委員会室にて行います。

会議は午後2時より開会いたします。

休憩 午前11時35分

[全員協議会]

再開 午後 2時00分

○議長（琉 理人君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

△ 日程第18 平成26年度の施政方針説明

○議長（琉 理人君）

日程第18 平成26年度施政方針説明を求めます。

○町長（大久保明君）

施政方針を述べてまいります。

平成26年第1回伊仙町議会定例会の開催に当たり、新年度の町政運営について、私の所信を申し上げ、町民の皆様並びに議員各位のご理解とご賛同を賜りたいと存じます。

我が国経済は、一昨年に発足した第2次安倍内閣が掲げた経済政策、いわゆるアベノミクスの効果により長年続いたデフレ経済を脱却しつつあり、ゆるやかではありますが、景気回復の兆しが見え始めており、また、富士山の世界文化遺産の登録や2020年東京オリンピック、パラリンピックの開催決定に日本中が沸き返るなど、今後の日本経済にとって明るい話題が続き、さらなる景気回復の期待が高まっております。

しかしながら、中国、韓国との領有権問題をきっかけとした外交問題など、今なお日本を取り巻く世界情勢は混迷を続けております。

奄美群島におきましても、奄美ナンバーの創設が決まり、全国に奄美をアピールすることができ、さらには、奄美・琉球諸島の世界自然遺産登録に向けて鋭意取り組んでいるところであり、平成25年2月に「奄美・琉球」の名称で掲載した暫定リストを外務省を通じ、ユネスコ世界自然遺産センターへ提出いたしました。

平成26年度には奄美群島国立公園の指定を行い、平成28年度世界自然遺産登録を目指すなど、国、県、市町村が一体となった連携が活発になっております。

平成26年度から30年度の次期奄振期間中の登録実現が現実味を帯びている中で、農林水産物輸送費支援、航路・航空路運賃の通減、観光キャンペーン等を対象事業とした交付金制度の創設など、次期奄振も地元の意見や要望を中心とした奄美群島成長戦略ビジョンの骨子を取り入れた形での法延長に加え、一括交付金化「奄美群島成長戦略推進交付金」となることから、より一層地元の特色を生かした知恵と発想の発揮が期待されております。

これから先、我が町は新しい社会構造における町経営のビジョンと方策を打ち立て、豊かな自然とゆとりある住環境を維持・向上させながら、航路・航空路運賃の通減や、ダイエツアイランドツアーなどの充実による観光客、交流人口の増、町営住宅建設、空き家バンクの活用で住宅不足を解消、さらにAコープ建設、日本マルコ株式会社の誘致による雇用の確保で、人口の増加を図り、「誰もが行ってみたいまち、住んでみたいまちづくり」のできる地域社会を構築して、伊仙町の魅

力をさらに高め発信していかなければなりません。

4期目となる今期は、「実現力」とそのために「自立」・「挑戦」・「交流」をキーワードに、「輝く未来へ、さらなる前進」をスローガンに、具体的には、再び「人口増加、農業生産が50億円」を政策目標に、100項目のマニフェストに沿った町民総参加型の町政に全力で取り組んでまいります。

以上のことを踏まえ、主要政策について述べてまいります。

1、「産業が立ち上がる町伊仙」

農業振興においては、過去2力年の台風襲来の影響もあり、作付面積、収量ともに向上させる必要があるため、サトウキビ増産基金事業によるキビ苗の助成を行い、同時に、緑肥・病虫害防除のための助成を行い、収穫量の回復を図ります。また、ハーベスター営農集団育成のために研修会を開催し、組織体の強化を図ります。

～畜産振興においては～

これまで子牛価格が高水準で推移しているという市況を反映して、伊仙町では飼養戸数、頭数と群島内最大生産地となっています。今後は生産牛のさらなる品質向上を図るため、優良素牛事業の導入による血統改善や子牛の管理を徹底させます。

また、品質のよい飼料作りに取り組むため、飼料用生産を奨励し、よりよい経営感覚を持つ畜産農家の育成に努めます。

～園芸振興においては～

今年度も引き続き、畑地帯総合整備事業を推進し、未整備農地の区画整理、農道、排水路整備を実施し、農作業の効率化を図り、担い手農家への農地集積を進め、耕作放棄地の解消を図り、これまで策定してきた「畑地かんがい営農ビジョン」に基づき、水利用効果の高い品目の策定と推進を行います。基幹品目であるバレイショは新機能を備えた選果機を活用し、ブランド名に恥じない品質の向上と単収向上を目指します。

また、輪作体系を確立するために春期以降のオクラ、落花生、ゴマ栽培を推奨し、新規作物として推進してきたコーヒー、ボタンボウフウを引き続き推進し、所得の安定化を図ります。

また、奄美群島農林水産物輸送コスト支援事業を最大活用し、本土よりも高い輸送コストに対し支援することにより生産拡大等を促進し、生産基盤の強化を図り、併せて鹿児島ブランド、「春一番」への流通コスト削減を目指します。

同時に、直売所百菜を拠点とした島内外への発信力を強め、より多くの品目の販路開拓を目指します。

農商工連携と6次産業化を引き続き推進し、より付加価値の高い農産物の販売手法を探り、農業所得向上を目指していきます。

施設園芸に関しては、「奄美農業創出支援事業」を活用し、防風効果の高い平張りハウスを推進します。また、農業の基盤である土作りに関しては、「強い農業作り交付金事業」を導入し、土壌

分析をもとにした堆肥施肥を推奨します。同時に土壌分析を奨励し、基本的な土作りを全ての農家さんに実践していただきます。

～担い手対策として～

農家の高齢化と土地利用、施設、農業技術の更新は最大の課題であり、新規就農者の確保も重要な要素です。今後は各地区における「人・農地プラン策定」をさらに進め、同時に「青年就農給付金」の事業説明を重ね、各地区での農業の担い手に係る将来ビジョンを話し合います。

また、認定農業者連絡協議会の活発化のため、役員会での話し合いを進め、土作りなど必要な研修会のあり方を協議します。

～水産業・林業においては～

水産業に関しては離島漁業再生支援事業を引き続き実施し、直売所百菜における地元産魚介類の宣伝販売によって、漁業の活性化を図ります。

林務に関しては、近年イノシシによる農産物被害が拡大の一途を辿っており、猟友会に対する国からの補助を増額して、被害の防止に努めます。

～農地対策～

平成24年度に農水省が策定した農業農村振興対策を基本に、①区画整理及び畑地かんがい事業を推進し、関係機関と連携をとり、担い手農家への農地集積及び畑かん営農を推進し、農業所得の向上を図ります。②老朽化した農業水利施設の更新を進めます。③農道・水路等の農業施設の集落による維持管理組織への支援を進めます。④畑総事業完了地区への土層改良、農道改修事業等の長期計画策定を検討します。さらに、「農地中間管理機構」発足にあわせ、「農地円滑化事業」を使った農家全戸調査を農業委員と事業推進委員により進めます。その上で、営農計画と土地の貸し借りに関する意向を調べ、今後の「人・農地プラン」と町農業振興計画への基礎資料とします。農地の出し手に対する「機構集積協力金」を活用し、農地の有効活用のための流動化を促進していきます。

～企業誘致においては～

Aコープが近くオープンを目指し、建築に着手しており、さらに、本年2月に、会社説明会を開催いたしました「日本マルコ株式会社」を、平成27年度を目標に工場建設を行い、28年度には稼働できるようあらゆる手法を講じていきます。このことにより、正社員60名、パート社員50名の雇用が見込まれます。

～商工業の振興策として～

商工業の振興策については、商工会組織の運営をさらに充実させ、事業者の経営力向上や地域活性化を図るためにの運営補助や購買者の町外流出を抑制するプレミアム付き商品券発行事業を引き続き実施し、地元商店街の活性化を図ります。

消費者行政におきましては、平成21年度より、消費者行政活性化補助金を活用し、相談員を配置していますが、消費者トラブルが複雑化、多様化している状況を踏まえ、今後とも消費生活相談窓口の機能を維持し、弁護士による無料法律相談所を継続して行い、安全に暮らせる町づくりに取り

組みます。

2 「もてなしと癒やしの町伊仙町」

～観光の振興策として～

観光の振興策については、平成25年度より観光地連携整備事業を活用し、犬田布岬施設内園路及び安全柵の改修を行っており、26年度には老朽化した休憩施設の改修に着手し、観光客の利便性の向上を図ります。

また、航空運賃の逓減により、住民の生活利便性の向上、観光キャンペーン事業を最大限活用し、本土からの観光客誘致に力を注ぎ、観光の振興を図ります。

～定住促進対策として～

慢性的な住宅不足の解消を図るため、平成23年度に耐久性の向上、遮音機能・耐火性能の確保、構造計算、コスト削減、家賃の低減、環境への配慮等の検討を行った木造住宅を基本とする新しい住宅建築計画「伊仙町公営住宅等長寿命化計画」を策定し、犬田布団地、河地団地、木之香団地を整備しました。平成26年度は馬根団地を建築します。未だ空き室待ちの待機者が多く、今後も同計画に基づき、住宅不足の解消に向けて取り組んでいきます。

平成24年度より「伊仙町空き家バンク制度」を導入し、町内賃貸物件の公開及び貸借の仲介を行っています。本年は、駐在員の協力による空き家調査を実施します。町内の空き家情報を集約し、空き家バンク登録件数を増加させ、定住希望者に提供できる住宅の確保を努めます。

3 「健康長寿の町伊仙町」

～包括支援センターの取り組みとして～

高齢化に伴い、今後在宅医療者の増加が見込まれています。国・県でも在宅医療を推進しており、平成25年度から徳之島地区在宅チーム医療体制づくりに取り組んでいます。高齢者の医療の介護が必要になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるよう地域の実情に応じた在宅医療を推進します。

地域包括支援センターの役割として、地域ケア会議で多職種連携を強化し、地域包括ケアシステムの実現に向け取り組んでいきます。

地域支援事業における介護予防事業として、ほーらい館委託の「うりたわっきゃ教室」、各集落で社会福祉協議会委託の「地域さわやかサロン教室」、徳之島福祉会委託の「いっちょも〜れ教室」及びこれらの教室への参加を促す、「伊仙町高齢者元気度アップ事業」で、高齢者の健康維持、介護給付費抑制に努めます。

認知症対策については、長寿社会となり、全国的に認知症患者がふえ、“オレンジプラン”などの取り組みが行われていますが、伊仙町においても認知症に対する正しい知識の普及啓発に努め、予防、早期治療、家族支援を行い、認知症になっても安心して幸せに暮らせる地域づくりに努めます。

～地域活力を生かした健康づくりと、早世対策に全力投球で医療費適正化のまちづくりを目指す取り組みとして～

平成25年度脳卒中対策プロジェクト事業や地域支え合い事業により、ソーシャルキャピタル形成とし、「長寿子宝まちづくり応援団」の養成と、地域リハビリ体制づくりとしてボランティア養成を行い、地域活力を生かした各集落のコミュニティーの基盤づくりを行ってきました。

こうした取り組みを生かし、地域包括支援センターや社会福祉協議会等との連携を図り、ほーらい館を拠点に各集落の健康づくりを積極的に推進します。

医療費抑制の対策としましては、特定健診、長寿健診事業等の実施により、生活習慣病の予防対策を行うとともに、受診勧奨による未受診者対策を行い、健診受診率の向上を図る他、後発医薬品の使用を促進し、医療費の適正化対策を引き続き勧奨します。

保健センターを中心に、医療、福祉、保健、介護を一体的に捉え、健康保持増進を啓発できる特別対策事業を積極的に導入し、長期的な医療費抑制につながる事業を展開していきます。

さらに、疾病予防として、伊仙町食生活改善推進員連絡協議会協力のもと、減塩指導や適正摂取量等についての栄養指導に力を入れ、百菜との連携による野菜摂取促進や成人期だけでなく、子供から高齢者までの栄養管理等、生活習慣改善支援に努めます。

最後に、ストレス等の増加に伴い、睡眠障害やうつ病、アルコール依存などについては、早期に予防し、心身ともに健やかな健康づくりができるまちを目指します。

～健康増進、交流、憩いの場の中核拠点として～

徳之島交流ひろば「ほーらい館」は、健康増進、交流、憩いの場としての利用促進を図るとともに、各種行事等も開催し、島民のさまざまな需要に応えるべく努めているところです。

開館5年が経過し、今年2月には延べ利用者が70万人を越すなど、運営面においても充実してきました。また、指定管理者制度の導入も視野に入れ、民間のノウハウを生かすため、公募を行い、審査しましたが、今回は条件が合わず、結果的に断念という形になりました。しかし、今後も引き続き導入に向け努力しながら、島民の健康増進に努めます。

さらに、放課後わくわくクラブやジュニアスイミング教室など、学童保育として位置づけることにより子育て支援を行い、就労支援及び定住促進につなげていきます。

これからも島民のニーズに応えるため、施設の運用法改善や魅力ある教室の開発を実践するとともに、保健センター等とも連携し、福祉施策の実現に取り組みます。

さらに、「健康長寿と子宝の町」をシンボルとしたほーらい館を目指していきます。

～食育、地産地消の推進においては～

経済課、保健センター、給食センター、直売所百菜で連携し、各世代に即した食育と地産地消を推進します。食を通じた健康づくりと地元産野菜や果物、特産品の消費を高め、その効能を町内外へ発信します。

直売所百菜は開所5年目の現在、委託販売の分野と自主製造販売の部門に大きく分かれています。主に、委託販売の生産者は265の農家と特産、加工製造業者及び開所以来着々と増加しております。年間売り上げも順調に増加しており、徳之島まるごと“きゅっきゅっ”便をスタートさせ、島外へ

の、発信を行ってきました。

地産地消の推進では、その取り組みを県から評価され、かごしま“食”推進活動表彰において大賞を受賞いたしました。

そして、給食センターや病院、老人ホームなどへの食材提供などが、地元では評価されており、また農林水産物にこだわり過ぎず、地元写真家の写真販売や農業、奄美群島に係わる書籍の販売など、文化的側面を施設内に併設することで、観光客など異なる客層の興味を惹くように努力をいたします。

今後は、自社の加工品開発と通信部門の増強が経営の鍵となっており、町が推進している6次産業化の中核拠点として商品開発、島外への販路開拓、そして農家所得の向上へとつなげていきます。

学校給食センターは、健全な給食運営に向け、衛生管理、栄養管理はより一層充実していかなければなりません。衛生管理においては、常日頃から職員の衛生知識を高めながら、職場研修も含め、事故等が起きないよう万全な体制で取り組みます。

特に、栄養管理は食育の観点から、保護者の協力を求めながら具体的な方策を示し、各小中学校の取り組みに即しながら、栄養教諭を派遣すると共に、成長期である子供たちの栄養のとり方など栄養指導を重視します。

また、地産地消を進める上で徳之島産の食材にこだわり、地元直売所や農家とも連携を図ります。さらに、徳之島産の野菜は、他産地の野菜と比較して、カルシウム、マグネシウム等の含有量が多く、栄養価が高いとの調査結果が出ており、良質な野菜の確保ができるように努めます。

町では、保健センターの長年の取り組みも評価されており、経済課、ほーらい館、百菜と共同プロジェクトで、食だけにとどまらない健康づくり、人生づくりを目標に全国から参加者を募り、「ダイエットアイランドツアー」を平成24年度より実施し、全国へ伊仙町の魅力を発信しています。

～国民健康保険、後期高齢者医療保険について～

急速な高齢化の進展、疾病構造の変化や医療技術の高度化等により、医療費は年々増加しており、その財政運営は依然として厳しい状況が続いております。

本年度の国民健康保険財政は医療費の算出にあたり、被保険者数の推移、医療費の動向等を考慮したものとなっております。後期高齢者医療制度は、2年ごとに保険料の見直しが実施され、負担が重くなります。被保険者への丁寧な説明を行い、理解が得られるよう努めます。

また、特定健診や各がん検診の受診率を上げ、重症化予防として脳卒中や心筋梗塞、人工透析等に至らぬよう重症化予防事業を強化し、医療費の適正化に努めます。

4 「子供たちの未来を育むまち伊仙」

～保育所行政について～

保育所行政については、保育所入所希望園児の増加に伴い、保育所の定員増を県に申請し、平成26年4月より、いせん保育所の定員増に対する許可が県からおりました。

～子育て支援について～

前年に引き続き、平成26年2月13日、厚生労働省が公表した合計特殊出生率が2.81人で日本一に輝き、町としましても出産児を祝福し、時代を担う子供の健やかな成長を願い、児童福祉の向上を目的とした「子育て支援金」の支給を引き続き行います。また、かごしま子育て支援パスポート事業の活用を進め、子育て世帯を支援していきます。

さらに、保健センターを中心に、安心して出産・育児ができる体制づくりを強化し、医療機関との連携や、また保育所、幼稚園、小中学校、福祉施設等の関係機関と連携し、療育や発達支援等のフォローにも力を入れます。

～未来を担うこどもの育成～

学校教育においては、まず人づくりをと考えます。全国どこでも通用する学力や体力を持ち、人間性豊かな人づくりが大切です。自分が生まれ育った徳之島・伊仙町を誇りに思い、郷土を愛し、島の産業である農業を守り、育てようとする人材の育成であります。

本町では、知・徳・体のバランスのとれた全人教育を目指し、どの学校も「生きる力」を育む教育に取り組んでいます。幼稚園及び各学校においては、基礎・基本の定着に向け、個に応じた指導の徹底や特別支援教育にも積極的に取り組んでいきます。

また、幼稚園、小学校、中学校の連携を強化し、長期的視野に立った学習面・生活面の指導を行い、児童生徒の学力向上及び教員の質向上に努めます。具体的な取り組みとしては、学力向上推進協議会及び東部・中部・西部地区、幼小中連携部会において、学校と家庭、地域が一体となって学力向上、生活指導、健康の保持増進等の課題について研究・協議し、課題を明確化し成果を日々の教育活動に反映させていきます。

特色ある教育活動においては、「島唄・島口・^{きゅら}美ら島運動」を重点的に実施し、郷土の歴史・文化への関心を高め、郷土意識の醸成を図ります。

また、校区住民等を講師に迎えてのサトウキビやジャガイモの栽培、収穫物を生かした黒糖づくりや料理等の体験活動によって、土に触れ自ら生産し、それらを味わう喜びとともに、先人に学ぶ姿勢を体得させます。

このような活動を通して、郷土に自信と誇りを持てるようにすると共に、自ら気づき、考え、行動する、「生きる力」の育成を図ります。

近年、心の教育を中心とした生徒指導が、ますます重要視されています。「いじめ防止対策推進法」の施行に伴い、各学校にいじめ防止基本方針を規定させ、組織の設置が義務づけられました。

いじめに対する未然防止、早期発見、早期解消のために、各学校の生徒指導を充実させ、教職員一人一人の生徒指導力の向上を図ります。

また、本年度は、「心の教育相談員」や「スクールカウンセラー」に加え、「スクールソーシャルワーカー」を定期的に配置し、児童生徒や保護者の心のケアに努めます。

外国語教育については、招致外国青年（ALT）の活用により、小学校の5、6年生を中心にコミュニケーション能力を高める授業を展開しています。また、中学校においてはコミュニケーショ

ン能力に加え、話す、聞く力の育成に努めます。

開かれた学校づくりにおいては、「学校評議員制度」と11月に行われる「学校を見に行こう週間」を中心に、老若男女が交流の場として集える地域に根ざした学校づくりに努めます。

毎年恒例となった子ども議会においては、将来を担う子供たちの視点から見た環境問題や観光振興、地域の活性化など活発な提言がされています。これらの貴重な意見を行政にも反映させ、未来を担う子供たちと一緒にまちづくりに努めたいと思います。

幼稚園教育におきましては、幼児教育の充実を図るとともに、子育て支援の一環として預かり保育を実施し、就労支援を行っていきます。

学校施設整備については、教職員及び児童生徒用のパソコンを年次的に配備し、ICT機器を活用した授業の充実を図ります。また、教職員住宅の整備に努め、教職員町内居住を推進し、教職員が子供たちや地域の方々とともに活動できる環境づくりに努めます。さらに、今年度は世界自然遺産登録に向け、子供たちの意識の向上や、学校とともに自然環境保全について推進していきます。

～生涯学習の推進について～

「あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり、文化づくり」を進めるために、生涯学習の観点に立って、人間性豊かでたくましく生きる町民の育成と教育・文化・スポーツの振興を目指すとともに、地域の連帯性の醸成と自治意識の高揚を図ります。そのため、関係機関と連携を深めながら、本年度伊仙町で開催される大島地区生涯学習推進大会及び広域文化祭などを通して、生涯学習の重要性や楽しさを町民にアピールし、町民が生涯を通じて自主的学習の機会が得られるよう公民館講座を充実させるとともに、公民館施設や図書室の積極的な利用を促進し、いつでも・どこでも・誰でもが学習できる支援体制づくりに努めます。

成人教育においては、PTA連絡協議会や地域女性連等、社会教育団体が活発的に活動できるよう支援していきます。

青少年育成については、いせんのよさ「自然・文化・人材」を活用した体験活動や各種研修を充実させ、郷土に誇りを持てる青少年の健全育成に努めます。

文化財行政につきましては、歴史民俗資料館を充実させ、地域の宝である「島唄や伝統文化、文化財」を総合的に整理し、有効活用するために文化財関連の各種事業を推進していきます。

社会体育関係につきましては、町民のスポーツ活動の拠点となる総合体育館や総合グラウンド及び町内の各学校等の体育施設を積極的に解放して、町民の健康づくりやスポーツ少年団、各スポーツ団体の活動を支援していきます。

5 「すべての町民が主役の町伊仙」

～弱者支援について～

今年度は、町民の人権意識の高揚を図るとともに、基本的人権の尊重とその擁護についての認識を深めるための人権フェスタが伊仙町で開催されます。人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動を行い、町民の間に人権尊重の理念を普及させ、それに対する町民の理解を深めることを目的と

する広報、その他啓発活動を行っていきます。

福祉事業は、平成24年度から26年度までの伊仙町高齢者福祉計画、介護保険事業計画に基づき推進していきます。

障がい者福祉政策は、障がい者の方が地域で安心して暮らせるノーマライゼーション社会を目指し、各種事業を推進していきます。平成26年度中に、平成24年3月に、策定した、障がい者計画及び第3期障がい者福祉計画の見直しを予定しております。

～町民義務として～

町税滞納の解消は税負担の公平性の面から重要であります。

今後も自主財源確保の観点から引き続き、地方税法に基づく毅然とした収納対策による収納率向上と税収入未済額の圧縮を目指します。

国保税収納率向上対策の一環として、納税相談の実施や短期被保険者証などの発行を通じて、面談機会等の確保により、国保事業への理解と納税意識の高揚を図り、国保財政の健全化に努めます。

また、大島地区地方税協議会での情報を共有しながら、個人住民税の特別徴収事業者指定の拡大を図り、大島郡内一体となった収納対策を図ってまいります。

～安心・安全な水の安定供給として～

「水道事業は平成20年度から実施してまいりました西部地区簡易水道事業を継続し、木之香地区の配水管布設替えを行います。また、西部地区の水質改善に向けて、老朽化した河地浄水場の整備も完成間近となり、杉原川の表流水を最大限に利用し、硬度低下に取り組みます。

本年度から新規事業として、東部地区簡易水道事業面縄地区から喜念地区の施設及び老朽管の更新事業を計画的に進めます。中部地区の上水道事業も年次計画を立て、順次施設及び配水管の更新を進めます。

水道事業は、「その事業に伴う収入によってその経費を賄い、自立性をもって事業を継続していく」独立採算性が原則とされています。貴重な水資源の有効利用と事業運営に必要な電力の使用に係る電気料金や薬品等の経費の節減を図るため、漏水箇所の早期修繕を行うなどの措置を講じ、有収率の向上に努めます。消費税の増税もあり、需要者の水道水に対してのニーズは高度な要求に変わってきています。

こういった中で、運営状況、「事業規模や料金体系の見直し」等を考慮し、経営の健全化を図りながら、町民の皆様に「安心・安全な水の安全供給」に努めます。

6 「歴史・文化・自然を大切にす町伊仙」

～世界自然遺産登録に向けて～

平成25年に「奄美・琉球」が世界自然遺産暫定リスト入りし、徳之島が候補地となりました。

26年度には、現在の国定公園区域に加え、重要な保護地区を「奄美群島国立公園」に指定します。

今後は、関係団体とも連携して、さらなる自然保護の啓発及び登録推進の取り組みを強化します。

町では、不法投棄撲滅事業や海岸漂着物地域対策推進事業を取り入れ、環境を守る取り組みを展

開してきました。不法投棄においては、世界自然遺産登録に向けて今後も大きな課題となり、投棄物の残存の撤去と投棄箇所の把握を進めていくとともに、積極的な監視の強化と発生防止など、撲滅に向けた対策を継続していきます。

海岸漂着物は、景観面や自然環境の保全に重大な影響を及ぼしています。また、清掃後も繰り返し漂着することから、定期的な清掃活動の実施が必要です。

合併処理浄化槽設備整備事業においても、引き続き補助金支給を継続し、計画的な合併処理浄化槽の普及を推進していくことにより、公共用水域の環境保全に努めます。

その他、新しく制定された飼い猫の適正飼育に関する条例により、動物愛護への意識を高め、飼い猫の野生化及び放し飼いによる希少生物への被害を防止し、これまで取り組んできたノイヌ・ノネコ対策、ハブ駆除対策も引き続き継続していきます。

平成28年度の世界遺産登録に向けて、町の貴重な自然環境、生活環境の保全と、美しい町、住みやすい町づくりに取り組み、行政、地域、各種団体が一丸となって展開していけるよう推進していきます。

～徳之島農業に貢献する農業農村整備の推進として～

継続地区としては8地区、平成26年度新規地区としては、木之香・阿権地区を実施します。

本年度以降は、順次、徳之島用水の畑総事業地区内への支線水路、散水設備の事業を推進し、経済課と連携し、畑かん営農目標を定め、水を使った付加価値の高い品目の推進などを支援していきます。

～農業水利施設の長寿命化対策として～

平成25年度に引き続き、本年度も伊仙中部地区農業水利施設の調査を行い、平成27年度より老朽施設の改修を進めていきます。

～地域コミュニティを活用した農地・農道・水路等の保全管理として～

過疎化・高齢化等の進行を踏まえて、集落を支える体制強化と農用地施設の維持管理を支援する目的で、平成24年度から農池・水・保全管理支払交付金を活用し、受益者組織（7組織）を立ち上げて、農地・農道・水路・沈砂池等の、日常的な保全管理を支援してきましたが、本年度より日本型直接支払制度に移行する予定となっております。移行後も農用地施設の長寿命化を図ってまいります。

～町道の整備においては～

道路は、地域住民の日常生活、産業、経済活動を支える重要な社会基盤ですが、老朽化が著しく、補修工事が必要です。平成25年度には、社会資本整備総合交付金事業により、伊仙馬根線の中央線側から舗装工事を行いました。また、第二西下線の改良舗装工事を徳之島愛ランドクリーンセンターの入り口から農面道路側へ実施いたしました。

平成26年度におきましても、引き続き用地交渉の進捗状況を見ながら、改良舗装工事、補修工事を行ってまいります。

また、平成24年度の繰越事業である防災・安全社会資本整備交付金により、町道路面性状調査に基づいて、小島地区のコウジミヤモト線、上成線、上晴地区の上晴河地線、西目手久地区の目手久中央線の舗装補修工事を行いました。

今年度においても、本事業により、町道の安全性・利便性の向上に努めます。

また、年次ごとに老朽化の著しい道路から順次整備を計画しています。

橋梁については、平成24年度「橋梁長寿命化計画」を作成し、平成26年度は当該計画に基づき、第2鹿浦橋の架け替えを前提とした調査を行います。

～義名山総合運動公園の整備として～

平成25年度から社会資本整備総合交付金事業における「特定公園事業」として、平成25年度は県民体育大会にあわせて、相撲場及び周辺の改修、運動場のナイター施設整備改修、体育館周りの外構整備を行いました。尚、同事業の整備計画のもととなる義名山公園長寿命化計画も策定いたしました。

平成26年、27年度は町財政を鑑み、整備を一時中止し、平成28年度以降は社会教育課が主管としているグラウンド及び広場、テニスコート等を整備する計画です。

○議長（琉 理人君）

本会議の途中ですが、東日本大震災で被災された方々への黙禱を行いますので、ここで休憩をいたします。皆様方、ご協力をお願いいたします。

休憩 午後 2時45分

再開 午後 2時47分

○議長（琉 理人君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

施政方針の説明を求めます。

○町長（大久保明君）

～港湾の整備として～

港湾事業におきましては、社会資本整備総合交付金事業により、平成23、24年度に面縄港、鹿浦港の長寿命化計画策定事業を行いました。その結果を踏まえて、平成27年度以降に面縄港の防波堤等の測量設計、補修工事を行う予定です。

終わりに、以上、町政運営の所信の一端と施策について申し述べてまいりました。

厳しい財政状況ではありますが、長期財政見通しを踏まえた上でさまざまな財源を調達することにより健全財政を維持しつつ、全力を傾注して町政運営に取り組んでいく所存であります。

議会と行政は車の両輪と例えられますが、今般、新たに町民の代表として選出されました議員の皆様が、議会人としての誇りを持ち、町政運営のチェック機能を発揮し、議会と職員が一丸となりますよう、また町民の皆様の町行政全般に対する一層のご理解とご協力を賜りますよう申し上げ、

施政方針とさせていただきます。平成26年3月11日、伊仙町長大久保明。

○議長（琉 理人君）

これで施政方針説明を終わります。

- △ 日程第19 議案第15号 平成26年度伊仙町一般会計予算
- △ 日程第20 議案第16号 平成26年度伊仙町国民健康保険特別会計予算
- △ 日程第21 議案第17号 平成26年度伊仙町介護保険特別会計予算
- △ 日程第22 議案第18号 平成26年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算
- △ 日程第23 議案第19号 平成26年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算
- △ 日程第24 議案第20号 平成26年度伊仙町簡易水道特別会計予算
- △ 日程第25 議案第21号 平成26年度伊仙町上水道事業会計予算

○議長（琉 理人君）

日程第19 議案第15号、平成26年度伊仙町一般会計予算から、日程第25 議案第21号、平成26年度伊仙町上水道事業会計予算までの7件を一括して議題とします。

提案理由の説明を求めます。

○町長（大久保明君）

議案第15号から議案第21号について、提案理由の説明をいたします。

議案第15号は、平成26年度伊仙町一般会計予算、議案第16号は、平成26年度伊仙町国民健康保険特別会計予算、議案第17号は、平成26年度伊仙町介護保険特別会計予算、議案第18号は、平成26年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算、議案第19号は、平成26年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算、議案第20号は、平成26年度伊仙町簡易水道特別会計予算、これらの予算につきましては、地方自治法第96条第1項第2号の規定により提案しております。

議案第21号は、平成26年度伊仙町上水道事業会計予算を地方公営企業法第24条第2項の規定により提案してあります。

以上、議案第15号から議案第21号までの7件の提案理由を説明いたしました。

ご審議賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（琉 理人君）

以上で、提案理由の説明を終わります。

質疑に入る前に、提案理由の説明があった7件の案件は、後ほど当初予算審査特別委員会に付託する関係上、1回、1項目の質疑をお願いいたしたいと思っております。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

○2番（岡林剛也君）

歳入の13ページ、款7自動車取得税交付金であります。平成26年度当初は610万円となっていて、昨年度予算の1,221万2,000円と比較すると、611万2,000円と半減しているんですが、その理由

について質問いたします。

○総務課長（樺山 誠君）

答弁いたします。

平成26年4月1日より消費税が8%に改正されるのに伴い、自動車取得税、軽自動車を除く自家用車が3%から2%へ引き下げられます。いわゆるエコカー減税について、環境性能に優れた自動車の軽減割合を拡充してするためです。

なお、自動車取得税は消費税10%への引き上げ時に廃止の予定でございます。

○議長（琉 理人君）

これで質疑を終わります。

お諮りします。ただいま議題となっております議案第15号、平成26年度伊仙町一般会計予算から、議案第21号、平成26年度伊仙町上水道事業会計予算までの7件は、議長を除く13名の委員で構成する当初予算審査特別委員会を設置し、付託したいと思いますが、ご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。したがって、議案第15号、平成26年度伊仙町一般会計予算から、議案第21号、平成26年度伊仙町上水道事業会計予算までの7件は、議長を除く13名の委員で構成する当初予算審査特別委員会を設置し、これに付託することに決定しました。

これから、当初予算審査特別委員会の委員長、副委員長の互選を行っていただきます。

委員会の場所を議会委員会室に定めます。

ここで、しばらく休憩をいたします。

休憩 午後 2時58分

再開 午後 3時00分

○議長（琉 理人君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

当初予算審査特別委員会の委員長に樺山 一君、同じく副委員長に前 徹志君が互選されましたので報告いたします。

しばらく休憩をいたします。

休憩 午後 3時01分

再開 午後 3時03分

○議長（琉 理人君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

△ 追加日程第1 議案第22号 伊仙町町営住宅設置及び管理条例の一部を改正する条例

○議長（琉 理人君）

追加議案が提出されております。追加日程第1 議案第22号、伊仙町町営住宅設置及び管理条例の一部を改正する条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

○町長（大久保明君）

議案第22号は、伊仙町町営住宅設置及び管理条例の一部を改正する条例の制定であります。

ご審議賜りますようお願いいたします。

○議長（琉 理人君）

補足説明があれば、これを許可します。

○建設課長（中熊俊也君）

伊仙町町営住宅設置及び管理条例の一部を改正する条例について、補足説明をいたします。

25年の事業で木之香地区に新しい住宅団地ができましたので、その設置及び管理条例に一部追加するための議案提出であります。

内容といたしまして、名称が「木之香団地」、戸数6戸、住所が木之香139番地、1棟6戸であります。適用といたしまして、平成25年度建設一般公営住宅であります。この条例は、平成26年度4月1日から施行するものといたします。どうか、ご審議賜りますようお願いいたします。

○議長（琉 理人君）

議案第22号、伊仙町町営住宅設置及び管理条例の一部を改正する条例についての質疑を行います。質疑ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

質疑なしと認めます。

議案第22号、伊仙町町営住宅設置及び管理条例の一部を改正する条例についての討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。

これから議案第22号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。したがって、議案第22号、伊仙町町営住宅設置及び管理条例の一部を改正する条例については、原案のとおり可決することに決定しました。

△ 追加日程第2 議案第23号 普通財産無償貸付契約について

○議長（琉 理人君）

追加日程第2 議案第23号、普通財産無償貸付契約について、議題とします。

提案理由の説明を求めます。

○町長（大久保明君）

議案第23号は、平成24年度第1回伊仙町議会臨時会に提案し、議決していただきました議案第1号の普通財産無償貸付契約につきまして、契約相手方より建物譲渡に伴う契約解除の申し出がありました。つきましては、新たな建物所有者との契約が必要となり、審査委員会に諮った結果、同意を得られましたので、普通財産無償貸付契約を締結いたしたく、地方自治法第96条第1項第6号の規定により提案しております。ご審議賜りますようお願いいたします。

○議長（琉 理人君）

補足説明があれば、これを許します。

○総務課長（樺山 誠君）

議案第23号の普通財産無償貸付契約について、補足説明をいたします。

平成24年1月4日付普通財産無償貸付契約をいたしました契約相手方より、住宅の維持が困難な状況であるということで、住宅の権利を譲渡したいとの申し出が平成26年1月30日にありました。

平成26年1月30日に、本町顧問弁護士に住宅の権利の譲渡が可能かどうか、権利の譲渡が可能な場合の事務の進め方、契約書の内容、契約の期間について相談いたしました結果、契約書の第5条第1項により、町の承認があれば権利の譲渡はできるとの回答でありました。

また、町と契約者間で締結された土地無償貸付契約書の合意解約と、新たな契約者との間に土地無償貸付契約書の締結並びに町、新契約者、旧契約者との間に土地無償貸付契約完了後の町有地譲渡先に関する合意書の作成が必要であるとの回答をいただきました。

平成26年2月19日に、旧契約者、住宅購入予定者、町の三者で顧問弁護士に相談した結果、並びに民間資金活用住宅条例等の説明と、これからの事務の進め方に対する協議を行いました。

平成26年2月21日に、町と旧契約者との合意解約書、町と新契約者との契約書、町、旧契約者、新契約者との間の土地無償貸付契約完了後の町有地譲渡先に関する合意書のひな形を作成し、顧問弁護士に内容の確認をいただきました。

平成26年2月26日に、民間資金活用住宅審査委員会を開催し、審査委員会としては、残り2棟の建設にかかわらず、10号棟まで建設する新契約者と協議するよう町に求めてまいりました。

契約書の中に、申込書どおり推進しなければ、建設部分を譲渡し、残地は町有地として残すよう明記する。担保等の設定については、町の承認を受けなければならない旨を明記する。

新契約者の相続人を確認し、新契約者が死亡もしくは事故等あった場合は、相続人に譲渡する旨を明記する等の条件を付し、旧契約者から新契約者への土地使用の権利の譲渡を承認するとの結論をいただきました。

平成26年3月3日に、2月26日の審査委員会の決定事項を踏まえ、土地無償貸付契約書の特約事項に、①乙は伊仙町民間資金活用住宅条例の趣旨を理解し、当条例施行規則第3条第2項の規定に定める範囲内において、可能な限り住宅を建設するものとする。②本契約期間完了時点において、申込書どおり契約が履行されていない場合は、住宅建設部分のみを譲渡し、残地は分筆登記をして町有地として保存する。③乙は、当該物件に対し、担保権等を設置しようとする場合は、あらかじめ書面により甲の承認を得なければならない。④甲は、乙が死亡もしくは事故等により本契約の履行が困難となった場合、本契約の履行及び伊仙町民間資金活用住宅条例第3条及び同条例施行規則第4条第2項に定める貸付期間満了後の当該土地の譲渡については、乙が別途定める相続人に対して行うものとする。

以上の状況を追記し、内容、文言等について、顧問弁護士へ確認いたしました。

平成26年3月7日に、新契約者より再度、民間資金活用住宅建設土地借地契約申し込み及び本契約にかかわる相続人の届け出書等の提出を受け、土地無償貸付仮契約書を締結いたしました。

土地の表示でございますけども、番地が伊仙町大字伊仙字西向當2336番1、2336番3、2336番4。地目、雑種地、面積2,914m²、契約相手方、鹿児島県大島郡伊仙町面縄558番地、赤塚文子。貸付期間、議決日より平成44年1月10日までとするという契約でございます。

以上で、ご審議賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（琉 理人君）

議案第23号、普通財産無償貸付契約について質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

質疑なしと認めます。

議案第23号、普通財産無償貸付契約議案について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。

これから、議案第23号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。したがって、議案第23号、普通財産無償貸付契約については、原案のとおり可決することに決定しました。

以上で、本日の日程は全部終了しました。

会議を閉じます。

本日はこれで解散します。

次の議会は3月12日、午前10時から開きます。

日程は一般質問であります。

なお、これより委員会室において常任委員会並びに全員協議会を開きますので、よろしくお願ひ
します。ありがとうございました。

散 会 午後 3時15分

平成26年第 1 回伊仙町議会定例会

第 2 日

平成26年 3 月12日

平成26年第1回伊仙町議会定例会議事日程（第2号）

平成26年3月12日（水曜日） 午前10時 開議

1. 議事日程（第2号）

○日程第1 一般質問（平 博人議員、牧 徳久議員、美山 保議員）3名

1. 出席議員（14名）

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	平博人君	2番	岡林剛也君
3番	牧徳久君	4番	上木千恵造君
5番	美山保君	6番	永田誠君
7番	福留達也君	8番	前徹志君
9番	明石秀雄君	10番	樺山一君
11番	永岡良一君	12番	伊藤一弘君
13番	琉理人君	14番	美島盛秀君

1. 欠席議員（0名）

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長 明勝良君 事務局係長 佐平勝秀君

1. 説明のため出席した者の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町長	大久保明君	副町長	中野幸次君
総務課長	樺山誠君	企画課長	池田俊博君
税務課長	椛山正二君	町民生活課長	西吉広君
保健福祉課長	松田一郎君	経済課長	上木義一君
建設課長	中熊俊也君	耕地課長	穂浩一君
環境課長	益一男君	水道課長	芳田勇人君
選管書記長	佐平浩則君	農委事務局長	益岡稔君
教育長	茂岡勲君	教委総務課長	鶴永宏造君
社会教育課長	當吉郎君	学給センター所長	永島均君
ほーらい館長	仲武美君		
総務課長補佐	田島輝久君		
総務課長補佐	仲島正敏君		
議会中継班（総括 情報戦略室長	関政樹君）		

（終日）嶺山スミ子君・清水隆也君・野島幸一郎君

平成26年 第1回伊仙町議会定例議会一般質問通告一覧表

順位	質問者	質問事項	質問の要旨	質問相手
1	平 博人 (議席番号1)	1. Aコープ誘致に伴う今後の町づくり計画について	① 現在建設中のAコープ周辺は、保育園・幼稚園・小学校があり、またほーらい館や仙寿の里など利用者の多い施設も隣接しており、Aコープのオープンと同時に車両等の交通量が増加することが考えられます。しかしながら、各施設の利用に関わる住民やお客様の安全確保の点を考慮した道路整備がなされていない箇所が見受けられ、大変危険な状態であります。また、県道も歩道が整備されていない(役場から佐弁まで) 状況も長年続いております。これらを踏まえて、今後歩道確保等を含む道路整備事業を考えているのか。	町 長
			② 現在伊仙町学校給食センター等の各施設に、町内のスーパーや商店等が食料品等を納入していると思われるが、Aコープ出店に伴い今後町としてどのような対応をするのか。	町 長 教育委員長
		2. 日本マルコ株式会社の事業所の町内誘致について	① 西部地区に建設を予定されている日本マルコ株式会社の事業所及び社員住宅等を具体的にどの集落に誘致する考えなのか。また、今後の予定についてどうなっているのか。	町 長
			② 阿権集落住民より集落内誘致の陳情書が町当局と議会側に提出されていますが、他にも同様の要望が町当局へ寄せられているのか。	町 長
			③ 企業誘致は、学校存続等、小規模校区の住民にとっては、大変深刻な問題です。西部地区でも一極集中型ではなく、誘致の効果が同じ西部地区周辺の各集落にも得られるように、協議することも必要だと考えますが、このような協議の場を設ける考えはあるのか問う。	町 長
2	牧 徳久 (議席番号3)	1. 水道行政について	① 水道事業におきましては、平成20年度から西部地区の老朽管更新事業を取り入れ、町民に対し安心・安全な水の供給には鋭意努力されていると思います。しかし、河川やミニダムなど表流水がありながら地下水に依存している現状を踏まえ、西部地区を中心に多くの町民が水質改善を強く要望しています。早急にこれを改善できないのか問う。	町 長

2	牧 徳久 (議席番号3)	2. 各港(面縄港・鹿浦港・前泊漁港)の整備について	① 各港に近代化の水洗トイレ施設がなく、漁民が困窮している。特に、面縄港は夏まつりの会場でもあり、漁業振興のため、これを設置できないか問う。	町	長
			② 前泊漁港の東側船係留施設と西側船係留施設の間の未整備箇所を整備できないか問う。	町	長
			③ 面縄港の未舗装部分を舗装できないか。これを放置すると台風や大雨のたび、土砂が港内へ流出し、水深が浅くなり、干潮時には船の着岸が大変であり、将来的に莫大な予算投資(土砂撤去)となる。早急な対策が必要と思うが改善できないか。	町	長
		3. 公営住宅の設置について	① 伊仙町は過疎化が進行し、昭和38年の人口の15,869人に対し、50年経過した平成25年10月末現在で7,108人と半減している。これ以上の人口減少を食い止めることが最大の課題です。そのなかで、空家バンク制度や公営住宅長寿命化計画で努力されていると思いますが、町内33集落を見て、1戸も公営住宅がない集落への対応を優先する考えはないのか問う。	町	長
		4. 道路整備について	① 町内各地区から、道路や排水路の整備など、多くの要望があるが、これを把握しているのかどうか問う。	町	長
		5. 農林水産業の振興について	① 徳之島ダムもいよいよ今年から、湛水試験が始まり、全島への散水に向け本格化しますが、末端のスプリンクラー施設の早期整備、農業農村の予算増額等を国・県へ要望できないか問う。	町	長
			② 赤土バレイショ「春一番」も県指定ブランド化となりましたが、一向に価格が安定しない。産地間の出荷競争を防ぐなど経済連などとも連携し、リレー出荷の確立ができないか。また、今年は雨天が多く、そうか病の発生が多いと聞くが、これを廃棄処理せず、有効活用(ポテトチップス加工)などできないか問う。	町	長
			③ ミニトラクター(バレイショ植付機、掘り取り機)の補助事業導入は考えられないのか問う。	町	長

2	牧 徳久 (議席番号3)		④ J A天城事業本部とJ A徳之島事業本部では、同じ肥料・飼料・乾草など多岐にわたって価格に差があると聞かすが、J A側と協議することはできないか問う。	町	長
			⑤ 徳之島三カ町議会議員大会において、県から講師を招いて講演があり、県では6次産業化と農商工連携の取り組みを積極的に促進しているという。2年後には、奄美・琉球諸島が世界自然遺産登録になると多くの来客が見込まれる。そこで、松阪牛に代表されるように、徳之島牛を開発し、ブランドを確立させ、生産～肥育～屠畜～加工～販売まで一貫体系を構築し、観光客向けの加工品販売や専門料理店等の起業支援をする考えはないか問う。	町	長
			⑥ 3月3日付けの地元紙に「シカ・イノシシの生息数が増加傾向にあることを踏まえ、鳥獣保護法などの改正を行ったうえで捕獲強化を図り、今後10年間で生息数の半減を目指す」とあるが、本町でもイノシシ被害が多く、農家の営農意欲低下を加速させ、農業生産額50億円達成に向けても阻害要因となっている。このことについて対策は考えているのか問う。	町	長
		6. 観光の振興・企業誘致について	① 奄美・琉球諸島の世界自然遺産登録に向けては昨年、推薦候補区域として(奄美大島・徳之島・沖縄北部・西表島)が選ばれ、国・県・市町村が連携し、順調に進んでいると思いますが、山間部や海岸付近には、まだ多くの不法投棄が見受けられ、NPO法人などがボランティア作業をするなど、繰り返しである。町民の意識改革が必要であることから、大きく広報するなど周知が必要であると思うが、徳之島三町で一斉にできないか問う。	町	長
			② 昨年、県の地域振興事業を導入し、ジェット機のタラップやスターターを購入したが、これを有効活用するために、現在奄美空港へも就航し、中部・名古屋空港を拠点とするFDA(フジドリームエアラインズ)など航空会社への働きかけも必要と思うが町長の見解はどうか。	町	長

2	牧 徳久 (議席番号3)		③ 新年度よりスタートする次期奄振の一括交付金で、航路・航空運賃の助成が群島民向けに実施されますが、これを一般観光客など入込客にも補助を拡大できないか問う。	町 長
			④ 前祝いや熱狂的に太鼓やラッパ、指笛を鳴らし、手舞い・足舞いを演じる光景は、400年以上も続く徳之島の闘牛が、全国の闘牛開催地(6県9自治体)のなかでも特長があり、「日本一」と思われますが、この伝統・文化を後世へ継承するために各町の文化財指定にするよう徳之島闘牛連合会から要望されているが、その後どうなっているのか問う。	教育委員長
			⑤ この素晴らしい闘牛を、更に充実させるために闘牛連合会でもあらゆる面で改革をするなどして、自助努力をしています。このことについて、今後更なる闘牛文化発展に向けた相乗効果をもたらす為にも、行政側からの積極的な支援はできないのか問う。	町 長
			⑥ 大久保町政においては、雇用確保のため徳之島ビジョン、奄美大島信用金庫、Aコープ、6次産業化の拠点となる製糖工場の誘致など、輝く政策で全島民から大きな期待が寄せられています。今後も東部・中部・西部と均衡のとれた発展のため、日本マルコ株式会社は西部地区ということでしたが、会社設置場所は決定しているのか。また、会社説明会も終え、誘致に向けた取り組みも本格化すると思いますが、空港と港に近い場所が最適であると考えているが町長の見解はどうか問う。	町 長
		7. 広域的な取り組みについて	① 徳之島は台風常襲地帯であり、地震などの災害時にいざ停電となると放送施設が皆無となる。徳之島三町でFMラジオ局の設置を考えてはどうか。また、町内全戸に敷設の光ケーブルを利用して天城町のAYTテレビを本町へ延長してはどうか。	町 長
8. 徳之島交流ひろば「ほーらい館」の民間委託について	① ほーらい館の民間委託については、過去に何回か審議されたと思うが、その後どうなっているのか。	町 長		

2	牧 徳久 (議席番号3)	9. 教育環境の充実について	① 平成25年度に各学校を訪問し、要望を拝聴したうえでパソコンを導入し、大変喜ばれている。他にも要望はあったと思うが、年次的に整備できるのか問う。	町 長 教育委員長
3	美山 保 (議席番号5)	1. 伊仙町地域防災への取り組みと自主防災組織について	① 伊仙町地域防災計画は、平成7年度改正されていますが、本年中に速やかに改正できないか。	町 長
			② 地域防災計画での避難場所は、面縄小学校体育館となっており、古里集落民の避難場所については面縄小学校となっている。他にも、喜念小学校など、避難場所における避難道路及び海拔等の関係から避難指定場所として適正であるか。また、今後防災計画及び自主防災組織の見直し・指導等を早急に行う考えはあるのか。	町 長
			③ 徳之島三町合同防災訓練は、現状どおりでよいと考えているのか。	町 長
			④ 上面縄生活館並びに下検福生活館が避難場所として指定されているが、避難時の受け入れ対策はできているか。	町 長
			⑤ 海拔の低い集落の避難場所を、高台へ設置及び整備する考えはないか。	町 長
			⑥ 上記の件を勘案して、防災マップの見直しを含め、住民にわかり易いマップと標識の作成、住民への指導の徹底を図る必要があるのではないか。	町 長
		2. 危機管理対策について	① 災害時における、防災マイクや電話の取り扱いについて、確実に住民へ伝達が可能な体制づくりを行っているか。	町 長
			② 県道拡幅工事に伴う防火水槽の撤去を行うことで、今後の消防活動に支障をきたす恐れはないか。また、撤去に伴う新たな設置個所について検討されているのか。	町 長
4	美島 盛秀 (議席番号14)	1. 町政（農業振興について）	① 農業生産額50億円目標達成は、伊仙町発展の原点である。農家所得向上は、行政が一体となって取り組むことが重要であるが、どのような施策を講じていくのか。	町 長

4	美島 盛秀 (議席番号14)		② 基幹作物のサトウキビを増産したうえで、安定した収益へつなげる得策はあるのか。また、さとうきびを原料として6次産業化に向けて取り組んでいる特産品製造販売プロジェクト事業の進捗状況はどうなっているのか。	町	長
			③ 畜産は、粗飼料の生産が不可欠であるが、飼料畑の確保、機械等の導入など生産コストが高く、さらに穀物飼料等が高騰しており、採算性が低いと言われるが、打開策はあるのか。	町	長
			④ 果樹・野菜園芸・その他の栽培可能な作物の作付アクションプログラムを作成して、農家への指導が必要と考えるがどうか。また、コーヒー、長命草の栽培状況はどうなっているのか。	町	長
			⑤ 「人・農地プラン」策定においては、農地所有者の貸し手と借り手の問題や、島外在住者や集落外の借り手との連携強化に取り組む必要があるが、見通しはあるのか。また、後継者育成の観点から、認定農業者の担い手や農地集積が必要であるが、現状はどうなっているのか。	町	長 農業委員会会長
			2. 企業誘致について	① Aコープ誘致で、地元商工会（商店）の衰退が考えられるが、町（行政）として対策は考えられないのか。	町
			② 日本マルコ株式会社の誘致が本格的に進んでいますが、時期や場所について問う。また、奄振予算を活用する考えのようですが、具体的な内容を問う。	町	長
		3. 定住促進について	① 空家バンク制度の具体的な内容と現状について問う。	町	長
			② 民間資金活用住宅建設の具体的な内容と現状について問う。	町	長
		4. 教育行政について	① 「子供は島の宝」と良く言いますが、島の宝を守ることは家庭・学校・地域が一体となって取り組むことこそが大切です。本当にそうであるのか、最近学力の低下、生活指導上の問題点などはないのか問う。	町	長 教育委員長

4	美島 盛秀 (議席番号14)	5. 町長の政治姿勢について (徳洲会問題)	① 大久保町長は、徳洲会とは深い関係があり、徳田毅前衆議院議員の後援会長でもあります。日本中が注目している公職選挙法違反事件について、政治的・道義的責任があると思うが、町長はどう認識しているのか。	町	長
		6. 徳之島食肉加工センター訴訟の件について	① 平成22～23年度事業で、計画施工した「徳之島食肉加工センター」新築工事の元請け業者と下請け業者の間に、訴訟が起きていると聞かすが、町民へその事情を説明する必要があると思うが町長としての見解を問う。	町	長
5	岡林 剛也 (議席番号2)	1. 子育て支援について	① 保育料の無償化、軽減化はできないのか。	町	長
		2. 企業誘致について	① 誘致企業に対して町としては、どのような支援を考えているのか。	町	長
6	琉 理人 (議席番号13)	1. 財政問題について	① 来年度より奄振予算の奄美群島成長戦略推進交付金がかかりますが、伊仙町においては具体的にどの分野に投入する予定なのか問う。	町	長
		2. 農政問題について	① パレイシヨの価格安定化の取り組みについて、伊仙町はどの様に対策をしているのか。	町	長
			② 奄美農業創出支援事業の活用により、生産基盤の向上を図りたいが、事業の制度規則が厳しいと言う声があり、規制緩和が進むなかで以下の件についての対応はできないか。 1) 土地所有者でないと手続きができない。 2) 土地の地籍調査の遅れについて。	町	長
		3. 環境問題について	① 世界自然遺産登録に向けて、伊仙町の今後の具体的な取り組みと全郡の取り組みはどうなっているのか。	町	長
4. 防災関係について	① 火災等について、町内の現状と対策はどうなっているのか。(消火活動や緊急時の人員及び緊急車両等の配置など)	町	長		

△開 会（開議） 午前10時00分

○議長（琉 理人君）

ただいまから会議を開きます。

△ 日程第1 一般質問

○議長（琉 理人君）

日程第1 一般質問を行います。

通告書に従って、順次発言を許します。

初めに、平 博人君の一般質問を許します。

○1番（平 博人君）

おはようございます。1番、平 博人でございます。

若い世代やお年寄りが住みやすい、暮らしに優しいまちづくりを目指していくために、一般質問を通しましてこれから町長を初め、町執行部の皆さんと政策論議を交わしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたしたいと思ひます。

それでは、平成26年第1回定例会におきまして、ただいま一般質問の許可がございましたので、通告書に従いまして順次質問をさせていただきたいと思ひます。答弁者の皆様の明快なる答弁をお願ひいたしたいと思ひます。

それでは、まず初めに、Aコープ誘致に伴う今後のまちづくり計画についてお尋ねしたいと思ひます。

現在建設中のAコープ周辺は、保育園、幼稚園、小学校があり、また、ほーらい館や仙寿の里など利用者の多い施設も隣接しており、Aコープのオープンと同時に車両等の交通量が増加することが考えられます。

しかしながら、各施設の利用にかかわる住民やお客様の安全の確保の点を考慮した道路整備がなされていない箇所が見受けられ、大変危険な状態であります。

また、県道も歩道が整備されていない状況も長年続いております。これは役場から佐弁まででございます。これらを踏まえて、今後、歩道確保等を含む道路整備事業をどう考えているのかお尋ねいたしたいと思ひます。

次に、現在、伊仙町学校給食センター等の各施設に町内のスーパーや商店が食料品等を納入していると思われませんが、Aコープ出店に伴い、今後、町としてはどのような対応をするのかお聞きしたいと思ひます。

続きまして、第2項目の日本マルコ株式会社事業所の町内誘致についてお尋ねいたします。

西部地区に建設が予定されている日本マルコ株式会社の事業所及び社員住宅等を、具体的にどの集落に誘致する考えなのか、また、今後の予定についてお尋ねいたしたいと思ひます。

続きまして、阿権集落住民より、集落内誘致の陳情書が町当局と議会側に提出されていますが、

他にも同様の要望が町当局に寄せられているのか。

続きまして、企業誘致は、学校存続等、小規模校区の住民にとっては大変深刻な問題でございます。西部地区でも一極集中型ではなく、誘致の効果が同じ西部地区周辺の各集落にも得られるように協議することも必要だと考えます。このような協議の場を設ける考えはあるかどうか、お尋ねいたしたいと思います。

1回目の質問終わりました、後は自席にて伺いたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○町長（大久保明君）

平 博人議員の、議員始まって第1回目の議会での1番バッターでの質問でございます。

しっかり答えていきたいと思っております。

まず、Aコープ誘致についての今後のまちづくり計画に関しましては、建設課長が後でまた詳細に説明をしますけれども、これからのまちづくりは、今、話があったように、子供たちにも高齢者にも優しいまちづくりということが重要になってきております。今、日本の地方都市、都会においても、中央にマンションが物すごい勢いで建っているのは、高齢者の方々がそのマンション周辺に買い物ができる、そして病院もあると、いろんな施設もあるという、そういう利便性が考慮してコンパクトシティという形が大きな流れであります。

この伊仙町においても、そのようなコンパクトシティのような可能性があるのは鹿児島全体で考えても、今ほーらい館周辺が最適の地区であります。ですから、そこはインフラ整備、道路網の整備ということは絶対に必要なことであります。バリアフリーの形のまちづくりを考えていかなければなりません。

そういった中で今後、この地域は、仙寿の里を中心として、未来のまちづくりをしていくと、そこにいろんな新しい利便性のある施設が建設していくことは可能であると思っております。

具体的には課長のほうから答弁をしていただきます。

それから、県道が改修できていない地域が役場前から検福の稲葉商店の前、そして目手久地区、そして西部の今度工事始まりますけれども木之香の土地は県とも相談をしながら、鋭意努力をしていきます。

その中でポイントとなるのは、これからは人口減の社会になるし、それから車も減っていく時代になると予測されています。今まで両方、3.5mの歩道ということはだんだん狭くなっていく、それから、鹿児島県も明確に打ち出しているのは、移転費用がいかに少なくなるかというふうな設計コースを考えていくということになっていますので、また、いろんな虫食い状態のところはもう基本交渉しないというふうな強い姿勢で臨んでいきますので、そういったことを踏まえた県道が進んで、役場から300mほどはもう今計画を立てておりますので、これから連続して進んでいくと思っております。

給食センターの件等については、教育委員会のほうから説明をしていただきます。

日本マルコ株式会社の事業所に関しましては、これは公約で西部地区ということをはっきり町民

の方々に話をしております。この場所に関しましては、教育課長が答弁しますが、ほぼ内定をしています。それは先般9月に来られた副社長とお話をし、アクセスの利便性を最優先に考えた形で、具体的には糸木名地区が最優先になると思います。

そして、次の質問にもありますけれども、西部地区一帯が糸木名に集中型ではなくて、例えば糸木名小学校に子供たちが入るような社宅はどうするかという、会社がつくるか、民間の方々につくっていただくというどちらかになると思います。

阿権地区から、2番にありますように、要望書の中にもこれは何が何でも工場ということではなくて、そういう阿権小学校が存続できるような社宅というふうな内容にもなっていますので、今後、会社と交渉しながら考えていかなければいけないと思っております。

以上で、第1回目の答弁を行いますけれども、あと、担当課長、教育長のほうから詳細について説明をしていただきます。

○建設課長（中熊俊也君）

それでは、今の質問に対しての補足説明をしたいと思っております。

このあたりの町道は昭和50年に町道に認定されまして、整備が行われたわけではありますが、当時は施設がこのように集中するというのは想定されていなかったものだと思います。

先ほど町長からもありましたように、今後、Aコープがオープンした後、利便性を考えながら真剣にコンパクトシティが可能にできるように検討していきたいと思っております。

次に、県道の件ですが、県道は県が管理していますので、町側からどうのこうの言う権利はないんですが、先ほど、県大島支庁徳之島事務所の建設課のほうにどのように話したらよいでしょうかということで、コメントをいただいておりますので、それを読み上げさせていただきます。「役場から大丸付近については、今年度測量設計及び用地交渉を実施しております。町も用地説明会の開催など事業推進に協力をいただいております。役場から佐弁までの未整備区間につきましては、沿道が人家、連担区間を含む区間が多く、拡幅には多額の用地費用が必要となる。用地補償費の比率が高い区間の事業採択は困難と聞いています。また、事業採択に当たっては、事業用地が県道へ確実に登記できることが条件と聞いていますので、未整備区間のうち事業採択が可能で、かつ、地元の協力が得られる箇所については、徳之島事務所としても県へ要望していきたいと思っております」というようなコメントがありました。

以上です。

○教育長（茂岡 勲君）

今の平議員にお答えをします。

私が答えるよりも、給食センターの所長がおりますので、そちらにお答えさせたいと思っております。

○学給センター所長（永島 均君）

ただいまの平議員の質問にお答えいたします。

給食センターといたしましては、児童生徒の健康と栄養面を最優先に考え、食材を購入する際に

食材の鮮度、品質及び栄養価等をチェックし、また、予算に見合った値段であるかを考慮し、どこ
の業者を優先するとかではなく、良質の食材を常に購入することに心がけています。

よろしいでしょうか。

○企画課長（池田俊博君）

平 博人議員の日本マルコ株式会社事業所の町内誘致についてご説明申し上げます。

まず1番目にですが、先ほど町長のほうからも答弁があったとおり、昨年5月18日、日本マルコ
株式会社より副社長2名が伊仙町に来町して、当日は議員の皆様も同席して歓迎交流会を開催しま
した。翌日には町の意見も酌みし、西部地区において交通アクセスの利便性、インフラの整ったま
とまった土地で企業の立地するに適した場所の視察を行い、今現在、日本マルコ株式会社内におい
てはほぼ決定の状態となっているということでございます。

2番目においては、今のところ、他に同様の要望はございません。

3番目について、これはあくまでも日本マルコ株式会社は民間企業であるため、即答することは
できませんが、日本マルコ株式会社は地元に着した企業運営を目的とし、地域と共に発展してい
くことを目指している企業でございますので、要望等を伝え、それに応えていただけるようお願い
をする予定にしております。

また、日本マルコ株式会社は自企業による宿舍建設だけではなく、民間による住宅の一括借り上
げということも視野に入れ、地域の皆様の協力のもと、伊仙町の発展のために取り組んでまいりた
いと思います。

以上です。

○1番（平 博人君）

まず、Aコープにつながる道路についてお尋ねしたいんですが、やはり通学路だけではなく、こ
れから町の主要道路になっていくと思うんですが、できるだけ見通しのいい道路が望まし
いと思われま。また、このような計画を検討されているのか、また、そうでない場合は横断歩道
やミラー等の安全重視の計画等があるのかまでお尋ねさせていただきたいと思ひます。

○建設課長（中熊俊也君）

先ほどもお答えしましたが、現在は具体的に計画はないんですが、Aコープがオープンした後、
どういう車の流れがあるのか、小学校、中学生の通学路にどういう影響があるのかっていうのを考
慮に入れながら計画していきたいと思ひます。

○1番（平 博人君）

それと、現在、工事車両は下の農道のほうから現場のほうに入っていると伺ひしてはるんですけれ
ど、これから工事が終わりますして、商品の搬入等、多くの車両等が往来することになると思ひんで
すけど、学校等に迂回路等が通達をされるような予定があるのかどうかもお聞きしたいと思ひます。

○建設課長（中熊俊也君）

そういう状況を見ながら、教育委員会やらJAと話し合いながら安全な方向をとって、もしかし

たら今おっしゃられましたように迂回路になる可能性もあると思います。

検討していきますので、よろしく願います。

○1番（平 博人君）

それとすいません、もう1点なんです、道路についても1点なんです、これ町道のことになるんですが、佐弁集落内の町道なんです、集落の皆様より依頼があったというふうに聞いております。

この道路舗装は今年度内で施工されるのかどうか、お答えいただければありがたいと思います。

○建設課長（中熊俊也君）

県からの話では、先ほど話しましたように、ああいういろんな保障問題やらそれがクリアできれば前向きに拡張の計画はあるということです。その進捗状況が先ほど話しましたことがクリアできない限りは徳之島事業所から申請することも不可能だということですね。

以上です。

○1番（平 博人君）

それでは、次の質問に入らせていただきたいと思います。

スーパーの件なんです、価格や種目によっていろいろとあると思いますが、現在、町外からも購入されている食材もあると思います。現在の町内購入と町外購入の比率等がわかれば教えていただきたいと思います。

○学給センター所長（永島 均君）

平議員の質問にお答えします。

昨年度の実績から申し上げますと、購入額が2,074万6,000円、そのうち地場産が334万6,000円で全体の18%というふうになっています。それ以外は島外ということですね。指定された学校給食会っていうところがありまして、そこからのがほとんどです。

○1番（平 博人君）

今お話がありましたが、地産地消という形で、町内の皆さんは日々頑張っておられると思うんですが、町内で用意できる食材に対して、物に対しては、町内で調達していくという考えがあるのかどうかをお尋ねしたいと思います。

○学給センター所長（永島 均君）

現在でも町内から調達できる食材に関しましては、なるべく町内のほうから購入するように心がけております。

○1番（平 博人君）

ありがとうございます。

続きまして、日本マルコ株式会社さんについてお尋ねさせていただきたいと思います。

日本マルコ株式会社側からの各候補地へついで住民説明会等は、今後また予定されているのかをお聞きしたいと思います。

○企画課長（池田俊博君）

今のところそういう予定はございません。

○1番（平 博人君）

最後になりますが、学校存続問題等、本当に企業誘致は深刻な問題だと思います。

そういった面を考慮しても、社員住宅等は小規模校区につくる必要性があると考えております。

また、このようなことが西部地区全体の発展につながると、このように考えております。

どうかご検討のほうよろしくお願いいたします。

質問終わります。

○企画課長（池田俊博君）

小規模校にとっては、やっぱりこういうふうには人口増がどうしても必要になってくると思いますので、また、日本マルコ株式会社様に要望いたしまして、阿権集落周辺の小学校、中学校へ通えるような住宅づくり等をまた要望してまいりたいと思います。

○議長（琉 理人君）

これで、平 博人君の一般質問を終了します。

次に、牧 徳久君の一般質問を許します。

○3番（牧 徳久君）

町民の皆様、こんにちは。3番、牧 徳久でございます。

平成26年第1回定例会において、議長から一般質問の許可がありましたので、一般質問通告書に従いまして順次質問をいたします。答弁者の明快なる答弁をお願いしたいと思います。

質問に入る前にまず一言申し上げさせていただきます。

伊仙町では去る2月に厚生労働省の発表で、合計特殊出生率が2.81と日本一になり、前回に引き続き長寿と子宝の町としてその名を全世界へ発信しております。

また、県立大島高校が21世紀枠で春の選抜高校野球大会への出場が決定となり、名実ともにその快挙を成し遂げました。これは郡島民の念願であり、誇りでもあります。おめでとうございます。

3月末をもって期限切れを迎える奄美群島振興開発特別措置法——奄振法も4月から新しい奄振法がスタートします。新制度として奄美群島振興交付金が盛り込まれ、航路航空路の運賃助成や農産物の輸送コスト支援などが実施される見込みであり、長年の要望が実を結んだこととなります。

地元12市町村では奄美群島広域事務組合が中心となり、奄美が目指す、10年後のあるべき姿を描いた「奄美群島成長戦略ビジョン」を策定し、これを踏まえた形で新奄振法に反映されたことは、その熱意と情熱が国や県に認められたこととなります。

奄美琉球諸島、奄美大島、徳之島、沖縄本島北部、西表島が世界自然遺産の推薦候補区域として決定され、登録が現実味を帯びているという明るい兆しの中で、人口減少問題など課題は山積していますが、日本の国防上必要な離島地域としてさらに徳之島は発展していかなければならないと思っております。

大久保町政の進める実現力として、自立、挑戦、交流を3本柱に輝く未来へ、さらなる前進を目標設定した政策に共鳴するとともに、車の両輪となり、これをチェックする議会としての使命感を持って新しい14名の議員は伊仙町発展のため、一生懸命頑張っています。

それでは、通告の質問に入ります。

まず初めに、水道行政についてお伺いします。

水道事業におきましては、平成20年度から西部地区の老朽管更新事業を取り入れ、町民に対し、安心安全な水の供給には鋭意努力されていると思います。しかし、河川やミニダムなど表流水がありながら地下水に依存している現状を踏まえ、西部地区を中心に多くの町民が水質改善を強く要望しています。早急にこれを改善できないのかお伺いします。

次に、各港（面縄港、鹿浦港、前泊漁港）の整備についてお伺いします。

①、各港に近代化の水洗トイレ施設がなく、漁民が困窮している。特に、面縄港は夏祭りの会場でもあり、漁業振興のため、これを設置できないのか、お伺いします。

②、前泊漁港の東側船係留施設と西側船係留施設の間の未整備箇所を整備できないか伺います。

次に、③、面縄港の未舗装部分を舗装できないか。これを放置しますと、台風や大雨のたびに土砂が港内へ流出し、水深が浅くなり、干潮時には船の接岸や離岸が大変であり、将来的に莫大な予算投資と土砂除去となる。早急な対策が必要と思うが改善できないのか、お伺いします。

公営住宅の設置について。

伊仙町では過疎化が進行し、昭和38年の人口15,869人に対し、50年経過した平成25年10月末現在では7,108人と半減しています。これ以上の人口減少を食い止めることが最大の課題でもあります。その中で、空家バンク制度や公営住宅長寿命化計画で努力されていると思いますが、町内33集落を見渡してみますと1戸も公営住宅がない集落があります。この集落に対して対応を優先する考えはないのかお伺いします。

次に、道路整備について。

町内各地区から、道路や排水路の整備など多くの要望があると思いますが、町ではこれを把握しているのかどうか、お伺いします。

次に、農林水産業の振興についてお伺い申し上げます。

徳之島ダムもいよいよ今年から堪水試験が始まり、全島への散水に向け本格化しております。

末端のスプリンクラー施設の早期整備、農業農村の予算増額等を国県への要望はできないか。

これについては27年度から一部通水という形になっているようですが、ぜひともこの末端施設のスプリンクラー施設の予算増額要望をお願いしたいと思います。

②番目、赤土バレイショ「春一番」は県指定ブランド化となりましたが、一向に価格が安定しない。産地間の出荷競争を防ぐなど、経済連などとも連携し、リレー出荷の確立ができないか。

また、今年は雨天が多く、そうか病などの発生が多いと聞きますが、これを廃棄処分せずに有効活用するなど方法はないものか、お伺いします。

次に③、ミニトラクター（バレイショの植え付け機、掘り取り機）の補助事業導入は考えられないのか、伺います。

④、J A天城事業本部とJ A徳之島事業本部では、同じ肥料、飼料、乾草など多岐にわたって価格に差があると聞かすが、J A側と協議することはできないか、お伺いします。

⑤、徳之島3町議会議員大会において、去る2月にあったわけですが、県から講師を招いて講演があり、県では6次産業化と農商工連携の取り組みを積極的に促進しているという。

2年後には、奄美・琉球諸島が世界自然遺産になると多くの来客が見込まれます。そこで、松阪牛に代表されるように、徳之島牛を開発し、ブランドを確立させ、生産～肥育～屠畜～加工～販売まで一貫体系を構築し、観光客向けの加工品販売や専門料理店等の起業支援をする考えはないか、お伺いします。

次に⑥番目、3月3日付けの地元紙に「鹿・イノシシの生息数が増加傾向にあることを踏まえ、鳥獣保護法などの改正を行った上で捕獲強化を図り、今後10年間で生息数の半減を目指す」とあるが、本町でもイノシシ被害が多く、農家の営農意欲低下を加速させております。

農業生産額50億円達成に向けても阻害要因となっているこのことについて、対策は考えているのかお伺いします。

次に、6番目、観光の振興、企業誘致について。

奄美・琉球諸島の世界自然遺産登録に向けては、昨年、推薦候補区域として奄美大島、徳之島、沖縄北部、西表島が選ばれ、国、県、市町村が連携しまして、順調に進んでいると思います。

山間部や海岸付近にはまだ多くの不法投棄が見受けられ、NPO法人などがボランティア作業をするなど、繰り返しであります。町民の意識改革が必要であることから、大きく3町でこの周知、広報徹底をできないのかお伺いします。

②番、昨年、県の地域振興事業を導入し、ジェット機のタラップやスターターを購入しました。これを有効活用するため、現在、奄美空港へも就航し、中部名古屋空港を拠点とするFDA（フジドリームエアラインズ）など航空会社への働きかけも必要と思うが、町長の見解をお伺いします。

次に③番目、新年度よりスタートする次期奄振の一括交付金で、航路・航空運賃の助成が奄美群島民向けに実施されますが、これを一般観光客など入込客にも補助を拡大できないのかお伺いします。

次に④番目、前祝いや熱狂的に太鼓やラッパ、指笛を鳴らし、手舞い・足舞いを演じる光景は、400年以上も続く徳之島の闘牛が、全国の闘牛開催地6県9自治体の中でも特長があり、日本一と思われませんが、この伝統文化を後世へ継承するためにも各町に文化財指定にするよう徳之島闘牛連合会から要望されておりますが、その後どうなっているのか、お伺いします。

⑤番、この素晴らしい闘牛をさらに充実させるために、闘牛連合会ではあらゆる面で改革をするなど自助努力をしております。このことについて、今後さらなる闘牛文化発展に向けた相乗効果をもたらすためにも、行政側からの積極的な支援はできないのか、お伺いします。

次に⑥番目、大久保町政においては、雇用確保のため、徳之島ビジョン、奄美大島信用金庫、Aコープ、6次産業化の拠点となる製糖工場の誘致など、輝く政策で全島民から大きな期待が寄せられております。今後も東部、中部、西部と、均衡のとれた発展のため、日本マルコ株式会社は西部地区ということでしたが、会社設置場所は決定しているのか。また、会社説明会も終え、誘致に向けた取り組みも本格化すると思いますが、空港と港に近い交通アクセスのよいところが最適であると考えますが、町長の見解は——先ほど、平議員の質問の中にもやっぱり交通アクセスということを考えてるってということをお聞きしております。

次に、広域的な取り組みについて。

徳之島は台風常襲地帯である。地震などの災害時にいざ停電となると放送施設が皆無となる。

徳之島3町でFMラジオ局の設置を考えてはどうか。また、町内全戸に敷設してあります光ケーブルを利用して天城町のAYTテレビを本町へ延長してはどうか、お伺いします。

次に、徳之島交流ひろば「ほーらい館」の民間委託についてお伺いします。

ほーらい館の民間委託については過去に何回か審議されたと思うが、その後どうなっておりますか、お伺いします。

次に、教育環境の充実についてお伺いします。

平成25年度に各学校を訪問し、要望を拝聴した上で、教職員向けのパソコンを導入し、大変喜ばれているということではありますが、他にも要望はあったと思うが、年次的に整備できるのかお伺いいたします。

これで1回目の質問を終わります。2回目からは自席で質問をいたします。よろしく願います。

○町長（大久保明君）

牧 徳久議員の質問にお答えしてまいります。

質問が多岐にわたっておりますので、後ほど各担当課長を中心に詳細に答弁をしていただきますけれども。

冒頭、議員が話をしました合計特殊出生率が2.81というのは、これは前回の2.42から2.81ということで全国で群を抜いた形での出生率の高さは、あらゆる地域から今いろんな、なぜそう出生率の高いのかという、いろんな取り組み状況などの連絡が来ている状況であります。まさに地域力、地域に3世代、じいさん、ばあさんもいるということなど、経済力も余り関係ないというふうな状況は現在明らかになっております。

大島高校、これは大変な快挙であります。

自然遺産、そして成長戦略ビジョン等、企画課長時代に取り組んだことが今実行されようとしていると思います。

水道行政については、担当課長と副町長のほうから答弁をしていただきます。

漁港の件は、担当課長のほうから答弁をしていただきます。

公営住宅について、先ほど日本マルコ株式会社の社宅に関しまして、1戸も公営住宅のない集落は小島集落でありますので、以前から強い要望があります。会社とも相談をしていますし、また、民間の方々とも相談して、これは前向きに考えてまいりたいと思います。

飛びまして、農林水産業の5番の徳之島ブランド牛に関しましては強い要望がございます。

そして、これこそ食肉センターを設立した目的の一つでありますので、これはいろんな、購買者とのいろんな連携をどうするかなど考えると、徳之島で肥育牛ができないことは全くないわけであり、石垣島と宮古島の近くにある黒島など、あの辺では既に肥育を始めてる状況なども研究しながら考えていくと。そのときに大事なことは、今、この購買者とJAのほうでこの話はタブーになってるわけですね。ですから、それはやっぱりタブーを打ち破っていくことがお互いの利益になるような方法は必ずあると思いますので、前向きに取り組んでまいりたいと思います。

続きまして、観光振興についても、担当、企画課長のほうから答弁させていただきます。

環境課のほうも今「虹の会」と連携し協力して、いろんな不法投棄対策などを伊仙町がリードしてやってる状況でございます。

一括交付金に関しましては、これは財務省と国交省が交渉をするときに条件不利性事業という形は地元住民の利益のためにあるということで、これは打ち出して財務省を説得するときには、地元の住民だけだということですが、その中にいろいろキャンペーン事業を取り組んでいたり、チャーター便をどんどん取り組んでいくことなどに対しては、この枠が4億ほどの枠を想定してますんで、それを活用していくと。交流人口を増やすためには絶対島外からのお客様の利便性も考えていくという形で、今、制度設計を進めてる中でそのことは国交省は前向きに柔軟に流動的に移行できるように考えていくことを期待をしております。

6番の企業誘致に関しましては、今、13、14、15と約20名の方が履歴書を会社のほうに提出をしております。その履歴書でも既に数人の方が不合格という形にもなっておりますので、この議員の方々、町民の方々、全島的な形でいろんな推薦ということを会社のほうにもっともっと出していきたいと思います。まさにあしたから面接が始まるそうでございます。

次のほーらい館の民間委託に関しまして、島内のある企業が数年前からいろいろ要望してきております。要するにこれはほーらい館を活用して要するに住宅、ホテルを建設したいという意見がこの前から出てきております。それは民間移管が条件でありますので、そうした場合の場所もいろいろ希望がありますので。ただ、草地、公園っていうかあそこにホテルをつくるのは、これは非常に難しいと思います。その後ろか仙寿の里の駐車場あたりにやれば、要するに、これからはほーらい館のトレーニングジム、そしていろんな、今、最近のホテル、私が泊まってるホテルもほとんどがもう風呂おけはほとんどありません。シャワーしかないというホテルがあつて、ただ、大浴場は併設してるという形にしていきたいというふうな話、要するにほーらい館を右から行きまして横に大きなホテルをつくって、受付も1カ所でしていきたいというふうな提案が今あったところでございます。

牧議員の質問に対しまして、全て答えることはできませんでしたが、あと担当課長のほうが答弁しますので、職員時代の経験を生かして各課長を叱咤激励するという意味での質問をよろしくお願ひしたいと思います。

○水道課長（芳田勇人君）

それでは、牧議員の水道行政について、早急な水質改善はできないのかの質問にお答えいたします。

平成20年度から西部地区の老朽管更新事業を行ってまいりました。漏水をなくすことにより、地下水依存度の低下を見込み、比率改善に取り組んでまいりました。今後の西部地区の水質改善策といたしましては、水源の杉原川を原水とする河地浄水場への導水管の復活と、老朽化した河地浄水場の施設の整備を行います。

また、ミニダムの表流水に関しましても、まだ水質検査を実施したことがございませんので、徹底した水質検査を実施し、動力、電力などの経費を検討した上で、水資源の有効利用に取り組んで参りたいと思っております。

以上でございます。

○建設課長（中熊俊也君）

今の牧 徳久議員の各港（面縄港、鹿浦港、前泊漁港）の整備についてについてお答えいたします。

1番目の水洗トイレの設置はできないかっていう質問ですが、以前からこの要望は出されていましたが、水代、電気代、あと紙代、その後の年1回の管理費——点検費ですね、それを誰がするのかっていうことで一応話し合ったんですけど、まだ結論が出ていないのと、あと、財政的なのもあったんですけど、それで延び延びとしている状況であります。次の第5次の長期振興計画にのっけて、整理していきたいと思っております。

続きまして2番目。2番目と3番目は大体似たような答弁になりますが、面縄港、鹿浦港、前泊漁港は平成23年と24年度、前泊漁港も24年度ですね、長寿命化計画で策定してありますんで、それに基づいてこれも長期振興計画にのっけていきたいと思っております。どこをどうしたらいいかっていうのは専門家の見た判断でいろいろ指摘されてますんで、それにのっかって次期長期振興計画にのっけます。よろしくお願ひします。

○耕地課長（穂 浩一君）

道路整備についてお答えをいたします。

今ご質問のとおり、梅雨時期、また台風の後、そういう道路、水路の整備の要望が多数あるのが今の現状であります。で、町民から連絡があった場合、現場で事情を聞いて写真撮影して、緊急度の高い箇所から補修を進めている状況であります。

次、5番目の農林水産業の振興についてでございますが、平成29年度までに徳之島用水地区の畑灌については全て新規事業を申請を県の長期管理計画に織り込んでいるところであります。

あわせて、奄美群島の農業農村推進協議会で国の次年度の概算要求開始が大体8月から始まるんですが、それに合わせて7月と11月に県と郡内の各市町の市町村長の方々に国会議員、農林水産省、国交省のほうに予算要求とか、郡内の農業農村整備事業の要請活動を実施しているところでありませう。

また、明けて2月には翌年度の郡内の農業農村整備事業について、県の農政部の幹部との意見交換会をお行いながら、予算の増額について陳情を行っているところでもあります。

○経済課長（上木義一君）

牧議員の質問にお答えします。

赤土バレイショ「春一番」のリレー出荷確立ができないか、また、ポテトチップス加工が有効活用ができないということですが、答弁します。

バレイショ出荷に関しては、毎年JAの園芸部の総会等などでも生産者農家に対しまして呼びかけを実行を促しております。また、経済連等とも各産地に対しましてリレー出荷の周知徹底を強く呼びかけているところがございます。これからも流通をつかさどる経済連に対しましてはより強く行政のほうからもリレー出荷の徹底を実行してもらえよう働きかけを今後も行っていきたいと考えております。

加工施設に関しては、大型施設の建設と運営となると膨大な経費等が必要になりますが、ゆでて冷凍処理など1次加工であれば、より現実的で、実現可能性が高まると考えております。

買い取り価格の安定のためにも最終加工品ならずとも1次加工品の製造は必須と考えております。

6次産業化に向けての農林水産省との補助事業等もありますので、今後は農業者、加工業者による主体的な事業計画等提案が上がり次第、これらの事業等の活用を事業主体とともに行政としても検討していきたいと考えております。

続きまして③のミニトラクター（バレイショ植えつけ機、掘り取り機）の補助事業導入は考えられないかという質問ですが、答弁します。

事業趣旨といたしましては、3戸以上の受益者農家で組合を設立をし、5.5ha以上の受益面積の実績がある方で、農業委員会の農家基本台帳に所有者または長期賃貸契約が記載されていることが条件であり、また、26年度は以上のような要件をクリアできる組合のほうで設立ができなかったということで、26年に対しては申請ができなかったということです。

今後もこれらの要件を満たす農家の要望を集約をして、平成27年度事業申請に向けてより多くの農家の方に対する事業内容を経済課としても農談会や経済課だよりなどで周知をして、募集を行っていききたいと考えております。

続きまして④のJA天城本部とJA徳之島事業本部では、同じ肥料、飼料、乾草などが価格に差があると聞かれますが、JA側と協議することはできないかという質問ですが、答弁します。

JAに関しては、両事業本部の問題であり、また、経営にかかわることでもありますので、行政府としては直接協議することは難しいと考えられます。ただし、質問にあるような価格差があること

は十分認識はしていますので、今後とも引き続き価格格差是正に向けて J A 徳之島事業本部への働きかけは行っていきたいと考えております。

⑤の徳之島 3 町議会議員大会において、県から講師を招いて講演があり、県では 6 次産業化と農工商連携の取り組みを積極的に促進しているという。で、松阪牛に代表されるように、徳之島牛を開発し、ブランドを確立させ、生産から肥育までできないかという質問ですが、答弁をします。

生産～販売までの一貫経営については、これまでも検討を重ねてきましたが、特に肥育面では現実的には以下のハードルがあることがわかりました。

1、かつて J A が、皆さんもご承知のとおり、中山のほうで肥育を行っていましたが断念した経緯があります。その経緯をより精査する必要があると思います。

2つ、肥育～加工～流通までの相当な技術が必要であり、その技術指導を行う人材を確保しなくてはならないと思います。

3、肥育には特に飼料等高額な経費がかかり、また、輸送コスト面でも不利であると考えられます。

以上のことから現時点では実現は非常に難しいとは考えていますが、ただし、このような現実を踏まえて取り組みたいと考える事業者には牧議員が勉強なさったように県のほうから指導を今後も仰ぎつつ、6 次産業化、また、地産地消に基づいた、町としても支援を検討していきたいと思えます。

続きまして⑥のイノシシの、本町被害が多く、農家の経営低下を加速させ、50億達成に向けても阻害要因であるという質問に、対策は考えていないかという質問に対して答弁します。

現在、伊仙町猟友会の協力のもと、被害発生地区については銃器、わな等で捕獲を行っています。また、伊仙町鳥獣被害対策協議会で 26 年度事業におきまして、箱わな 5 基を現在申請しております。被害地区に対しましては、また予算割り当てが内示が来次第、猟友会の皆さん方とも協議をしながら最適な場所に設置をし、また、1 頭でも多く捕獲できるように連携をとりつつ、また進めていきたいと考えております。

終わります。

○建設課長（中熊俊也君）

先ほど入ってないのが 1 個ありますので、答えたいと思います。

公営住宅の設置についてですが、お答えいたします。

現在の住宅建築は伊仙町公営住宅等長寿命化計画の策定委員のつくった、伊仙町長寿命化計画のもとに住宅建設は行われてるわけですが、これが 23 年度から 32 年度のまでの 10 年間で計画されてますが、その 27 年度に中間見直しということで見直しをします。そのときに要望のある地区やら、今まで希望はあるんですけど用地がなかったり、また、用地の提供はあるんですけどもまだ順番が来なかったりっていうのがありますので、見直していききたいと思えます。

今、住宅のない地区は 4～5 地区だったと思えますが、そのうち座談会で要望されているのが小

島地区で要望がありまして、その場所をいろいろ選定しようということでもちょっと当たったんですけど、場所の選定がうまくいなくて延び延びになってますが、次の次期計画には検討する必要があると思います。

以上です。

○企画課長（池田俊博君）

牧議員の観光の振興、企業誘致についての1番目の質問についてお答えいたします。

徳之島地区防犯連絡協議会と警察署が音頭をとって3町のNPOと自然保護団体や民間、役場が連携して昨年と今年に「不法投棄・希少動植物盗掘防止対策会議」を開き、合同パトロールを実施しています。今後も連携をさらに深め、一斉パトロールや定期巡視活動を強化し、世界自然遺産登録を目指し、島の自然を守る観点から不法投棄防止をする活動を行ってまいります。

また、当日あったその会議で平成26年度の具体的な活動として、警察署の交通キャンペーンやトライアスロン大会の島内一斉清掃時等に不法投棄防止キャンペーンを実施し、3町島民への普及啓発の呼びかけを計画しています。そのときにはまた議員の皆様の協力もよろしくお願いいたします。

続きまして、2番目の質問についてお答えします。

現在、奄美琉球世界自然遺産登録も現実味を帯びて、観光客の増加が見込まれ、町長のマニフェストにも記したとおり交流人口の増加に資するためには、どうしても必要なことでありますので、徳之島観光連盟とも連携をとり、3町協力してFDA等各航空会社のほうへ要望できるように取り組んでまいりたいと思います。

またあわせて、日本マルコ株式会社においても中核事業を中部名古屋地区で営んでおり、さらにこの名古屋地区は日本有数の工業地帯でもあるという観点から、マルコの徳之島進出がこの呼び水になって企業進出をさらに加速できるようにしていきたいと思います。

続きまして、3番目の航路・航空運賃の軽減ですが、当初、要望のときには57%で要望しておりましたが、新制度設立による需要の変動や他航路とのバランスを考慮して群島民においては鹿児島・奄美群島を結ぶ路線を離島割引運賃の現在の割引率を50%ほどにアップする。群島外住民には奄美群島内路線における往復割引運賃の割引率を10%から30%ほどに拡大してまいりたいと思います。さらに、鹿児島・奄美群島間についても航路距離に応じて運賃の軽減ができるよう協議中であり、観光客を対象とした運賃軽減については実証事業や観光キャンペーン等で観光客にも利便性が感じられるような事業を進めていきたいと思います。この事業は県の奄振計画の決定を受けた形での実施となりますので、できるだけ早く前倒し実施ができるように県のほうへ働きかけていきたいと思っています。

以上です。

○教育長（茂岡 勲君）

牧議員の質問の、闘牛のこの伝統文化を後世へ継承するために各町の文化財指定にするよう徳之島闘牛連合会から要望されているが、その後どうなっているのか等にお答えいたします。

鬮牛、町の指定無形民俗文化財登録に関する要望書と、これが要望書であります。3町の鮫島文秀さん、平山弘明さん、柏井洋一さん、保岡盛寿さん、以上の、これでこの後、鬮牛文化の指定については、平成24年6月ですが要望がありました。

しかし、その後、文化財保護審議委員会あるいは教育委員会において協議を行ってきましたが、一応継続審議という形で行われました。その過程の中においては、町内全小中学校や島内の高等学校2校ありますが、そのアンケート調査を実施して、鬮牛協会との意見交換等を実施致しました。

そして、伊仙町の文化財保護審議会において協議する中で、鬮牛は歴史的にも島民の慰みの一つとして各種の行事や祭りの後で実施されていたことが明らかになりました。

そうした観点から「牛慰み」との名称で文化財指定にすることに異議はないとの意見になりましたが、青少年の健全育成、子供による牛の散歩、あるいは子供のたまり場になって飲酒喫煙などの負の生徒指導上の問題が出る、について、鬮牛協会へ申し入れをしてほしいとの要望がありました。平成26年2月17日の文化財保護審議委員会において、諮問したところ、文化財にしたい、すべき答申を受けております。

このときに、一応、伊仙町文化財保護審議委員会としては認めるということになりました。

今後は鬮牛協会とも協議した後、伊仙町無形文化財として告示する手はずとなっております。

なお、3町同時に指定したほうがいいのかという意見もありましたが、3町文化財保護審議委員会としては町ごとで対応したいと決定してありますので、一応、伊仙町は町の無形文化財に指定をしましたということをつけ加えておきます。

以上です。

○社会教育課長（當 吉郎君）

今、教育長の答弁のとおりであります。その中で文化財保護審議委員の皆さんとしましては、ぜひ鬮牛連合会の規約等を設けていただいて、その規約の中に青少年の健全育成に資する旨の条項等をそろえていただきたいという要望がありますので、そうさせていただきます。

今後また鬮牛連合会と協議をする必要があるかと思っておりますので、そういった協議を行った後にまた教育委員会の定例会等に諮って告示する手はずになるかと思っておりますのでよろしくお願ひします。

○企画課長（池田俊博君）

続きまして、5番目の質問にお答えします。

徳之島鬮牛連合会の運営充実に苦心し、文化伝統を後世へ承継するための努力にほんとに感謝申し上げます。

また、先ほど教育委員会のほうからも答弁がございましたとおり、伊仙町文化財保護審議委員会でも慰みとしての文化は指定するに良ということであっておりますので、鬮牛文化発展が地域におけるコミュニティーの輪、場になっており、また、観光客誘致、交流人口増の観点からも行政側のほうから側面のほうをしっかりと支えてまいりたいと思っております。

続きまして、6番目の質問にお答えいたします。

これは先ほど平議員の答弁にもありましたように、糸木名地区という形で、日本マルコ株式会社内においてほぼ決定しており、また、誘致企業の要望を最優先することを旨として、交通アクセスの利便性、インフラがすぐに活用できる場所が最適であるということが、町長が答弁したように牧議員と同感であります。

次に、7の広域的な取り組みについてですが、まず、公団の天城町A Y T放送エリアについて、これを伊仙町に拡大する件に関して、中継設備機器、各世帯に設置する機器等の整備に巨額の費用が発生し、また、災害時においても広域に張り巡らされる有線ケーブルの切断、さらに停電時ともなれば現在の状況と大差ないということになります。災害時には有効な手だてといえないので、今のところこれを伊仙町のほうに引き込んでいくということは考えておりません。

次に、前段部分のFMラジオ局ですが、台風災害時においては、これまでもラジオ放送における情報の入手が功を奏し、被害の拡大を防いでいます。次期奄美群島成長戦略ビジョンの実施計画の中でも伊仙町としてコミュニティーFM整備事業プロジェクトとして計上しており、災害時における情報伝達が確実に行われるよう徳之島3町にも提案し、広域的な取り組みができるよう積極的にアプローチをしていきたいと思っております。

以上です。

○ほーらい館長（仲 武美君）

指定管理についてですが、平成24年、平成25年と2年間にわたり公募を募り、平成24年度においては4業者、平成25年度においては1業者の公募がありましたが、町のほうでは経営削減の目的に合致しないというふうに判断をいたしました。また、平成26年度においては、町長を初め執行部とも話し合い、住民サービスの向上と経費削減の目的を踏まえ再度公募を募ります。

また、公募期間については4月より5月の末までというように予定をいたしております。6月、7月、8月と審査委員会を設け、9月議会のほうには報告をいたしますので、よろしく願いいたします。

○教育長（茂岡 勲君）

牧議員の質問にお答えしたいと思います。教育環境の充実について。これは教育委員会総務課長に回答させていただきたいと思っております。

○教委総務課長（鶴永宏造君）

牧議員のご質問にお答えをいたします。

昨年度に町長、副町長、教育長、私と4名で町内の全ての小中学校を訪問いたしました。

目的は教職員の校区内居住もしくは町内居住のお願いといったところでございます。

先生方と、意見交換をする中で、学校側の要望としてパソコンの整備の要望が一番多かったということです。早急に平成25年度の当初予算で小中学校のパソコン購入を認めていただきました。

それで、今現在も25年度については整備が終わったところでございます。引き続き、今年度も当初予算において職員用と児童生徒用のパソコンの購入を計上してございます。

それと、他の要望としましては、馬根小学校と阿権小学校のトイレが男女の仕切りがないということで、これも仕切りをつけて改修工事済みでございます。そして面縄中学校に給食のコンテナ置き場があるんですが、雨が降ると濡れるということで、学校側から要望がありまして、これも全て改修工事済みでございます。今後も教材の整備や施設の整備等計画的に進めていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○3番（牧 徳久君）

まず、多岐にわたっておりますので、水道事業についてであります。先ほどの答弁では河地浄水場の整備を行い、杉原川の表流水を引くということでありましたが、非常にこれについては、西部地区の住民が要望しているところでありまして、昔は地下水を上げてなかった。その昔は小原の水を上げておったりもしたんですが、それでもなお、小原の水は大変石灰が多いということで、やめて普通の地下水になっているんですが、その昔は、地下水というのがなかった時代は、このカルキちゅうのは石灰ちゅうのは全然なかったわけですが、今、時代の流れに沿って贅沢になったわけでありまして、伊仙町が地下水が多いから、地下水に頼っているだけであって、天城町、徳之島町ではこの地下水がないので、表流水だけである。伊仙町も調べてみますと犬田布岳周辺には、豊富な水源がありますので、これをどんどん調査して、この表流水を使って、例えば地下水を上げるとなると電気代がかかるわけですので、経費をどれが安くつくのか、こういった方法も検討しながら、なるべく住民の要望に沿う形でお願いしたいと思っております。

まあ、各集落西部地区、伊仙も含めてですがトルマリンあれを各家庭に設置しているわけですので、なるべく水道水がおいしい水が飲めるように努力していただきたいと思っております。

それと、西部地区はそうですけど。伊仙中部地区においても、伊仙中部ダムの水を飲んでいるという関係上、においがするというのを聞いておりますので、これを天城町では6,000万から8,000万ぐらいかけて、活性炭、炭をこれを入れて浄化しているということ聞いておりますので、伊仙中部地区においては、こういった対策も一応あると思っておりますがお伺いします。

○水道課長（芳田勇人君）

西部地区に関しましては、犬田布岳近辺の新しい水源を見つけるということも努力してまいりたいと思っております。中部地区におきましては、今ご指摘のとおり、ダム水、馬根にありますダム水を原水としておりまして、梅雨時期や集中豪雨の時期に濁度が上昇したり、後、また夏場の季節の変わり目等で藻が繁殖して、臭気の問題が確かにございます。

その対応といたしまして、我々は天城町の活性炭のお話が出たんですけども、伊仙町の中部浄水場におきましても、活性炭の濾過機がございまして、急速濾過機がございまして。

その臭気対策として、活性炭の交換また観測地の砂の交換を毎年度、定期的に行っております。

25年度におきましても、450万の財源を投資いたしまして、活性炭の交換をいたしております。

以上でございます。

○3番（牧 徳久君）

伊仙も同じように、やっぱり活性炭が有効ということで認めたわけですので、今後もこれをほったらかさずに、定期的に交換しておいしい伊仙中部地区においても、臭くない、おいしい水が飲めるように努力をしてほしいと思います。

次に、2番目の各港の水洗トイレであります、各港に必要ですので、施設使用ということがあって、これを管理費の問題で断念したということですが、これを全漁民が知っているのか、これが全漁民に知らせたのか、一部の漁民が知って、漁協の総会等もあるわけですが、各港からすごい要望が出て、例えば、鹿浦港辺りでは簡易の借上げのトイレを今使っておるわけですが、こういったのを聞いてないという話も聞きますが、どうでしょうか。

○建設課長（中熊俊也君）

全漁民には、周知、知れ渡ってないと思います。面縄港から最初出まして、いろいろ話したんですけども、結論的に出なかったものですから、それで、今後もそういうことは、自然遺産の指定にもなる可能性がありますんで、前向きに取り組んでいきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○3番（牧 徳久君）

トイレについては、漁民も50億達成に向けて頑張っているわけですので、ぜひ、5次振興計画にはこれを載せていただきたいと思います。

まず2番目の前泊漁港の東側船係留所と西側船係留所間の未整備区間というのは、旧係留所が東側にあって、その西側に新しく係留所をつくったその間が、そのままほったらかしているところ、わかりますかね。そこを係留施設じゃなくても、ただ浸食しないように護岸をつくっていただきたいと思って、もし、国、県に要望して予算がとれるのであれば、国、県の予算で。

でなければ、町単でも、そう金がかからない事業ですので、ぜひ、これを5次計画に載せて頑張っていたいただきたいと思います。

それと、3番目の面縄港の舗装してない部分ですが、毎年、面縄港で夏祭りを開催しているわけですが、この度に、台風が毎年に来て浸食されて、相当な土砂入れ等経費がかかっているわけですが、これを放置しておきますと、この砂が毎回入れるたびに、船の係留所に流れて、面縄港も大型の船がいますので、この船が干潮の大潮時には接岸ができないというぐらい、浅くなっているということですので、ぜひ、これも早急な舗装についてどうでしょう。

○建設課長（中熊俊也君）

今、牧議員からの指摘のように、毎年、コーラルを入れたりして、すぐ台風が来るたび流されてやった、ようにもないような状態になっていますが、今後財務と話し合ひまして、なるべく可能な限り整備していきたいと思います。

○3番（牧 徳久君）

今年も恐らく、面縄港で夏祭りはすると思いますが、またその前に台風が来たら、えぐられるわけですので、その費用を考えると、簡易舗装したほうがいいんじゃないかと思いますが。

○総務課長（樺山 誠君）

各事業には、多岐にわたってございますので、優先順位をちゃんとつけながらできるところはやっていくと、いうことをやってまいりたいと思いますので、全体の事業を見ながら進めてまいりたいと思います。

○3番（牧 徳久君）

財源がないない言って、手をくわえて見ているだけでは、一向に町はよくなるわけでありまして、ほったらかしておく、多額な費用がかかるから、心配して大きな財源がかかるから言っているわけであって、前向きに検討する必要があるから、しきりに言っているだけであって、3年ぐらいこういうのを繰り返したら、相当な補修費がかかりますのでぜひ、検討していただきたい。

次に、公営住宅の整備については、先ほども答弁の中で、4集落から5集落が町の公営住宅がない集落があるということでしたが、まさに小島集落では昔から1戸もない。例えば、河地集落、糸格集落、隣の集落が全部ある、小島だけ手を加えているわけですが、今後、27年度に改正が、見直しがあるということですので、ぜひ、こういった要望も取り入れていただいて、均衡のとれた集落発展にしていきたいと思います、こう思っております。

施政方針にありますとおり、いろいろ人口増に対しましては、この住宅不足は必要なことであるのでよろしく申し上げます。

次に、道路整備について、まず1問目。先ほど耕地課長が答弁いたしましたが、建設課においても、佐弁の4号線、中央線、あそこは昔、道路整備した、舗装して両側に水路があるんですが、水路が上のほうが土地改良した関係上、昔の水路ですので、それがあふれて、隣の畑に流れて、畑を全部流していると。

佐弁集落の住民から強い要望がありまして、ぜひ、この中央線については、県道から下の辺まで、その水路の改修というか、道路の真ん中に側溝を入れてできないかと、申し上げます。

○建設課長（中熊俊也君）

今、県にちょっと聞いてみましたら、社会福祉課の生活排水事業と農地整備課の雨水対策事業があるということで、ちょっと聞いてますので、もう1回詳しく聞いて計画的に進めたいと思っています。この側溝の問題は伊仙町中、喜念から小島まで、ずうっとあちこちで要望されていることでありますので、何とか、長期的な事業があれば導入していきたいと思っています。

○3番（牧 徳久君）

この佐弁集落においては、何十年と町長が変わる度に要望がございまして、何人の議員に話しても取り合ってくれないという事で、今回初めて要望するわけですし、ぜひ、これは実行するようにお願いしたいと思います。

○議長（琉 理人君）

それではしばらく休憩をいたします。

休憩 午前11時45分

再開 午後 1時03分

○議長（琉理人君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

○3番（牧 徳久君）

時間がございませんので、簡潔にしていきたいと思います。

5番目の農林水産業費の振興についてであります。まず1番目、徳之島ダムの堪水試験が始まりまして、来年度27年度から一部通水という形になるようですが、西部地区でも土地改良については、相当前に完成しているわけですが、スプリンクラーが来るまでは、相当な33年度を目標ということですが、時間と年数がかかる。

例えば、今、伊仙町含めて、全島では高齢化率が非常に進んでおりまして、65歳以上の高齢化率が60%を超えているということで、33年となりますと10年毎になりますので、今の現在の65歳の方が75歳になると農業ができなくなります。こういった観点から、国、県に生きているうちに今の世代の現役農業者が若いうちに、散水農業ができるように、国、県への強い要望していただきたいと思います。

それから、②の赤土バレイショについては、リレー出荷、昨年は35円、今年は今ようやく100円台に乗ったところですが、非常に値段が安定しないということで、経済連と連携して、リレー出荷の確立、これが一番大事でありますので、南から順次、リレー出荷の提携確立について経済連とも連携を深めてやっていただきたいと思います。

それと、ポテトチップスでなくても、今、6次産業化が一番叫ばれている中にありますので、この捨てるものをなくすという意味で、今、一般業者では、キロ10円で買ったという話も聞きますが、これでもまだ捨てているのが多いということで、ぜひ、これを有効活用するように努力をしていただきたいと思います。

後3番目のミニトラクターについては、このバレイショの植付機、堀取り機は以前にやったんですが、以前にやった堀り取り機においても、植付機においてもこれが老朽化して、もう十何年経っているから使えないということで、新規に買い換えたいという方もいらっしゃいますので、ぜひ、これを来年度は実現、農業生産額50億円に向けて実現できるように。例えば、天城町では、今年、ちなみ2台出るとということで、植え付け専門のこういった機械もメーカーさんが来て、宣伝して実際にアピールしておりますので、こういった情報も取り入れながら頑張りたいと思います。

後、JA天城本部とJA徳之島では、値段が違うということで、天城町の瀬滝販売所がありますが、西部地区中心にほとんど犬田布の農協で買わずに、瀬滝ここで、例えば乾燥草あたりでも300円ぐらい違うということを知っておりますので、ぜひ、この値段を統一化というか、同じ農協系統でありますので、内容を把握してJAに要望するなりこういった面を考慮してほしいと思います。

後、徳之島三町議員大会において、6次産業化を進めて徳之島のブランド牛を確立させてほしいということですが、先ほど、町長がおっしゃいましたように、これは、ぜひ、やってみたい項目ではありますが、以前に、隠岐の島視察に行ったときに、隠岐の島では隠岐牛というのを開発しまして、これらについても、町長と職員が一丸となって県を飛び越えて、国に要望してこれが実際、隠岐牛として成功している町もありますので、こういった先進地も資料を取り寄せて、ぜひ、この鹿児島ブランドをつくり上げていただきたいと思います。

先ほど、経済課長の答弁では以前に、中山で肥育センターがあつて、農協がやっておったわけですが、これが成功しなかったということですが、これについては、肥育だけして、本土へ出荷しておった関係、今、最近では6次産業という時代でありますので、この何十年前の時代とは、今の時代は時代がちがいますので、ぜひ、これを隠岐の島あたり、これまで議員の皆さんと一緒に行った松坂牛、伊賀牛とか、石垣牛、いろいろ宮古牛とかありますので、こういったブランドの確立には、ぜひ、畜産振興の面から今後必要な県だと思っておりますので、努力してほしいと思っております。

職員も一丸になって、予算がない、財源がないと叫んでばかりおってはだめですので、ここに県より強い信頼関係を持って、努力すれば必ずできますので努力していただきたいと思います。

○耕地課長（穂 浩一君）

ただいまありました、畑かん事業の予算の要望の件ですが、平成26年度が木之香、阿権地区、平成27年度が嶺原地区、三崎、第二三崎ですね。27年度が糸格地区、区画整理を含めて、29年度が東部と西部の残りの畑かんについて、毎年申請する予定であります。事業申請が採択され次第、速やかに早く事業が完了するように、国、県への要望と、あと町の財源確保には努めていきたいと思っております。

平成27年度末、平成28年度から一部、通水が始まりますので1日でも早く、伊仙町内で徳之島ダムの水が有効に活用できるように、今後とも、国、県のほうに要望していきたくと思っています。

○経済課長（上木義一君）

質問にお答えします。2番目の赤土バレイショの件でございますけど、リレー出荷に対しましては、午前中も答弁しましたように、経済連に対して、より強くリレー出荷体制の周知を徹底するように町としても、指導していきたくと考えております。

後、また価格低下につながるのも生産者の皆さんに対しても、認識をさせるように、また、ちゃんとした適正管理、消毒等のそういうのをちゃんとしなない限りは、適時、定量定出の共販出荷ができないということになりますので、その辺も並行に先生の皆様方も地域の皆様にそういう指導をいただけるようなことを考えております。

今回もJAといろんな協議しているわけですけど、とにかく市場、そして消費者の皆さんのほうからは、品質が悪いという声が寄せられているわけですので、ちゃんとした消毒等の適正管理を周知していきたくと考えております。

後、3番目のミニトラクターの導入ですけど、これも午前中に答弁しましたように農談会や経済

連通信等で周知をしながら、事業、そうやって趣旨に沿った方々に、そして今後、離農する方々が今多くなっていくわけですが、その空白期間を置かないためにも、若手の農業者、青年育成をしながら、そして、その方々を中心にこういう議会と事業導入していきたいと考えております。

4番目のJA天城とJA徳之島事業本部の価格差でございますけど、これもJA徳之島事業本部への働きかけを行っていきたくと思います。後、天城とちょっと徳之島のほうでは、輸送関係、船関係でも、ちょっと影響があるというか、そういう関係もあるようですので、その点も、ちょっといろいろ聞きながら安く、価格差が出ないような方向でいきたくと思います。

後、5番の徳之島牛を開発し、ブランド化確立、そして生産肥育までの質問でございますけど、この件に関しても、今後、前向きにそういう事業者等が出れば、検討していきたくと思います。

この件に対しても、また牧議員とは、いろいろ情報交換をしながら進めていければいいかなと考えております。

以上です。

○3番（牧 徳久君）

今のブランドについては、肉用牛については、鹿児島県が全国で第2位と、それと九州地区でも第1位という素晴らしい肉用牛の生産基地でありますので、今後、この補助事業に対して、業者に対する補助に対しては、新商品開発、販路開拓についても補助率が通常2分の1だったのを3分の2まで国が増やすということを言っておりますので、それから認定農業者辺り加工販売に取り組む場合の施設整備に対する補助も2分の1でありますし、こういった、すばらしい事業がありますので、これを町民に知らせることも大事でありますので、より経済連通信などを通じまして、このブランド牛を確立するために、広報が必要かなと思います。ぜひ、頑張ってくださいと思います。

次に、3月3日付の地元紙にイノシシの生息数についてですが、本町ではイノシシが非常に多いということで、サトウキビやらバレイショに被害が出てるわけですが、それについて、一応、徳之島町では昨年度から2、3年前から山の周辺にネット、網を張り巡らせているわけですが、例えば、伊仙町の場合は犬田布岳一つしか山がないのですが、例えば、私も猟友会ですが、阿権や伊仙馬根から犬を入れて、追わして、犬田布岳まで追い込んで逃げると、その3日ぐらいしてまた戻ってくると、イタチごっこですので、どうにかして、天城町と徳之島町のように犬田布岳だけに逃げ込まないように、犬田布岳周辺に、この天城町、徳之島町はやっているわけですので、これ張り巡らしたら、この下部分にいるイノシシについては、今度、購入する箱わなとか、猟友会が鉄砲で撃てば処理できるわけですので、今、すごい問題になっているのが、こっから犬を入れた場合、犬田布岳に逃げて、それがまた帰ってくる、繰り返しですので、イノシシが減らないという状況ですので。

ぜひ、これ天城町辺りに聞いて、例えば徳之島町ではこれを業者に請負させた。

そしたら金額が上がる。天城町では農家に個人的に1kg当たり15万円で農家に受けさせた。集落ですね。

そうしたら安くなるということを聞いておりますので、いろいろ両町とも相談しながら、ぜひ、

こういうことを考えれば、イノシシの数は減ると思いますので、研究してほしいと思います。

この件について。このフェンスについては、国の補助事業がありますので、いろいろ勉強して、努力できるか。

○経済課長（上木義一君）

質問にお答えします。牧議員がおっしゃるとおり、非常に最近イノシシ被害が多いということで、私のほうも1月1日付で異動してまいりまして、最初の仕事がイノシシ被害地を調査することが、毎日のように報告を受けて現地を見て、調査をしていましたけど。

今年度だけでも、東部、面積的にいいますと300 a、伊仙中部で140 a、西部地区として一番多く1,291 aということで、非常に西部地区に関しては多いということです。

後、今年度から、イノシシのほうもいろいろ牧議員がおっしゃったように、イタチごっこというか、非常に賢くてハーベスターで、収穫した後に、株出しを掘り出して、ミミズとか虫関係を食べているということが、非常に、くわですきとったように、みんな株出しが全部跳ね上げられるという、ひどい状況でしたので、これは、今、牧議員がおっしゃたように、天城町、徳之島町を参考にしながら、それと後、伊仙町猟友会の、牧議員も猟友会もメンバーですので、一緒に現地を調査をしながら、そして必要な対策は打っていないと生産農家の意欲低下につながるわけですので。

つながるといことは、生産額50億円に達成にできないということですので、早急に、金がないじゃないじゃなくて、とにかく、生きた金を使うように努力をしていきたいと考えています。

以上です。

○3番（牧 徳久君）

今のイノシシ狩りについて、1点だけもう一遍お願いします。猟友会に対する国からか補助金を増額して被害の防止に努めますとありますが、今、現在、伊仙町では1頭当たり1万円の補助金、天城町、徳之島町の2万円の補助金、差があるわけですが、これは猟友会にとって、意欲を低下させるといいますが、これについても均衡のとれた同額にするとか、こういった方法はないのでしょうか。

○経済課長（上木義一君）

この件に関しても、猟友会の皆さんと話し合いをしながら、後、予算等とも管理しながら、前向きに検討します。

○3番（牧 徳久君）

次に、観光の振興、企業誘致についてでございますが、不法投棄についてですが、不法投棄キャンペーンなどを行い、いろいろ努力していることも山々ですが、今さっきのイノシシの話ですが、私ども、しょっちゅう山間部とか山とか海とか行く関係上、不法投棄見るわけですが、この前、中山地区において大量の不法投棄を見つけまして、担当課の皆さんに連絡して清掃したとありますが、こういったことの繰り返しをするんじゃないじゃなくて、先ほどからもこの質問に書いておりますとおり、

3町で広域的に広報紙を罰則制を設けてあるわけですので、これを大々的にこの罰則制を広報することはできないのか、お伺いします。

○企画課長（池田俊博君）

先ほどの答弁でも申し上げましたとおり、3町の協議会がありますので、そこでまた協議をいたしまして、広報等できるように、また、話し合っていきたいと思います。

○3番（牧 徳久君）

次に、昨年度購入しました地域振興事業で、4,000万円もかけてタラップとか、スターターを購入しておるわけですが、これについては、昨年、徳高生の旅行生が1回使っただけで、より多額の金を毎年1回使うので非常に無駄と思いますので、今後、このFDAだけじゃなくて、闘牛ツアー開催するとか、いろんな観光に対して世界遺産も含めてですが、このチャーター機、これはFDAというのは80人乗りですので、非常に価格は安く料金設定はできると思いますので、努力をしてほしいと思います。

それと、次の新年度よりスタートする時期奄振の一括公金の補助については、50%ということですので、ぜひ、観光キャンペーンなど利用しながら、入込客に向けても補助恩恵が受けられるよう陳情と要望しながら行ってほしいと思っております。

次に、4番目の前祝や熱狂的なラップ、これに文化財指定にということですが、先ほど教育委員会の教育長の答弁から、伊仙町では無形文化財に指定をするという答申が出ているということですので、より闘牛連合会としてはありがたい答弁であると思っております。

また、天城町においても、この前闘牛連合会長、事務局長町の私、平山相談役とヒアリングを受けまして、その方向に向かっているということで、一生懸命頑張っている最中であります。

徳之島三町とも闘牛は同じでありますので、ぜひ、これが徳之島の伝統文化財として立派に県指定、国指定までいけるように努力してほしいと思います。

ちょっと、日本マルコの件についてですが、先ほど町長から交通アクセスのいいところということでしたが15日から面接、二十数名の応募があるということですが、今後、さらに60名に達するためには、全島から応募が必要と思いますが、これについても3町のいろいろ機関を通じて、募集しながら日本全国に向けて発信してはどうかという、支援ということではありますが、人材が確保できなければ、会社が設立できないとなると、また大変になりますので、こういうことをできるのか、できないのかお伺いします。

○町長（大久保明君）

平成28年度からの雇用ですから、これも一遍に60名ということじゃなくて、3年ぐらいわけて、20名、20名、20名っていう形にこの前説明を受けておりますので、今年30名ほど雇用して与論と名古屋と横浜に分散していくと、その人たちが、26、27、2年間研修して、最初に20名ほど帰ってくるということになりますので、全国の会社の雇用は、今年だけでなく、年次的な形になるんじゃないかと思います。

今年は30名ほど、雇用したいという意向がありますので、いずれにしても人材育成が最も重要であるということ。何回も話を聞いておりますので、ですから今回も書類の時点で数名の方が、もう、声かけできなかったというぐらいという厳しくなっていますので、ぜひ、いろんな情報を提供、そして、いろいろ町内を回って話を聞いておりますと、親は呼びたいけれども、子供がなかなか入っていかないというのが、かなりありますので、まだまだ疑心暗鬼になつとるわけです。

本当にできるのかというのがあるわけですから、ぜひ、また議会の方々も一緒になって誘致等、人材育成にご協力いただきたいと思っています。

○3番（牧 徳久君）

ぜひ、この件に関しましては、国や県が勧める企業誘致、施政方針にもございますので、大成功させてほしいと思っております。

以上です。

次に、FMラジオ局の設置ですが、これについて広域で考えた場合、これに今、奄美とか沖永良部にFMがありますが、広域で考えて場合、広域連合とかやる必要があると思っておりますが、ぜひともこれを実現してほしいんですが、今後、広域連合に持っていくか努力できますか、お願いします。

○企画課長（池田俊博君）

このFMラジオですけど、これは伊仙町だけにするよりは、どうしても3町、広域連合がありますので、その広域連合を利用したほうが、どうしても得策だと思います。ですので、平成26年度からは、伊仙町の大久保町長が連合長という形にもなりますので、その場を借りて3町のほうに話し合いを持ちかけていきたいと思っております。

○3番（牧 徳久君）

ぜひ、この点についても実現してほしいと思っております。

次に、ほーらい館の民間委託についてですが、過去に24年から25年にいろいろ審議されたということですが、今般、先ほど町長の答弁では、ホテルを併設した業者が希望があるということをお伺いしているわけですが、ホテルの場所の選定でいろいろ、どうだ、こうだということでありましたが、これについても熱意のある業者がおった場合には、こういった伊仙町にホテルもないわけですので、こういったのを前向きに進めたほうがいいんじゃないかと思っておりますが、今回4月から5月にかけて、また募集するということですので、そういった業者も希望があるということを視野に入れられながら、今後、検討していただきたいですが、どうでしょうか。

○ほーらい館長（仲 武美君）

確かに、先般、身内の業者ですが、一業者のほうが、ほーらい館のほうに見えて、話など聞いていきましたけども、何せ、募集を4月から5月にかけて募りますので、その募集のあがり次第、内容的なものについては、レセプションや協議を行いまして、審査委員会を設けて判断をいたしたいと思っております。

○3番（牧 徳久君）

ぜひ、ほーらい館は徳之島の全島の拠点施設としてすばらしい施設でありますので、民間の企業のノウハウを生かして、ホテルなど併設してすばらしい、ほーらい館に持っていきますよう努力してほしいものと思っております。

後、教育環境の充実について、昨年パソコンを導入したとこいうことで、施政方針にもまた今年もまた、子供たちを含めてパソコンを導入、ICTのパソコンを導入するということですが、以前、選挙のときに投票所が視聴覚室になっていたと思いますが、テレビが、今、デジタル化になって昔の旧型のテレビしか置いてないという学校もあったわけですので、こういった学校のテレビの視聴覚室のテレビの旧型のあるところも、順次、買いかえはできないのか、予算的にどうかと思いますが、検討をできるのかできないのか、お願いします。

○教委総務課長（鶴永宏造君）

ただいま、牧議員からご指摘がありました。糸木名小学校の視聴覚室のテレビのデジタル化ということですが、何年か前にデジタルテレビは各学校に入れてありますが、たまたま糸木名小学校のほうで、視聴覚室のほうに設置がされてないと思っておりますので、そこでまた再度、調査をして今後、できる限りで配置をするようにしていきたいと思っております。

○3番（牧 徳久君）

糸木名だけじゃなくて、他の学校においても旧型のテレビ、今ごろ観ている家庭もないわけですので、ぜひ、近代化のテレビを設置したり、また他にいろいろ要望がございましたら、教育環境の充実につきましては、先生方とも協力しながら努力してほしいと考えております。

以上です。

これで一般質問を終わります。

○議長（琉 理人君）

これで、牧 徳久君の一般質問を終了いたします。

次に、美山 保君の一般質問を許します。

○5番（美山 保君）

5番、美山 保です。今回の伊仙町議会議員として町政の発展と、地域発展のために安全、安心で住みよいまちづくりのために一生懸命頑張ってまいりたいと思っております。町議会議員として、誇りを持って第1回目の質問をします。明快な答弁を期待します。

1、伊仙町地域防災への取り組みと、自主防災について。

①伊仙町地域防災計画は平成7年度改正されていますが、本年度中に速やかに改正できないか、町長に伺います。

②伊仙町地域防災計画では面縄小学校の避難場所は、面縄小学校体育館となっており、古里集落民の避難場所についても、面縄小学校体育館となっている。他に喜念小学校など避難場所については、避難道路及び海拔等の関係から、避難場所として適正であるか。また、今後、防災計画及び自主防災組織を見直して、住民や小学校、保育園へ早急に指導を行う考えはないか、町長に伺います。

③徳之島三町合同防災訓練は現状どおりで適正と考えているのか、町長に伺います。

④面縄上生活館並び下俣福生活館が避難場所として指定されているが、避難の受け入れ対策はどのようにしているのか、町長に伺います。

⑤海拔の低い集落の避難場所を高台へ設置及び整備する考えはないか、町長に伺います。

⑥上記の件を勘案して防災マップの見直しを含め、住民にわかりやすいマップと目標の標識の設置を行う必要があるのではないか、町長に伺います。

2、危機管理対策について。

①災害時における防災マイクや電話の取り扱いについて、確実に住民へ伝達可能な体制づくりを行っているか、町長に伺います。

②県道拡幅工事に伴う防水、防火水槽の撤去を行うことで、今後の消防活動に支障をきたす恐れはないか、撤去に伴う新たな設置個所について検討されているか、町長に伺います。

1回目の質問を終わります。

○町長（大久保明君）

美山 保議員の質問にお答えいたします。まず、美山 保議員におかれましては、自主防犯組織そして徳之島署の交通安全協会などで本当に住民重視という形で、大変活躍していることに、まずもって、感謝申し上げます。

1につきましては、まず副町長のほうから答弁をしていただきます。

3番目の徳之島三町合同防災訓練は今年、去年で3回行われました。これも、ちょうど3年前の東北大震災、原発事故を踏まえての防災訓練でございます。安田消防長の非常に熱意でこれは県下でも例のないような防災訓練を行っております。

その中で、このままでよいと考えているかということでございますけれども、まず、地震、津波に対する防災訓練になっておりますので、例えば、伊仙町において津波が来る可能性があるのは鹿浦と面縄、古里、東面縄地区、そして喜念地区であります。他の集落は高台にあるということで、伊仙町が参加者が非常に少ないという状況などは、今後、考えなければいけませんけれども、この3回の自主防災訓練でかなりの意識の向上が出てきたし、いろんな連絡体系とか、例えば聴力障害の方々がどこにいるかなど、課題も見えてまいりました。

また、いろいろ炊き出しをどういう形でやっていいかなどを、模索をしながら毎年、この訓練の成果が出てきております。今、南海トラフがかなり非常に危機感を持ってマスコミ等で報道されております。そうした場合、県内において、鹿児島県内において志布志地区と奄美群島の徳之島町の東海岸が最も危険な地域であるというふうなことも、今、データで出ておりますので、この防災訓練は島全体としての危機管理体制も含めて、今、考えている状況であります。

そして、もう1つ、我々が考えなければいけないのは、スーパー台風というのが、今年フィリピンで発生いたしまして、まさに津波と同じような状況にあります。平成16年に伊仙町でこの古里から前泊までの海岸部を襲った、あるいは、局地的にああいうふうな高波が来る……。

台風が通過したとか、高潮であったとか、風向き、いろんな条件が重なれば、あれだけの高波が来るという。スーパー台風もこれからどんどん来るような気候変動になっていくと思いますので、そういうことも含めて、伊仙町において、もっと防災訓練を啓発活動を進めていく必要はあると思っております。

次の防災の取り組みに関しましては、場所の指定、変更などは、今、総務課を中心にやっていると思います。新たな防災マップ等を今、完成している状況ではないかと考えておりますので、担当のほうからまた説明をしていただきたいと思います。

防災マイク等、県道の防火水槽につきましても担当のほうから答弁をしていただきたいと思います。

○副町長（中野幸次君）

地域防災計画や、あるいは自主防災組織の立ち上げにかかわりましたので、そういう関係から美山議員の質問にお答えしていきたいと思っております。最初のほうの本年度中に防災計画は改正できないかということではありますが、防災計画は見直しを大体終えております。ただ、26年度に県の見直し、防災会議を受けて、そして、その後に町段階で海道の作成しなければいけないということで、取り組んでおりますので、要望どおり速やかに26年度にはこれをまとめたいと考えています。

とりまとめる予定にしております。

それから、2点目の防災計画で面縄小学校が避難所になっているがと、こういうことで、避難場所になっているということを言われますけども、これについても見直しを既に終えて、学校のほうにもそういう旨を伝えて、訓練もそういう方向で取り組むようにとすることで、学校とも連携をして進めております。

面縄小学校が海拔が7mということで、非常に危険であるということで、避難所には的さないと、そういう判断からであります。

それと、もう1点が喜念小学校ですが、喜念小学校が海拔が14mということで、これも避難場所を喜念に大きな建物がございませんので、避難場所を公園のほうにということをしているという。公園のほうは海拔23m、23mでいいのかということの判断は東日本大震災のときに、福島県の富岡町ここが一番の高潮で、これが21mだったということで、23mであれば大丈夫なのかなと、そういうところから判断をいたしまして、この伊仙町の避難地域37カ所のうち、この2カ所については見直しをしております。

それから、防災計画及び自主組織の見直しを進めて指導しているかということではありますが、これは駐在員会等と通じて自主防災についてお願いをしておりますが、まだまだ十分、災害に対して機能する状況にはないと思いますので、今後、町として、これらの自主防災組織を中心に、集落を単位とした防災の動き、活動を今後、訓練を独自にしていかなければいけないと考えているところであります。

徳之島三町の合同訓練は、先ほど町長のほうから詳しくありましたが、この目的が低海拔地域、

集落の防災ということ、津波地震対策でありましたので、伊仙町の場合には面縄東西がいわゆる海抜が低いということで、面縄のコミュニティーセンターでやっております。

過去3回もこれに対する訓練をしておりますが、ただ、ここで町として、防災のほうで、本部のほうでお願いをしたのは、あらゆる防災にということで次回からできないかということと、それから徳之島町や天城町は伊仙に比べて、非常に定海抜地域、集落が多いので、それらの人たちの受け入れというのは、大きな災害になったときは伊仙も考えなければならないだろうと、こういったこと等もお話を進めて、お願いをしているところであります。

それから、上面縄生活館及び検福の生活館が避難場所としてどうかということですが、これらについては、大きな災害が来たときには、それぞれの集落のいわゆる自主防災組織、それを中心にして、受け入れ態勢をしていきたいと思いますということでもあります。

ただ、面縄地区に関しましては、古里の方々、検福あるいは上面縄に避難した際には、それは一時的なもので炊き出し等、そういうあれはありませんので、コミュニティーセンターのほうに移動して行くという体制が望ましいかなとこう考えておりますが、それで受け入れが可能なのかどうかという問題も残しております。

それから、海抜の低い集落の避難場所を高台へ設置及び整備する考えはないかということで、これは先ほどと重なりますけれども、喜念集落の場合には永田さん、それから佐弁の場合には盛さん、それから目手久は幸山さんに過去のいわゆる災害等はなかったのかなということで、聞き取り調査をいたしましたところが、3者からそれぞれの層を伝って大きな海水が、大きな地震があつて押し寄せてきたと、そういう伝説、言い伝えがあるということでしたので、やはり、見直しということは大それたということ、喜念小学校の高台へという見直しを進めていきます。

その他については、今のところ問題はないだろうと、こう考えております。

それから、6点目になりますが、防災マップの見直しは、今度、26年度中に見直しをして、県の防災会議が終わった段階で我々はそれを受けて、見直しをして防災マップも再発行し、全戸配布したいと、こう考えているところであります。

それから標識は、もう、既に34カ所海抜標識を町内の34カ所に設置をいたしております。

また、これで不十分だということであれば、さらに増やしていかなければいけないと、こう思っているところです。

それから、危機管理対策につきまして、先ほどもちょっと出ておりましたが、奄美の豪雨災害を参考にして考えたときに、やはり、いろんなサービスというのを考えていかなければいけないと、こういうことでもあります。いろんな台風時ですので、機能しなかったりする場合がありますが、特に今サービスでお願いしているのは、NTTドコモにエリアサービス、つまり伊仙町内だけにできるように、そういうことはできないかと、それから、auやソフトバンクにもそういう場合に順次契約をしていくという予定にしております。

また、インターネット等の利用もあらゆる方法を考えていきたいと思っておりますが、先ほどあ

りましたFM放送についても、伊仙町でこれを一度、企画を通じて検討した経緯がありますが、そのときに徳之島三町でなく、一町だけではだめだということでありました。なるほどなあということで、先ほどもありましたように全体でこれを三町でお話し合いをしてできたらと、こういう実現できたらとこういう思いです。

それから、県道拡幅工事に伴う防火水槽の撤去についてであります。非常に貴重な提言をいただき、感謝を申し上げたいと思います。町内に防火水槽というのは51カ所ありまして、このうち県道工事等で撤去されたのが4カ所ありますが、その他見てみますと、正規に使用できそうなのが19カ所、そして見直しを終えているのが13カ所ありますので、3分の2、残りの3分の1ほどは、使用不能ということになっておりますので、大変なことだなあと思って…。

それで、消防とあるいは伊仙の消防組合消防団、そして役場のほうと話し合いをして、早急な対応をしていきたいと、こういう具合に考えております。

○5番（美山 保君）

2回目の質問をします。まず、伊仙町地域防災の取り組みと自主防災組織ですが、①伊仙町防災計画は平成7年7月、19年前に改正されたまま、そういう状態であり、また、高潮、津波による影響全く考えられていません。東日本の震災による津波や温暖化による台風での高潮発生した、その時点で伊仙町防災計画をそして、自主防災組織を見直すべきではないかと思うが現状はどうなっているのか、人命にかかわることであり、早急に見直しをすべきであると思うが町長はどう考えられているか。

今、地域防災計画というのは、今そこにマップもあるんですけども、この防災計画は19年前につくってそのままの防災計画であります。これを後、見直したというのは、自主防災組織が見直しされたということでございます。

この自主防災組織と、今の時期、防災組織計画は2つ合っていないですよ。これが2つ一緒に合うべきだと思いますけれども、それが合っていないということで、やっぱり見直しはする必要があるんじゃないかな、このように思っております。そして、この防災計画の中に今、古里集落へ面縄集落、そしてまた東面縄、そして喜念集落、そしてまた鹿浦の集落の一部そして面縄小学校、喜念小学校そういうところが全くやってないということで、やはり、私は先に思っているのは、これから自主防災とそういうのをきちんと対応してつくっていただければ、今のこの19年前のやつをそのままあるというのは、問題があるという思いをしております。

恐らく、この自主防災についても、これ3年前に確かにつくってあります。そして、その中で、この中身を見たら大体駐在員さんがこの会長になったり、副会長になったり、いろいろしているんですけども、これはこの中に、徳之島に住んでいない都会にいる人がそのままのっているということで、そういうのをきちっと見直しをしてもらいたいと、そういう思いをしております。

○副町長（中野幸次君）

非常に大事なところご指摘いただきましてありがとうございます。先ほども、申し上げましたと

おり、県の防災会議の結果を待ってというんでしょうか、そういうことで、この26年度中に見直しをするということを約束を申し上げたいと思います。また自主防災組織はこのそれぞれの集落の方々にお願いをして、防災組織をつくり上げたわけですが、また新しく今年度、見直しをして2つの整合性と申しましょか、それはとれるようなものにきちっと仕上げていくことを申し上げたいと思います。

○5番（美山 保君）

早急にやってください。というのは、先ほども言ったとおり、やっぱり人命にかかわることありますので、早目に対応していかなければ、災害が起きてからではどうしようもないということになりますので、よろしく願いいたします。

そして、2番目ですけども、伊仙町防災計画では古里集落や喜念集落の住民、そして学校の児童や幼稚園の園児は各学校の体育館が避難場所として指定されていますが、この場所は最も危険な場所であると思うが、町長はどのように考えますか。

○副町長（中野幸次君）

ただいまの質問にお答えいたしますが、2年前ですか町議会のほうからも指摘をいただきまして、議員の皆さんに面縄小学校の現場まで足を運んでいただいて、そして避難経路を面縄小学校の裏のほうから高台へと避難するという、そこら辺までの計画が進んでおりまして、それについて、面縄小学校のほうとも連絡をとって、そういう体制で今望んでおります。

喜念地区につきましては、いわゆる生徒、喜念小学校の、あるいは地区の方々にも今回、この見直しが行われたときにそれらについて、より具体的に伝えていきたいと思っております。

学校関係につきましては、そういう連絡を避難場所等についての連絡は終えております。

○教委総務課長（鶴永宏造君）

面縄小学校、各学校における災害訓練ということですが、各学校、年間通じて2回から3回実施されています。その際は、あらゆる災害を想定して、火災、例えば地震、津波とか、あと不審者対応といろいろな想定をして実施をしております。

面縄小学校は海拔7mと低い地域でありますので、地震、津波を想定した訓練が平成25年度に実施をされました。昨年度、土地改良事業が完成しましたので、それに避難経路として付けかわえてあります。学校の裏の墓を通過して、農道通って、上の高台に上がるという避難経路でございます。

以上です。

○5番（美山 保君）

今、面縄小学校の避難ということで、私も今小学校の評議員ということで、今までもずっと学校側にも要望し、そして教育長辺りも行っていると思うんですけど、学校の裏側、ブロック塀で体育館の裏側ずっと囲んでおりますけども、そのところを開けて、そして避難経路をつくっていかなければ、恐らくやっていけないでしょうと、そして、今の現在、道路は河川沿いにあるということで、どうしても危険性があると、やっぱり港から海から河川を通じて走ってくると、そうなれば体育館

の裏側のブロックを少し壊して、そして通路ができないかなとそういうことも、大分話をして、そしてまた畑総事業の時に、避難できるような、そこに道路はできないかなと、そういう話もかなり前の月の面縄小の評議員会で大分そういう話をしてやってきております。

そういうこともあって、その避難経路をどこまで避難して、するべきだと。

今、面縄の上のほうの生活館そこまで子供たちを集めて行くのはどうかと、いう思いもありますけども、やっぱり、一番大事なことは実際にそこまで津波が来たら行くんだということを、やっぱり、きちっとみんなに教えていただくと、そういうことをしなければ、やっぱり問題があるかなと、途中まで行って帰ってきたら、子供たちはみんなあそこまでいいんだという思いがしていると思います。

それと、古里集落の人たちも、いろいろ問題があるんだけど、上面縄の生活館そしてまた上検福の生活館とか、そういうところにも行くということになってはいますが、やっぱり、そういうことを、ちょっとまた話をしますけれど、そういうこともありますので、やっぱり子供たち、そしてまた保護者の皆さんに、地域の皆さんにきちっと理解をさせて、そして経路は経路できちんと避難できるような体制をつくっていただきたいと、このように思っております。

○教委総務課長（鶴永宏造君）

今、美山議員のほうから、お話は面縄小学校の、避難経路についてご質問があったわけですが、面縄小学校においては平成25年度の避難訓練を踏まえて、いわゆる川沿いに行く方法がありますが、それでは子供たちがその通路に殺到するというので、学校側から要望がありまして、体育館の横のブロック塀があるわけなんですけど、そのブロック塀を5枚ぐらい、2月末に全部とって、工事をして完成していますので、また、ご覧いただきたいと思います。そちら側のほうは低学年で、高学年になりましたら川沿いというようなルートは今考えております。

以上です。

○副町長（中野幸次君）

古里集落の避難につきまして、古里公民が海拔11mということで、面縄の駐在のところが25mになっておりますので、そういった内容等について、避難については集落座談会と、あるいは、また今後の避難訓練等の中で、集落の方々にもお互いで防災に臨むようにということを伝えていきたいと、こう思っております。

○5番（美山 保君）

先ほど、富岡町が23mという話をされましたけれども、実際に最高到達点に行ったのは、岩手県の宮古市、隣の町が40.5mです。これは、測量専門家の確認をしたということで、インターネットを開いてみればそれは出ております。

この23mというのは、根拠のない話だと思います。他にも30mとか31mとか、各地区によって全部違ってあります。そういうことで、恐らく私は25mでも危ないんじゃないかなとそういう思いをしております。そういうことで、本当に面縄駐在所まで行ってそれでいいのかなとそういう思いを

しております。そういうこと等あって本当に喜念集落もそうですけども、喜念のほうでも今保育園が20m以内ということで、危険だな、そしてまた喜念の小学校の校長先生にもお話したら、ずうっと上のほうに行って、向こうの公園、小さな公園なんですけども、その辺あたりまで行かんやいかんなどという話もしたんですけども、やっぱり、一番大事なのは最高到達点が40.5mだということだけは、認識をおいて、そこで判断するのも大事じゃないかなと、このように思っております。

○副町長（中野幸次君）

当時の、高潮の測定につきましては、いろんなところで測定があって、どれが正しいという基準にはないということでありましたが、今、美山議員から40mということがあったわけですので、またそれを基準にして新たに考えていくということが、災害をより防ぐということに通ずると思いますので、その意見を尊重して、今後については考えていきたいこう思っております。

○5番（美山 保君）

3番目ですが、徳之島3町合同防災訓練では、東公民館と古里集落に私も参加をしましたが、古里集落の防災マイクを聞いて、今日も、さっきも、話はあったんですけども、25mの主な駐在所まで、歩いていきましたが、耳の聞こえない人や障害者、歩けない人たちは参加していませんでした。

このような人たちをどのように避難をさせるか、大きな問題であり、また集まった住民もどこに避難するかわかっていないようでした。喜念集落にも、同じ考えだと思います。地域住民にきちっと指導をして、安全な避難のできる体制はできないか、町長に伺います、よろしくお願いします。

○副町長（中野幸次君）

防災については、いろいろな配慮が必要かと思えます。おっしゃるとおり、我々としては最大限取り得るような防災についての体制を整えなければいけません、やはり、防災の訓練をすることによって、一つ一つ見逃すことがないように、やがて万全な防災体制が築きあげられると思っております。

防災の計画が自主防災組織もそうですが、やはり実際の防災訓練を重ねて、地域の方々の防災に対する意識をさらに高めていくことがより防災につながると思いますので、今後は、そういったことの周知徹底を図って決して失敗のないような防災体制を整えていきたいと、こう思っております。

○保健福祉課長（松田一郎君）

弱者対策について、私のほうからご説明申し上げます。訓練の中では包括支援センターが保健センターと連携を取って、その中で民生委員さんとか地域づくりの方たちの協力を仰ぎながら、その障害者対策については対応してきました。昨年におきましては、面縄地区においては青年団の協力を得まして、誰がどの方を見に行くとか、そういった対応もしております。

聴覚障害者については、どういう方法で知らせるべきかということで対応しております。

古里におきましても、各家々を包括支援センターの職員が回って対応しております。

ただ、参加ができなかったというのは、身体的な要素がありまして参加できませんでしたけども、

常日頃から、そういった地域の見守り体制、そういった体制をつくって、支援体制は進めております。

これは、マップづくりの中にも生かしておきまして、役場職員、ひっくるめて地域で自助共助公助を行うという段取りで一応計画は進めております。

以上です。

○5番（美山 保君）

一生懸命進めていると思いますけども、やっぱり計画性をきちっとして、私が今、東面縄にある保育園、その保育園が2年前、防災訓練としてやっていたけども、その防災訓練をやっているコースといいますのは、面縄中学校の前に行って、中学校の前から横断歩道を渡って、そして豊富建設の今、バレイショをやっている倉庫に、そこに連れて行ってですね、私はその場で、そういうの見ましたけど。なぜ、コミュニティセンターに連れていかなかったか、おかしいんじゃないかとそういう話をすれば、皆、そこに横断報道があるからそこを通過して行きましたよと言う話をされてますけど、実際にやっぱり、きちっとコミュニティセンターに連れて行けば、何ら問題はなかったんですけども、やっぱりそういう計画をきちっとして、指導していかなければ、本当に逆に下がっていくような計画をして、実際にやっていると、そういうのを、事実、私も見て、それで、その場でそういう話をしていました。やっぱりそういうことのないようにきちっとした計画を立てていただきたい、そのように思っております。

自主防災組織について、古里集落は上面縄生活館と、下検福生活館に分かれて、避難することになっていますが、住民はわかっているのでしょうか。指導はされていますか。そして上面縄生活館、下検福生活館は平日、昼間は保育園として使用していますが、避難場所として対応できていますか。避難の装備はきちっとできていますか。喜念集落民には喜念生活館や避難場所となっていますが、この生活館も標高20m以内であり、津波の災害を受けることが十分考えられますが、避難場所の見直しをする考えはないか。

○副町長（中野幸次君）

先ほども申し上げましたが、防災の体制につきましては、古里集落、検福集落、それから上面縄は、これらにつきましては、そこらの災害時ですので、集落の自主防災組織を中心に、その対応をしていくと、こういうことで進めております。また、防災に関する保育園等もあるがっていうことでありますが、他にそれぞれが避難する場所ってというのがございませんで、保育園の方々にも理解をいただいて、災害時には理解をいただいて、そして避難場所にしていきたいと、こういうことであります。

それから喜念につきましても先ほど申し上げましたように、大体、学校が18mで、上の公園が23mっていうことになりますので、それで避難場所を公園のほうにという場に変えたわけですけども、先ほどまた、指摘ありまして、40mっていうこと想定して避難場所を設定すべきじゃないかと、こういうことでありますので、新たにまた場所等を集落の方々と協議をして設定をしていきたいと、

こう思います。

以上です。

○5番（美山 保君）

この自主防災組織の中にも一応、上面縄に70名で、そして、下検福に70名ということを書かれておりますけど、この70名とかいうのは、決まって、誰がどこにということ、その集落の係の人が、そういうのははっきりわかってるんでしょうか。そういうことをやはり対応してあげなければ、誰がどこに行くってわからんぞって、そこに集まっただけでいけるものじゃないと思います。

そういうところまできちっと対応するようにお願いします。

○副町長（中野幸次君）

冒頭、指摘いただきましたように、改定が非常に遅れておりまして、そこら辺までの体制は整っておりません。今度、26年度のいわゆる新しい組織の見直し、改正のときには、そこら辺まで含めて割り当てていきたいと、こう思っております。そしてそれに庁職員の集落担当制を引いておりますので、集落担当の職員を割り当てて、そして一緒になって、考えていけるような体制を、そしてスムーズに、しかも避難できるように、合理的な方法ということ考えていきたいと、こう思っております。

○5番（美山 保君）

5番目、東日本津波による人災、死者2万人以上や家屋、農業施設、畜産などの被害を受け、復興が進まず、自宅に戻れない人たちが少なくありません。

また、フィリピンでは瞬間風速80mの台風で、死者6,000人以上の人が犠牲になり、家屋や農地など甚大な災害を受け、世界各国の応援を受けて、復興を目指しています。我が国においても、南海トラフ地震による津波と温暖化による瞬間風速80mの台風が、30年以内に70%の確率で発生するといわれております。

このようなことから、我が伊仙町においても大きな地震による大津波や台風被害や遭難される恐れがあり、伊仙町の古里集落や喜念集落、東面縄集落、面縄小学校、喜念小学校、そして鹿浦集落の一部が特に心配されます。

2月の28日の日経新聞によると、沿岸部に立地した子供たちの避難場所がない学校について、高台移転や校舎の高層化を自治体に促すなど、文科省が規定の改定へ動いています。

我が伊仙町でも、危険地域をなくして、災害から町民や子や孫たちが安心安全な生活ができるように防災避難対策として、津波や高潮の影響を受けない高台に早急に避難措置の整った学校の建設はできないか、町長に伺います。

○町長（大久保明君）

先ほど、到達点の問題がございました。約35m以上の数カ所で確認された地域は、全てがそのリアス式海岸の湾の奥に、波が集中して、一部、山登って40mまで到達したんですけれども、平地においてはそれほど到達しておりません。

平地でも10mぐらいの、仙台平野に来てるわけですから。そういうことなんか、鑑みて、今、南海トラフの場合にこれは徳之島町が7.33m、天城町、4.67m、伊仙町が9.60mになっておりますので、こういうことも参考に、これは南海トラフ、最大に来て、最悪の場合、29万人が亡くなるという予想の中での予測でありますので、高台移転に関しましては、そういうことも含めてまた学校の耐用年数などを含めて考えていかなければいけないと思っております。

○5番（美山 保君）

今、一番問題になるのは、やっぱり面縄小学校はつくって10年ぐらいにしかならないと。

そしてまた、喜念小学校の場合は、今から新しく造るということも考えられますので、そういうことで、そういう津波を想定して高台に上げるということも大事じゃないかなと。と、言いますのは、東北のほうで、一応、今、海側にある学校に生徒を集めて、そして避難を受けたと、そういう避難を受けて、みんな亡くなったと、そしてその保護者がおられて、その保護者が裁判起こしてると、そういう実態もありますので、そういうことにならないように、今のうちにそういうことを考えて高台に移転される場所はして、きちっと対応してあげるのが大事じゃないかなと、そういう思いをしております。よろしくお願ひします。

○町長（大久保明君）

高台移転に関しましては、その大沢小学校の例は、裏山があったのになぜ裏山に上って行かなかったのかと一番争点になってるわけです。今、仙台平野などとか南海トラフが来る地域で考えてるのは、裏山がないところがあるわけですね。平地の場合は、建物を上に、何か避難タワーという形を、今、計画してるっていうことですので、例えば、まず、面縄小学校の場合を考えてみますと、2階建てで、2階の標高が10mあるわけです。2階に避難して、それより大きい波が来るかどうかというようになります。喜念小学校は14mということですので、喜念小学校は老朽化してますので、次の件に関しましては、高台に土地等があれば、壮大な土地も必要ですので、そのようなところを議論をして、考えていきたいと思ひます。

○5番（美山 保君）

6番目、伊仙町防災マップ見直し。地域住民全ての人たちが防災対策について理解し、また危険区域やわかりやすいマップの作成と標高がはっきりとわかる標識を各集落の公民館や公共施設に転移することや、指導の徹底を的確にすることができないか。

○副町長（中野幸次君）

現在、34カ所に設置をしておりますが、各集落の公民館等にもということですので、検討させていただきたいと思ひます。また防災マップ等につきましては、先ほども回答申し上げましたとおり、新しいマップの中に海拔等も含めて書き入れた、そしてまたいろんな防火水槽等、そういったことも書き入れたり、あるいは避難場所等を書き入れた、そういったものを作成をして、全戸配布にしていきたいと思ひます。

○5番（美山 保君）

34カ所に一応設置してあるということなんですけども、私もあちこち調べて回って歩きました。面縄小学校、面縄中学校、そして喜念小学校、そういうところ、東公民館にもやってありましたが、一番私が感じたのは、本当にわかるところにステッカーを張ってあるかどうか、言うのが一番問題なんです。今、張ってあるのはどこに張ってるかっていうのは、面縄小学校が信号機の電柱に張っています。そして、面縄中学校も電柱に張っております、そして喜念小学校も電柱に張っています。

そういうことで、恐らく、私は、他の人たちもあれは気づいてないと思います。

やっぱり、みんなが気付くところにきちっと標識を立てる、やっぱりそれが大事だと思います。

今のところは本当にわからないし、私がわざわざ各学校に行き行って聞いてきました。

そうした場合に、その電柱に張ってありますのでと言いますが、おかしいよと、そういう高さを標示するとききちっと標示するというものをつくってほしい。そうしなければ、住民の意識というのが変えられないと、わかってないと思います。恐らく住民、そこに通る人も、その電柱のその高さを見ている人は少ないと思います。

そういうこともあって、その点ももう一回、きちっと、そして、まず人の集まる場所、郵便局とか、保育園、古里保育園、喜念の保育園、ああいうところにもきちっと標示して、そして公民館、公園、そうしなければ、わかるように、町民が、みんなが理解してできるようなものをしていかなければ、せつかくの一生懸命やった標識っていうのは役に立たないと、そういう思いをしておりますので、その点またよろしく願います。

○副町長（中野幸次君）

要望に沿うような形で検討し、また取り組んでいきたいと思っております。

○5番（美山 保君）

私は、今、鹿児島市のハザードマップというのを持っております。

これは、今年3月、鹿児島市の各家1件、1件に、配付されたマップです。これ、鹿児島市がつくったマップですけど、すばらしいをつくったんです。町長も見てもらいますけども、ここまではせんでもいいんだらうけども、やっぱり、住民にきちっと津波の大切さ、津波の怖さ、やっぱりそういうのを教えてあげる、そしてまた必死感を持たせる、そういうのが大事だらうと思っております。

そういうことで、よろしく願います。

○副町長（中野幸次君）

各市町村、あるいはまた今、示していただきました鹿児島市のマップ等を町の作成の段階には参考にさせていただきます。

○5番（美山 保君）

2番目、危機管理体制対策についてですが、①、災害時における防災マイクや、電話の取り扱いについて、現在使用している防災無線、電話が停電した場合は、無線や電話として使用できますか。そして、以前の防災無線より電源を設置して無線が使用できたと聞きますが、現在の施設はどうか。

津波や台風がいつやってくるかわかりません。住民が安心して生活をするためには早急に、停電があっても防災マイクが住民に聞こえるようにできないか、町長、お答えください。

○副町長（中野幸次君）

現在の防災につきまして、屋外ものはちゃんと使えるということで、ただそれだけでは不十分なので、将来的に先ほどFM放送の話もありましたが、ラジオ付きの電灯、そういったものが利用されるだろうということで、FM放送ができたらと、こういうこと等もありますが、現在の取り組みとしては、NTTドコモなどにエリアメールということで伊仙町内だけにできるような、そういった類いのことをauやソフトバンクにもお願いをしておるところです。と、また、契約をしていきたいと、こう考えてるところです。その他、インターネット等につきまして、あらゆる方法を今後とも模索をしていきたいと、こう思っているところです。

以上です。

○5番（美山 保君）

今、防災無線、外のほうは一応できるということでございますので、まず、特に今、家屋等については、また再度、チェックをお願いしたいと思えます。実際に防災マップで、確認をとっていただきたいと思えます。よろしくお願ひします。そうしなければ、いつ災害があるかわかりませんので、よろしくお願ひします。

次、②、県道各工事に伴う防火槽の撤去を行ったことで、今後の消防活動に支障を来す恐れはないか、また、撤去に伴う新たな設置箇所について検討されてるのかどうか。

○副町長（中野幸次君）

1回目の質問でも、お答えいたしました。現在のところ、町内に51カ所ありまして、その51カ所、県道拡幅等におきまして、役場前とそれから徳南製本店のところと牧本商店のところ、こころが喜念と、その4カ所が、あります。

それで、これらについて、18カ所は今使えるんです。見直しを済んだのが13カ所、これは補修の必要があるところ。残りについて、今後、見直しを進めて、消防組合、消防団と協議をして、そして消防活動に支障がないようにしていきたい、こう思っております。

○5番（美山 保君）

この質問をしたのは、やっぱり消防の皆さんから話を聞いたものですから、今、質問してるわけでございますので、そしてまた消防議員もおられますので、その中でもこの件についてはお話をすることが、大事だと思います。よろしくお願ひします。

○副町長（中野幸次君）

ただいまのご指摘をいただいたことを尊重しながら、今後の消防活動については、徳之島消防組合、さらには伊仙町消防団等含めて協議をし、改善すべきは早急に改善できるように取り組んでまいります。

○5番（美山 保君）

東日本の津波災害が、連日テレビ等で報道されています。災害が起きてからでは遅い、今できることは今やらないと、10倍も100倍も労働時間やお金もかかります。国や県と連携をして、日本のモデル町をつくってみませんか。伊仙町の厳しい財政下でありながら、大変と思いますが、備えあれば憂いなしという言葉がありますが、早急に処置、対処、対策を講じていただきたいと思います。

そしてまた、今、この伊仙町の1期防災計画と自主防災の冊子を全議員と駐在員に配付することはできないですか。

○副町長（中野幸次君）

26年度に見直しをした段階で、全議員に配付するっていうのは、当然のことだと思っておりますし、また集落にも計画等、全町民にも配慮して防災に備えるように取り組んでいきたいと、こう思います。

○5番（美山 保君）

終わります。

○議長（琉 理人君）

これで、美山 保君の一般質問を終了します。

本日の日程は、全部終了いたしました。会議を閉じます。

本日はこれで散会いたします。次の会議は3月14日、午前10時から開きます。日程は一般質問であります。なお、9時30分より、全員協議会を委員会室で行いますので、ご参集をお願いいたします。ご苦労さまでした。

散 会 午後 2時45分

平成26年第 1 回伊仙町議会定例会

第 3 日

平成26年 3 月14日

平成26年第1回伊仙町議会定例会議事日程（第3号）

平成26年3月14日（金曜日） 午前10時 開議

1. 議事日程（第3号）

○日程第1 一般質問（美島盛秀議員、岡林剛也議員、琉 理人議員）3名

1. 出席議員（14名）

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	平博人君	2番	岡林剛也君
3番	牧徳久君	4番	上木千恵造君
5番	美山保君	6番	永田誠君
7番	福留達也君	8番	前徹志君
9番	明石秀雄君	10番	樺山一君
11番	永岡良一君	12番	伊藤一弘君
13番	琉理人君	14番	美島盛秀君

1. 欠席議員（0名）

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長 明勝良君 事務局係長 佐平勝秀君

1. 説明のため出席した者の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町長	大久保明君	副町長	中野幸次君
総務課長	樺山誠君	企画課長	池田俊博君
税務課長	椛山正二君	町民生活課長	西吉広君
保健福祉課長	松田一郎君	経済課長	上木義一君
建設課長	中熊俊也君	耕地課長	穂浩一君
環境課長	益一男君	水道課長	芳田勇人君
選管書記長	佐平浩則君	農委事務局長	益岡稔君
教育長	茂岡勲君	教委総務課長	鶴永宏造君
社会教育課長	當吉郎君	学給センター所長	永島均君
ほーらい館長	仲武美君		
総務課長補佐	田島輝久君		
総務課長補佐	仲島正敏君		
議会中継班（総括情報戦略室長	関政樹君）		

（終日）福司銀二郎君・田島文子君・上木雄太君

△開 会（開議） 午前10時00分

○議長（琉 理人君）

ただいまから会議を開きます。

△ 日程第1 一般質問

○議長（琉 理人君）

日程第1、一般質問を行います。

通告順に従って、順次発言を許可します。

初めに、美島盛秀君の質問、許します。

○14番（美島盛秀君）

おはようございます。平成26年第1回定例会において、議長から一般質問の許可がありましたので、質問をいたします。14番、美島盛秀でございます。

質問をいたします前に、一言ご挨拶申し上げます。

1月に行われました議会改選に当たりまして、議席を得させていただきました。

本当にお世話になり、ありがとうございました。

私は、4期16年の議会活動を通して、今回も4年間の任期を町民のために全力を尽くして頑張っ
てまいりたいと思っております。

また、今回の14名の議会の中には、行政職に精通した方もいらっしゃいまして、さらなる勉強が
でき、また、町民の皆さんも伊仙町発展のために大きな期待を寄せていることだと思っております。
昨年は、復帰60周年という大きな節目を迎えました。60周年を祝い、そして60年という過去を振り
返り、昨年2月には、奄美群島成長戦略ビジョンが策定されました。これからの伊仙町の未来、
奄美群島の未来を担う奄振法が延長されまして、決定をいたしております。

こういう大きな予算等を活用することによって、これからの私たちの伊仙町の発展は、さらに進
んでいくものだと思っております。

大久保町長の施政方針あるいはマニフェスト、このことにつきましては、私たち議会が、私の経
験の4期16年の間で、ずっと思い続けたことでありまして、この政策実現に向けて、町民の福祉向
上、生活向上に向けて、頑張らせていただきたいと思いますと思っております。

その中で、私は、まことのまちづくりを目指して、まことのまちづくりの建設に向かって頑張り
ますということを公約として、この1月の選挙に訴えてまいりました。そのことを町民の皆さんに
ご理解をいただきながら、質問をさせていただきたいと思っております。

守るべきことは守り、そして、変えるべきことは変えていかなければいけないという思いであり
ますので、どうぞ、執行部の皆さんは明快なる、簡潔にご答弁をお願いいたします。

それでは質問をいたします。

まず、町政全般にわたってでありまして、農業振興についてをお尋ねをいたします。

まず、農業生産額50億円達成は伊仙町発展の原点であります。農家所得向上は行政が一体となって取り組むことが重要であります、どのような施策を講じていくのか、お伺いをするものであります。

2番目に、基幹作物のサトウキビを増産した上で、安定した収益へつなげる得策はあるのか。

また、サトウキビを原料として、6次産業化に向けて取り組んでいる「特産品製造販売プロジェクト事業」の進捗状況はどうなっているのか、伺うものであります。

3番目に、畜産は粗飼料の生産が不可欠であります、飼料畑の確保、機械などの導入など、生産コストが高く、さらに穀物飼料が高騰しており採算性が低いと言われるが、打開策は考えているのか、伺うものであります。

次に4番目、果樹、野菜園芸、バレイショを含むわけでありませうけれども、その他の栽培可能な作物の作付アクションプログラムを作成して、農家への指導が必要と考えるが、どのような策を考えているのか。また、コーヒー、長命草の栽培状況はどうなっているのか、伺うものであります。

2番、3番、4番につきましては、1番と並行してお伺いするものでありまして、1番目はまとめて答弁をお願いいたします。

次に5番目、「人・農地プラン」策定においては、農地所有者の貸し手と借り手の問題や当該在住者や集落外の借り手との連携強化に取り組む必要があるが見通しはあるのか。また、後継者育成の観点から認定農業者の担い手や農地集積が必要であるが現状はどうなっているのか、伺うものであります。

大きな2番目として、企業誘致について。Aコープの誘致で地元商工会、商店街といいたししょうか、衰退が考えられますが、町行政として対策は考えられないのか、伺うものであります。

2番目に、日本マルコ株式会社の誘致が本格的に進んでおりますが、時期や場所について問うものでありますけれども、このことに関しては、12日の同僚議員の質問に答えておりますので、結構かと思えます。

この奄振予算を活用する考えのようですが、具体的な内容を問うと、このことについてお伺いをいたします。

大きな3番目に、定住促進について。まず、空き家バンク制度の具体的な内容と現状についてお伺いをいたします。

2番目に、民間資金活用住宅建設の具体的な内容と現状について伺いますけれども、このことについては、先般12日の日に具体的な全員協議会の中でも説明がありましたので、省略させていただきますけれども、二度とこのようなことが起きないように、そして執行部と、そして契約者との間にいろいろな問題等が起きないように今後もしっかりと検討していただきたいとお願いをいたします。

4番目に、教育行政について。子供は島の宝とよく言いますが、島の宝を守ることは、家庭、学校、地域が一体となって取り組むことこそが大切であります。本当にそうであるのか、最近、学力

の低下、生活指導上の問題点などはないのか、伺うものであります。

次に5番目、町長の政治姿勢について。徳洲会問題。大久保町長は徳洲会とは深い関係があり、徳田毅前衆議院議員の後援会長でもあります。日本中が注目をしている公職選挙法違反事件について、政治的、道義的責任があると思うが、町長はどのような認識をしておられるのか、伺うものであります。

6番目に、徳之島食肉加工センター訴訟の件について、伺います。

平成22年、そして23年度事業で計画施工した徳之島食肉加工センター新築工事の元請業者と下請業者の間に訴訟が起きていると聞いていますが、町民への事情を説明する必要があると思うが、町長としての見解を問うものであります。

以上、1回目の質問をいたしまして、答弁を求めて、2回目は議席で質問をさせていただきます。

○町長（大久保明君）

美島盛秀議員の質問にお答えをしてみたいと思います。

農業振興に関しましては、上木課長のほうから答弁書を用意してありますけれども、全体的なことについて答弁をしていきたいと思っております。

まず、その前に、美島議員が話をした、まことのまちづくりは4期16年の経験を生かして、質問内容などもベテラン議員として、本当に町の核心を突くような建設的な前向きな質問が出ております。ぜひ、また、模範となるように、若い議員の方々の率先垂範して、指導をしていただきたいと思います。

成長戦略ビジョンは、この地元の自治体、地元の議会の方々が自ら主体的に奄振の内容を吟味して、いかに有効に、本当に、その地域のためになる奄振を要望した形で、25.8億という形で獲得したことは奄美の自治体議会の大きな成果だと思っております。それを生かすも生かさぬも我々地元にかかっているということでもあります。

それから、守るべきことは守ると、変えるべきことは変えていくというのは、これはいつの時代でも要求されることであります。同じ状態を維持していくということは、今、目まぐるしく時代が変化して、インターナショナルな時代の中であって、そういう、これからの情勢すら見据えた形で、我々、この地元の自治体の伊仙町も広い視野で、長期的な視野で変えていくことは絶対に必要だと思っておりますので、美島議員のおっしゃるとおりだと思っております。

農業生産額50億を目標達成した中で、なかなか実現しないということで、私は、今回4期目に向かってはより具体的に、より計画的に、そして、いろんな営業活動をしながらか農業生産額をいかに付加価値の高い農業に切りかえていくということが最も重要であると思っております。

いろんな他自治体のことを見ても、例えば、サトウキビをつくって、2回、3回の株出で、その土地有効利用が十分であるかないかなど考えてみた場合に、やはり1つの土地、年間に2.5作物をつくっていくというのが、今、先進的な取り組みであるわけですから、いかにサトウキビを中心として、複合農業をやっていくかということが大事であります。

それから、この畜産に関しましては、飼料等の粗飼料の高騰などが課題になっております。

例えば、徳之島町においてTMRを今始まりました。これは本土でも大規模畜産農家がかなり大規模な形でのTMR事業を推進してっております。農業の一番のジレンマは、この大量生産、大規模化、機械化することで、生産額は伸びるかもしれませんが、そこに人は要らなくなってくるということの、この矛盾をどのように解決していくかということのを常に考えながらやっていかなければいけないと思っております。

先日申し上げました徳野教授がつい最近、毎日新聞の論評を書いておりました。

その中で、日本の農業政策は、経済性優先だけでやっていいのかと。それで、例えば、TPをやっていけば、間違いなく日本の農業の農家が地方が衰退していくということは目に見えていと思いますので、そういうことも含めた伊仙町に合った付加価値の高い農業をこれから我々は改めて挑戦をしていかなければいけないと思います。そのための今回の特産品製造販売プロジェクト事業であり、長命草への挑戦、コーヒーへの挑戦であると考えております。

続きまして、この「人・農地プラン」に関しましては、担当のほうから答弁をしていただきます。

Aコープ誘致で、地元商店街、商工会等の衰退が考えられないかということでもあります。

このことはAコープ誘致の際に商工会の方々と何回か意見交換をいたしました。その中で、Aコープ誘致することで、今、あるAコープ会社の調査によれば、伊仙町の購買の8割近くが町外で購買していると。その方々が伊仙町にAコープが進出する場合、どれだけ伊仙町での購買になっていくかという、これはいろんなケースがあると思いますけれども、例えば8割の人のうちの3割が町内購買したとしたら、これは商工会もいろんなアイデアを出して、そして前向きに、それぞれ商工会そのものが変わっていくと。新しいビジョンをつくって、この前、平議員の質問にもあったとおり、コンパクトシティというのを、コンパクトと言ってもよく意味がわからないと思いますけれども、その地域にあらゆる商店街とあらゆる施設を集中したら、そこには必然的に多くの方々が集まってくると。要するに、こういうことだと思います。今まで、あらゆることを亀津に行かなければできないと。そしたら、そこに人が生まれれば、そこに新しい、例えば、買い物に行ったついでに病院に行くとか、床屋に行くとか、靴を買いに行くとか、そういうふうな人が集まる仕組みでしたけれども、これは、今、亀津においても、これは分散されておるわけですね。あの埋立地がそういう機能を果たしているかどうかということを考えて、新しく、そういうエリアを伊仙町を中心地につくり上げていくということでもあります。今、昨日も申し上げたとおり、このエリアはAコープができて、他の企業が来るとか、宿泊施設、ホテルなども来るということになってくれば、そこにはいろんな人たちが集まってくると。ほーらい館は既に全島から、人が集まってくるようになったと。

百菜もそういう機能を果たしているということを考えて、商工会の方々も自ら新しい時代に挑戦していくというふうな若い商工会の方々が考えていけば、私はむしろ、これは、このAコープが来ることを生かして、チャンスだと、相乗効果を生み出していこうというふうな前向きな気持ちがあ

るということは、これ、大変チャンスになると思っております。

日本マルコの件に関しましては、現在の状況を企画課長のほうから答弁をしていただきます。

次の定住促進についてでありますけど、これも担当課長のほうから答弁をしていただきますけれども、今、待機者が、町営住宅に入りたいという待機者が30人ほど、まだずっと、この何年間か、若い人たちが、特に徳之島町地域に住んでる若い人たちの希望がある。それをいかに解決していくかということは、空き家バンク制度を積極的に思い切って町が、例えば、これは空き家を、いろいろ亡くなられて、ひとり暮らしで亡くなって、空いた場合に、それを町が管理して、補修していくと。そこまでして、新しい入居者を公募、入れていくためには、やはり予算も要りますので、しかし、そこに人が集まれば、地方交付税が、例えば、奄美群内においても人口が激減したために、人口度を5年に1回調査しますけど、それだけで何億円という地方交付税が減ってる自治体もあるわけですから、ですから、いかに人口を増やしていくということが財政的に、財政の圧迫を解決する一番大きな要素だと思っておりますので、この定住促進は、今後とも伊仙町が最優先課題として、今後ともやっていきたいと思っております。

教育行政については、教育委員会が説明をしていただきますけれども、伊仙町がなぜ特殊出生率が高いかということは、闘牛大会でいつも申し上げますけれども、若い人たちが早く帰ってきて、結婚して、そして闘牛文化になじみながら子育てをしていると。その地域力があるということが最大の要因であると思います。要するに、本土から子供を持っている女性が帰ってきて、いろんな事情で帰ってきた場合に、島はまたそういう人たちも受け入れる寛容さ、度量というのがあることも、これはいろいろネガティブな考え方になるかもしれませんが、むしろ伊仙町があらゆる人たちを受け入れるための、そういう力があるというふうにも考えることができるんじゃないかと思っております。

私が徳洲会の職員であり、そして、そういった関係もあって、徳田毅前衆議院議員の後援会長であったということは、これは私だけでなく、奄美の、特に南三島の自治体の首長は、これは慣例的な形で後援会長ということになっております。

今回、このような公職選挙法違反で、本人が辞職になったということは大変残念なことであります。そのことに関しまして、政治的、道義的責任があるかということでもありますけれども、今回の件に関しましては、非常に残念なことでありますし、徳洲会の組織が大きく雨降って地固まるという形になっている状況を、今度、私は今、この一、二カ月、全体のいろんな情報を集めた中で、非常に組織が生まれ変わってきたということになって、今まで以上に僻地・離島医療等に取り組んでいくという大きな流れが出てきていることは、大変びっくりしているぐらい組織が真の地域医療をやっていこうという流れになってきたというふうには考えています。

食肉加工センターの件に関しましては、先般、新しい議会で広域議会が開催されまして、美島議員が副議長という、暫定的な副議長という形に今なっている中で、連合長がこの件に関しましては説明をしたと思います。現在、この裁判が継続中でありますので、その結論が出ない中で、町民へ

の説明は差し控えたほうがいいのではないかと、今考えているところであります。

以上で、美島議員の質問への答えといたします。

○経済課長（上木義一君）

美島議員の質問にお答えします。

1、町政農業振興について、①農業生産額50億円目標達成は、伊仙町発展の原点である農業所得向上は行政が一体となって取り組むことが重要であるが、どのような施策を講じていくのかということの答弁をいたします。

平成22年度の施政方針から目標として掲げられた農業生産額50億円達成ですが、その後、平成23年度のメイチュウ被害、平成24年度の台風襲来、平成25年度の記録的干ばつを受けて、主にサトウキビの生産高が10億円近く減収となった理由で、生産高は平成22年度42億円、平成23年度35億円、平成24年度31億円と減少に転じています。この間、子牛競りの単価実績は右肩上がりの状況ですが、今後、生産額50億円達成に向けては基幹作物を中心に、これまでの取り組みの他に新たな方策を掲げなくては達成できないと考えています。

まず、サトウキビに関しては、これまでも利用してきた、さとうきび増産基金事業を活用することと、共済への加入を強く勧め、自然災害による手取り減を防ぐ手当を講じます。

畜産に関しては、これまで同様、生産牛のさらなる品質向上を図るための優良素牛事業導入を図り、血統改善や子牛の管理を徹底させます。また、粗飼料生産を奨励するとともに、これらの生産高を農業生産高へ取り組むようにします。

園芸品目に関しては、徳之島地域畑地かんがい営農ビジョンに基づいて、バレイショを含めた基幹作物等は他の高収益品目へのシフトを図り、通水による収穫高の高い品目を推奨します。

また、農業所得の確実な申告も推奨し、税務課と一体となり、正確な所得額を把握するための方策も考えていきます。

今後、伊仙町農業振興策定に向けて、町行政のみならず、議員の皆様、農家の皆様のご意見を反映する形で振興計画をつくり上げていきたいと、その過程でより広く意見や提案を拝聴し、皆様とともに農業生産額50億円へ達成に向けて、知恵を集約させていただければと考えてます。

②基幹作物のサトウキビを増産した上で、安定した収益へつなげる施策はあるのか。

また、サトウキビを原料として6次産業化へ向けて取り組んでいける特産品販売プロジェクト事業の進捗は、答弁します。

サトウキビは最も安定した収益が見込める品目であり、ただし、過去3年間の害虫被害、自然被害、干ばつ被害を鑑み、さらなる安定化のためには、共済加入をより進めなくてはならないと考えています。また、原料としてのサトウキビ生産より付加価値の高いサトウキビ生産までの幅を持たせることで、徳之島の基幹作物であるサトウキビ栽培の発展を図りたいと考えたら、特産品製造販売プロジェクト事業が始まりました。進捗としては、3月9日時点で、86.5%であります。

③畜産は粗飼料の生産が不可欠であるが、飼料畑の確保、機械等の導入など、生産コストが高く、

さらに穀物飼料等が高騰しており採算性が低いと言われるが打開策はあるか、答弁します。

飼料畑の確保については、農地流動化の事業により、休耕地や耕作放棄地の流動化を図っているところですが、また、生産コストについては、補助事業を含む単独の機械導入は導入費用や維持費によりコストが高くつく傾向にあるため、現在、機械を所有している肥料生産組合等に作業受託をするほうが低コストで現実的であると考えます。

適宜収穫により栄養価の高い粗飼料を確保することにより、濃厚飼料の給餌量を最低限に控えることができ、濃厚飼料の代替作物であるトウモロコシなどを栽培することにより、さらにコストを控えることができます。

また、冬季における粗飼料不足対策としては、現在サトウキビの梢頭部確保が厳しいため、燕麦、イタリアン等の冬季飼料の栽培を推奨している。そのための栽培実施法等とも現在行っており、成果が上がっているため、今後、生産農家等には普及していく予定であります。

④果樹、野菜園芸、その他の栽培可能な作物の作付アクションプログラムを作成して、農家への指導が必要と考えるがどうか。また、コーヒー、長命草の栽培状況は、について答弁します。

これまで、サトウキビ、バレイショ、マンゴー、ゴマなど、各品目ごとの栽培暦を作成し、農家さんへは配布の周知を行ってきました。また、平成24年10月には、徳之島栽培カレンダーを経済課で作成し、町内全戸へ配布しました。現状を踏まえて、単収を上げるためには同じ面積からの収益性を高める以外には方法がなく、その品目の選択は各農家さんにあると考えます。

園芸、果樹、花卉品目に関しては園芸産地活性化プランを策定済みであり、これらと今年度作成した徳之島地域畑地かんがい営農ビジョンをもとに、今後の町の農業推進を進めていく計画です。

また、指導員、技術員の減少は日本全国共通の現象であり、伊仙町だけではなく、県、普及課、JAも含めて、指導員充実の必要性が高まっているのはご質問のとおりです。

農業は専門分野的であることを踏まえ、今後は専門的知見を持つ職員の長期的配置を予防し、農家との信頼関係の構築や技術的指導の徹底に努めていきたいと考えています。

新規作物として導入したコーヒー生産者会は、現在会員数が20名であります。

現在は出荷に向けての各生産者たちが苗を育成中でございます。また、まあざくに関しては、会員数30名、待機者数が36名、今年度に17tの収穫を予定しております。今後もしも取り木量が増加するように買い取り業者との連携を密にしていく予定でございます。

⑤人・農地プラン策定において。農地所有者の貸し手と借り手の問題や当該在住や集落外借り手との連携強化に取り組む必要があるが見通しはあるか、また、後継者育成の観点から認定農業者の担い手や農地集積が必要であるが現状はどうなっているのか、答弁します。

人・農地プランにつきましては、これまで農業委員や駐在員、議員の皆様に対して説明を行った上で、今年度8地区での話し合いを得て、策定に向けて、今後の最後の検討会を待つ状況です。

その中に農地集積にかかわる事項がありますが、まず、この農地集積協力金を受けられる人の要件として、1つ、現在農業をしている人が面積を減少させる予定の人、1つ、この協力金を受ける

タイミングで農業からリタイアする人、1つ、協力金の交付金を受ける前年度までに相続を農地所有者などが細かい要件があり、これらを希望者や該当者へ細かく説明する必要があります。

集落外在住の農地所有者に関しては、基本的には、さきに述べた要件を満たした上で、円滑化団体、当地区ではJ Aの10年間白紙委任人という形をとれるという人を要件以外に規定はありませんので、貸す方の移住に対する限定はありませんということです。

これらに関しても、平成26年度以降、人・農地プランの更新時などに細かく説明を実施する予定です。

後継者育成に関しては、人・農地プラン策定を条件とした青年就農給付金制度があり、これらを実習や就農している45歳未満の農家に対して、さらなる周知を行い、就農意思を持つ若手農家への支援を行っていく予定です。

認定農業者の数は、総会においてメリットが見えないとの声が高く、認定数は減少傾向ですが、実習には、国は認定農業者と人・農地プランで名前の上がった人向けの事業を打ってきておりますので、今後の地域営農の中核と位置づけられていく方向性は変わることはないと思われま

す。伊仙町においても認定農業者に対する役員会の充実、研修会の実施などを通して担い手の自覚を促すとともに、説明会等の全員が参加してもらいながら、いろいろな面に対しての認識等を促していきたいと考えています。

以上で終わります。

○農委事務局長（益岡 稔君）

補足して説明をいたします。

このたび、都道府県単位に農地中間管理機構を設立いたします。農地中間管理機構と申しますのは、高齢等により農業をやめられる方々などの土地を農地中間管理機構が借り受け、集積を行い、地域の担い手や新規就農者などに貸し付ける制度であります。

また、農地中間管理機構は必要に応じ農地の整理も行っています。農地中間管理機構は県が地域振興公社に委託をいたします。地域振興公社は事務の一部を市町村、J A、市町村農業公社、土改連などに委託をします。

委託業務の内容といたしましては、農地の出し手の掘り起こし、当該地域の確認、所有者との交渉、契約締結事務、農地の管理、草刈り等、条件整備事業、設計現場管理委託業務、さらには受け手の希望者との交渉、貸し付け農地、データベース入力などあります。とりあえず、農業委員会の役割といたしましては、平成26年度中におきまして、農家の意向調査並びに地権者の所在や相続人等の確認調査であります。この事業費といたしまして、意向調査費152万5,000円、地権者調査委託費といたしまして264万円を新たに予算要求をしているところでございます。

以上でございます。

○企画課長（池田俊博君）

美島議員の企業誘致について。1番目のAコープの誘致で商工会への対策ということですが、A

コープの伊仙町出店が本町の買い物客が町外、特に亀津ですが、町外へ流れることを食いとめるための起爆剤となり、これを商工会がチャンスと捉えて、Aコープを利用した、またはAコープにはない商品等の開発、さらに商工会自体が行う活動としての各種イベント、ボランティア活動、社会一般の福祉の増進に資する事業を積極的に行い、地元の方々が買い物のしやすい商店づくり等を行い、商工会、スタンプ会の提案をいただいて、Aコープと共存共栄できる形の中で、買い物客のニーズにこたえられるような施策を取り入れていきたいと思ひます。

また、今年度においても子育て支援金として、出生祝い金の2分の1を商工会の商品券で活用、さらに、プレミアム付商品券の発行事業として、前年度には100万円を計上していましたが、今年度は200万円と倍額を計上させていただきました。これからも国・県の行う補助事業等を積極的に活用して、伊仙町商工会に合った事業導入を検討して、さらに商工会と連携し、商工会の自助努力を活用しながら商店の活性化、所得向上に努めてまいりたいと思ひます。

続きまして、2番目の日本マルコ株式会社の誘致ですが、日本マルコ株式会社が2月に企業説明会を終え、現在、応募者の面接を行っているところと聞いています。場所においては前日の一般質問においてもお答えしたとおりでございます。

時期について、平成26年度の早い時期に場所を確定し、土地の造成までも行ってまいりたいと思ひます。そして27年度に工場建設を行い、28年度よりは本格的稼働に持っていきたいという考えでございます。また、27年度奄美群島振興開発事業に事業要望をすることを考えております。

また、現段階においては、民間企業による企業立地でありますので、詳しい内容については、今のところ、差し控えさせていただきたいと思ひます。事業の規模として、大体、建物として1,200m²、これは現在与論工場にあります662m²の大体倍になるぐらいということで聞いております。

また、この企業誘致は、雇用の確保、人口の増、町民所得のアップと伊仙町の発展には欠かすことができない、またとないチャンスであり、絶対に成功させ、町政発展につなげてまいりたいと思ひます。

続きまして、定住促進についてですが、伊仙町における空き家、空き地等の有効活用を通して地域の活性化と町への定住促進を図るため、必要な事項を定めた空き家バンク制度要綱を平成24年度に制定しました。この制度は、町内にある空き家または空き地及び空き店舗、空き事業所に関する登録だけでなく、空き家等利用希望者に対して情報提供を行っていて、伊仙町ホームページや町広報紙を通じて、広く発信しております。実績としては、現在まで4件を登録し、うち2件が成約済みとなっております。空き家に対する問い合わせは年々増えていまして、平成24年度が7件、25年度現在まで18件あります。特に移住を考えている島外の方からの問い合わせが多くなっています。

これらの要望に対して、提供できる空き家情報を求めています、なかなか集まることができず、調査するのなかなか情報が集まらず、公式サイトに掲載できる物件も今現在では2件と少なくなっております。

この状況を打破しようと、今年2月駐在委員会で、全集落に対して、空き家調査を依頼しました。

今月いっぱいまで空き家情報を集め、貸せる条件が整った空き家から順次空き家バンクに登録し、空き家情報を掲載してまいります。

その他関連して、町ホームページに掲載している情報としては、本町に転勤する教職員に町内居住を促すため教職員住宅情報を公開しております。

昨年度は、阿権小学校の校長が老朽化した住宅から地元住民の空き家に転居する等、効果が出てきております。さらに、地元不動産業者の協力を得て、不動産情報もあわせて掲載し、町内居住を勧めてまいります。今後も町内居住希望者の要望にこたえられるだけの物件を集め、空き家バンク制度の充実に運営に努めてまいります。

さらに、3月13日の新聞にもありますように、県のほうにおいても、空き家対策で、政策提言ということで、県のほうも空き家に対する施策を充実していくということにしていますので、県がこのような施策をするに当たり、伊仙町のほうとしても、また県と十分協議し、県の意見を取り入れながら進めていきたいと思っております。

以上です。

○教育長（茂岡 勲君）

美島議員の質問にお答えします。

質問は、子供は島の宝とよく言いますが、島の宝を守ることは、家庭、学校、地域が一体となって取り組むことが大切です。本当にそうであるのか、最近、学力の低下、生活指導上の問題点などはないのかということであります。

おっしゃるとおり、子供は島の宝であります。自分が生まれ育った徳之島を誇り、この島を愛し、高校を卒業して、島を出て行く若者が、徳之島が懐かしい、あの徳之島へ帰りたいたいと思わせる教育を実現したいとかねがね思っております。

校長研修会、教頭研修会を通して、島出身の先生方が少ない現在、地域の皆さんが第2の先生、またはふるさと先生として、学校で、徳之島の歴史、文化、言いますと、島口、島唄、あるいは産業を教えていただけるようお願いしているところです。

そこで、どの学校でも、学校が中心となり、家庭、地域を巻き込んだ活動を行っております。

例えば、伊仙町の基幹作物でありますサトウキビやジャガイモの栽培を学校が家庭、地域に呼びかけて、一緒に行ったり、あるいは伝統文化であります島唄や島口などを講師として招いて学んだり、さまざまな取り組みを行っております。また、この件については、3つの中学校、面縄中学校、伊仙中学校、そして犬田布中学校を中心として、東部、中部、西部に分かれ、幼稚園、小学校、中学校が連携して、家庭に呼びかけ、文化祭を行ったり、あるいは運動会に出場したりしています。

学力については、基礎学力の定着に向け、どの学校も熱心に取り組んでおります。

授業は教師の命であるという捉え方であります。特に家庭学習での取り組みに力を入れ、生活のしおりを東部、中部、西部で、それぞれ一体となって働きかけることで、年々家庭学習の時間は増加しつつあります。また、小学校、中学校の先生方が一緒になって行うTTの授業や中学校による

5教科の教科部会も連動した活動をしております。このように、小学校1年のつまずきや中学校1年のギャップの解消に向けて、東部、中部、西部の幼稚園、小学校、中学校の連携は、伊仙町の学力向上にとって有意義なものであります。このようなことから、伊仙町の学力は向上していると思います。

生活指導については、こちらも学校が中心となって、子供たちの健全育成に向けて取り組んでおります。いじめ防止対策推進法の施行以来、いじめ防止の基本方針を各学校に策定させ、組織の設置も義務づけました。そして、常日ごろから、子供たちの様子を細かに観察し、様子に変化があった場合は、家庭と学校が連絡をとったりして、地域の方にも呼びかけております。

このように、学校、家庭、地域が一体となった取り組みを幼小中の連携と言いますが、これをもとに学力向上あるいは生徒指導に取り組んでいるところであります。

○14番（美島盛秀君）

通告順に従って、2回目の質問をいたします。

農業振興につきましても、通告を5つやってありますけれども、課長が担当が最近変わったというところで、詳しいところまでは答弁が難しいのではないかなと思ったりしますし、また私も、人・農地プランあたりは勉強中でもありますので、了解をいただいて、私の勉強している限りのことをまた2回目質問をさせていただきます。

課長のほうから説明がありましたけれども、平成20年から24年のこの5年間の間で農業生産額が非常に下がっている。その差は12億7,000万も減額をしております。この50億達成をするために、これだけ、この5年間で12億7,000万も減額をしているということから鑑みますと、やはり、もっとももっと、行政が力を入れていかなければならないのではないかな。町長のマニフェストあるいは施政方針にも載っておりますけれども、しかし、もっともっと、具体的な策を打ち出していないと、50億達成はほど遠いのではないかなという懸念があります。

そういう観点で、専門の技術者、指導者を配置するということがありましたけれども、やはり、予算的に財源が少ない伊仙町でありますので、やはり、予算と金がなかったら、知恵を出せ、そして汗をかけというのが私の理念であります。ですから、農家と一体となって、あるいは、もう再三申し上げてることでもありますけれども、オール伊仙と、町長も総参加型の行政と言っておりますので、いろんな農業委員会、そして行政、そして商工会、観光協会、いろんな議会、いろんな組織がありますので、こういうところを含めた振興策を考えていかなければ、私は具体的な施策は出せないんじゃないかな、そういうことで、みんなの知恵を借りながら汗をかいていくということが大切だということを考えておまして、例えば、天城町は、これも質問をしたことがありますけれども、畑かん事業に業者さんが協力していると。何%か、工事金から畑かん事業に協力をしているということ等もありましたけれども、私は伊仙町のほうでも工事金で、例えば1%でも、何か農家応援基金、あるいは、こういうのをつくって、そこに公共事業をやっている人たちから1%ぐらいを基金に積み上げてもらうようなことを考えて、それを利用して農家の応援をしていただきたい。高齢者

の能力、動力不足と言うんでしょうか。そういう人たちにきびの植つけとか、あるいは畑の周囲の草刈りとか、そういうのをやらせるようなことをやれば、町民の皆さんも納得がいく、あるいは理解のできる行政が進んでいくんじゃないかなというように思いますので、ぜひ、こういうようなことも考えていただきたいと思いますが、町長のこういうような考えがあるのかどうか、伺います。

○町長（大久保明君）

天城町の農家の賦課金の1%も、本来は、これは前回答弁したそうでありますけども、天城町のこの取り組みに関しましては、美島議員が話すとおりの、農家の方々高齢化して、いろいろ自分では作業できないという方々とか、それから、今、天城町割と山があつて、水が、湧水池がたくさんあるんで、かん水が要らないという土地が出てきておりますので、そういう当初と違った形になってくる中で、いろんな、畑そうをする方々の建設業者の方々が基金をつくってやるという考え方は、当初の設立当時の目的と違う事は違うんで、この前、議論になったんですけども、オール伊仙町という形をいい提案だと思います。それを今度基金をつくって、農家の方々の負担を軽減するのであれば、また、いろんな方法もあるんじゃないかと思えます。

これは、オール伊仙町で基金をつくってできることだと思いますけども、非常にいい提案だと思います。一部の団体だけが利益が上がっても、全体として衰退すれば、何の意味もないわけですから、知恵を出していくということでもあります。

一つ、今、専門委員という話がありましたけれども、実は今内定していますのは、伊仙町出身で、40代の県の係長クラスの方を経済課の補佐として4月から県から出向という形になります。

この方は、現在、農業大学校にいらっしゃいますけれども、畜産と園芸を20年以上県の専門職としてやってきた方ですので、非常に前向きに、伊仙町の農業を自分が変えてやるというぐらいの情熱のある方が来ますので、こういう方々だけでなく、また、今、県の農業普及センターにもいろんな提案をしてる方がいらっしゃいます。この方は、世界自然遺産になる中で、農業をグリーンツーリズムとか、取り組んでいこうという形で、国の国営の管理組合の方々と新しい農業のビジョンをこの前、打ち出してきましたので、自然遺産とダムとか、農業を一体となって、それこそオール徳之島でやっていこうというふうな知恵を出していただいておりますので、そういうことも含めて、オール伊仙町という考え方をいかに具現化していくかということも考えていきたいと思えます。

○経済課長（上木義一君）

お答えします。

先ほども説明しましたように、昨日全員協議会のほうで全議員の皆様にご説明したように、徳之島地域畑地かんがいへのビジョンを前年度作成しておりますので、この中で、徳之島通水が始まるに当たって水が来たときに農家の生産者の皆さんがスムーズに各種品目がつくれるように、それに沿った形で今後の伊仙町農業振興計画書を立ち上げて、その中で、議員の皆さん、各組織の代表、専業農家の皆さんを交えた中で、そして意見を聞きながら、そして、今、農業試験場のほうに実証圃場を今工事して、工事も終わっております。畑かん散水施設ですね。その中で、こういった品目

を試験をしながら、そしてみんなで知恵を出し、また汗をかきながら、そうして50億に向けて進めていくと。今、町長がお話ありましたように、県のほうから専門の方がいらっしゃいますので、その方を中心に、そして早急に立ち上げをして、1日でも早く50億円に近い数字が出せるように、皆さんと一緒にまた頑張っていきたいと、そのように考えております。

○14番（美島盛秀君）

今の説明では、県から指導者を入れていくということであります。ぜひ、指導者1人でできるわけではありませんで、オール伊仙的な、いろんな形で、人たちを協力を求めて、全部で、この50億達成に向けて取り組んでいていただきたい。23年度、24年度、25年度と、やはり、この農作物というのは自然には勝てません。自然災害が発生する地域でありますので、そういうことを鑑みながら農業振興には努力をしていただきたい。

それと、この農業を進める中で、6次産業に向かったの加工品製造販売といろいろありますけれども、奄振交付金で輸送コストの削減で輸送賃金がありますけれども、この加工品等も県議会のほうでも今取り上げられておりますけれども、我々地域の市町村からでも声を上げて、この加工品の輸送コストも削減できるような活動をこれからやっていかなければならないと思っております。

そこで、国の予算が確定をしないと、この輸送運賃については決定ができないわけでありますけれども、これを前倒して、短期借入れでもして、今年のパレイショの輸送コスト削減できる方策などは考えられないか。そうしないと、23年、24年、25年と、非常に不作が続いて、先ほども言いましたように、12億7,000万の減額でありまして、農家は非常に苦しんでおります。

ぜひ、今年のパレイショの輸送コストあたりも短期借入れで、伊仙町だけでもいいでしょう、そういうことが考えられないか、町長、伺います。

○企画課長（池田俊博君）

これは奄振事業計画でありまして、県のほうがその事業を計画しないと制度が運用できないと。伊仙町が短期借入れを、それをやった場合は補助は受けられなく、完全なる単独事業ということになりますので、今の伊仙町の現状では考えられないことだと思えます。

○14番（美島盛秀君）

質問のちょっと誤解があると思えますけど、私が言ってるのは、そういうところに知恵を出さないかと、何かないかということでありまして、ぜひ、やりなさいということではないんですけれども、ぜひ、考えて、県あたりとも相談して、農家を助ける策、政策をもっと深く突っ込んで考えていただきたいということであります。

指導者1人ではできないわけでありますので、これに例えば、南西糖業OBとか、あるいは試験場のOBとか、あるいは農業委員会関係者、いろんな農業に熟知した人を臨時的な、あるいは相談的な人事配置をしてやっていただくというような形等も考えられると思えますので、ぜひ、いい知恵を出して、みんなで汗をかけるようお願いをいたしたいと思えます。

次に2番目の、1番目とそう変わらないと思えますけれども、サトウキビを増産した上でという

ことでありまして、何といたっても、私たちは、このサトウキビ、きび汁で育ってきたわけでありまして、私は、このサトウキビ生産には執念を持って、いろんな、一貫して農業政策を訴えているわけでありまして、災害に遭っても安心できるように共済に加入しなさいということなどもありますけれども、私は、こういう共済とか、他に頼るよりも自分たちで頑張るといことこそが、私は農業生産額を上げ、また、やる気が出てくると思います。

そこで、25年度の糖業振興費が1,000万足らずの930万、メリクロンの補助とか、あるいは、いろんな助成金やら、あるいは単収向上対策事業費の県の100%補助とか、いろんな補助金があるわけでありまして、私の経験上、管理作業、そして、このメリクロンの補植、一芽苗の補植、こういうことを考えれば、私は、農業で十分生活のできる最も大事なことだと考えて、今取り組んでいるところでありまして、メリクロンあるいは一芽苗、天城の農業センター、そして農業高校、徳之島の園芸科のコースに委託をしてやってるわけなんですけど、私も行ってみました。

まだまだ、これでは少ないと。もっともっと、20円、30円という値段でありますけれども、もうちょっと補植に必要な苗の補助金を増やしていただければ、十分補植ができて増産につながると。

実際に私も4,000本補植をしました。去年も2,000本補植をしました。そうすると、1年、2年間は植えかえずに済むということで、非常にコストが抑えられて増産につながるという経験をしておりますので、ぜひ、こういうことも考えて、農家の皆さんと一緒に足を運んで、職員の皆さんは真剣になって農家と話し合いを進めながら、意見を聞いて、進めていく必要があると思います。

そこらあたり、ぜひ、職員の、経済課を中心とした職員の皆さんが、他の職員の皆さんもなるべく農家に足を運んでいただけるような体制づくりをしていただきたいと思いますけれども、そこらあたり、町長の考えをお伺いをいたします。

○町長（大久保明君）

まず、先ほどちょっと1番で答えを補足すればよかったんですけど、よろしいでしょうか。

バレイショの今回の一括交付金の件に関しまして、このことは、特に沖永良部のほうから、かなり強い要望がございまして、沖永良部はメイクインが島のバレイショよりも1カ月ぐらい出荷が延びるということで、5月か、4月にかけてがピークであるということ、それから花も4月がピークであるということ、何としても前倒しをしてほしいということで、これは県とも国とも何回も私は代表として交渉しましたが、奄振の予算が5年前も10年前も実行、具体的移したら、10月からありますので、それを何とか5月まで早めていただけないかということでありまして、法律が3月31日で成立して、それから制度設計をするのにどうしても2カ月はかかるという話ですので、これは物理的にちょっと難しいということになっています。

じゃあ、それを、前倒しして、経過措置としてやっていけないかということでしたけれども、国から、県と地元の自治体で、まず品目の制定とそれから額の問題ですね、どれだけを使っていいかと。

例えば、バレイショだけに使うわけにはいきませんのでという話などで、今も議論中でありますの

で、なかなか決定しないということでもあります。5月から何とかできたらという話を今お願いをしてるところでありますので、非常に5月も厳しい状況だし、ただ、航空運賃に関しては8月から実行できる可能性が今出てきております。

いろんな農家の方々といろんな南西糖業OBの方々の知恵を借りながら、このサトウキビをいかに有効に活用していくかということに関して、職員が役場の中におるのではなくて、常に現場に行き行ってやるのが重要であるということ。それはもう間違いない事実でありますので、今後とも、私も、もともと、自らの課に出向いて行くということが職員のまた行動にもつながっていきますので、いろいろ極力そういう形で取り組んでいきたいと思っております。

○14番（美島盛秀君）

予算的に、私は、この農業振興に対する予算が少ないのではないかなと。もうちょっと予算を増額していただきたいということとあわせて、ハーベスターが今、十二、三年、15年迎えて、非常に機械が古くなって廃業に追い込まれる人が何件も出てきてる。また、来年から、再来年からもやめるといふ、聞かれる、相談を受けている人などもあります。そして今年も現状はもう本当に管理作業とハーベスターの作業能力等に応じて管理作業等遅れて、このサトウキビの増産に間に合わないという点もありますので、ぜひ、機械への補助事業。例えば、トラクターとか、あるいは株ぞろえ機、あるいは2連、こういうようなことも真剣に農家のほうに出向いて行って相談を受けながら、実情を掌握して、ぜひ、増額に向けて努力をしていただきたいと思っております。

それと、特産品製造販売プロジェクト事業のことなんですけれども、説明のときに、ホテルやあるいは海洋レジャーセンターをつくるということ等もありましたけれども、事業も進んでおりまして、どこまで進んでいるのかということが答弁がなかったと思っておりますけれども、この他の施設を含めて、どこまで進捗状況が進んでいるのか、それに附帯したホテルとか、あるいは宿泊施設、あるいは海洋レジャー施設なども予定しているという当時の説明でありましたけれども、ここらあたりの今の計画はどうなっているのか、伺います。

○町長（大久保明君）

これは、周辺地域に民間の方々がそういうことを今考慮に入れて計画をしているという状況でありますので、民間の方々は、このプロジェクト事業が実行してからのことでもありますので、そういう形で進めていくように要請はしていきたいと思っております。

○14番（美島盛秀君）

それじゃ、次の3番目、畜産についてお伺いをいたします。時間がないので、早めに行きたいと思っております。

3月11日の新聞に3月の競りの状況が載っておりました。ここ1年価格が上昇していましたがけれども、3月競りを見たときに、ちょっと懸念されることがあるということで、ちょっと読んでみます。

「子牛の需要と供給バランスが壊れていることも大きな要因ですが、異常な状況であることに

強い危機感を持ち、取り組まなければならない」

ということが新聞に載っておりました。

サトウキビ、バレイショ等の価格、あるいは自然災害と、そして希望の持っていたこの畜産にも陰りがちょっと出始めているのではないかなというような思いで心配をしているところでありまして、例えば、畜産振興においては、この基金の返納も起債で起こしているし、財源が相当無理な財源であるというようなことと、あるいは、また25年度、また、これまでも、この畜産振興に係る、関係すること、私は手薄じゃなかったのかなと、町有牛の導入もできなかったと。

今年は再開するということですがけれども、なるべく農家に負担にならないような政策を行政が手助けをしていかなければならないと思っております。

そこで、飼料作物等の栽培農家で試験圃場、試験農家をやってることなんですけれども、面積的にどういうことで、将来の拡大、その飼料畑の拡大とか、そういう将来的な目標について伺います。

○経済課長（上木義一君）

お答えします。

現在、30 a 試験中でございますけど、3月中には、今、データ等が上がりますので、それに沿って、また、畜産会等で報告しながら、今後そういう植え付けができるように、そして、推進していきたいと考えております。

○14番（美島盛秀君）

ぜひ、畜産農家は飼料が大切でありますので、この飼料畑とあるいは穀物飼料とこの生産は欠かせないことでありますので、組合に作業委託をして、作業、飼料を生産するということでありますけど、なかなか、この組合の持っている大型機械、このロールの巻く経費が高いし、あるいは、この巻いて売る販売価格も高いということで、非常に農家の一般のこの機械の持っていない一般の人たちは、非常に苦しむと。コストが高すぎるということで、今、いろいろ相談を受けたりもしているわけなんですけれども、こういう大型機械のロールを巻く、こういうのに補助をする。

助成する。何か、補助金等はないものか、ちょっとお伺いをいたします。

○経済課長（上木義一君）

お答えします。

この件に関しましては、また、持ち帰って、ちょっと検討しながら、また、補助ができれば、今、議員がおっしゃったように、非常に経費等がかさみつつ、また価格は安定してますけど、経費がかかるということですので、そういう点も作業補助ができるような体制ができるように検討はしていきたいと思っております。

ちなみに、1頭8カ月で出荷までですけど、子牛8カ月で競りを出すに当たっては11万5,000円ぐらい、ざっと計算した中で出ていると。とにかく町としては、品質、もうちゃんとした8カ月適正な日数に合った生育をさせるように、今後ともより一層、また生産者と一体となって推進してい

きたいと。そして経費がかからないような情報を得ながら、生産者と情報を得ながら進めていきたいと考えております。

○14番（美島盛秀君）

ぜひ、畜産農家への粗飼料栽培等の配慮等も真剣に取り組んで、また、そのデータ等が出たら、報告をしていただきたいと思います。

次の4番目、果樹、野菜園芸について。ほとんどがサトウキビ、畜産、バレイショ、三本柱でありますけれども、この果樹園芸、作付アクションプログラムと言いましたけれども、これは畑かん業の12日のビジョンの作成について説明がありましたので、それで理解ができました。

今後も農家への指導を行政がしっかりと行って、短期作物でありますので、収入も短期で収入が得られると。また、畜産、サトウキビは1年あるいは1年半かかるわけでありますので、この3カ月、2カ月、3カ月で、収入が入る短期作物というのは非常に農家にとってはメリットがあるということも考えられますので、ぜひ、計画的な生産ができるようなプログラムを策定していただきたいと思っております。そのために指導者も来るということでもありますので、努力をしていただきたいと思っております。

それとコーヒー、それから長命草の件に関しましては、長命草の農家から1年1回しか、今年を買ってもらえなかったと。最近、買ってもらっているんですけども、1回でまとめて買うと、雑草が生えたりして、なかなか管理等難しい点があるということで、ぜひ、定期的な買い入れをしてもらえるようなことを考えていただきたいということなども相談を受けております。

また、先ほどの説明で、17t今年は目標にしてると。計算すると175円が出るわけでありますけれども、農家にとっては、サトウキビ、畜産以外に入ってくるお金でありますので、非常に役立っているという喜んだ話もあります。しかし、私が農高跡地に行って、ハウスで苗の栽培をしているのを見たら、あの苗では植え付けても育たないだろうという人が、まあざくの農家さんがいます。

何か根が固まって、老化と言うんですかね、時期が過ぎて、あの苗では無理だろうと。植えても伸びないだろうという農家さんが連れて行って見たときに言われました。だから、そういうことなども、これからの研究課題だろうと思っておりますので、しっかりと取り組んでいただきたいと。

それと、コーヒー、コーヒーにつきましても、1本もない工場もあります。あるところを見ましたら、もう1本も育てないところもありますし、あるところではきちんと手入れをされているところもあります。先ほど何件か言われましたけれども、この農家戸数が、組合員がしっかりとできるのも、やはり、行政の指導あるいは行政の協力がなければできないことだと思いますので、そこあたりは、今後、課題として取り組むようお願いをしておきたいと思っております。

次に、人・農地プラン策定においてはということでありまして、先ほど農業委員会のほうから農地中間管理機構が統括するという、都道府県にこの管理機構を置くということでありましたけれども、なかなか私も今勉強中でありまして、理解ができないことが多くて、今後、この人・農地プランについては時間が相当かかるものではないかと思っております。そこで、私の地域のことであり

ますけれども、3回ほど説明会をしております。さらに、阿権の土地整備事業が96町歩、整備が終わりまして、これから畑かん事業の整備にかかるわけでもありますけれども、その中で、やはり水が来れば所得が上がるということで、本当に真剣に考えている人たちも何人かいらっしゃいまして、そういう人たちの声を聞いていますと、土地を借りてる人が大分です。あるいは島にいない人もいます。こういう人たちに説明をしたり、あるいは同意をいただくためには相当の時間がかかりますので、そのためには経費もかかると思います。費用がかかります。そういうことで、農業委員会のほうから調査費として152万とか、あるいは264万円ですか、調査費等あるというんですけれども、この内容について、どのような調査をしていくのか。具体的な説明をお願いいたします。

○農委事務局長（益岡 稔君）

美島議員の質問にお答えをいたします。

この意向調査というのは、農家さんに土地を貸す意思があるのか、また、担い手さんに借りる意思があるのかという調査です。あとは相続人が何人いるとか、こういったのは素人ではできませんので、行政書士等に委託をして調査をしていただく費用でございます。一応これは頭出して、これだけの予算を要求してあるんですが、やってみないと、どれぐらい事業費がかかるのかわかりませんので、補正等でまた対応していきたいというふうに考えております。

以上です。

○14番（美島盛秀君）

この人・農地プラン策定においては、進めていく過程においては、非常にハードルが高いと。

成長戦略ビジョンにおいても10年後先の奄美あるいは伊仙町を想定した策定であるかと私は思っております。そういうことで、協力金とか、あるいは交付金等を活用してやらなければならないことだと思いますけれども、やはり、これには認定農業者が関係をするのではないかなと。

新聞等にも認定農業者を中心に担い手を育成をしていくということでもあります。

そこで、伊仙町の認定農家が今何人で、あるいはどのような活動をしているのか、わかっている範囲内で説明をお願いいたします。

○経済課長（上木義一君）

質問にお答えします。

現在、認定農業者の数は158人から今月末までに131人になる予定です。

活動としましては、主な内容としては、先進地研修とあと島内での講師等を招いての研修、あと土壌に関する研修等など、あと平張ハウス等の実証上での研修や新型トラクター等の研修会等を行っています。

○14番（美島盛秀君）

この人・農地プランを進めていく集積事業、そして農業後継者育成ということから考えますと、認定農家を増やせと。国や県の政策でもありますし、また町の政策でもあるわけでありまして。

町長もたびたび認定農家を増やしていかなければいけないということをお話されていますけれども、

158人おったのが131人減るということは、私は町の努力不足あるいは説明不足、こういうことも考えられるわけですが、この認定農家が増えていかないと、この集積事業も、あるいは、この人・農地プランが進んでいかないとということになりますので、ぜひ、ここらあたりを新しい指導者等も来るわけでありますので、真剣になって取り組んで、後継者育成、そして、農業立地条件がありますので、農業で生活ができる、農業で食べていけるというような政策あるいは補助、あるいは手助けをしていただきたいと考えております。私も、まだ勉強中でありますので、この件に関しては、これからの事業でもありますし、見守りながら今後取り組んでまいりたいと思います。

次に、企業誘致について。Aコープ誘致の問題でありますけれども、8割が町外に流出してると。これはですね、私は、商工会も変わらなければいけないと、また、変わってもらわなければ困るという点も重々理解できます。しかし、徳之島町にはいろんな関係の、伊仙町の住民にも直結するような施設もあります。病院等や、あるいは行政機関等、県の出先機関等もあります。

そういう観点から、どうしても亀津に行く機会が増えていると。そうなれば、ついでというようなことで、私は、8割は町外で出て行っていると。買い物もして帰ってくるということも考えられると思います。

その流れを食いとめるための伊仙町のAコープ誘致ということも、よく理解できます。

そのために、町としても、プレミアム券を100万円から200万円に増やしたと。あるいは商工会の自助努力も必要だというようなこと等も言われました。私は、このプレミアム券の200万について、もっと具体的な、例えば、それぞれのいろんな売れている店もありますし、商工会に入っていないながら、その還元がメリットが受けられない店もあると私は思いますので、あるいは、西部、中部、東部、その地域地域で分けて使えるような、みんなに平等に平均して行き渡れるような、そういうプレミアム券の発行等も考えられないか。これは商工会の問題であって、商工会自体が考えることでありますけれども、この予算を出すのは町でありますので、そこあたりを商工会あたりとしっかりと議論を進めていただきたいと思っております。増やせるものであれば、もっともっと、このプレミアム券を増やしていただきたいんですけども、その商工会を手助けするために増額はできないのか、伺いをいたします。

○企画課長（池田俊博君）

増額ということですけど、また、これは総務、財務のほうと、また相談して、できるものでしたら、また増額していきたいと思っております。

○14番（美島盛秀君）

私は、500万ぐらいは最低出して、地元の経営者あるいはそこで雇用してる人たち、こういう人たちもAコープ誘致のメリットだけを考えるんじゃなくて、こういう人たちへのメリットも、ぜひ、考えていただきたい。例えば、町の施設であります指定管理をしている、あるいは組合に委託をしている百菜に500万を貸しているとか、あるいは有機センターとか、堆肥センターにも管理費を渡している。あるいは、これから、ほーらい館も指定管理制度に移っていけば、それなりの委託料を

支払わなければいけない。町がつくったものに対してはそれだけの委託料を支払っているのに、やはり、民間が努力している、そこにも、やはり、民間の努力で営利目的でありますので、自助努力も必要ですけども、そこに手助けをするのも町の一つの施策ではないかなと思っておりますので、ぜひ、そこらあたりを勘案して、真剣に議論を進めていただきたいと思っております。

そこらあたり、町長、今後のそういう施策についてお伺いをいたします。

○町長（大久保明君）

予算の有効活用ということでもあります。確かに、きめ細かな予算の編成というのが今後さらに必要になってくると思います。ちょっと奄振予算もそういう意味での今回の一括交付金でありますので、伊仙町の予算、いろんな継続事業とか、いろんな整備以外のために使える自主財源というのが今非常に少ない状況でありますので、自主財源をいかに増やしていくかということのために、やはり、今言ったような商工会を活性化させていくための助成を一気に増やしていくということも、それは重要であります。もっと考えなければいけないのは、交流人口が増えていくという流れが出てきております。特に奄美市においてもホテルがほとんど今オールシーズンで満杯だという、これはいろんな合宿の方々とか、いろんな方々が来てるし、特に高齢者の方々が本土から東京―奄美市、伊丹―奄美市はほぼ満員状況でありますので、そのことが奄美市に勢いを出させております。

徳之島と他の島は、まだまだ交流人口対策が進んでないということであるわけですから、ですから、今、商工会を活性化させるために、町の助成と同時にいろんな、昨日牧議員の質問にもあったとおり、徳之島空港をいかに有効に活用してきて、交流人口を増やしていくと、そういう人たちが2泊3日ぐらいで島に来ると相当のお金が落ちる、そのことは、今宿泊施設がないということですけど、例えば、ほーらい館、百菜に、どんどん、どんどん、人が来てもらうと。いろんなイベントをなくさみ館でやっていくとかいうことも、商工会と闘牛協会も観光協会も、それこそさっき言ったオール伊仙という形で、その異業種同士というか、その垣根を取り払ってやっていくことが大事です。

ですから、商工会と観光協会、メンバーはかなり重なってますけれども、闘牛協会の方々との話し合いを今やっと持たせるような下地をつくってきましたけれども、そういった発想も必要です。

ですから、私は、いろんな商工会とか、観光協会に呼ばれたときに、なぜ、島の皆さん方が一番世話になっている農家の代表H4クラブの方々を呼ばないんかと。農業あってこそその商工会であり、観光協会であるということであるんだけど、全く何年たっても呼ばないから、もう僕は参加しなくなったんですね。一遍、やっと、4Hクラブの方々と一緒にこういう機会を始めましたけれども、商工会に関しては、今まで大型店舗反対してきたとき、なぜ、そういう発想だったかというのと、大型店舗が来ると、みんな潰れていくという名のもとに、結果として、幾つかの商工会の方々が生き残ってきたと。生き残るということは、ライバルの競争の商工会の方々は潰れていくということになるわけですね。そのことを気がついてなかったと思います。ですから、これは、厳しい競争ですけども、Aコープ来ることによって、商工会をいかに活性化させる。先ほど話したように、

もちろん町がプレミアムのあれを500万まで出してもいいわけです。しかし、これから交流人口が増えてきたときに、どのようにしていくかというの。ですから、長期的な、大きな視野でのことを考えていかなければ、現実に対応できないというように思いますので、ですから、そういった議論を農業問題にしてもそうです。グリーンツーリズムという形で、農業体験に、この島に、もっと、もっと呼び寄せて、民泊をどうしていくかと、そしてホテルをどうしていくかということなどを総合的に考えていったときに、商工会のあり方というのが自然と見えてくるのではないかと考えておりますので。もちろん町はそして人口も増やして、実質財源増やしていけば、もっともっと、その先は余裕が出てくれば、商工会の助成というのは増やしていくことができると思いますので、ぜひ、例えば、商工会の方々がなくさみ館で今後闘牛大会が増えていくときに、じゃあ、自分たちはどういうことをやっていけるかと。商工会があのないなくさみ館を利用して、何かイベントができないかとか。今、全国各地でシャッター通りが復活してきているところの一番のキーポイントは、あらゆるイベントを積極的にやると。そして、そこにまず人を集めるということから始まってますので、そういった動きが、若手の2人、商工会の代表の議員ですけども、大晦日に何とかやってますよね。

カウントダウンですよ。あれは、今、全島から人が来ていますので、あれはもう商工会の方々の知恵だと思います。そういうことをどんどんやっていくとか。このいろんな企業、私は今、いろんな企業の具体的な名前も、こういう企業が来てほしいということを今、商工会の方々から聞いていますので、そういうこともやっていくのが、私の、4期目の一番の課題は、あらゆる営業をやっていくことだと思っておりますので、それは商工会だけではなくて、いろんな農家の方々のためのグリーンツーリズムという発想もまた身につけていくことも大事ではないかと思っております。もちろん農家の方々の生の今の声ですね、ロールのための補助金ができないかとか、ハーベスターが老朽化してるから、それを更新するためにどうしていくかと。これは、今やっぱり認定農業者が減ってきたのは、やはりこの3年間の自然災害に対する対応が、我々ができてなかったことが大きな要因であるし、ですから、農家に行って、説明をして、また再度、認定農業者の方々が意欲が出てくるような対応をしていくことが大事だと思っております。

○14番（美島盛秀君）

時間が足りないようでありますので、前に進みますけれども、ぜひ、町長の気持ち十分わかります。そういうことを情報化時代ですので、町長やあるいは役場の職員は出張やいろんな会合等で、いろんな情報を得てきます。農家の皆さんは、畑と家と往復して、情報が少ないということで、私は先ほどから農家に足を運びなさいということを申し上げたわけでありまして、ぜひ、職員の皆さんはそういうことを考えながら、情報を農家の皆さんにも町民の皆さんにも提供していただきたいと。また、我々議会もその責任を十分果たしていかなければならないことだと思っております。

次の日本マルコ株式会社の件でありますけれども、これは昨日先般の説明もありましたので省かせていただきますけれども、1つだけ、奄振予算を活用するという考えについては、やはり予算を活用することについては、地元負担がまた必要になってくるわけでありまして、ここらあたりは、

まだまだ時間がありますので、また、真剣に考えて、どうするか、具体的にどのような事業を進めていくのか、今後また、私たちも見守りながら勉強をしていきたいと思っております。

ぜひ、この日本マルコが誘致されて、若者の雇用の場が広がるようなことに期待をいたしております。

次に、定住促進についてでありますけれども、先ほどの説明で、県のほうも、昨日、一昨日ですかね、の中で、この空き家バンクについては検討しなければならないという記事を私も見ました。そういうことで、県との連携もできる可能性がありますので、いろんな交付金事業を使って、空き家対策、空き家バンクの、例えば、あいているこの商店通りの古い、もう景観を損なうようなところもありますので、世界自然遺産に向けて、やはり、こういうことにも注目をして取り組んでいただきたいということを、これはお願いをして終わります。

次の民間資金活用住宅建設の件につきましては、非常に心配しております、これも先般の全員協議会の中で説明がありましたので、ぜひ、この資金が有効に今後使われるようなことを考えながら活用をしていただきたい。そして、また、今後、引き継いでいかれる方との問題等も真剣に三者が話し合いをして、スムーズにこの事業が進み、そしてこの住宅に空き住宅にならないように、そして手助けをできるようなことも行政として協力をしていっていただきたいと考えております。

次に、教育行政についてであります。

先ほど教育長のほうから話がありまして、十分理解ができます。しかしながら、それは教育関係者の中で知り、あるいは取り組まれていることで、なかなか町民全体、あるいは地域の人へのそういう説明不足があるのではないかなということも考えられるのではないかなと私は個人的に思っておりますので、ぜひ、こういう普及活動、教育行政の普及活動、取り組みについての普及活動等もぜひ今後やっていただきたい。それに私が一番懸念をいたしておりますのは、先般の質問のお答えで、文化財保護審議委員会の伊仙町だけは決定をしているということの説明等がありまして、その中で、ルールを、ルールを生活指導上の子供たちの資質に指導上資することがあれば、ルールを決めた上で、教育委員会は答申をするという答弁でありましたけれども、以前は、これルールあったんですよ。各小中学校に、高校にも、そういうルール等が、今、どのようなルール等が話し合われているのか、また、伺いたいと思います。

○教育長（茂岡 勲君）

美島議員の質問にお答えします。

今、言うのは、恐らく闘牛関係に関して、各学校は、もう全体のそれぞれ〇〇小学校、〇〇中学校の生徒指導の校則というふうにしてあるんです。ですから、これは各学校でありますので、その中に闘牛をどうしようと、こういうことは、また、新たに見直しをしていきたいと思えます。

以上です。

○14番（美島盛秀君）

ぜひですね、私は、私も闘牛大好きなんです。牛を持ってもいましたし、そして闘牛協会の役員

もやりました。その中で、私はいろんな複雑な心境で、これを質問をしているわけでありましてけれども、やはり、この闘牛が与える影響というのは非常に大きい問題があると考えております。

この場で言えないようなこと等もたくさんあると私は思っておりますので、闘牛協会の皆さんと、あるいは学校関係の皆さんと、あるいは行政、もっともっと真剣に取り組んで、これから伊仙町になっていく、徳之島になっていく宝であります子供の育成に努力をしていただきたいと、こういうことをお願いをいたしておきます。

時間がございませんので、次に行きますけれども、町長の政治姿勢について。

私は、今、30年たって、この徳洲会問題が表面化してきたと。私は昔から親に、「あなむんや、あまだりんたなん、正直やまとたなん、本当ややまとたなん」と、「あなむんきゃつかむんだ。わっさんことやするなや」、こういう指導を受けてきた年代であります。ですから、そういうことは、「あなむんや、あまだりんたなん」という、そういうことが30年たって、今、日本を震源させるような問題が起きてきた。私は町長の責任を追求するわけじゃないんです。やはり、復帰60周年をという大きな節目を迎えて、そして、これから私たち奄美が、そして伊仙町がやるべきことはどういうことなのか。そういうことも兼ねて、私はこの教育行政についても質問をしたわけでありましてけれども、本当のまことの伊仙町、伊仙町の姿を自慢をして、これからの子供たち、子や孫に誇れる伊仙町にしたいという思いでありますので、ぜひ、大久保町長もそういうことをご理解した上で、今後の町政発展には取り組んでいただきたいと思います。お願いをして、この問題については終わります。

6番目の食肉加工センターについては、先ほど流れを見ながらということでありましてけれども、この訴訟の内容を私も見ました。私も以前広域連合議会にありました。また、養豚事業も始めまして、島豚、島の6次産業化に向けての努力をしようという矢先に、この加工センターが1年半も動かなかったという経緯なども踏まえて、本当に残念な思いをいたしております。

その中で、こういう訴訟問題が起きて、これは民事訴訟でありますけれども、聞くところによりますと、いろんな人が、警察が介入してるという話等も聞いておりますけれども、町長はこういうことについて、どんな説明と事情等を聞かれたことがあるのか、伺います。

○町長（大久保明君）

広域議会の中で連合長が説明したときに、私もこういう問題が出てきてると話を聞きました。

間接的な情報では、そういう刑事事件というのは聞いておりますけど、中身について具体的に何の説明も受けておりません。

○14番（美島盛秀君）

私も広域議会に、この前ありまして、出席をしまして、お願いをしたところでありましてけれども、奄振予算の中で交付税が決まると。そういうような公金等も使って、今後あの施設がスムーズに動き、そして島の畜産物が6次産業化に向かって、これから取り組んでいけるように、また設備がしっかりと稼働できるような方向づけをできることを私も一所懸命努力をしていきたいと。

また、その訴訟問題については、今後、見守りながら活動していきたいということを申し上げまして、一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（琉 理人君）

これで美島盛秀君の一般質問を終わります。

ここでしばらく休憩をいたします。

なお、午後の会議は1時から開きますので、よろしく願いいたします。

休憩 午後 0時00分

再開 午後 1時05分

○議長（琉 理人君）

休憩前に引き続き会議を始めます。

次に、岡林剛也君の一般質問を許します。

○2番（岡林剛也君）

皆さん、こんにちは。議席番号2番岡林剛也です。議長の許可がありましたので、質問いたします。何分人生初の議会での質問ですので、大変緊張して、お聞き苦しい点やさきの質問と重複する箇所も多々あると思いますが、よろしく願いいたします。

それでは、まず、子育て支援について。世間では、アベノミクスだ、景気回復だと言って喜んでいるようですが、残念ながら、多くの地方自治体同様、我が伊仙町でも、その恩恵を受けている者がいるのか、いないのか、大多数の町民は県内でも下位という所得でも精いっぱい生活しているわけですが、この4月からの消費増税で、ただでさえ苦しい家計がさらに苦しくなるのは必至であります。特殊出生率日本一とか言って浮かれているのは、一部の人々で、大多数の町民はどこ吹く風と他人事のように考えているようです。

しかし、そういうときにこそ、次世代の伊仙町を担う若者たちが住みよい、子育てしやすい町にするためには、ただ、特殊出生率日本一と誇らしげに言うだけではなく、消費増税に負けないぐらいの思い切った子育て支援対策が必要だと思います。

そこで、保育料無償化についてお尋ねいたします。昨年、天城町が保育料無償化を実施したということが話題となりましたが、私の周りでも、なぜ、天城町ができることを伊仙町はできないのかという不平不満や疑問を多く聞きました。そこで、去年の議会の議事録を見ますと、一応、議論はあったようで、平成25年第1回議会で、課長が、「天城町が利用している過疎債のソフト事業を利用してできるようであれば、伊仙町も今後利用して、前に進んでいきたい」、町長は「今は住宅対策を中心にやっていますが、今後は保育料、ひいては医療費の無料化にも前向きに検討していきたい」と言っています。

第2回議会では、ちょっとトーンダウンしまして、課長が「園児全員に保育料の全額ではなくても半額でも助成できないか、検討中です」、町長は「全額でなくても、何らかの対応はやっていけ

ると思っています」と答えていますが、今回の施政方針の保育所行政の中にはそのことが触れられておりません。「前向きに検討中」とか、「善処します」とか言われていたのですが、その後どうなっているのでしょうか、お答えください。

もう1つ、子育て支援の一環としてお伺いしますけども、去る3月7日、社会教育課から徳之島町文化会館主催と思われる劇団四季ファミリーミュージカルの招待を受けて行ってまいりました。

そこには他町の小学生とともに、伊仙、面縄、犬田布小学校の5、6年生が、残りの小規模校は全校生徒が来ておりました。そこで舞台を鑑賞したのですが、ストーリーはもちろん、やはり生で見る舞台は大変すばらしく、これを全ての町内の小学生、できれば中学生にも見てもらいたいなあと思うました。生で舞台を見れる経験はそうそうないと思いますので、大変すばらしい経験になると思います。私は43歳にして初めて体験でしたが、いい意味で物すごい刺激になりました。

これを感受性の強い子供たちに見せることは子供たちの可能性を広げることになると思いますので、このような事業があるのであれば、ぜひ、体験させてほしいと思います。聞くところによると、去年までは1人500円のバス代を徴収して見に行かせていたということですが、今回は町が予算をつけてくれたようで、大変すばらしいことだと思いました。来年からも、その先も、できれば、町内の小学生、中学生、全員ですね、対象として、続けていってほしいので、町としてはどのように考えるか、お答えください。

次に、企業誘致についてお伺いします。まずはAコープについてであります。今現在、本体工事が着工していますが、完成すると伊仙町民も車で他町まで行かずに済み、時間的にも便利になり、燃料費も節約になり、経済的にもひいては環境的にも大変助かると思います。

一般の町民にはいいことづくめのように思いますが、一方、昔から地元で営業している既存の個人商店は、Aコープと比較して、価格、品質、品ぞろえ、店構え、全てにおいて不利ではありますが、各店舗必死に努力をしている最中であります。しかしながら、ただでさえ不利な状況であるのに、町がAコープに対して、町民の税金を使って援助をするとすると、それは頑張って働き、税金を納めている個人商店の方々の意欲をなくし、ひいては店を閉める方も出てくるやもしれません。

そこで質問であります。最初にAコープ側から町に対して要望書が出ていましたが、それには、1、町有地の無償貸し付け、これはもう決定しておることです。2、店舗周辺の整備、これは県道からAコープまでの道路の拡幅や拡張整備だと思います。3、町内関連施設との連携、給食センターや町の施設、保育所等への納品、4、買い物弱者対策、これはわからないんですけども、この4つあったと思うんですが、25年の第2回の議会で町長が、さきの要望の他にも、Aコープ側から赤字の補填をしてくれないかと言われたと言っています。しかし、町長は、町内の公的機関、給食センターとか含めてAコープから購入するという形でシミュレーションすると、Aコープは赤字にならないので、この赤字補填の話はなくなったものと理解しているという、曖昧な物言いをしていますので、はっきりとさせていただきたいと思います。

Aコープに対して、赤字の補填、店舗の周辺整備、町内関連施設との連携、買い物弱者対策、以

上の4つをする考えはあるのかなのか、お答えください。

次に、日本マルコさんについての質問であります。町長は、当分の間、大きな事業はしないというようなことを言っていたと思いますが、ここへ来て、マルコさんへ町が土地を買って与え、工場までつくってあげるという話が突然聞かれるようになりました。私も、この誘致話には、町にとっても、町民にとっても、非常にありがたく、町長の熱意と努力には大変敬服しているところでしたので、この話を聞いて、まさかと思い、非常に複雑な気持ちになりました。大多数の町民からも、「もう箱物はいいよ」、「そんな余裕が町にあるのか」という声が聞こえますが、町としては、どのような支援をするのか、具体的に説明してほしいと思います。

最後の質問ですが、この間、古新聞を整理していますと、「社員募集、サンデーシューズ」という広告が出ている島内広告紙が出てきました。あのサンデーシューズも誘致企業の一つだったとは思いますが、最近はめっきり話題にも上がりません。どうなっているのでしょうか、お答えください。

以上で質問を終わります。

○町長（大久保明君）

岡林剛也議員の質問にお答えいたします。

保育料の無償化が、今、伊仙町において、課長のほうから答弁をしていただきますけれども、制度的に非常に厳しい面があるということでもあります。

それから、出生率がなぜ伊仙町が高いかということ、これは大変注目をされております。

これは誇るべきことだと私は確信をしております。ですから、これはちょっといろいろ私の考えを述べますけれども、国が今何兆円という子育て支援をやってまいりました。しかし、それにもかかわらず、日本の出生率はどんどん、どんどん、下がって行って、この5年間少し持ち直しましたがけれども、まだ1.41という状況であります。それはなぜかといういろいろ考えてみた場合、去年の全国町村長大会で、町村長大会ですから、総理は、「これからは地方の活性化なくして、国家の活性化発展なし」ということをおっしゃいましたけれども、石破幹事長が話をしたのは、これはほとんど本音だと思いますけれども、今、日本の東京の出生率が0.7前後だと思います。ですから、東京にどんどん、どんどん、人が集まって、幾ら子育て支援をしても、日本の人口回復することはできない。

出生率上げることはできないと。ですから、出生率の高い地方に学ぶべきだということをおっしゃいました。それは、1つは、隠岐島の海士町がいろんなIターン、Uターンの方々はその島に来て、大学の講演すらやってくるようになったと。もう1つは、東京のICT企業が四国の山奥に行ったと。

そういう時代にしなければ、地方が発展しなければ、日本の発展はないと。子育て支援というのは、もう1回根本から見直す必要があるんじゃないかということ、今、いろんな解説者が述べております。

去年の10月に我々がいろんなマスコミの人脈を通して、森少子化担当大臣に来島していただきました。それは国にとっても少子化対策というのは最大の課題です。少子高齢化に向かっていく中で、あの伊仙町は、なぜ、あんなに出生率が高いのかと。高齢者も多いのかということ、あの秘密保護法案で非常に忙しいときに日帰りに来ていただきました。その結論は、先ほど話したように、伊仙町は町民所得鹿児島県でワースト3に入っております。これはいろんな統計上の問題があって、そうですけれども、例えば、農産物の生産額を全て計上いたしますと180万前後になりますので、県下でもそんなに上から4割ぐらいには入る状況になります。そういったこの島の持つ豊かさがあると、何よりも、その地域の力があると、親子三代の方々がこの地域に住んでると、それは経済力と関係なく、じいさん、ばあさんが子供を育てていこうと、地域で育てていこうという、豊かな地域力がこの地にあるという、これは非常に前向きな発言でありました。私は、そのとき、申し上げたのは、例えば、日本の少子化対策を解決する最も重要なダイナミックな大胆な方法は、日本の東京にある企業を地方に移すべきだと。移す、企業移れば、そこで、その地域の出身者の若者が帰ってきて働いて、子供は三世代おるわけですから、地域で育てていくと。こういう政策をとらなければいけないですよと。そりゃ、フランスがそれで成功してるわけですね。フランスに学んだほうがいいですよということを言ったら、秘書がすぐ調べるとい話をしておりました。ですから、我々は確かに目先のいろんな支援対策も大事ですけれども、なぜ、この地域が出生率が高いかという、そのことをしっかりと分析して、そして国からも県からも堂々とみんなが視察に来るようなまちづくりをしていくことはできると思っております。

劇団四季に関しましては、本当に日本の若者があれだけ魅力的な劇をできるかと。

あの若者たちを見てると、最近の若い人たちは元気がないとか、おとなしいとかいうことを全く感じません。

今、オリンピックでも、日本の若者はいろんな分野で挑戦的に取り組んでおります。

そういうものをミュージカルのいいところをこれからも、これは劇団四季の哲学で、全国の地方を毎年年間チームに分けて公演してるという、この方々の考え方は大変すばらしいと思っております。

企業誘致に関しまして、先ほど美島議員にも大体答えを言いましたけれども、このAコープが来た条件ですけれども、まず赤字の補填、これ、しません。そういう要求が向こうから来ただけの話であります。

それから町有地は、あの土地の約半分は、Aコープの半分ほどは町有地を無償貸し付けるという方に話をしております。平議員が質問したとおり、アクセスをよくしなければなりません。

これは町民の税金を使ってAコープのために道をつくるわけではありません。

伊仙町民が豊かになるために、道の、町道のアクセスの安全性を確保した道はつくっていかなくてはならないわけでありまして。

それから買い物弱者対策というのは、これは、今、全国にひとり暮らしの高齢者がどんどん増え

てきたと。ですから、買い物に行くこともできないと。ですから、注文を受けたら、職員がその家まで買い物をしたものを配達するというふうな車を購入したいということで、これをAコープは助成していただけないかということでもありますけど、これは、まだ決定をしたことではありません。Aコープ会社のほうの要望であるということでもあります。

それから、サンデーシューズの場合は、この方が、母親が井之川の出身でありました。

これは個人的なことですけれども、井之川から相当クレームが来たということを私には言いました。

それで、今のところ、話が前進しない状況ですけれども、島全体から雇用するわけですから、私は、井之川にできたら、それでもいいとは思っておりますけど、まだ、向こうのほうとの交渉がどうなってるか、まだわかりません。

今、岡林議員も、この商工会の立場といろいろあると思うし、それから子育てしてる親として切実な問題だと思しますので、今後とも伊仙町がなぜ保育料無料化できない仕組みを、どのようにして、これは僻地保育所の問題でありますので、そのところをクリアする可能性はあると思います。子育て支援は町の財政を優先的に補填していくということですが、より大事なことは、先ほども話したように、世界自然遺産になれば、多くの人たちが来ると。その人たちといかに取り組んで、信頼関係を築いていくかと。そのことが町の財政を豊かにしていくと。そして農業生産額ももっともっと豊かにしていくためには、先ほど美島議員が話したように、オール伊仙町で、あらゆる団体が一つになって取り組んでいくということは大事な点ではないかと思っております。

以上でございます。

○町民生活課長（西 吉広君）

岡林議員のご質問にお答えをいたします。

先ほども町長が話されたように、我が町は他の町とも違い僻地保育所が5カ所もあり、園児が80名ほど入園しております。無料化にするとなると、ほとんどの園児が認可保育所に希望が殺到すると思っております。これに鑑みまして、入所判定に関しましても相当な混乱が予想されます。

まず無料化にするには、認可保育所をもう1カ所設置してもらうような体制づくりを整っていないと、保育料無料化にするには、なかなか難しい点が多々ありますので、そこをクリアしないと、無料化するというふうには、簡単には申し上げられないと思っております。

以上です。

○教育長（茂岡 勲君）

岡林議員の質問に答えたいと思いますが、その前に、このことについては、劇団四季は担当課長の直接回答したほうがいだろうと思ひまして、當社会教育課長にお願いしたいと思ひます。

○社会教育課長（當 吉郎君）

岡林議員のほうから大変貴重な質疑がありまして、光栄に思っております。

実は、平成20年度より「心の劇場」と題しまして、子供たちに生命の尊重であったり、あと友情

と助け合い、あるいは生き抜くことへの使命感などを劇を通じて、劇団四季の皆さんが演じていただきまして、道徳教育やあるいは情操教育をしていただいているところです。四季のほうから観劇の案内があるわけなんです、基本的には小学校高学年の皆さんに観劇をしていただきたいということで、基本的には、5、6年生の皆さんに観劇していただきたい。内容的には、そのような内容になっているということをお聞きしております。

それで、伊仙町のほうでは、中規模校の皆さんは5、6年生、あと、小規模校のほうは全員集めても10名とか、数が少なくて、また、学校にその子供たちを残して、また先生方が引率するということが都合が悪いということで、小規模校の皆さんは、全員、毎年観劇をしていただいているところです。

それで、岡林議員のほうからは、せっかく、こういったすばらしい劇でありますから、全校生徒あるいは中学校まで含めてということでありましたが、これは四季のほうの要望ということで、小学校高学年生を対象にしていますということでもあります。

それと、もう1点、総合バスで送迎をするわけなんです、総合バスのほうも、ここ数年で、もうバスの台数、大型バス等も減って、その日には、今回は天城と伊仙町を午前中、そして午後は徳之島町という、大体、大体はそういった割り当てなんです、その送迎のバスに回して、あとは通常のまた運行をするということで、とてもバスの対応ができかねると、来年度あたりから、もうできかねるということで、もっと、逆に言うと、ちょっと人数を調整してほしいというのがあります。伊仙町のほうでは、昨年度までは、そのバスの送迎費も各小学生に割り当てて、個人負担としていたわけなんです、幸い町の理解を得まして、今年度よりは、そのバスの送迎費、それと文化会館の使用料等は各町で案分してるわけなんです、そういった費用等を組んでいただきまして、今年度からは、また町のほうで、そういった予算の措置ができましたので、ありがたく思っているところです。既に来年度もまた観劇の予定があるということで、3月6日に来年は題目が「2人のロッテ」ということで、既に公演予定の連絡が入っております。ぜひ、この「心の劇場」は、子供たちの成長の教育としてはすばらしいものでありますので、今後とも続けていきたいと思っております。ご理解いただきたいと思っております。

○企画課長（池田俊博君）

岡林議員の企業誘致について、ご説明申し上げます。

支援策としては、伊仙町のほうの条例集にあります伊仙町企業誘致条例第4条の中に、1、用地及び施設等のあつせん、提供または貸与、2、道路、水道などの公共施設整備の推進、3、その他必要な便宜、支援の措置を講ずるということになっています。

さらに、伊仙町過疎地域産業開発促進条例第3条の中に、資金及び労務のあつせん及び税制面では条例第4条において固定資産税の課税免除、または奨励金の交付を行うことができるとなっております。課税免除においては、過疎地域自立促進特別措置法の適用条項に合致した企業に3年間の固定資産税の免除、また課税免除の適用が受けられない企業に対しては、奨励金として、1年目には、

固定資産税の10分の10の額、2年目には10分の7の額、3年目には10分の5の額の奨励金を交付することができるということになっています。また、これに沿って、条例にのっとった形で支援策を行っていく予定にしております。また、これに対して、既設の施設への支援策ということですが、商工会に対しては、商工会の運営補助、プレミアム商品券ということで補助等を行っており、また各種団体等のほうにも補助金を交付しております。

どうしても企業誘致になると、ある程度の支援策を行わないことには、誘致先の企業としても進出してくることがなかなかできないということですので、以上のことを鑑みて、町のほうとしても、ある程度の支援策は講じていかなければならないと思っております。

以上です。

○2番（岡林剛也君）

保護者では、同じ時間預けて、同じ給食を食べて、1カ月で高額の人と低額の人との差が大体3万円ぐらいの開きがあると聞いていますが、ちょっと差があり過ぎるのではないのでしょうか。

下の料金を上げるのが難しいのであれば、せめて、上の高い保育料を払っている人の負担を軽減するために、せめて、2万円ぐらいの頭打ちにするような方法も、昔はやったことがあったと聞いたことがあるので、何とか半額負担、最悪頭打ちということは考えられないものでしょうか。

○町民生活課長（西 吉広君）

ただいまのご質問にお答えいたします。

2万円ぐらいの頭打ちをしたということは、ちょっと聞いておりませんが、現在の状況、保育料の算定は国の基準額に沿って保育料を作成していますので、今のところ、半額とか、軽減とかはちょっと難しい点があります。財務のほうも、そのように話していただきましたので、直接、保育料の額を調整するという点は難しいという点があるそうです。

○2番（岡林剛也君）

難しいということですが、何とか頑張ってやってほしいと思います。あと、僻地保育所を、何箇所かあると思うんですけど、まとめて認可保育所にするとか、そういうことはできないのでしょうか。

○町民生活課長（西 吉広君）

それも9月議会で琉議長さんからもご指摘がありました。この認可保育所設立に関しましては、個人のほうから応募等がありましたら、私どもも、その希望に沿うように、県のほうに申請等をすぐできるわけですが、今のところ、応募はかけておりません。口頭で何名かの方にそういうふうな話をもちかけてはおります。

○2番（岡林剛也君）

ありがとうございました。

次に、劇団四季のほうですが、来年からもぜひよろしく願いいたします。

Aコープについて、赤字補填はしないと、周辺整備については、安全のため、これはやむを得な

いかと思いますが、極力お金のかからない方法でよろしくお願ひしたいと思ひます。

あと、買ひ物弱者対策に対する車両なんですけれども、それは昔から、地元の店は昔からやっぴることなので、そういうことはAコープ単独で車ぐらひ買わせてもらったらなと思ひます。

あと、給食センターとか、納品についてがちょっと聞いていないんですけれども、給食センターとか、関連施設、Aコープから全部納品するということはあるんでしょうか。

○総務課長（樺山 誠君）

今の質問に対しましてお答えをします。

Aコープを誘致する段階のときに、Aコープ株式会社のほうから、伊仙町内のあるいは行政がかかわってる施設、老人ホームだとか、あるいは給食センターだとか、あと他に喫茶店だとか、あるいは民間の老人ホームだとか、そういうところが町内あるいは年間どれぐらひの買ひ物をしてるかという調査の依頼を受けまして、その中で、この調査をして出した経緯というのがあります。

その調査が、町内の業者、民間企業の業者の全てがAコープで買ひ物を、その調査された分の金額、全てAコープで買ひ物をされている、するんだというような誤解を与えたということでございまして、結局は、事業者は事業者の目的に合った買ひ物をしていくわけですから、事業者で選択をしていただくと。先般、昨日、一昨日の一般質問にもお答えしたように、給食センターであれば、給食会とか、そういうところから購入する分には購入すると。あと、農家から直接購入する分には購入するというような形で、その事業者が決めることですから、我々がそこから取りなさいということはないということを誤解がないように今説明しておきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

○2番（岡林剛也君）

町の関連施設で、この執行部から、どっから取りなさい、どっから取りなさいということはないというか、言わないということですか。

○総務課長（樺山 誠君）

町の、例えば給食センターだとか、そういうものに関しては、今、やっぴる、取引をしてる業者さんがいますんで、そこを変えなさいとかいうことはないということです。ですから、その事業所が判断をしていただくというように思っています。

○2番（岡林剛也君）

非常にわかりやすい回答ありがとうございました。これからもなるべく地元の店からも仕入れるようにお願ひしたいと思ひます。

マルコさんですけれども、奄振事業を使って建物を建ててあげるとかいう話がありますが、すみません、勉強不足でちょっとわからなかったんですが、僕は奄振事業というと、全て補助で町の借金は全くないものだと思ってたんですけれども、何割かは借金になるようでしたので、その辺についてはどうでしょうか。

○企画課長（池田俊博君）

奄振事業におきまして、ソフト事業のほうでやる場合には、補助は50%、あと町のほうで起債、

過疎債を活用してやった場合に過疎債分の75%があと交付税で返ってくるということで、起債分の25%が一般持ち出しという形になっております。また、これからまた先、話し合うことになると思いますが、マルコさんのほうとしても、建物をそのままつくってもらおうということになると、自分の思っているような工場の設計ができない可能性もあるということで、まだ、これから流動的な面もございますが、できる限り、町のほうの負担にならないような形での事業の執行を行ってまいりたいと思います。

○2番（岡林剛也君）

皆さんの明確なご回答、どうもありがとうございました。

これで私の質問は終わりたいと思います。

○議長（琉 理人君）

西町民生活課長へ、先ほどの岡林剛也君の質問にありました保育料に関する質疑の中で、今後のために、資料、また条例等などの提出してあげてください。

これで岡林剛也君の一般質問を終了します。

次は、議長の一般質問です。

地方自治法106条第1項の規定により、議事進行を副議長と交代いたします。

しばらくお待ちください。

休憩 午後 1時45分

再開 午後 1時46分

○副議長（永岡良一君）

それでは、休憩前に引き続き会議を行います。

副議長の永岡良一です。

それでは、琉 理人君の一般質問を許可いたします。

○13番（琉 理人君）

13番、琉 理人でございます。平成26年伊仙町議会3月定例会におきまして、ただいま永岡副議長より一般質問の許可がありましたので、通告書に従いまして、順時質問いたします。

質問に入る前に、改選後、初めての議会ということで、14名の議員の顔ぶれも新人が5人、2期目が4人と、議会も大きくお若返りをして、議会もフレッシュで、生き生きと、私も初心に戻り、議会の使命と議員の職責を全うし、町民の皆様から選ばれた14名の議員とともに、自ら襟を正し、議員が単に支持者や一部の声と心を代弁するだけでなく、常に町民全体の声を聞き、勇気を出して、もう一步踏み込んで、町民の中に飛び込み、町民との対話と議論を重ねて、町内や先進地の視察や調査研修を進めて、町民全体の生活環境と福祉向上を図り、私たちの住む伊仙町が、そして徳之島、奄美全体の地域社会が活力ある発展を目指し、また情報化社会の中でインターネットを通じて、日本全国ひいては世界中へ発信できるまちづくりを伊仙町議会が一丸となって、常に町民に訴え、時

には町民を指導し、4期目の大久保町政の行財政運営の批判と監視、また具体的な政策の最終決定を完全に達成できるよう14名の議員と一丸となって、また議員の一員として、これから一般質問を行います。

一般質問も最後になりますと重なってまいります、また角度を変えた観点から質問を行ってまいります。

まず、通告書に従いまして、財政問題についてお尋ねをいたします。

来年度より奄振予算の奄美群島成長戦略推進交付金が増加しますが、伊仙町において具体的にどの分野に投入するのか、また、する予定なのかを質問いたします。

次に、農政問題についてお尋ねをいたします。サトウキビ、畜産、園芸ということで、園芸のバレイショにおいては価格安定が近年下がってまいっておりますが、この価格安定について伊仙町はどのような取り組みをしているのか、具体的にお答えいただきたいと思っております。

次に、奄美農業創出支援事業の活用により、生産基盤の向上を図りたいが事業の制度規制が厳しいという声があり、規制緩和が進む中、以下の件について対応はできないのか、質問をいたします。

まず、土地所有者でないと手続がとれないという問題について、また、土地の地籍調査の遅れがこの問題になっているということですが、この2点についてご説明をいただきたいと思っております。

次に、環境問題についてお伺いをいたします。世界自然遺産登録に向けて、伊仙町の今後の具体的な取り組みと全群の取り組みはどうなっているのか、質問をいたします。

次に、防災関係について、冬場でございますので、火災が最近消防車の音がよく聞こえてまいります、火災等について、町内の現状と対策はどうなっているのか。火災、消火活動や緊急時の人員及び緊急車両等の配置などは適正になっているのか。

まず、1回目の質問を終わりました、自席にて、一問一答で尋ねていきたいと思っております。

○町長（大久保明君）

琉議員の質問についてお答えいたします。

まず、成長戦略推進交付金の内容に関しては、先ほどと重複いたしますけれども、まず農産物に関しては、各自治体から今県に提案いたしまして、それを県がまとめている状況でございます。

例えば、沖縄県においては300億ですね、一括交付金、それで全品目、那覇から鹿児島まで全て無料ということでも財政的には問題ない状況ですけれども、奄美群島において、例えば、奄美群島のバレイショが全てゼロになるかどうかなども、全体のバランスを含めて考えていかなければいけません。先ほど質問があったように、加工品をどうするかなども、今、前向きに検討している状況でございます。それとまた他のあらゆる分野のものをいろんな要望が来ております。徳之島においては、サトウキビの輸送の燃料に関しても補助ができないかということなども陳情が来まして、今、議論をしている状況であります。航空路線に関しては、前も述べましたけれども、これはあくまでも地元の人たちが対象であるというのが原則でありますけれども、ただ、それでは交流人口を増やしていくことになりませんので、柔軟に対応していくということで、キャンペーン事業やら、いろ

んな実験事業という形で徐々に変わっていくような状況です。

農政問題に関しまして、バレイショも去年の価格暴落はしましたけれども、末端価格は毎年同じような状況であると。何が原因であるかということなどは、今、この前も話したように、リレー出荷がちゃんとできるかどうかということにかかっているし、ブランド化を生かして、安定化していくということと、さらには、今、東京の量販店などに行きますと、洗って持ってきてる地域が出てきたと、そういうところが値段が上がるとか、やっぱり品質管理には、かなり神経を注いでいかなければいけないと思います。1つ腐った物があるとか、いろんな他のものがまざったりしますと、それだけで信用が落ちるといったことなどは、真剣に対応していかなければいけないと思います。

この奄美農業創出支援事業、ハウスの件に関しまして、平張ハウスだけじゃなくて、沖永良部のほうでは、強固な鉄骨ハウスの要望などがありますけれども、沖永良部と徳之島の農業の形態も違いますけど、農業の歴史も違う中で、徳之島からなかなか要望が上がってこないということでありますけれども、いろんな問題などを解決して、これから付加価値の高い農業には積極的に取り組んでいかなければいけないと思います。

詳細については、担当課長のほうから、また、説明をしていただきます。

環境問題に関しましては、世界自然遺産懇話会の私もメンバーに入っております。今、候補地がもう明らかに選定されました。エリアもほぼ決まっていますけれども、まだ奄美大島のほうで、正確にまだ決めることができないのは、民間の所有者との最終的なすり合わせができていない状況ですけれども、徳之島において問題なのは、全体のエリアが小さいと。面積が。そして、また、コアゾーンというエリアとそれからバッファゾーン、緩衝地帯というのがあるんですけども、緩衝地帯も少ないと。要するに山岳部と畑が非常に近いということで、その緩衝地帯に職員をこれから2年間ほどしていただけないかという要請が今3町に、この前の話し合いの中でありました。

その他いろんな環境、例えば、外来種の問題に関してはモクマオウの問題が出ましたけれども、外来種が何が問題になるかということは、外来種があるために固有の古来のいろんな種が侵食を受けてなくなったら困るということで、そういうことでなければ、余り問題にはならないということでした。

あと、いろんな保護の問題は、徳之島虹の会の方々がいっぱい盗掘問題やら不法投棄の問題に積極的に取り組んでくれることは、県としても、これは物すごく高く評価をしていますので、そういうチームが今後もできていくことが重要ではないかと思っています。

それから、各自治体において、世界自然遺産の担当職員を決めていただきたいということで、伊仙町においては4月から新職員を専門担当としてつけていきたいと思っております。

今年の8月に国立公園になって、28年度中に自然遺産になるまでには時間がもうほとんどないということで、早急な対応を県・国から要望を受けてる状況でございます。ただ、いろんな意識の啓発活動はかなり奄美大島でのガイドの養成などは進んでますけれども、徳之島では、まだまだ、そういう取り組みが遅れている状況じゃないかと思っています。

防災関係については、担当のほうから答弁をしていただきます。

○企画課長（池田俊博君）

琉議員の財政問題について、奄美群島成長戦略推進交付金の件についてご説明申し上げます。

先ほど町長のほうからは、一括交付金として、条件不利改善事業の運賃の事を説明してありますので、私のほうは推進交付金のほうを説明したいと思います。

平成26年度に奄美群島広域事務組合が実施する奄振非公共事業については、交付金制度の特性を最大限活用するために、これまでの分野ごとの区分を解消して、より事業間の連携及び相関性が明確になるよう奄美群島成長戦略ビジョン実現推進事業として統一したものであります。

奄美群島成長戦略ビジョンに示された4つの柱、戦略の基本方針に基づき、人材の確保、育成、教育、奄美群島の魅力の発揮、共生共働の推進、交流連携の強化、市場の拡大を達成するための事業を行うものであり、新年度においては、従来重点3分野プラス2分野を有機的に連携させるため、奄美群島内において起業しようとするものの学び直しの機会を創出する「地域起業家連携推進強化事業」、開発基金を中心とした、産金学官連携による民間主体のチャレンジ支援を行う「奄美群島産業連携推進強化事業」、各島の地域課題を解決するコンテンツ開発を行うICTを活用した「課題解決型コンテンツ開発事業」を新たに加えて実施することになっています。

以上です。

○経済課長（上木義一君）

琉議員の質問にお答えします。

2の農政問題について、バレイショの価格安定の取り組みについて、伊仙町はどのように対策をしているのか。

バレイショ価格安定については、毎年JA園芸部総会でも生産農家には定時・定量・定質の出荷の呼びかけを実施しています。また経済連は、各産地にてリレー出荷の周知徹底呼びかけをし、現在、価格安定化に努めています。町としては、定時・定量・定質出荷のための貯蔵施設をJAと28年度以降に現在計画を進めています。また26年度は2,000tの青果物安定基金に加入して、農家の所得安定に努めています。

②の奄美農業創出支援事業の活用により生産基盤の向上を図りたいが事業の制度が、規則が厳しいということですが、これまで本事業による施設設置後の土地所有者が死亡し、また事業導入者と土地所有者親族等のトラブルが発生しているため、農業委員会を通して賃貸契約をし、農家基本台帳に所有または契約が記載されていることが条件となっています。また、受益戸数が3戸以上で、栽培管理作業の共同化、資材の共同購入、共同出荷、共同作業、台帳の作成が事業実施上求められています。

また、農業委員会の農家基本台帳においても、所有または賃貸者契約がない場合、施設設置後、土地所有者もしくは土地所有者親族から土地の返還や施設撤去の要請が起こる等の問題等を未然に防ぐためにも、こういう基準をクリアしないと事業が申請ができないということになっております。

以上です。よろしく申し上げます。

○耕地課長（穂 浩一君）

琉議員の土地の地籍調査の遅れに関しまして、お答えをいたします。

伊仙町におきましては、平成9年度から調査を開始しまして、平成24年度までに4.45km²、年間、1年を通して0.3km²、30町歩を調査を実施しているところであります。24年度までの進捗率におきましては7.78%、伊仙町においては60km²の計画がありますが、その中で今現在では7.78%の進捗率であります。畑総事業地を含めましては、23.9%の進捗率となっております。

平成26年度におきましては、25年度から馬根、中山の調査を行っているんですが、そここの馬根、中山の図面作成等、あと地権者への閲覧をしながら、新たな調査としましては中伊仙地区0.3km²、30町歩を予定しているところであります。ご指摘のとおり、地籍調査が遅れているわけですが、この問題といたしましては、不在地主がたまにいらっしゃって、島外にいらっしゃったりして、境界の立ち会いがスムーズに行かない問題もあります。また市街地外の今回の馬根、今年の馬根のような地区におきましては、境界の伐採にかなりの時間と人手を要しているところであります。さらに行きますと、だんだん、権利者関係ですね、その土地の権利者関係とか、両地主の関係のいろんな複雑化がありまして、なかなか進まないところがございます。本年度以降も順時頑張って進めていきたいと考えております。

以上で終わります。

○企画課長（池田俊博君）

琉議員の世界自然遺産登録に向けてという質問にお答えいたします。

ご存じのとおり、昨年2月「琉球・奄美」という名称で、世界自然遺産暫定一覧表に掲載され、奄美群島では奄美大島と徳之島が候補地となり、3年後の世界自然遺産登録を目指して、国や県と徳之島3町が連携し、取り組みを進めているところです。

伊仙町の今後の具体的な取り組みについて、まずは住民へのさらなる普及啓発を行い、広く伝えていきます。なかでも島の未来を担う児童生徒への環境教育を各学校で行います。

学校関係者の教職員やPTAの方々にも出前講座を行ってまいりたいと思います。

次に、自然保護措置として、現在の国立公園地域に加え、義名山の森と重要な保護地域が来年度国立公園に指定されますので、環境省徳之島事務所と連携し、法活動を行ってまいります。

また、今後増えるであろう観光客に対応する観光業者に対し、自然遺産登録に対する受け入れ協力を依頼します。本町は宿泊業者が少ないですが、お土産や食べ物、その他消費が考えられる商業関係者と特に商工会の方に自然遺産登録のPRやそれに向けた取り組み協力をお願いしていきます。具体的には、商店街及び周辺のスリット美化をお願いして、観光客によりイメージを与え、もう一度来てみたいと思わせる商店街づくりを目指し、それでも観光対策は十分ではないので、町の自然を保全するため、観光資源の適正使用に関する条例等制定も視野に入れ、取り組んでまいります。

全郡の取り組みとして、県保健所と奄美群島広域事務組合との事業が主になりますが、まず、県

保健所と奄美群島各市町村が連携した事業では、郡と共通の課題となっている野犬、野猫対策や不法投棄撤去、防止策、希少野生動植物の盗採、盗掘、外来種駆除等が上げられます。

野犬、野猫対策や不法投棄撤去、防止策については、本町においても環境課が鋭意取り組んでいます。

次に、奄美群島広域事務組合と各市町村連携事業として、世界自然遺産登録に向けて、郡と各島のエコツーリズム推進協議会やエコツアーガイド連絡協議会を設立し、群島内の自然保護や適正な観光利用推進の取り組みを始めています。これらの協議会で、今後、奄美群島にふさわしい利用方を協議し、環境保全と観光振興の実現を目指し、エコツーリズムの取り組みを推進していきます。他には、各市町村文化財担当者が中心となり、群島の歴史、文化資源を主にまとめた奄美遺産があり、これを活用した取り組みも今後行ってまいりたいと思います。

以上です。

○総務課長（樺山 誠君）

琉議員の火災の発生状況、あるいは緊急車両の配置状況、緊急時の人員の配置に関しまして、お答えをいたします。

まず初めに、平成25年1月から12月までの1年間を通した火災の発生件数でございますけども、1月に1件、2月に2件、3月3件、8月1件、10月2件、11月1件、合計の8件の火災が発生をしています。この合計8件の火災に関しましては、畑と原野の火災でございます。

なお、消防隊員の出動人員は、8件の火災に20人の団員の出動がございました。

緊急車両の配置でございますけども、役場の消防車庫に消防車1台、水槽車1台、ポンプ車1台、工作車1台を緊急時に出動できるように配置をしております。

なお、26年の3月5日に発生しました人家の火災におきましては、消防団の水槽車が車検中ということで、徳之島地区消防組合の水槽車を出動させております。

緊急時の人員配置に関しましては、徳之島地区消防組合と連携しながら、消防団団長の指揮のもと、消防団員が消火活動を行っているということでございます。

なお、火災の予防に関しましては、予防の活動に関しましては、消防団による年末の火災予防の広報活動、あるいは春・秋の全国交通予防運動に伴う広報活動、火災予防広報マップの編成だとか、あと、防災無線による、はかま焼きに対する注意の喚起等を行っております。

以上で答弁を終わります。

○13番（琉 理人君）

それでは、財政問題のほうからやっております。

奄美群島成長戦略推進交付金につきまして、企画課長のほうから答弁がございましたが、いろんな農産物のほうにも、この予算が充てられておまして、先ほどの何項目かの、また農産物以外のこともあります。このいろんな先ほどの項目の中で、各課で、この伊仙町の中で各課でこの制度に当たる事業とか、また、各課で取り上げて、またやっておられるのか、お伺いをいたします。

○企画課長（池田俊博君）

お答えします。

この奄美群島成長戦略推進交付金ですが、これは奄美群島全体が取り組む事業ということでやっています。また各課におきましては、経済課においては農業創出事業、企画課においては、犬田布岬の改修事業を行っています。

○13番（琉 理人君）

各課でといいますと、いろんな項目を分けてありましたので、その各課で当たることに関しましては、非常にいい交付金制度でございますので、活用をしていただきたいと。

特に農産物におきましては、経済課のほうでも、どんどん町民へ周知徹底をして、こういった事業でどんどんできますよということで、進めていただきたいと思います。

次に、農政問題について、バレイショ安定価格の取り組みについてということで質問をいたしておりまして、先ほどリレー出荷、またブランド化の充実ということで、今、取り組んでおりますということなんです。近年、このバレイショに関しましては、市場原理と申しますか、市場で、全国の市場でその価格が決まれば、それによって、また最終的な農家のとこまで変わってくるということで、この価格の安定についてはいろんなことが検討されるのではないかと思います。

今、農家からJAが買い付けをしまして、出荷をしまして、共販という形で、最終的には、鹿児島、九州、また関西、関東、各市場へ出荷していると思うんですが、そこら辺の出荷先の1番、こちらとまた町のほうでの経済課との関係と申しますか、そうした市場をまた調べて、そうした、またJAに対しまして、市場の高いところへの売り込みとか、そうした販路のほうにも問題はないかと思うんですが、そういう市場へのことにつきまして、JAとのそういった協議とか、どうなっているのかまた伺います。

○経済課長（上木義一君）

質問にお答えします。

1月の末にトップセールスということで、JAと名古屋、横浜、神奈川、東京の市場等へ出向きまして、各市場の売り状況とか、そして徳之島産の品質状況とか、いろいろと話し合いをしました。その中で、一番安定価格を下げているのは、もう皆さんですよとはっきり言われました。

もう一番品質ですね。また、買い物、消費者の方々も最近はまとめ買いはしないということで、各世帯、今少子化というか、少なく、家庭が少なくなっているということで、カット野菜が中心、そして各店舗のほうも店が多くなっているということで、売れ行きがちょっと悪いということ。

一番は、先ほども言いましたように、品質、定時・定量・定質のその出荷体制が一番要求されましたので、この前の出発式のときにも、永岡会長のほうからも、この定時・定量・定質が強く生産者の皆さんに要望されてますので、これからは経済課としては、そういった面を生産農家の皆さんには周知いきたいと考えております。

以上です。

○13番（琉 理人君）

品質と言われますと、やはり農家のまた栽培、また農家に対する出荷時の掘り取り、そういうことで戻ってまいります。今、現状、徳之島のバレイショの現状を見てみますと、やはりJAに出荷するバレイショとまた民間企業が買い付けております、2種類の農家からすれば、販路があると思うんですが、大体JAと民間の割合については、どれぐらいになっているのか、お尋ねをします。

○経済課長（上木義一君）

質問お答えします。

今現在、今年の共販予定量としまして、JA、伊仙町徳之島とでは6,000tを計画しております。個人業者はちょっとまだ把握されてませんが、半々ぐらいじゃないかという話は聞いております。

以上です。

○13番（琉 理人君）

やはり、この伊仙町の基幹作物のサトウキビ、また畜産と、それにこのバレイショは、徳之島の農家の皆さんにおきましては、一番量を占めているところでございまして、このバレイショの価格安定というのが不安であれば、なかなか引き続き農家としてはつくっていきけるかいけないかと。

今年は大体、今、農家の取引価格といたしますか、100円前後で推移をしてるんですが、これも今年天候の関係で、出荷の定時といたしますか、これは天気のおかげで出荷調整がなっている状況ではないかと思うんですが、こうした出荷、今年は100円で推移をしているというのは、雨が降ったり、また掘り取ると、天気になれば掘り取る時期に量的にも、その天気の間しか取れませんので、そういう天気が出荷調整をしてると思うんですが、こういう天気もいいときが続けば、農家から出るジャガイモの量が上回って、また暴落ということに近年なって、ひどいときには値段が50円、または20円というところまで下がれば、農家としても、これを畑に植えつけても、出すのにも逆に費用がかかってしまうということで、大きな問題となっておりますが、この問題をどうして解決するかということをごらなさいと、今現状では最終的な市場価格は全国大体安定しておるんですが、こうした中でJAに関しましても当初の価格を引き上げるとか、そういった形で、また、今、民間との競争といたしますか、これは市場自由主義でございまして、こうした、どこへ、どうということとはできませんが、そうした民間とJAとの話し合いをした中で解決策を探していくとか、そういった取り組みもやらなければ、今のような状態で、お互いにたたき合いをするような現状では、なかなか市場のほうも、また品質の改善もできないのではないかと思いますので、この問題につきましては、これからまた議会のあるたびに取り組んでいくつもりですが、経済課のほうとしましては、農協また民間農業者との間にも入って取り組まないと、このままの状態では解決できない問題ではないかと思っておりますので、今後、こうした民間を含めたJAとの話し合い、そういうのもできるものか、お尋ねをいたしたいと思っております。

○経済課長（上木義一君）

お答えします。

この問題に関しては、全般ですけど、昨日も皆さんと一緒に全員協議会でお話しましたように、まずは農業振興計画、それに基づいて、そして皆さんと先生方と一緒に取り組んでいきたいと考えておりますので、経済課だけでは非常に厳しい問題だと私は認識しておりますので、皆様方の知恵をも得ながら、一緒に頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

○13番（琉 理人君）

また、これも議会で、今、全国、インターネットでも配信されておりますので、また市場関係のほうも調査をしたり、そういった形で、農家に安定した価格で、このバレイショが生産できるようなことを調査してまいりたいと思います。

次に、2番目の農業創出支援事業の件でございますが、先ほど具体的な形で平張ハウスの件が出ましたが、その規制、修正をするに当たっては、土地の所有者でないとできないとか、農業委員会のこうした資料、制度、完全にクリアしないとできないという答弁でございましたが、そうした中で、やはり、これから若者がこうした制度を利用してやりたいというときには、農家でございますので、いろんな手続等についてもなかなかないということ、こういったことに関しましては、担当課のほうで説明をし、また、そういった形で手助けをできるような形で取り組んでいただきたいと思っております。

次の2番の土地の地籍の件でございますが、年々進捗率も上がっておりますが、こうした農業創出支援事業があるときに集中して地籍調査を進めていけば、こうした問題もどんどん解決できると思っておりますので、耕地課のほうからは、最終的には予算不足という状況になってまいりますので、大久保町長として、こうした地籍が遅れていることに関しましても、こういう農業政策には、このおくれを解決しないことには進まないということもありますので、地籍のほうにも、こうした予算をつけていくという考えはあるのか、お伺いをいたします。

○町長（大久保明君）

伊仙町もこの10年来、町道前、県道拡幅地域、そして農業の整備事業の地域などを優先的に、美山議員が中心となってやってまいりました。人員を増やして、国から予算をとということでもあります。このことは全郡的に強く要望して、今年度少し予算が大分つきましたけれども、こういうことも、いろんな地籍の問題は今かなり厳密にしていかなければなりませんので、その地権者全員の押印が必要だということ、その説得などの旅費もかなりかかりますので、しかし、これは進めていかなければなりませんので、全力で取り組んでいきますけども、この前、県で話し合いをしたときに、鹿児島県においても今後強力でやっていくと。しかし、法的問題、いろんな裁判問題などが必ず生じてきますので、強制にはできないというふうな非常に悩みがありまして、その説得などを以前のような代表者みみたいな形で決定するような仕組みが今後できていくような話はあるんですけど、まだはっきりはしていませんので、そういうことなども、また全国的な要望をしていながら、予算の獲得に努めていきたいと思っております。

○13番（琉 理人君）

そういった形で前向きに進めていただければと思います。

次に、環境問題について、世界自然遺産登録に向けてのことで、今、先ほど課長からもありましたように、全郡の取り組みとまた町内の取り組みを分けて、ご案内をしていただきましたが、野犬、野良猫、こうした問題で環境課のほうでも非常に取り組んでおりますが、先ほど、エコ案内でしたか、そうした今後、この自然遺産が決定するに当たって、そうした人員、案内をしていただく方々のそういうのは伊仙町でも取り組んでおられるのか、伺います。

○企画課長（池田俊博君）

今の質問ですと、エコツアーガイド連絡協議会というのを徳之島3町のほうで結成いたしまして、鋭意、これは奄美群島の広域事務組合のほうの事業としても活用して、3町で4カ月に1回ずつくらいは会議を開き、エコツアーの要請を行っていくような形でやっております。

○13番（琉理人君）

そうした研修等を行って、また、そういう案内者を資格もどんどん取らせていっていただきたいと思います。

それから、先ほど町長からも言われましたが、自然遺産に関しましてはエリアを設定しているということですが、一般的にこの自然遺産、「琉球・奄美」という形で、全体的なことで、山間地とか、そういったところがエリアになるのかなと思っていましたら、調べてみたら、徳之島でもちょっと少ないような状況でありましたが、いろんな土地開発、また土地改良という状況等は、こうしたイメージ的にマイナスになるような懸念をしていたんですが、全体的な流れで、例えば、島外から観光客といますか、そうしたなったときに、そういうイメージで、これだけ土地改良が進み、また、そういう中で、そういった自然遺産とかいう形で、観光地といますか、そういう見るところが少なくなって、そのエリアが限られているということですが、このエリアの設定とか、そういうのはもう申請しているところから拡大とか、また変更とかいうのはできないものでしょうか。

○町長（大久保明君）

このエリア、徳之島が少ないというのは、従来考えていたところが狭くなったということではなくて、世界的に見たら、エリアというのは徳之島全体でも足りないぐらいのエリアになっていきますので、そういった意味でエリアが少ないということです。しかし、今、自然遺産は、例えば、屋久島とか、日本の世界自然遺産ぐらい周辺に人が住んでるところが世界にほとんどないわけです。

この屋久島も何を人たちが来て見るかということ、もちろん縄文杉を見に行く方もいるけれども、それだけでは来る人たちは満足しないということと、それから屋久島において、この20周年のとき、総括した結論は、屋久島に各集落にあった、昔からあった岳参りという、これは屋久島山岳ですから、各集落は山に年間1回登って、山に畏敬の念を持っていく行事があったと。それが自然遺産になって、人がたくさん来るようになったら、復活してきたということで、結局は、屋久島での決論は、文化、その地域の自然に育まれた伝統文化が大事であるということになりました。

そうしたときに屋久島の方がおっしゃったのは、奄美は非常に恵まれていると。いろんな伝統文化が残っていると。それを生かしていくことが自然遺産を生かすことになるということ。もちろん保護は大事ですけども、例えば、この徳之島にいろんな人たちが来たとき、今、エリアとしては、井之川岳の山頂部、天城岳の山頂部と犬田布岳の山頂部は、まず間違いなくありますけれども、例えば、国立公園になるのは、鹿浦川の溪谷とか、義名山とか、妙眼とか、阿権川の溪谷も、伊仙町内において犬田布の断崖などは、あれは希少動植物がたくさんあるところですから、選定される可能性があると今のところ話をしていますので、最終的にはユネスコという団体が決めるわけですから、おそらく今申請するようには要望していますので、いろんな希少動植物があるということと、しかも、人が行って、すぐ体験しやすいのはそういう地域であります。

それから、ちょっと話長くなりますけども、今、山の頂上あたりに自然に配慮した木でつくった遊歩道とか、つり橋とか、そういうことは環境省は積極的にやっていくという話をしている状況です。ですから、地域の文化、八月踊りとか、それから今あちこちで、この井之川の浜下りと、夏目踊りですか、ああいうものが残っていると、復活させていくということができるから奄美群島は非常に条件がいいということは、国の方も言っていますので、ですから、環境整備がなおさら重要だというふうになってきます。島のイッサンサンとか、ああいうことも、また逆に目手久の八月踊りだとか、復活してやる人がたくさん出てきたというのが屋久島の非常に最近わかった効果でありますので、自然遺産というのは、これは予想もつかないぐらいの人が来て、地域が活性化していくことにつながっていくと思いますので、そういったことを今話し合いをしている状況であります。

○13番（琉 理人君）

ただいまエリアの拡大もいろんな形で、この伊仙町においては広げていけるような話も今伺ったところですが、文化財と申しますか、文化芸能の面でも、こうした取り組みにまた復活できるということでございますが、そういったところも各担当の課では掌握をし、そうしたことを奨励推進し、活発に活動ができるような形で持っていければと思います。

それでは、次に4番目の防災関係について。

先ほどの答弁にもございましたとおり、去年は8件で、団体が20人、1件ごとにという形でございますが、それから民家の火事がついこの間3月にはございました。その中でも消火活動のおくれなのか、全焼ということでございましたが、そういった形で、あそこまで燃えるのは、やはり、こうした消火活動が十分にできていたのかという疑問もあります。先ほどの説明でタンク車が車検に入ってたということでございましたが、そういった緊急時というのは、いつ起こるか、わからないということで、そういった緊急時でも3町のほうで連携をとっておればということで、未然にそういった車検が入ってる時とか、3町で合意で、今3町の状況がどうであるのかというのは把握しておられるのか、伺います。

○総務課長（樺山 誠君）

緊急車両の車検時の、消防団の緊急車両が車検いついつに、どこに入っているという状況は、今

の状況の中ではしっかりと報告を消防本部のほうにしていらないような状況でございますので、これからしっかりと車検、あるいは調子が悪いだとか、そういうものに関しては、しっかりと消防本部のほうに報告をして、しっかりと対応できるようにやってまいりたいと思っております。

あと、この水槽車でございますけども、今町内に約50カ所の防火水槽がありますけども、この防火水槽に対応するための、防火水槽がない地域に対応するために導入をしたということでございまして、防火水槽とあわせながら、この水槽車を活用しながら鎮火に当たるということでございまして、このものもしっかり、また防火水槽の点検もしっかりもう一度再点検をして、やってまいりたいと思っております。

○13番（琉 理人君）

この火災におきましては、財産と、また一番人命にかかわっておりますので、こうした火災のないようなことが、これは火元の方々といいますか、また町民のほうにも火事についての十分な火災のないようなことの指導も必要ですが、なってしまった場合の消火がやはり、いろんなそうした人員のミス、または車両等の不備とか、そういうことでは手を打つ手段がなくなりますので、日ごろの消防団、伊仙町の消防団の活動につきまして、年に1回あたりは全群での訓練といいますか、群の大会等があると思うんですが、伊仙町においても過去も出ておると思うんですが、そこら辺でのそうした消防団からの声もある中で、一所懸命やっておるんですが、やはり、そうした車両と申しますか、そうした消火活動の訓練とか、そういった中で的人数のなかなかそろわないとか、いろんな問題の中で、町もそうした環境整備をしていただいて、こうした消防団活動にも活動のしやすい環境をつくってあげなければいけないと思っておりますので、そういった点でも、こうした消防団への支援も十分やっていただきたいと思っております。そうした支援に対しまして、町としてもできるのか、お願いいたします。

○総務課長（樺山 誠君）

現在、消防団員が条例上では74名になっておりますけども、現在66名うち女性が5名ということでございまして、この74名まで結局は条例上できるわけですから、地域に、地域に不足している地域はしっかりと消防団を育成していくということもまず必要でしょうけども、今回の操法大会等の予算措置等も、また消防団のほうとしっかりと連携をとりながらやってまいりたいと思っております。

○13番（琉 理人君）

火災、また防災については、やはり、一番人命にかかわることでございますので、十分な配慮をしていただきたいと思っております。

これで一般質問最後となりまして、一般質問者の質問によりいろんな問題を解決し、執行部の計画が成果の十分発揮できるよう最後に希望いたしまして、一般質問を終わります。

○副議長（永岡良一君）

これで琉 理人君の一般質問を終了いたします。

議事進行を議長と交代いたします。

ここでしばらく休憩いたします。

休憩 午後 2時46分

再開 午後 2時47分

○議長（琉 理人君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

以上で、本日の一般質問は全部終了いたしました。

本日の日程はこれで全部終了いたしました。

会議を閉じます。

本日はこれで解散します。

次の議会は3月17日午前10時から開きます。日程は当初予算審査特別委員会であります。
ご苦労さんでございました。

散 会 午後 2時50分

平成26年第 1 回伊仙町議会定例会

第 4 日

平成26年 3 月17日

平成26年第1回伊仙町議会定例会議事日程（第4号）

平成26年3月17日（月曜日） 午前10時 開議

1. 議事日程（第4号）

○日程第1 平成26年度伊仙町一般会計予算他6特別会計当初予算審査特別委員会

1. 出席議員（14名）

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	平博人君	2番	岡林剛也君
3番	牧徳久君	4番	上木千恵造君
5番	美山保君	6番	永田誠君
7番	福留達也君	8番	前徹志君
9番	明石秀雄君	10番	樺山一君
11番	永岡良一君	12番	伊藤一弘君
13番	琉理人君	14番	美島盛秀君

1. 欠席議員（0名）

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長 明勝良君 事務局係長 佐平勝秀君

1. 説明のため出席した者の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町長	大久保明君	企画課長	池田俊博君
総務課長	樺山誠君	町民生活課長	西吉広君
税務課長	椛山正二君	経済課長	上木義一君
保健福祉課長	松田一郎君	耕地課長	穂浩一君
建設課長	中熊俊也君	水道課長	芳田勇人君
環境課長	益一男君	農委事務局長	益岡稔君
選管書記長	佐平浩則君	教委総務課長	鶴永宏造君
社会教育課長	當吉郎君	学給センター所長	永島均君
ほーらい館長	仲武美君		
総務課長補佐	田島輝久君		

（委員会による説明者）

説明員：企画課 稲泉喜博君・中富譲治君

保健福祉課 美延治郷君・永喜敏君・迫田龍二君

保健センター 上木正人君

包括支援センター 喜村直喜君

環境課 佐藤光利君

建設課 久保等君・増英介君

説明員：経 済 課 元田健視君・重村浩次君・田中勝也君・西川由紀君

耕地課(地籍調査室) 樺山満則君

議会中継班（総括 情報戦略室長 関 政樹君）

（終日）福司銀二郎君・田島文子君・上木雄太君

～平成26年度伊仙町一般会計予算他 6 特別会計当初予算審査特別委員会～

△開 会（開議） 午前10時00分

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

おはようございます。ただいまから特別委員会に付託された平成26年度伊仙町一般会計予算及び6 特別会計予算審査を行います。

日程は、17日、18日、19日を予定しております。

本日は、一般会計予算の款1から款8までの担当課長及び補佐、係長より、詳細な説明がなされます。

なお、本日は詳細な説明のみといたします。質疑は19日に行いますので、ご理解ください。

また、説明者は課名及び挙手してください。指名後に担当及び氏名を述べてから説明を始めてください。

それでは、議案第15号平成26年度伊仙町一般会計予算を議題とします。

補足説明を許します。

○総務課長（樺山 誠君）

平成26年度一般会計予算書の1ページをお開きください。

それでは、平成26年度伊仙町一般会計予算について補足説明をいたします。

第1条、歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ51億4,394万6,000円を定めるものであります。

9ページをお開きください。

歳入歳出予算事項別明細書、歳入についてご説明をいたします。

第1款町税2億8,444万8,000円を計上してございます。前年度比950万8,000円となっておりますけれども、主な理由といたしましては、町民税とたばこ税の増税分の見込みでございます。

第2款地方譲与税7,506万2,000円を計上してございますけれども、前年度比103万6,000円を見込んでございますけれども、地方揮発油譲与税の増額分でございます。

第3款利子割交付金36万8,000円を計上してございます。

第4款配当割交付金24万3,000円を計上してございます。

第5款株式等譲渡所得割交付金1,000円を計上してございます。

第6款地方消費税交付金4,441万2,000円を計上してございますけれども、前年度比119万1,000円でございます。消費税の増税分にかかわる収入でございます。

第7款自動車所得税交付金610万円を計上してございます。前年度比611万2,000円の減額でございますけれども、自動車所得税の減額によるものでございます。

第8款地方特例交付金1,000円を計上してございます。

第9款地方交付税29億3,504万1,000円を計上してございます。前年度比8,071万円の増額でございますけれども、平成25年度の実績の額を見込んでございます。

第10款交通安全対策特別交付金160万円を計上してございます。

第11款分担金及び負担金5,466万円を計上してございますけども、前年度比600万4,000円の減額でございますけども、民生費負担金の減額でございます。

第12款使用料及び手数料5,012万5,000円を計上してございます。

第13款国庫支出金5億3,544万7,000円を計上してございますけども、前年度比1億553万円の増額でございます。主な内容といたしましては、民生費の国庫補助金分の増による分でございます。

第14款県支出金4億9,292万9,000円を計上してございますけども、前年度比1億2,567万3,000円の増でございます。

民生費、農林水産費、商工費の増額を見込んでございます。

10ページを開きください。

第15款財産収入927万6,000円を計上してございます。

第16款寄附金10万2,000円を計上してございます。

第17款繰入金1億2,931万7,000円を計上してございますけれども、前年度比5,990万9,000円の増でございますけども、財政調整基金からの繰り入れでございます。

第18款繰越金1,000円を計上してございます。

第19款諸収入4,441万3,000円を計上してございます。前年度比較といたしまして、224万5,000円の増額でございます。社会保険料個人負担金の増によるものでございます。

第20款町債4億8,040万円を計上してございます。前年度比3,760万円の減額でございますけれども、過疎対策事業債の減額でございます。

以上、歳入合計51億4,394万6,000円となっております。

続きまして、この11ページの歳出の分に関しましては、各担当課長のほうからご説明をいたします。

1ページにお戻りいただけますでしょうか。

1ページの目の地方債、第2条、地方自治法第230条第1項の規定により起こすことができる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、第2表地方債によるものであります。

8ページをお願いいたします。

第2表地方債についてご説明をいたします。

起債の目的、(1)過疎対策事業債、限度額2億2,330万円でございます。

起債の方法、証書借入、または証券発行となっております。利率については5%以内、ただし、利率見直し方式で借りれる政府資金及び地方公共団体金融機構資金について、利率の見直しを行った後においては、当該見直し後の利率といたします。

償還の方法、政府資金については、その貸し付け条件により、銀行その他の場合には、その債権者と協議するところによる。ただし、町財政の都合により繰り上げ償還することができるということとなっております。

(2) 辺地対策事業債、限度額が3,220万円となっております。起債の方法、利率、償還の方法については、先ほど説明したとおりでございます。

(3) 公営住宅施設整備事業債、限度額6,490万円でございます。起債の方法、利率、償還の方法については、先ほど説明したとおりでございます。

(4) 臨時財政対策債、限度額1億6,000万円でございます。起債の方法、利率、償還の方法については、先ほど説明したとおりでございます。

合計4億8,040万円でございます。

1ページにお戻りください。

一時借入金、第3条、地方自治法第235条の3第2項の規定により、一時借り入れの最高限度額は10億円と定めるものであります。

歳出予算の流用、第4条、地方自治法第220条第2項ただし書きの規定により、歳出予算の各項の経費の金額を流用することができる場合は、次のとおりと定めます。

歳出予算の補足説明に関しましては各担当課長がいたします。

ご審議賜りますようよろしくお願いいたします。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

次に、歳出について説明を許します。

○議会事務局長（明 勝良君）

それでは議会事務局のほうより、平成26年度の予算について説明を申し上げます。

歳出予算につきまして、前年度との比較して増減のあった部分についてのみ説明をさせていただきます。

それでは歳出予算書の24ページ、並びに事業明細書25ページをお開きいただきたいと思います。

予算書の24ページにつきまして、議会費の節4共済費でございますが、前年度より34万7,000円の増額となっておりますが、これにつきましては、共済の負担率が標準報酬月額、前年度は100分の51.9でございましたが、26年度につきましては、100分の52.8というふうな負担率の増によるものです。

次に、節9旅費、費用弁償につきまして、前年度より129万3,000円ほど増額になっております。この増額分につきましては、前年度等につきましては、研修会や先進地視察等につきまして、議員の皆様方におきまして、交互に出席をすると、経験もあるというふうなことから、そういうふうな措置がなされたんですが、今年度につきましては、改選後でもあり、また新議員の方々もいらっしゃるということから、全会議並びに研修視察等、全員が出席を見込んで計上してございます。

以上、議会事務局の説明を終わります。

○総務課長（樺山 誠君）

予算書の25ページをお開きいただきたいと思います。

第2款総務費第1項総務管理費1目一般管理費でございますけども、今年度の予算額3億4,747

万5,000円を計上してございます。対前年度比で2,405万9,000円の増額でございます。

主な理由といたしましては、新規職員24人の職員増によるものでございます。

あと1つ、7節賃金でございますけども、24名の職員の採用においては、4月、5月、6月、3カ月間においては研修期間と定めて、臨時職員の配置ということになります。

その中で、事務賃金855万4,000円が計上されてる関係上、増額となっております。

27ページお願いいたします。

財産管理においては、今年度予算額1,230万5,000円、対前年度比95万6,000円の減でございます。

28ページをお願いします。

3目交通安全対策費、予算額381万3,000円に前年度の比較4,000円の増額でございます。

第4目電算システム費、今年度予算額2,781万1,000円、対前年度比1,135万5,000円の増額になっておりますけども、29ページお聞きいただきたいと思っております。

18節備品購入費、100台のパソコンの購入費を充ててございます。

19節の負担金及び交付金の一番下の欄でございますけども、NewTRYのシステムの更新負担金ということで、324万円を計上してある関係上、増額の予算となっております。

消防費に行きたいと思っております。70ページお願いいたします。70ページですね。

8款消防費1項消防費1日常備消防費でございますけども、予算額1億1,409万6,000円を計上してございます。前年度比278万7,000円の増額でございますけども、徳之島地区消防組合の負担金の増額によるものでございます。内訳といたしましては、国債償還の増によるものでございます。

2目非常勤消防費、予算額1,126万円に対しまして、前年度比203万7,000円を計上してございますけども、主な理由といたしましては、26年度に瀬戸内町で操法大会がある関係上、9節の旅費、費用弁償が増えている結果でございます。

71ページお願いいたします。

3目防災まちづくり事業費、本年度の予算額4,754万1,000円でございます。

前年度比4,193万5,000円増でございますけども、これにつきましては、15節の工事請負費、防災無線の工事関係の8カ所分の工事費の計上でございます。

よろしく申し上げます。

○企画課長（池田俊博君）

おはようございます。これから企画課の事業の説明を行いたいと思っております。

企画課では、企画総務の企画費のほうと、あと商工観光費のほうがございますので、順次説明していきたいと思っております。

それでは座って説明したいと思っております。よろしく申し上げます。

まず、予算書の30ページ、明細のほうでは29ページになります。

文書広報費です。これは月2回発行する伊仙町の広報誌の印刷製本と、あとは負担金として、伊仙町が構成している団体のほうへの負担金が必要な計上になっております。

続きまして、9目企画費でございます。

歳入のほうは、ページ17ページ、22ページ、22ページのほうに載っています。

ページ17ページのほうには、地方公共交通特別対策事業補助金が載っています。

これは次のページの負担金補助のほうをあけていただきたいと思います。負担金補助の下から2番目のほうに、地方公共交通特別対策事業補助金として931万8,000円を計上していますが、交通弱者の移動手段、高校生の通学等に必要な生活路線バスの維持のための補助金でございます。

続きまして、22ページのほうに電気料収入が計上、162万円を計上してございますが、これは光サーバー室の電気料を運営会社より徴収しているものでございます。

支出のほうは需要費の光熱水費に該当します。

続いて、ページ22ページの電柱使用料負担金でございますが、これは光伝送路ケーブルが使用している電柱の使用料でございます。これはNTTさんと九電さんのほうに支払う使用料でございます。

歳出のほうにおいては、14節使用料及び賃借料のほうに640万円を計上してございます。

続いて、22ページのほうに過疎対策事業債として、地方公共交通特別対策事業費750万円、奄美群島振興開発調査等事業負担金330万円、航路航空路運賃軽減等事業費として、1,830万円を計上しています。

これは歳出のほうの31ページ、19節のほうに、上から4番目奄美群島広域事務組合負担金として935万1,000円を計上してるうちの330万円が地方債ということでございます。

あと、さらに、一番下のほうです。航路航空路運賃軽減等事業負担金1,830万8,000円を計上してございます。これは航路航空路運賃の軽減事業費町負担分、これは国が10分の6、県が10分の2、町が10分の2ということで計上してございます。あと後ほど、特別交付税措置として、町の負担分の2分の1が特別交付税として入ってくる予定になっています。

下から2番目、地方公共特別対策事業補助金、これも過疎債のほうで予算措置がなされています。

あとは、主なものでございますけど、負担金補助のほうで、徳之島地区トライアスロン大会負担金として100万円計上してございます。

あと、11節需要費の中で印刷製本費100万円が計上してありますが、これは今年度「第5次伊仙町総合計画」作成ということで、施政方針のほうにも載せてありますが、新しい社会構造における町経営のビジョンを方策を作成するための経費で、印刷製本の経費でございます。

あと、19節負担金補助、その他の関係でございますが、これは伊仙町が構成する市町村の団体に対する負担金ということで計上してございます。

予算書37ページをお開きください。

2款総務費5項統計調査費でございます。あと1目の統計調査総務費において13節の委託料、これは県統計協会への市町村民税所得推計の委託料でございます。

2目から9目に関しては、各種統計調査の事業執行のための予算計上でございます。

2目においては、教育統計で、学校の児童生徒、教職員の数の調査、いわゆる5・1調査でございます。

あと、3目工業統計調査、これは毎年行われる調査で製造業に対する調査を行っております。

4目におきましては、毎月の人口移動を報告し、人口推移の基礎資料を得るための調査費でございます。

5目においては、経済センサス調査管理費でございますが、経済センサスを行う上で、調査区の変更、修正等を行う場合に要する事務費でございます。

6目経済センサス基礎調査費、今年は経済センサスを行う年に当たりまして、そのための準備調査費でございます。

7目商業統計調査費、これは各、伊仙町におきましての商店に関する調査を行っております。

8目農林業センサス、これは農林業に関する調査でございます。

9目国勢調査調査区設定費、平成27年度町の調査区地域を設定するための事業費でございます。

10目土地利用対策費、これは国土利用計画法に基づく、土地売買等の市町村受理件数を県に報告するものでございます。

あと、この統計調査に関しては、交付税措置とか、あと地方消費税交付金の算定の基礎資料となるものでございますので、しっかりと調査していきたいと思っております。

あと、続きまして、歳出64ページをお開きください。

あとは担当のほうの課長補佐のほうに説明させていただきます。

○企画課長補佐（稲泉喜博君）

企画課課長補佐の稲泉と申します。本日はよろしく申し上げます。座って説明させていただきます。よろしく申し上げます。

歳出64ページの第6款第1項第1目商工振興費につきまして、本年度、区分19負担金及び交付金ということで、奄美群島地域産業振興基金協会負担金、奄美群島大島紬振興基金協議会負担金、いずれも、運営負担金としまして、人口割及び標準体財政規模割で算出された金額を負担させていただいております。

続きまして、奄美広域中小企業勤労者福祉サービスセンター負担金、これにつきましても12市町村で事業所均等割加味しまして、従業員者数等を加算した金額を町で負担させていただいております。

続きまして、町商工会育成事業負担金、前年度並みの100万円を計上させていただいております。

最後の行、プレミアム付商品券発行事業負担金、これにつきましては、本年度100万円増額しまして、200万円を計上させていただいております。

以上、商工費終わります。

○企画課長（池田俊博君）

続いて、観光費でございます。観光費の国・県支出金のほうに関しては、さんご礁保全対策補助

金、あとは屋外広告物及び広告物条例事務移譲金、県ウミガメ条例の移譲金、あと、その他のところで12万6,000円を計上してありますが、これは犬田布岬の休憩所の貸し付け収入でございます。

2目観光費においては、瀬田海、犬田布岬、泉芳朗館、喜念浜の各種観光施設のほうの維持管理費を計上してございます。

あと、13節委託料の中で、さんご礁保全対策事業委託料として88万7,000円を計上してありますが、これはオニヒトデ駆除の対策費でございます。

19節負担金補助及び交付金において、上から2番目徳之島観光連盟負担金として、103万7,000円を計上してございます。これは3町の合同したというか、統一した徳之島観光連盟のほうへの負担金でございます。

あと、次のページをお開きください。

大きなものでは、上から3番目、伊仙町夏祭り補助金、今年度は200万円を夏祭り補助金として計上させていただきました。

あと、下から2番目のほうで、奄美群島観光物産協会負担金として、229万5,000円を計上いたしました。これは群島全域の観光の一元化を目指し設立した奄美群島観光物産協会への負担金でございます。主な事業としては、あまみシマ博、あとはマスメディア等の広報宣伝と物産展への参加等を行っている事業でございます。

○企画課長補佐（稲泉喜博君）

続きまして、3目消費者行政推進といたしまして、本年度は共済費としまして、相談員を1名雇用することを予定しておりましたので、保険料として40万8,000円を計上しております。

賃金としましては5,400円×12カ月ということで、142万6,000円を計上させていただいております。

続きまして、報償費、弁護士相談会を年3回計画しておまして、弁護士さんの1名当たりの謝金、計30名を予定しております。

続きまして、9旅費、費用弁償のほうですが、弁護士相談にかかわる郡内の往復航空旅費等を11万4,000円を計上させていただいております。普通旅費といたしましては、相談員の研修会出席の費用を弁償させていただいております。

11番需用費、印刷製本費といたしまして、町内全戸3,500部ほど冊子を印刷しまして、いろいろな消費者問題の解決につなげるような冊子の配布を予定しております。

以上です。

○企画課長（池田俊博君）

続きまして、4目徳之島地域文化情報発信施設運営費ということですが、これはその他の欄で、歳入として、施設の使用料160万円を計上してございます。あとは、なくさみ館の運営経費でございます。

続きまして、5目観光拠点連携整備事業費でございますが、これは県の補助金及び起債で運営している事業でございます。あと、詳しい内容は担当のほうでお答えします。

○企画課（中富譲治君）

企画課の中富です。本日はよろしくお願ひいたします。

座らせて説明させていただきます。

お手元の資料をごらんください。

資料の1ページ目が年度別の色分けの平面図となっております。26年度は赤のほうの駐車場整備と主に休憩所の改修になります。

2ページ目おあけただいて、細かい中身なんですけど、駐車場のほうと休憩所の改修に26年度はなっております。細かい概算事業費の内訳が次のページから3ページ、4ページとなっております。

26年度は、事業費が8,200万円、国・県支出金が4,920万円、地方債が3,280万円となっております。細かい事業のほうは、3ページ、4ページ目、ごらんください。

本年度26年度、7月、8月、9月に測量設計のほうを委託して、事業執行のほうは、大体9月ごろを目安としております。

以上です。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

今の説明で補足して説明していただきたい事項があれば、発言を許します。ございませんか。

では、次の説明に移ります。

○税務課長（栴山正二君）

税務課の歳出予算について説明させていただきます。

予算書の32ページ、明細書の30ページから31ページになります。

税務課の予算に関しましては、前年度と比較して減額になっています。

この詳しい内容につきましては、まず臨時職員の賃金、臨時職員が26年度予算では計上されていないということと、それから需用費の車検代が計上されていないことと、それから車検に伴う公用車の保険料、それから25年度には備品購入も行っております。委託料としまして、3年に1回固定資産税の宅地の評価替えというのがありまして、これが3年に1回の方で大きな金額で上がっていた分、減額になっています。

税務課の予算としましては、33ページをあけていただけますか。この中の款に総務費、項に町税費、目に賦課徴収費、節12の役務費の中の紹介手数料というのだけが今年度新しく計上されていまして、これは何かといいますと、滞納者等の預金の調査をする際に、1件当たり32.4円の紹介手数料が必要になりまして、その分を新しく計上させていただいています。

他の予算に関しましては、前年度とほぼ同じような金額で、同じように上がっております。

以上です。

○町民生活課長（西 吉広君）

それでは、町民生活課の予算の読み上げさせていただきます。

33ページをお開きください。明細書のほうは31ページでございます。

2款総務費 3項戸籍住民基本台帳 1目戸籍住民基本台帳費についてご説明いたします。

本年度予算が4,414万9,000円で、前年度より99万6,000円の増となっております。

これは主なものといたしましては、節14の使用料及び賃借料の増でございます。戸籍総合システムのリース料の増でございます。

34ページお開きください。明細書が31ページでございます。

2目の人口動態調査及び外国人登録事務費でございます。本年度21万円、前年度と同額でございます。

続きまして、42ページをお開きください。

3款民生費 1項社会福祉費 5目国民年金事務費でございます。本年度予算が697万9,000円に対しまして、前年度より180万3,000円減額であります。これは職員の給料分でございます。

それに伴いまして、19節のほうに負担金補助及び交付金システム改修費負担金が追加されております。31万4,000円であります。これはシステムから入力された資格習得届の報告書データを収録できる機能の追加を行う改修費負担金でございます。

続きまして、43ページをお開きください。明細書が38ページでございます。

7目の福祉援護費でございます。これも昨年度と同額でございます。

続きまして、44ページをお開きください。明細書のほうが39ページでございます。

3款民生費 2項児童福祉費 1目児童福祉総務費でございます。本年度の予算が1億3,598万円に対しまして、120万1,000円の減額であります。これは児童数が年間60名前後減ってる分、その分の減額でございます。

続きまして、45ページをお開きください。明細書が40ページでございます。

2目のへき地保育所費、本年度予算が2,832万円に対しまして、1,007万円の増額でございます。

主なものといたしましては、16節の原材料費の補修材料費でございます。主なものといたしましては、検福保育所の床、タイルが剥がれている関係で、こちらのほうに補修材料費として計上してあります。

続きまして、46ページをお開きください。明細書が41ページでございます。

3目私立保育所費、今年度予算が2億3,091万2,000円に対しまして、2,250万円の増額であります。

19節の負担金補助及び交付金の増でございます。これは私立保育所、3保育所、そして広域入所保育所の措置であります。この措置は年齢が低くなるに従って、措置費が上がってまいりますので、昨年度からゼロ歳児が大分増えております関係で、措置費も上がっております。

下のほうの5目子育て臨時給付金事業費でございます。この事業は、本年度26年度1回限りの事業でございます。これは消費税率の引き上げに際し、子育て世代の影響を緩和するために子育て世代の消費の下支えを図る観点から、臨時的な給付措置を行うもの。児童手当の上乗せではなく、臨

時給付金と類似の給付金として、これを併給調整をして、支給するものであります。

以上であります。よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまの説明において、さらに詳しい説明を聞きたい節等があれば、これを許します。

ございませんか。説明員の方をお願いします。新人の議員も5名いらっしゃいますので、前年と同じとかじゃなくて、順次詳しい説明をよろしくをお願いします。

次の説明をお願いします。

○選管書記長（佐平浩則君）

選挙関係の予算のご説明をいたします。予算書34ページと明細書の31ページからになります。

2款総務費4項選挙費1目選挙管理委員会費、今年度予算949万8,000円、前年度比4万9,000円の減額の予算となっておりますけれども、選挙管理委員会の事務局の経費でございます。

続きまして、35ページ。

2目の選挙啓発費でございますけれども、今年度20万3,000円、前年度比較9万3,000円の増額となっておりますけれども、委員の研修旅費と選挙啓発用の消耗品の5万円計上している関係上、若干の増額の予算となっております。

続きまして、3目衆議院議員選挙費、ご存じのとおり、4月に補欠選挙が行われますので、4月15日告示、4月27日投開票の予定で、補欠選挙が行われる関係上の選挙の執行経費でございます。

続きまして、4目農業委員会選挙費、本年7月19日に満了になります農業委員会の委員選挙が今のところの予定といたしまして、7月1日告示、7月6日投開票の予定で、今選挙管理委員会のほうで調整してございますけれども、その農業委員会委員を決める選挙の選挙執行経費でございます。305万5,000円となっております。

37ページをお願いいたします。

5目県議会議員選挙費、県議会議員の選挙が27年の県の調整で、4月3日告示、4月12日投開票の予定で予定されております関係上、本年26年度におきまして、155万4,000円の選挙の準備資金として予算計上しております。

3目の衆議院議員選挙費と5目の県議会議員選挙費に関しましては、財源といたしましては国庫委託金と県の委託金でございます。

以上、選挙管理委員会の説明を終わります。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまの説明において、さらに詳しい説明を聞きたい節等があれば、これを許します。

ございませんか。では、次の説明に移ります。

○保健福祉課長（松田一郎君）

それでは、保健福祉課関係の予算を説明いたします。

一般会計当初予算ということで、平成26年度最終予算総額は、保健福祉課関係の分で、対前年度

比51.2%増額で3億1,799万2,000円であります。

主な理由は、社会福祉協議会補助金、シルバー人材センター補助金、高齢者福祉計画及び第6期保険事業計画策定費、障害福祉計画策定費、特に扶助費の障害自立支援費の伸び率がますます高くなってることから、障害自立支援の給付費が増額であります。自立支援法が変わりまして、総合支援法になりましたけれども、昨年から変わっております。

また、本年度は消費税アップに伴う低所得者層への臨時福祉給付金事業費として、1億1,000万円予算が大きく影響しております。

先ほど町民生活課の課長からもありましたとおり、私たちの低所得者層の関係であります。

これは100%補助ということで、26年度実施します。

それでは、予算書の39ページから順次、せっかく担当来ておりますので、担当のほうから主な項目について、事業所の明細書を主に通じて、各項目ごとに説明いたしますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○保健福祉課（迫田龍二君）

それでは説明いたしたいと思ひます。

まず、3款民生費1項社会福祉費目1社会福祉総務費の報酬です。施設入所判定委員会の報酬が8,000円と、あと民生委員・児童委員の推薦会の委員報酬として1万6,000円で、計2万4,000円を計上しております。

旅費につきましては、職員研修会等の旅費として、県内4回、郡内2回の計6回分の旅費として、27万2,000円を計上しております。

続きまして、11節需用費なんですけれども、これにつきましては、会合等のまたは講師が来たときの食料費として3万円と、あと調査に出たときの公用車の燃料代として3万円を計上しております。

続きまして、13節委託料行路病人取り扱い手数料として、1,000円計上しております。

続きまして、14節使用料及び賃借料ですが、これにつきましては、DVの一時避難所の使用料といたしまして、20万円計上しております。

続きまして、19節負担金補助及び交付金としまして、社会福祉協議会への補助金が510万8,000円計上しております。

続きまして、民生委員連絡協議会補助金としまして、323万4,000円計上しております。

福祉活動専門員設置補助金として94万7,000円、保護司会への補助金として8万円、在宅福祉アドバイザー協議会への補助金として36万円、母子福祉会補助金として5万円、徳之島の将来の医療と福祉を考える会の運営費として50万円、暮らし安全・地域支え合い事業補助金としまして500万円、シルバー人材センターへの補助金として350万円計上しております。

繰出金につきましては、国民健康保険の基盤安定繰出金で4,716万3,000円、国保会計財政安定化支援事業として3,015万5,000円、助産費等補助金繰出金として700万円、国民健康保険特別会計繰出金としまして1億801万2,000円計上しております。国民健康保険事務費繰出金といたしまして

160万円、介護保険給付繰出金として1億1,186万9,000円、地域支援事業費繰出金として423万3,000円、介護保険事務費繰出金としまして1,431万7,000円計上しております。

続きまして、40ページ、社会福祉費、民生費社会福祉費2目社会福祉施設費11節需用費です。

節の保健福祉課で所管しております施設の電気料として41万4,000円で、施設の修繕費といたしまして20万円、あと消耗品費として5万円、計66万4,000円を計上しております。

役務費といたしまして、施設の浄化槽検査手数料として6万1,000円、し尿処理費として7万円、計13万1,000円計上しております。

13節委託料、浄化槽管理委託料といたしまして34万3,000円計上しております。

16節原材料費、節の補修材費として10万円計上しております。

第3款民生費1項社会福祉費第3目老人福祉費です。

41ページ、予算書の41ページをお願いします。

8節報償費、敬老の日記念品代として11万9,000円計上しております。これは各集落への敬老の日の記念品として計上しております。

9節旅費といたしまして、県内の普通旅費として5万6,000円計上しております。

11節需用費、これにつきましては敬老祝い金支給時の消耗品費として2,000円、あと支給時の燃料費として1万円計上しております。

12節役務費、これにつきましても、敬老祝い金の支給時ののがき代として2万4,000円計上しております。あと、福祉電話の名義変更の手数料として3,000円、あと介護保険低所得者審査支払い手数料として6,000円計上しております。計3万3,000円です。

続きまして、13節委託料、これにつきましては、今年度、高齢者福祉計画及び介護保険事業計画の策定のための委託料といたしまして、172万8,000円計上しております。

19節負担金補助及び交付金ですが、老人クラブへの補助金として160万円、あとゲートボール協会への補助金として、25万円計上しております。

20節扶助費、敬老祝金として、719万円計上しております。介護保険低所得者利用者負担金の軽減措置事業の補助金としまして、8万3,000円計上しております。

これにつきましては、県が4分の3の補助となっております。

続きまして、老人保護措置費としまして、8,350万円計上しております。

○保健福祉課長（松田一郎君）

それでは、後期高齢者のほうは明日の特別委員会のほうで、また詳しくご説明いたします。

とりあえず、一般会計に乗せてある後期医療者、医療関係の主な項目ですけれども、1億4,828万1,000円に830万1,000円を増額するものでございます。主なところは、後期高齢者の特別会計の事務費負担金と事務費繰出金の主な項目であります。

後期高齢のほうは給付費が上がってきておりまして、繰出金のほうも増額ということになっております。

後期高齢者については、明日の特別委員会の特別会計の中で、また改めてご説明いたします。

○保健福祉課（永喜 敏君）

今年度予算 1 億8,002万、前年度 1 億4,814万4,000円、3,187万6,000円の増額となっております。

節 7 賃金、これは窓口事務とそれから集計事務をやっただいております。

1 つだけ訂正をお願いします。事業費の明細書、「5,300円×244日」となっておりますが、平成26年度から「5,400円」になっておりますので、金額が131万8,000円ということでございます。

続きまして、障害者相談員謝金 9 万9,000円、これ 4 人の方にいろんな相談に乗ってもらってあるということございまして、月額2,050円の12カ月×4人ということでございます。

続きまして、旅費、旅費は県内 5 万6,000円を 4 回、郡内 2 万4,000円を 2 回で、27万2,000円でございます。

それから需用費、消耗品は主に受給者証等でございます。燃料費は公用車の燃料費、印刷製本費は封筒などの印刷が主なものでございます。

そして12役務費、通信運搬費、これは更生医療等の決定通知等に使う切手代が主でございます。それから診療報酬手数料、これは医療費のことに関しては国保連合会と支払い基金のほうに内容の審査をしていただいて支払いをするということで、その審査の手数料でございます。

13委託料で支給管理台帳ソフト保守料ということでございますが、これは総合福祉システムというシステムがございまして、その保守管理の委託料でございます。

それから新障害者福祉計画策定委託料、障害者福祉計画というのを約 3 年置きにつくっております。現在は第 3 次計画中でございます。第 4 次計画は平成27年から29年ということで、26年度中に第 4 次計画書を作成しなければならないということで、この委託料でございます。

それから、19負担金補助及び交付金、身体障害者福祉協議会補助62万2,000円になっておりますが、26年の10月に大島郡の身体障害者協議会の大会を伊仙町で予定しておりますので大きい金額になっておりますが、例年は17万2,000円程度でございます。

続きまして、手をつなぐ親の会補助、これは知的障害者の親の会の運営補助でございます。

続きまして、障害者定額分調査及び審査ですが、これは障害が大体 6 段階に分かれておりまして、障害 1、2、3、4、5、6 と、どの区分に該当するかということ徳之島地区の介護保険組合に委託をして決めてもらっておりますが、その委託料でございます。

それから続いて、地区精神障害者家族会運営補助、これはあけぼの会と言って、精神障害の方の親の会の運営補助でございます。

続きまして、徳之島地区自立支援協議会負担金補助、これは平成24年度に 3 町で、この自立支援協議会というのを設立いたしまして、現在、天城町が事務局を行っておりますが、その運営補助でございます。

続きまして、20扶助費、障害者自立支援給付費等事業費 1 億5,000万円、これはいいことだと思

うんですが、障害者の方がいろんなサービスを使うようになりまして、事業費としては大きな伸びをしておりますが、1人の方が2つ、3つもサービスを受けてるということで、事業費が大きな伸びを示しております。

それから、障害者自立支援総合対策事業費、これは、現在は補助対象になる事業ではありませんで、今、身体障害者のデイサービス事業が主でございます。

続きまして、障害者自立支援医療給付事業、これは更生医療と言いまして、障がい者の方が特別大きな手術をするとかいうときに安くなるということでございますが、今、一番生活保護者の方のは全く保険がききませんので、全額うちが支払うということで、ちょっと大きな金額になってきております。

続きまして、地域生活支援事業、これは障がい者の方に対して補助を出すだけじゃなくて、自立ができるようにいろんな支援をしていこうということ。補装具などもあります。

この事業の補助金として、780万円です。

続きまして、心身障害者施設入所訪問旅費、これは自分の子供たちが、例えば、鹿児島の方に入ってる人がおると。そういう人たちに年2回ですけれども、子供たちに会いに行く旅費の大体半額ぐらいを補助しようじゃないかということで、そういう経費でございます。

以上で、障害関係の説明を終わります。

○保健福祉課長補佐（美延治郷君）

引き続きまして、重心医療の説明をさせていただきます。

ページで行きますと43ページ目8目です。

重心医療費ですけれども、伊仙町でも重度身体障害者医療費助成というものを行っております。

現在、伊仙町で障害手帳を持っておられる方が550名ぐらいおりますけれども、その中で、1級、2級の障害手帳を持っている方に関して、病院でかかった医療費の助成を行うということです。

1級、2級の方に関しては、病院でかかった医療費は全額返ります。

あと、もう1つが腎臓移植一部旅費負担というのがありますけど、これが50万円ですけれども、腎臓移植をするときの一部旅費運賃と宿泊が3日までで、年間最大が2回までということで、予算を計上しております。

重心に関しては以上です。

○包括支援センター（喜村直喜君）

続きまして、目9地域包括支援センター運営費について説明いたします。

本年度の予算総額が1,799万6,000円、前年度が1,825万8,000円、比較いたしまして、26万2,000円の減額となっております。

11の需用費から説明させていただきます。

明細書の39ページなんですけれども、需用費といたしまして、修繕費10万円組んでおります。

これは公用車の修繕費として10万円組んでおります。

車検整備費といたしまして、軽自動車1台分10万円で予算を組んでおります。

続きまして、節12の役務費、これは電話料が6万円、これは携帯電話代3台分、月5,000円の12カ月といたしまして、6万円の予算を計上しております。

公用車の保険料ですけれども、軽自動車1台分で1万9,000円の保険料を計上しております。

続きまして、節13委託料ですけれども、新予防給付ケアプラン作成委託料、これはケアプランを指定介護事業所に作成を委託する予算であります。年間で300件を見積もりしております、1件4,000円、120万円の予算を計上しております。

続きまして、節18備品購入費、携帯電話購入費といたしまして、9万円予算計上しております。1台3万円で計算しております。

続きまして、節27公課費、公用車の重量税といたしまして、軽自動車1台分8,000円の予算を計上しております。

包括支援センター運営費についての説明は以上です。

○保健福祉課長（松田一郎君）

包括の支援センターの中で、今回携帯電話出てきたんですけれども、今年からです。

今までは個人の携帯電話使って、それも個人が払ってるという状況にありまして、件数が多くなっていくに従って、個人の電話料も上がったということで、今回は財務のほうにお願いして、携帯電話を東部、中部、西部、1つずつということで、ケアマネージャーとか配布するようにしておりますので、ご理解をお願いしたいと思います。

○保健福祉課（迫田龍二君）

それではご説明いたします。

予算書のページが44ページ、明細のほうは39ページ。

3款民生費1項社会福祉費10目臨時福祉給付金事業ですが、この事業は消費税が、先ほど話がありましたとおり、消費税が5%から8%に引き上げになったことへの低所得者に対する対策で、一度限りの支給ですが、生活保護者を除く市町村民税均等割の課税のない方へ支給をされます。対象者には基本的に1人1万円の支給となりますが、また、年金受給者の方とか、あと、児童手当もらってる方とかは、5,000円の合算があります。

それでは、節に従って説明します。

3節時間外勤務手当につきましては、この事業に関する職員の時間外勤務手当です。

30万円計上しております。

7節賃金につきましては、5,400円の20日間の2名で6カ月を考えております。

金額が計129万6,000円を計上しております。

9節旅費、旅費につきましては、普通旅費として県内旅費1回で5万6,000円を計上しております。

11節需用費としまして、消耗品代として51万8,000円計上しております。

役務費、通信運搬費として、233万5,000円計上しております。口座振替手数料といたしまして、65万円計上しております。

13節委託料といたしまして、システム改修料として130万1,000円計上しています。

申請書請求はがき外部委託料として80万円計上しております。

続きまして、14節使用料及び賃借料、パソコンの機器リース料といたしまして、111万8,000円計上しております。

19節負担金及び交付金といたしまして、臨時福祉金の給付金として、5,181万円を計上しております。

以上です。

○保健福祉課長（松田一郎君）

この臨時福祉給付金事業については、深刻な状況に基づいて、あとは低所得者の方たちの名簿作成もあるということで、8月ぐらいを目途に申請を受け付けをして、9月から10月ぐらいにかけて支給をするということであります。低所得者層への給付金となっております。

また、広報誌等を通じ、PRしていきたいと思えます。

続きまして、予算書の46ページ、4目子育て支援事業について、担当のほうからお願いします。

○保健福祉課長補佐（美延治郷君）

予算書の46ページをお願いいたします。

子育て支援事業としまして、乳幼児医療自動償還払いというのがありますけれども、今までは乳幼児医療の受給証を持っている方が病院に行ったら、その領収書を持って役場に来てお金を精算するという方式でしたけれども、2年ぐらい前から自動償還払いということで、国保連合会のほうからの事務処理で役場のほうに一覧表が送られてきます。それによって、自動償還ということで、乳幼児医療費の助成の方々にお金を返すというシステムができています。

そのシステムの手数料です。

20扶助費のほうですけれども、ひとり親医療費助成というのがあります。

これは父子家庭、母子家庭という1人で子育てをしている方々の親と子。親も一番下の子が18歳に到達するまで医療費の助成が受けれます。全額出ます。今、伊仙町で親子母子関係、父子まで入れまして、227名が対象になっております。

あと、乳幼児医療ですけれども、今現在、子供が小学校入学時までということで、438名の子供たちが今現在で対象になっております。それが411万5,000円です。これは歯も体も入学までの間の医療費については助成されます。一部、高額所得者に関しましては、3,000円の控除がございますので、所得証明が必要です。

あと、養育医療費というのがありますけれども、25年度から、今年からなんですけれども、県からの権限委譲で、町のほうにおりてきております。未熟児、特に2,000g以下で生まれた子供の医療に関する費用なんですけれども、今年25年度で、伊仙町で3件ほどありました。

あと、24年度では1件もございませんでした。23年度がまた4件だったということで計上しております。

○保健福祉課長（松田一郎君）

続きまして、予算書の47ページ。

3款民生費3項生活保護費1目生活保護費事務費でありますけれども、昨年度と事務取り扱いのことは変動ありません。支給金については、県のほうから、こちらのほうに参って、こちらは手分けして、結局、現金支給しております。

ちなみに、現金支給で、大体窓口に来てもらう方が170名ぐらいで、予算的にも900万前後であります。一応、概要だけお知らせをしておきます。

続きまして、予算書の49ページをお開きください。

保健センターでありますけど、上木のほうから説明申し上げます。

○保健センター（上木正人君）

説明させていただきたいと思います。

歳入歳出事業費明細の44ページをお開きください。

款4衛生費項1保健衛生費目6保健センター運営費です。節1節報酬、推進協議会委員報酬、2,000円掛ける10名ということで、2万円の予算を計上させていただきました。

節7賃金です。事務賃金、看護師賃金で、トータルで259万2,000円を計上させていただきました。

続きまして、8報償費です。これは健康づくり推進員の研修会の報酬と保健推進員活動報償費といたしまして、健康づくり推進員の報酬が2,000円×20名ということです。

あと、保健推進員の活動報償費といたしまして、200円×3,200件で計上させていただいております。

続きまして、需用費、消耗品が保健センター関係消耗品ということで、5万円を計上させていただいております。

あと、車検整備費として、2台の公用車を車検ということで20万円、トータルで25万円ということで、需用費計上させていただいております。

続きまして、12役員費、電話料とファックスです。あと、公用車の保険料ということで、27万2,000円を計上させていただいております。

続きまして、19負担金補助及び交付金です。こちらのほうは、備考欄のほうに書いてございますように、南3島地域保健活動連絡協議会の負担金、食生活改善推進連絡協議会負担金、徳之島支部食生活改善推進協議会負担金、薬物乱用防止指導員徳之島地区協議会負担金といたしまして、トータルで37万5,000円を計上させていただいております。

節の27公課費です。公用車の重量税といたしまして1万1,000円を計上させていただいております。

続きまして、連続なんですけど、款4、項1保健衛生費、目7予防費、報酬の予防接種健康被害調

査委員報酬といたしまして、2,000円×6人で1万2,000円の計上でございます。

続きまして、賃金です。看護師賃金といたしまして54万円、9,000円×20日×3カ月ということで計上させていただいております。

8報償費です。予防接種委員報償費といたしまして、1万9,000円掛ける8件ということで計上させていただいております。

11需用費です。保健センター関係の消耗品が6万円といたしまして、あと薬品代といたしまして、備考欄のほうにあるように三種混合、三種混合のMR、BCG、日本脳炎、ポリオ、四種混合ということで計上させて、トータルが720万9,000円で計上させていただいております。

続きまして、12の役務費、通信運搬費で29万円を計上させていただいております。

続きまして、13委託料、予防接種の委託料といたしまして、医療機関に支払うものとして三種混合、二種混合、MR混合、日本脳炎、四種混合、ポリオ、子宮頸がん、小児肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチン、結核検診委託料、高齢者肺炎球菌、インフルエンザ、予防接種システム報酬委託料として、トータルで1,272万4,000円の計上でございます。

続きまして、使用料及び賃借料といたしまして、ほーらい館、各種予防時にほーらい館を使用ということで4万4,000円の計上でございます。

続きまして、4衛生費1保健衛生費8健康増進費ということで、賃金といたしまして、健康診査での看護師賃金、歯科衛生士、助産師ということで542万円を計上させていただいております。

続きまして、8報償費、健康教育報償費といたしまして、医師、歯科医師の謝金ということで右のほうに計上してございますように111万3,000円を計上させていただいております。

9の旅費37万1,000円に関しましては、県内4回、県内3回ということでトータル37万1,000円の計上でございます。

続きまして、11需用費、保健センター運営関係の消耗品、集団検診時の食糧費、燃料費、修繕費、検診用の消耗品といたしまして、96万1,000円の需要費でございます。

続きまして、役務費です。通信運搬費、損害賠償保険料、あとごみ処理手数料、計量器検査手数料、産廃の処理手数料ということで32万8,000円を計上させていただいております。

続きまして、委託料なんですけども、こちらは各種健診、こちらに委託料ということで厚生連と県民総合センターのほうでやっておるものでございます。腹部超音波3,500円×1,256人、読み上げますとちょっと長くなりますので、トータルをいたしまして1,695万2,000円と計上させていただいております。

続きまして、14使用料及び賃借料ということで、コピー機リース、印刷機リース、ほーらい館の施設使用料。

19負担金及び交付金に関しましては、検診車の航送料の負担金といたしまして、81万4,000円を計上させていただいております。

続きまして、4衛生費1保健衛生費9すくすく親子推進事業費ということで、8節報償費、母子

保健推進活動報償費といたしまして11万2,000円、乳幼児健診謝金として11万4,000円、1歳6カ月とか2歳6カ月健診、3歳児健診、5歳児健診、あと歯科優良表彰、マタニティ教室、3助産師の賃金、にこにこママ親子教室の謝金、スマイル謝金ということで78万2,000円の予算を計上させていただきます。

9の旅費、こちらのほうは親子スマイル教室奉仕旅費ということで、奄美ののぞみ園のほうから専門の講師をお招きをいたしまして、後援会を行う予定でございます。あと普通旅費ということで3万8,000円と4万5,000円、トータルで12万8,000円の計上でございます。

続きまして、需用費。これは母子保健事業等の関係の消耗品ということで12万5,000円の計上をさせていただきます。

役務費といたしまして、通信運搬費。

続きまして、13委託料。妊婦・乳幼児健康診査委託料ということで、これは医療機関のほうで妊婦、乳幼児の疾病上の早期発見と治療に役立てるというふうなことで、725万2,000円の計上でございます。

14使用料及び賃借料。これも各種予防、ほーらい館の使用料ということでございます。

19負担金及び交付金。不妊治療支援事業補助、これは特定不妊治療の指定期間のない離島地域の経済的負担を軽減するというもので、27万2,000円×3件ということで81万6,000円、それと産科医確保支援事業補助金ということで、徳之島島内において分娩を取り扱う産科への処遇改善ということで、600万円計上させていただきます。トータルで681万6,000円ということです。

扶助費ということで、これは母子栄養ミルク扶助費ということで、妊婦、乳幼児のミルクの補助でございます。あとハイリスク妊婦旅費一部補助ということで、妊婦が島外の医療機関で治療を受ける必要がある場合に、必要な旅費を助成をするということで、トータルで138万1,000円を計上させていただきます。

最後になりました。4衛生費1保健衛生費10自殺対策強化事業費、これは報償費といたしまして、自殺の社会的要因に対する相談機関や民間団体と連携を図り、支援体制を図るということで、14万円計上させていただきます。あと講師、費用弁償ということで、健康づくり事業に対する自殺対策に関する専門の講師を派遣をいたしまして、講習会を行うということです。あとこれにかかる電話なんですけども、こころの電話相談ということで、単独の電話線を引きまして、お悩みのある方には電話で対応するというようなことは、単独で取ってる電話料のものでございます。

以上、説明させていただきました。

○保健福祉課長（松田一郎君）

今の保健センター運営費の中と予防費健康増進事業、すくすく親子、自殺対策のほうで、前年度ゼロとなっておりますけれども、前年の保健センター運営費の中でこの事業を組んでおりまして、事業をわかりやすくするために、今年は目を設けてやった意味合いで、前年度がゼロというふうになってはおります。

トータルしますと、昨年より2,271万円ほど増加にはなってはおりません。

主な理由として、産科医の不足、懸念されておりましたんですけれども、4月からまた2名体制になるということで、これに対する支援ということが功を奏してなっております。

新規事業1件だけ忘れておりました。申しわけありません。

予算書の47ページ、明細書は41ページであります。新規事業を忘れておりましたので、担当のほうから説明いたします。

○保健福祉課長補佐（美延治郷君）

予算書47ページ、明細書でいいますと41、42ページになりますけれども、民生費、児童費、「子宝の町から子育ての町へ」ということで、新規事業で今現在要望しているところです。

3月15日までには内示がでるということでしたんですけれども、遅れていまして、今月中では内示が出るという話で予算のほうを当初予算のほうに組みさせていただきました。

皆さんご存じのとおり、伊仙町は「子宝の町」ということで有名ですけれども、その子宝をさらに子育てまでつなげていくということで、乳児から保育園生、幼稚園生、小学校、中学校までということで、子供たちを引き続き見守っていくという予算の流れです。

賃金が看護師の9,000円×20日の12カ月、1年分であります。あと講師が1万2,000円×2名の12カ月を28万8,000円組んであります。

それと講師の旅費としまして、平均的に鹿児島からと見て7万円掛ける2名の12回、あと担当職員が県のほうへの出張ということで、6万5,000円×3回ということでございます。

旅費で187万5,000円です。

需用費のほうに入ります。主に使うのがパンフレット作成とかですけれども、燃料費、そういったもので、需用費で105万2,000円を計画しております。

委託費のほう健康診断ということで、中学生でもう既に生活習慣病の兆候があらわれている子供たちがいるということで、小学校、中学校と食育あるいは生活リズムを見ながら、早期成人病予防の対策を取りたいということで、健診をするということで組んでおります。

あと18節の備品は、妊婦体験のキットでございますけれども、夫婦で子育てについて学ぶということでキットの購入、リースを考えております。

以上です。

○保健福祉課長（松田一郎君）

先ほど説明した中で、緊張してるせいかしれませんが、語句の修正があるということでありましたので、予算書の44ページの臨時福祉給付金事業の中での説明に語句の説明をかけたいたということがありましたので、迫田のほうからお願いします。

○保健福祉課（迫田龍二君）

先ほど臨時福祉給付金の加算につきまして、児童手当とご説明しましたが、正しくは児童扶養手当が加算の対象になるということです。

申しわけありませんでした。以上です。

○保健福祉課長（松田一郎君）

以上で保健福祉課管轄の一般会計について説明いたしました。よろしくご審議お願い申し上げます。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまの説明において、さらに詳しく説明を聞きたいという節等があれば、これを許します。

○3番（牧 徳久君）

今の臨時福祉給付金、これは消費税増税分に対して住民が恩恵を受けるということですが、これは低所得者ということですが、町民全員に行き渡るように、消費税は高額所得者も全員払うわけですが、低所得者ということで線引きをどれぐらいと考えているのか。

○保健福祉課長（松田一郎君）

それでは、臨時福祉給付金の一応概要を先ほど申し上げましたけれども、これは26年4月から消費税率が8%引き上げたということで、これを低所得者層が一番影響を受けるのではないかということで、それに対する負担であります。

これは、消費税が3%の5%上がったときもこういった制度を設けております。

今、議員からご質問ありましたけれども、給付対象者としては、今、国が示しているのは、平成26年度分の市町村民税が均等割りが課税されていない方が対象ということになります。

全てではありません。均等割りが課税されていない方が一応対象と、あとは障がいを持っていらっしゃる方々とか、そういった手当をもらっている方々とかについては加算があるということになります。

○3番（牧 徳久君）

では、所得税納めている方はないということですね。

○保健福祉課長（松田一郎君）

一応、課税されている方については対象外ということになります。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他にございませんか。

○3番（牧 徳久君）

これを理解させるために、町民に周知、線引きの周知を必要だと思っております。

○保健福祉課長（松田一郎君）

はい、わかりました。

一応、国から順次いろんな情報が錯綜しております。来てはおりますけれども、これの説明会もまたいずれあると思います。

その中で町としては、広報誌、それと色々なホームページ通じたりとか、区長会、民生委員会から、あらゆる審議会、委員会の中で説明していきたいと思っております。もちろん広報誌にも、

2回、3回分けてお知らせをいたします。

かみ砕いたわかりやすいような中身で説明していきたいと思っております。

○3番（牧 徳久君）

今、8,000人余りの人口のうち、低所得者が何人いるかわかりませんが、町民全体が恩恵受けるわけですので、周知徹底、漏れのないように、今さっき広報とかいろいろありましたけれど、したほうがいいんじゃないかと思えます。

○保健福祉課長（松田一郎君）

はい、わかりました。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他にありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

なければ、ここでしばらく休憩いたします。午後は1時より開会いたします。

休憩 午前11時45分

再開 午後 1時05分

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

申しおくれましたが、本特別委員会には、中野副町長及び茂岡教育長の公務による欠席届が提出されていまして、ご報告いたします。

次に、説明をお願いします。歳入のある方は歳入まで説明をお願いいたします。

○環境課長（益 一男君）

環境課より予算の説明をいたします。座って説明をいたします。

歳出予算書の47ページをごらんください。事業明細書の42ページからでございます。

4款衛生費1項保健衛生費1目衛生総務費、本年度の予算2,951万8,000円計上してございます。前年度比較としましては182万円減額をしております。

主な内容は、人件費等による減でございます。

主な歳出でございますが、19節の負担金及び交付金の食品衛生協会負担金、保健所に事務所がございますが、そちらのほうへの負担金でございます。それと、徳之島食肉センター特別会計負担金でございます。合わせますと333万4,000円です。

次に、2目環境衛生費でございます。2,657万5,000円を計上してございます。

前年度対比228万円増額になっております。

8節の報償費でございますが、600万円ほど計上しておりますがハブ買い上げ代でございます。

前年度が800万円ほど計上してございまして、本年度は600万円ほど減額をしております。

す。

理由といたしましては、県の補助金が1匹につき500円に値下がりになりましての減でございます。

19節負担金及び交付金でございますが、特に大きく変動があった合併浄化槽設置補助金でございますが、昨年度より13基ほどふやしまして、1,936万円を計上してございます。

次に、3目清掃費でございます。2億2,498万8,000円、前年対比793万3,000円。

同額でございます。

13節の委託料、ごみ収集委託料でございますが、消費税増額に伴う増税がございます。

50万円ほどの増額でございます。

19節負担金補助及び交付金も増額をしてございます。

徳之島愛ランド広域事務組合負担金でございます。人件費等の増額でございます。

4目美しい村づくり総合整備事業費。4目におきましては、前年度でかわりはありません。

5目です。ページ数は49ページです。

5目海岸漂着物地域対策推進事業費。事業名の変更がございます。従来は、地域グリーンニューディール基金事業委託金でございましたが、25年度より事業名の変更がありましたので、新しく5目には海岸漂着物地域対策推進事業費となりました。本年度1,905万6,000円計上してございます。前年度比較しますと562万円ほど増額されております。

増額分に対しましては、重機借り上げ料、海岸漂着物回収委託費あるいは産業廃棄物手数料等が増額となっております。

私のほうからは、以上で説明を終わらせていただきます。課長補佐の佐藤光利が補足を説明いたします。

○環境課長補佐（佐藤光利君）

皆さんお疲れさまです。環境課の佐藤と言います。

重複する点もありますけども、もう一回補足説明をさせていただきます。

まず、先ほども言われましたように、款4衛生費、項の1保健衛生費の目1衛生総務費であります。182万円ほど減となっておりますが、人件費の減という理由です。

それから48ページ目の、環境衛生費でございますが、228万円増となっておりますが、節の8の報償費の、今言われましたようにハブの買い上げ代が205万円の減となっております。

それと住居の合併浄化槽補助金の439万8,000円の増額となっております。

ハブの買い上げの改正がありまして、平成2年度に5,000円、これは国が3,000円で、町が2,000円でした。それから、平成16年度に4,500円、国が2,500円、そして町が2,000円となっております。それから平成17年度に3,500円の買い上げということで、国が2,000円、そして町が1,500円ということで、今回平成26年度に改正いたしまして3,000円の買い上げとなります。

国の1,500円、町の1,500円ということですが、今年度から国の500円減ということになりました。

ハブの買い上げ数ですが、24年度には2,043匹でございました。25年度現在が1,467匹と、現在576匹の差が出ておりまして、こういう点から国の引き下げと、また、ハブの捕獲量が少ないということで、ハブも予算をちょっと減額した次第であります。

続いて合併浄化槽ですが、平成22年度から26年度までの計画は200基と計画しております。

年々普及率が高くなっており、本年度は55基と、昨年度より13基多く計上してございます。

平成20年度が30基、平成23年度が33基、24年度が36基、25年度が42基と年々増えておりまして、今回26年度は55基を計上してあるところでございます。

予算書の48ページ、同じ目の3清掃費については、本年度は2億2,498万8,000円を計上してあります。昨年度と比較しますと793万3,000円の増となっており、節の11需用費のごみ分別カタログ費が36万円新しく出ております。

先ほど課長が言われましたように、13の委託料のごみ収集委託料の48万6,000円の増、それから負担金補助及び交付金の徳之島愛ランド広域連合への708万7,000円増からなっており、需用費のごみ分別カタログについては、クリーンセンター設立以来、このカタログが作成しておらず、今回4,000冊を全家庭に配付して、正しいごみの出し方を知っていただきたいということでもあります。

次に、委託料については消費税の増ということでもあります。

徳之島愛ランド広域連合組合への負担金については、今課長が言われましたように、1に25年度は1人計上していたということで、26年度は2名の計上をしたということです。

そして、運営費の負担割合が均等割合と人口割りがあります。昨年度より、伊仙町の人口にはあまり変化がないのですが、徳之島町の人口が減少してるため、その分伊仙町に比率による人口割合への負担が増加ということを受ランドのほうから聞いております。

それから、次に49ページの海岸漂着物地域対策事業においては、今年度は1,905万6,000円を計上してございますが、昨年と比較して562万円増額となっておりますが、これは、国の100%事業でございまして、県のほうから3月26日の水曜日付で内示を行う予定で、4月1日火曜日までに交付申請をすぐに行いなさいという指示が今出ているところであります。

海に囲まれた徳之島の海岸は、我々に身近な存在であり、財産でもあります。

しかしながら、近年、国の内外から漂着物が流れ着き、景観を及ぼしております。今後も引き続き処理するものであり、今年度は特に大型ラワン材が漂着してるために処理料が高くなるのではないかとということで、ちょっと費用を500万円ほど計上した次第であります。

15ページ、款12使用料及び手数料、項2手数料、目2の衛生手数料、節の1の衛生手数料は、本年度26万3,000円の歳入を計上してございます。

これは、犬の登録代と狂犬病の注射代でありまして、犬の登録が24年度には29頭登録されております。24年度の予防注射が261本接種しております。そして今年度、今現在犬の登録は、平成25年度は51頭されておまして、注射が261本接種しております。

それから16ページ、款13国庫支出金、項2国庫補助金、目の2衛生費国庫補助金、節の1環境衛

生補助金、合併浄化槽の補助金でありまして、968万円の歳入を計上しております。

これは、全体計画の2分の1でございます。

18ページ、款14の県支出金、項2県補助金、目3衛生費県補助金、節の1環境衛生費補助金で、合併浄化槽、県の補助金で484万円を計上しておりまして、これは全体計画の4分の1でございます。あとの4分の1は町税となります。

続きまして19ページ、款の14県支出金、項3件委託金の目2の衛生費県委託金、節1環境衛生費委託金。これは対岸漂着物地域対策事業ということで、1,744万4,000円を計上してございます。

全体計画のこれは100%になります。

次に22ページ、款19諸収入、項3雑入、目1雑入、節の6の雑入で、ハブ駆除対策費が300万円計上してございます。ハブ買い上げ代の2分の1です、これは。県が2分の1です。

それから、先ほど言いましたように、1匹につき県が1,500円、町が1,500円ということでありまして。

ヤスデ対策費として5万1,000円。これは自己負担金で、1袋850円で60袋計上してございます。

ちなみに、ハブ報償でハブの被害に遭われた方が11件でありまして、今現在、今年は7件であります。

以上、環境課からです。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまの説明において、さらに詳しい説明を聞きたい節等があれば、これを許します。ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

では、次の説明をお願いします。

○農委事務局長（益岡 稔君）

それでは、続きまして説明をさせていただきます、18ページをお開きください。

14款県支出金2項県補助金4目農林水産業費県補助金1節農業委員会補助金、農業委員会費補助金が170万円、農地制度実施円滑化事業補助金が751万5,000円となっております。

それでは、続きまして歳出のほう、52ページ。明細書のほうが49ページになっております。

5款農林水産業費1項農業費1目農業委員会費、本年度事業費2,465万1,000円とするものでございます。

主な事業費について説明をいたします。

節の1報酬780万円は、農業委員会会長及び委員16名の報酬、12カ月分でございます。

8節の報償費であります。農地の調査報償費及び農地紛争和解仲介謝金になります。

次に、2目の農業者年金事業費、43万8,000円とするものでございます。昨年度より6万9,000円の減となっておりますが、年金受給者の減によるものでございます。この予算は、農業者年金機構

よりの100%の補助で運営する事業で、農業者年金受給者の会の運営及び総会に要する費用となっております。

次に、目の3農地制度実施円滑化事業費、754万5,000円とするものでございます。

423万4,000円の増となっておりますが、8節の報償費、農家意向調査費といたしまして167万9,000円及び13節の委託料、所在確認調査委託料264万円を新たに予算計上したためであります。

この事業につきましては、全額国庫支出金となっております。

以上、ご審議賜りますようお願いいたします。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまの説明において、さらに詳しい説明を聞きたい節等があれば、これを許します。

○14番（美島盛秀君）

今の100%事業なんですけれども、これは、人・農地プランの策定の、そういう経緯にも使われる予算だと受け取っていいですか。

○農委事務局長（益岡 稔君）

人・農地プランに直接は関係ございませんが、26年度より、4月1日より農地中間管理機構というのが設立されます。中間管理機構は、今後農業を廃業をする方とか、そういう方たちから借り上げて、担い手さんのほうに貸し出しをするものであります。

このために、いろんな土地の調査とか、所有者の相続人の調査とか、そういったのを依頼するためのものでございます。

○14番（美島盛秀君）

これから国、県、あるいは町においても、農業の政策が非常に重要な政策になってくると思いますが、これに伴って中間管理機構が農協から県へ移行するという事で、非常に範囲が広がってなかなか事業が進まないと思いますけども、ぜひこの交付金で利便性を図れるような、これからの検討をお願いしたいと思います。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他にございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

では、次の説明をお願いします。

○経済課長（上木義一君）

それでは、経済課の予算説明をします。

説明する前に説明者の紹介をしたいと思います。元田課長補佐でございます。園芸係長の重村でございます。あと畜産担当の田中でございます。あと、人・農地プラン他担当の西川でございます。

では、座らせて説明させていただきます。

歳入のほうから説明させていただきます。予算書の18ページ、事業明細書の17ページから18

ページになっております。

14款県支出金 2項県補助金 4目農林水産費補助金 2節の農業費補助金、さとうきび優良種苗供給確保事業67万5,000円、環境にやさしい農業推進事業225万9,000円、奄美農業創出支援事業44万円、農業経営基盤利子助成補助金2万円、食育推進事業補助金50万円、さとうきび増産強化対策事業補助金213万1,000円、青年就農給付金事業補助金600万円、人・農地プラン作成事業補助金298万円、農地集積協力金交付事業補助340万円、農産物輸送費助成事業費補助金1億1,336万4,000円。

4節の林業費補助金、森林環境直接支援事業補助金20万円、松くい虫駆除補助金1,000円でございます。

次ページの19ページをお願いします。

14款県支出金 2項県補助金 5目商工費県補助金 5節水産事業費補助金、離島漁業再生推進事業費25万円の補助金です。591万6,000円は、離島漁業再生支援事業補助金でございます。

続きまして、歳出のほうを説明します。予算書の54ページ、お願いします。

明細書の50ページ、お願いします。

5款農林水産業費 1項農業費 4目農業総務費、本年度予算8,168万3,000円に比較増減として770万6,000円の増でございます。

主な歳出としては、19負担金補助及び交付金の徳之島営農推進本部の負担金でございます。

主な歳出としましては、畑かん施設の器具購入等でございます。

8節の報償費、カミキリムシ買い上げ代30万円でございますけど、1匹50円で購入する予定でございます。

前年度、ちなみに東部、中部、西部ありましたけど、内訳としては西部が250匹で、中部2,400匹、東部が1,000匹。一応、一番多かったのが中部ということで、今年も引き続き購入する予定で進めます。

あとは、5から17目までは、担当のほうに詳細については説明をしてもらいますので、よろしくお願いをします。

○経済課（重村浩次君）

説明資料の51ページです。

目5、特殊病害虫防除対策費、予算書のほうは55ページになります。明細は51ページです。

本年度290万6,000円、前年度236万円で、比較増減54万6,000円になっております。この増えた理由としましては、現在、前期後期にわけて年2回、防除作業を行っております。この防除の人夫賃金のほうが上がっております。

あと、トラップ調査というのを月2回の年12回行っております。毎月5日と20日の日にウリミバエ等の調査を行っております。

病害虫のは以上です。

○経済課長補佐（元田健視君）

それでは6目糖業振興費のほう説明させていただきます。予算書が55ページ、明細書が51ページになります。

さとうきび糖業振興費になります。この中で、13節委託料、これは種子島のほうから優良種苗買いつけをいたしまして、この分の植えつけ委託を農家さんのほうにやっております。

これは、春、夏60aずつ、2回に分けてお願いしております。その分の委託料になります。

19節になります。19節で一番さとうきびの増産対策事業についてなんです、この分、県支出3分の1支出で、ハーベスターの機能向上とさとうきびにかかるアタッチメント機械の導入事業になります。この分で、昨年度より130万円程度増額になっております。

あと、その下の種苗用メリクロン苗助成事業なんです、これは昨年まではメリクロン苗1株販売、購入していたものが、今年度から20円に減額されましたので、その分で50万円の減額となっております。

続きまして、7目環境にやさしい農業推進事業、今年度225万9,000円で、昨年と比較6万5,000円増になっております。この分は、来年度から消費税が3%増になりますので、その分の増額になっております。

この地区は、昨年度は小島、佐弁地区で5haずつ行っておりましたが、今年度は崎原、馬根地区で5haずつ事業する予定にしております。

私のほうからは以上です。

○経済課（重村浩次君）

園芸振興費について説明いたします。予算書56ページ、明細書が52ページです。

園芸振興費についてですが、前年度69万5,000円、今年度212万5,000円、143万円の増になっております。これは、ハウスの移転費になっております。現在、経済課で使用しているハウスを農高跡地のほうに、Aコープの駐車場の関係で移転をして、そこで育苗等を行っていきます。

続きまして、10の奄美農業創出支援事業なんです、この事業は農家等の先進地視察研修等に使う事業であります。

以上です。

○経済課（田中勝也君）

続きまして、款5農林水産費1項農業費11目畜産振興費について説明いたします。

本年度予算額1,764万円、前年度予算額2,076万6,000円、比較増減マイナスの312万6,000円となっております。この主な理由としては、肉用牛特別導入事業国庫金返納金の前年度との差額となっております。

予算書57ページをお願いします。明細書53ページ。

主な歳出としては、19節大島地区肉用牛共進会出品組合負担金、これは3年に一度、大島地区の肉用牛振興大会が開催されており、今年度は地元徳之島中央家畜市場で9月に開催される予定で予算を計上してあります。

続きまして、畜産基盤再編総合整備事業負担金500万円。これは、事業主体は県地域振興課であります。この500万円負担金は、事業参加者の全額負担金の500万円となっております。

続きまして、伊仙町肉用牛共進会負担金20万円。こちらも、大島地区の肉用牛共進会と同様して、3年に一度、郡の予選会を通じて8月に今年度は開催する予定で20万円を計上しております。

23節償還金利子及び割引料731万6,000円。こちらは、肉用牛特別導入事業国庫返納金として731万6,000円を計上しております。こちらのほうは、家畜導入事業が国が平成17年度で事業中止していましたが、県が事業を継続したところ、平成24年度に農林水産省から返還要請に応じ、各市町村に基金残額のうち、国庫相当額を平成29年度までの5年間で償還することになり、計上してあります。

以上です。

○経済課（重村浩次君）

農林水産物輸送コスト支援事業について説明いたします。予算書は58ページ、明細書は54ページになります。

この事業は、本年度から農産物の輸送にかかる船賃の助成を行う事業です。主な支出は、業者に対する輸送費の助成になります。

品目的なものに関しては、まだ選定されておられません。今後、支庁と県とのほうで話し合いを進め、徳之島では何を選定して輸送のコストの支援をしていくかというのは、今後決まっていく予定です。

以上です。

○経済課（西川由紀君）

引き続きまして、目14青年就農給付金事業に関してご説明申し上げます。

本年度は600万円の予算を計上しております。前年度は当初予算ではゼロですが、これは6月補正において750万円の予算が計上してあります。

内訳に関しましては、すみません、この事業に関しては人・農地プラン策定を前提に、当該地区で新規就農を実践している方に対する給付金事業になります。平成26年度においては、平成24年度からの継続給付者1名と新規給付者3名の計4名分、600万円を計上しております。

続きまして、目15農地集積協力金交付事業費について説明します。

本年度340万円の予算を計上してあります。これも、前年度ゼロとなっておりますが、6月の補正予算において540万円の予算が今年度は計上してあります。

この事業は、人・農地プラン策定を前提に、当該地区で中心となる経営体に特定された方へ農地の貸し出しを行う方に対する協力金となります。平成26年度は30万円を4戸分、50万円を3戸分、70万円の協力金を1戸分、計340万円の予算を計上してあります。

次に、目16人・農地プラン作成事業費になります。

この事業は、地域の人と農地の問題を解決するための将来的な設計図づくりをする事業で、今年

度は298万円の予算を計上しております。前年度は6月補正において212万円の予算が計上しており、今年度は97万円の増となっております。

内訳に関しては、事務賃金が臨時雇用で2名分、あと推進員の賃金45万円、あと報償費というのは、この人・農地プラン策定にかかわる検討委員という方がおられて、その方たちに対する報償費が計上してあります。

旅費は担当者の旅費、あと需用費は大体消耗品になります。役務費は主に通品運搬費、使用料に関しては、会議の際の使用料を計上してあります。

引き続きまして、目17土づくり研修事業費になります。

本年度14万円を計上しており、前年度が3万円、比較11万円の増となっております。

内訳は、講師の謝礼金を報償費として3万円、旅費は費用弁償で講師の方に対する旅費として5万6,000円、需用費は消耗品を5万円、あとは使用料を4,000円ほど計上しております。

この事業は、農家の皆さんに対して基礎的な土壌に関する研修を行う事業で、平成26年度は徳之島の農業開発総合センターの園芸土壌研究室の職員等、主に九州圏内の有機農業と土壌に詳しい専門家の招聘を予定しております。

あと、その下の廃目になっているんですが、6次産業化推進事業費、これが平成26年度廃目になっている理由といたしましては、26年度に増額になっております、徳之島地域総合営農推進本部の中の生活部会において、この事業を3町体制で推進していくことになりましたので、伊仙町の町費としては、来年度は廃目にしてあります。

以上です。

○経済課（重村浩次君）

続きまして、63ページをお願いします。明細書の58ページ。

目1 林業振興費。林業振興費については、節8 報償費、これはイノシシの買い上げ料1頭1万円の50頭分ということで計上してあります。

13委託料なんですけど、松くい虫駆除委託料として1,000円を上げてありますが、これは、まだ伊仙町では松くい虫の被害確認ができていないので、これが被害確認ができ次第こちらのほうで申請をして、実績に基づいて金額を補正していきたいと考えていますので、よろしくをお願いします。

あと、カラス駆除委託料。これは、町内に3カ所カラスの捕獲箱を設置してあります。

これの周りの除草、あと餌の取りかえと、おとり用のカラスに餌等もあげなきゃいけないので、そちらのほうで組んであります。

19負担金補助及び交付金。こちらの方は、主なので徳之島地区森林組合育成助成金ということで40万5,000円を掲げています。これは、林道、山等で災害、崖崩れとか林道の被害が出た場合、行政が行く前に森林組合のほうで自前で重機等の借り上げをして補修を行うということで、3町助成金を掲げております。

林業のほうは以上です。

○経済課長補佐（元田健視君）

続きまして、63ページ。

5款農林水産費4項水産業費1目水産振興費について説明いたします。

前年度、今年度792万8,000円で増減はゼロになっております。

主な支出について、補助金としては離島漁業再生支援事業補助金として伊仙町地区漁業集落への活動支援として788万8,000円を支出しています。

内訳としては、漁業集落民58名に対して1人当たり年間13万6,000円の補助金という形で支出しております。

続きまして、2目離島漁業再生支援推進事業。こちらのほうも、昨年、今年とも50万円の負担、支出になっております。

主な分として、旅費として、これは町の職員の研修費等になっております。

水産のほうでは以上になります。

○経済課長（上木義一君）

以上で、経済課の説明を終わります。ご審議賜りますよう、よろしく申し上げます。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまの説明において、さらに詳しく説明を聞きたい節等があれば、これを許します。

○3番（牧 徳久君）

カラスの委託料を組んであるんですが、これは小島地区にも1カ所あるんですが、今ヤギをくくつてあるんですが、これほったらかしてどうなるんですか。

小島の集落の公民館とか、上成川付近には、まだカラスがいっぱいいるわけ。いないところに設置したもんだから、ヤギが小屋なったわけ。

場所の移転について。

○経済課（重村浩次君）

これは場所の移転等も今考えてやっております。撤去させます。

○経済課長（上木義一君）

その件に関しましては、早急に現地確認をして、またそのヤギ等の持ち主等も確認をして移動するなり、ちょっと検討を早急にします。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他にございませんか。

○8番（前 徹志君）

56ページの目7環境にやさしい農業推進事業とありますが、もう少し詳しく説明をお願いしたいのですが。

○経済課長（上木義一君）

目7について、説明いたします。

この分は、毎年5haの2地区、10haで行っているんですが、この分は畑に堆肥を入れるということ
とです。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他にございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

なければ次の説明に移りたいと思います。

○耕地課長（穂 浩一君）

耕地課の予算の説明を行います。地籍事業のほうは樺山室長のほうから行います。

座らせて説明をさせていただきます。

予算書の60ページ、事業費の明細の55ページをお開きください。

款5農林水産業費2項農地費1農地総務費。本年度予算額7,513万4,000円、前年度対比マイナス
の782万9,000円となっておりますが、大きなものとしましては、昨年度は公用車の備品購入があり
ましたが、今年はそれがなかったのと、国営の徳之島土地改良区が25年度で終了したもんですから、
そこの負担金の減であります。

事業費の明細の55ページをお願いします。

55ページの一番上のほうからなんですが、旅費に関しましてはこちらに書いてありますとおり、
事業申請の各ヒアリング、それぞれの担当者会議の旅費であります。

11の需用費であります。この地下水ポンプの電気代は伊仙町内24カ所の地下水ポンプがありま
して、うち電動で行っております13カ所の地下水ポンプの電気代であります。

120万円であります。

大きなものに関してご説明申し上げますが、修繕費につきましては、その24カ所の地下水ポンプ
の修理費及び3台の公用車の修理代でございます。

次に、13委託料でございますが、一筆測定の合成図面作成業務委託料として105万円を計上して
ありますが、これは換地図面が、毎年その年度ごとでわかれて作成されておりますから、それをわか
りやすくするために、前年度、地区ごとに1枚に合わせてつくる、その図面の作成業務費であります。

その次の活性化計画書につきましては、平成28年度新規で、今糸木名地区を計画しておりますが、
その経済効果に対する計画書の作成業務であります。その下にも、併せて営農促進基本計画作成
業務委託がございますが、これについても同じく糸木名地区の新規事業の国に対する計画書の作成
委託料でございます。

14使用料及び賃借料の設計積算リーザースystem使用料につきましては、これは災害とか、県単、
町単等の設計積算のソフトの使用料でございます。

その次の水理情報システム使用料につきましては、伊仙町内の土地改良事業をしたところを中心
に、そこの面積、地主、その他の情報を活用しているわけではありますが、そのシステムの使用料金

が30万5,000円でございます。

次、19負担金につきましては、奄美郡島の農業農村整備事業推進協議会の負担金がございますが、これにつきましては、大島郡等の農村整備事業関係の陳情とか、そういうものに使われるための協議会の負担金であります。

内訳としましては、各市町村の均等割りが10万円であります。その市町村の農業農村整備事業費の0.03%が均等割りとなっております。合わせて43万3,000円となっております。

同じく負担金の下のほうに、県営事業の特別賦課金が84万3,000円ございますが、これは土改連に対する畑総事業をしたところの賦課金であります。これは、一地区当たりの事業費でこれも算出されておまして、伊仙町の来年度の予算につきましては84万3,000円となっております。

その次の農道台帳特別賦課金につきましては、農道台帳を土改連が管理しております。

その管理するための町の負担金であります。これは農道の延長で決まっております。

その次が徳之島地域農業総合対策推進協議会費でございますが、これは主に徳之島用水関連の陳情、その他事業推進にかかるもので3町で負担しております。これも均等割りと面積割りがございます。

開きまして、事業費の明細の56ページでございますが、これは農地・水保全管理対策事業の町の負担金でございますが、これは今、伊仙町に農地・水の組織が7組織ございます。

東部から阿権までありまして、全体事業費の25%が町負担となっておりますので、その町負担分がここに計上されております。これで活動しているのは、主に土地改良を終わったところの農道、水路、沈砂池の維持管理をしていただいております。

その次、伊仙町の土地改良区の補助金でございますが、これは伊仙中部地区と東部地区の畑総事業の土地改良区の運営の補助金であります。200万円となっております。

その次の徳之島用水土地改良区の負担金につきましては、27年度から運営が開始されます土地改良区に対する、今準備段階なんですけど、そこに対する負担金でございます。

続きまして、2目の特定地域振興生産基盤整備事業でございますが、本年度予算が7,985万円となっております。前年度比較をしますと、1,228万5,000円の減額となっておりますが、これは大きく言いますと畑総事業の減であります。ちょうど今年が事業のはざまになっておまして、来年度以降、これが1億円から1億5,000万円程度、ちょっと増えてくるものと考えております。

事業費の明細の56ページの特定地域のところの説明をしますが、ここの賃金で、使用料及び賃借料、原材料費につきましては、農道、水路、その他のり面の雨とかで崩れた場合の補修をする予算でございます。これは去年と大体同額でございます。

負担金補助及び交付金がございますが、これにつきましては、土地改良事業の町の負担金でございます。右のほうの地区名が書いてありますが、第二面縄地区につきましては、本年度6haの事業を予定しております。喜念地区におきましては、区画整理と畑かん事業、合わせて15haの計画く予定をしております。

上晴地区と小島地区につきましては、区画整理事業が終了しております。換地処分と、その他補

完工の今予定で進めております。

第二阿権地区につきましても、もう事業が終了しましたので、換地処分と補完工を引き続き26年度も行ってまいります。

第一面縄地区一期地区につきましては、あと1ha、区画整理の残が残っておりますので、その1haの工事を予定しております。

第一面縄地区二期地区におきましては、25年度で区画整理が終了しましたので、こちらも換地処分と補完工事を予定しております。

その下の第二面縄一期地区におきましては、今のところ9haの区画整理を計画しております。

その次、農業農村整備事業実施計画負担金につきましては、これは糸木名地区の調査の負担金でございます。

その下、担い手支援型の畑かん町負担金につきましては、本年度から始まります木之香、阿権地区の町の負担金でございます。

次は予算書の61ページ、3目の経営体促進事業費でございますが、これにつきましても事業費の明細の56ページのところにございます。

これにつきましては、畑総事業、土地改良を事業を行ったところの農地の集積を行っていかねばいけませんので、委託関係、ハーベスターとか、農地の貸し借りの事業実績をつくっていく、その資料作成の事務賃金でございます。

こちらにつきましては、国の補助分がありますので、事業費の明細の18ページをお開きください。18ページの14県支出金のところに経営体促進事業の県の補助金があります。これは県から50%、残りは町から50%、合わせて120万円で事業を進めているところであります。

続きまして、ダム管理費でございますが、これにつきましては例年通りでございます。

大きなものとしましては、中部ダムの燃料費、電気代、各種修繕費となっております。

ダム管理費の13の委託料が出ておりますが、これにつきましては、ダムの高圧電源の業務委託料と浄化槽の管理委託料、テレメーターの補修、業務委託と書いてあるんですけど、これにつきましては、ダムの計器の保守点検を年2回行っております。その委託料でございます。

続きまして、農地・水保全交付金なんですが、先ほど出てきたやつの事務費に当たるものでございます。これにつきましては、研修会が年1回ございますので、その研修会旅費が1回の旅費が組んであります。あと事務用品費と燃料代を組んでございます。18万1,000円でございます。

この歳入につきましては、事業費の明細の22ページに出ております。

22ページの雑入のところに、事務費につきましては、県から100%の補助をいただいております。

続きまして、農山村活性化プロジェクト事業費でございますが、この活性化プロジェクト事業というのは、平成28年度の糸木名地区の新規事業の計画書を作成するための委託料であります。

これにつきましても歳入の13ページに出てきますが、国から6割の補助がございます。

耕地課関係は、ざっと以上のところでございます。地籍調査のほうに。

○耕地課（地籍調査室）（樺山満則君）

続きますして、地籍調査事業の歳入のほうからご説明いたします。

予算書18ページ、14款県支出金、2項県補助金4目農林水産業費県補助金3節農地費補助金として、地区調査事業費補助金937万5,000円を計上しております。

歳出、61、62ページの5農林水産業費2農地費7地籍調査事業費として、本年度は3,077万5,000円、前年度比較45万6,000円の増額になっております。

主な内容といたしまして、13節の委託に509万5,000円。今年度、伊仙地区県道から下のほうと、今現在やっている馬根と両方で筆数にして、伊仙が400筆以上あります。それで、ちょっと前年度より100万円ぐらい増えています。

18節の備品購入費ですけど、備品購入費として24万円。これは、チェーンソー1台、草刈り機2台の購入予定で計上しました。あと公用車購入費として130万円。現在、2台の公用車があるんですけども、1台は今月で廃車になるものですから、1台じゃちょっと無理なもので、現場が2カ所でちょっと無理なので、1台購入予定で計上しました。

以上です。地籍調査事業の説明を終了いたします。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまの説明において、さらに詳しく説明を聞きたい節等があれば、これを許します。

○3番（牧 徳久君）

糸木名地区ですが、面積含めて中央線がありますよね。中央線から山手側だけなのか、海岸、亀津に向かって右手含めて。

○耕地課長（穂 浩一君）

中央線から右手側にも若干ございます。

面積は10町歩程度じゃないかなと思うんですけど、全体で70町歩で、もうそのあたりは多分10町歩ぐらいだったと思いますが、また、それはまた後でお調べして。

○3番（牧 徳久君）

中央線から右手側では、海岸含めて70町歩か。

○耕地課長（穂 浩一君）

そうです。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

じゃあそれは後で資料を提出してください。

○耕地課長（穂 浩一君）

はい。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他にございませんか。

○4番（上木千恵造君）

ちょっと伊仙地区、県道から下のほうの点で尋ねたい、この役場周辺の整備。

○耕地課長（穂 浩一君）

県道を拡張したときに、ちょっと漏れた字の一部と、漏れた字、それを今回、上げています。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他にございませんか。

では、次の説明に移ります。ありがとうございました。ありがとうございました。

○建設課長（中熊俊也君）

建設課の説明をいたしますが、私とあと2人で説明しますが、ぜひ自己紹介したいって言うんで、自己紹介で名前をお願いいたします。

○建設課（久保 等君）

建設課で課長補佐をしています、久保 等といいます。よろしくお願いします。

○建設課（増 英介君）

建設課で係長をしています、増 英介です。よろしくお願いします。

○建設課長（中熊俊也君）

それじゃ、座って説明します。よろしくお願いします。

まず、皆さん、ご存じだと思いますが、建設課は町道の管理、あと公営住宅の管理、あと港の管理していますが、町道は町道台帳に基づいて管理しており、住宅関係の建てかえやら、また、古いのを壊したりでそういうのは、伊仙町公営住宅等長寿命化計画、これに基づいて行われていますが、この策定は、県から2人、副町長を策定委員の会長として、県庁から1人、大島徳之島事務所から1人、あと総務課長、企画課長、保健福祉課長、建設課長とあと総務課の補佐、この8人で作成されております。

それでは、説明に入っていきます。

予算書の66ページ、事業明細書は61ページから順次、目を通していただきたいと思います。

7款土木費1項土木管理費1目土木総務費、本年予算が4,107万4,000円、前年4,537万7,000円、対前年比較が430万3,000円減額になっています。

あと、財源の内訳は増がして、あと、明細説明は補佐がしますんで、交互にお願いしますんで、よろしくお願いします。

○建設課（増 英介君）

財源の内訳としましては、一般財源が4,107万4,000円です。

○建設課（久保 等君）

節の説明をいたします。

2、3、4は飛ばしまして、旅費、普通旅費が33万6,000円。

11、需用費、消耗品費20万、食糧費、これは災害査定時の食糧費となります。これが3万。

あと燃料費10万8,000円、修繕費、公用車等の修繕時の計上です、これが20万。あと車検整備費

としまして30万、11、需用費計が83万8,000円です。

12、役務費、電話料、これは電話料と業務用の携帯電話、これが3台分です、22万2,000円、あとインターネット通話料1万8,000円、公用車保険料1万8,000円、役務費総額25万8,000円です。

18、備品購入費150万、これは今現在、支出している、使用している1tダンプがありますけど、これが、もうあと2年、車検を受けて1年もたないだろうということで、公用車の購入費、軽トラックのダンプ150万円を計上してあります。

19、負担金補助及び交付金、電子入札システム共同利用負担金19万6,000円、縣市町村社会基盤整備推進協議会負担金3万、19の合計が22万6,000円です。この電子入札システム共同利用の負担金は、今年度からまた電子印刷化する予定ですので、この金額、計上してあります。

あと、27、公課費、公用車の重量税が3万6,000円です。

○建設課長（中熊俊也君）

続きまして、7款土木費2項道路橋梁費1目過疎対策事業費、本年度予算が1,540万、前年度予算2,050万、比較510万円が減額になっています。

○建設課（増 英介君）

財源の内訳としましては、地方債1,540万円です。

○建設課（久保 等君）

節の説明をいたします。

11、需用費、コピー代40万。

15、工事請負費1,500万、この工事請負費が今、25年度もしました中伊仙線の続きでございます。

○建設課長（中熊俊也君）

続きまして、2目辺地対策事業費、これは設定のみであります。

3、道路維持費、本年度2,176万7,000円、前年度677万4,000円、比較1,499万3,000円が増額になっております。

○建設課（増 英介君）

財源内訳としましては、その他1,501万円、一般財源が675万7,000円です。

○建設課（久保 等君）

地域の元気臨時交付金基金繰入金の活用です。

節の説明をします。

賃金100万、これは町道補修維持の人夫賃金です。

11、需用費66万5,000円、これは建設課全般の燃料費となっています。

13、委託費300万円、これ、測量設計委託なんですけど、先ほどの事業を利用しまして、15の工事請負費に計上してあります1,200万円の工事をするための測量設計委託料となっています。

これが300万。

14、使用料及び賃借料、これは道路補修と道路維持のための重機借り上げ料です、これが250万。

先ほども申しましたが、15、工事請負費1,200万。

それから16、原材料費、町道補修時の材料代としまして250万、重機負担金補助及び交付金、大島地区の協会負担金1万8,000円、県建設技術協会負担金6万、九州地区用地対策連絡協議会負担金2万4,000円。19、合計が10万2,000円です。

○建設課長（中熊俊也君）

この事業の歳入が、元気臨時交付金基金利子が1万円、そして、地域の元気臨時交付金からの繰り入れが1,500万となっています。

続きまして、4目社会資本整備総合交付金、伊仙馬根線、本年度が4,111万1,000円、前年度2,078万4,000円、比較2,032万7,000円が増額になっています。

○建設課（増 英介君）

財源内訳としましては、国庫支出金2,800万円、地方債1,310万円、一般財源1万1,000円です。

○建設課（久保 等君）

4目の節を説明いたします。

旅費33万6,000円、委託料、測量業務委託です、これが300万。

14、使用料及び賃借料、土木積算システム使用料、この土木積算システムというのが、鹿児島県下統一された積算システムを使用している関係上、この使用料が発生しています。

これが6カ月分で77万5,000円。

15、工事請負費800万、伊仙馬根線の工事の800万です。

17、公有財産購入費300万、道路用地に使用する用地の購入です。

22、補償補填及び賠償金、工作物等補償費です。これは家屋と、あと電柱移転等の費用を計上してあります。これが2,600万。

○建設課長（中熊俊也君）

この事業の歳入が、国からの伊仙馬根線整備事業交付金が2,800万で、社会資本整備総合交付金事業費として地方債の1,310万を充てています。

次、5目社会資本整備総合交付金事業、第二西下線、本年度が6,154万1,000円、前年度1億994万2,000円、比較4,840万1,000円が減額になっています。

○建設課（増 英介君）

財源の内訳としましては、国庫支出金4,200万円、地方債1,910万円、一般財源44万1,000円です。

○建設課（久保 等君）

5目の節の説明をいたします。

賃金、事務賃金です、97万2,000円。

9の旅費、普通旅費、これ、職員の申請から報告までの旅費です、33万6,000円。

11、需用費、消耗品費3万、燃料費17万3,000円、合計、需用費20万3,000円。

12、役務費、通信運搬費、切手等3万。

15、工事請負費、第二西下線の工事費です、5,800万。

22、補償補填及び賠償金、工作物補償費、これが主に電柱移転の補償費となります。200万円。

○建設課長（中熊俊也君）

この事業の歳入が、国からの第二西下線整備事業交付金が4,200万円、社会資本整備総合交付金事業費としまして、事業費の地方債で充てている部分が1,910万円であります。

続きまして、第6目防災安全社会資本整備交付金事業、本年度が4,940万円、前年度ゼロ、比較4,940万円の増。

○建設課（増 英介君）

財源の内訳としましては、国庫支出金3,360万円、地方債1,580万円です。

○建設課（久保 等君）

節の説明をいたします。

9の旅費22万4,000円。

11、需用費、消耗品費12万7,000円、燃料費26万円、需用費計38万7,000円。

12、役務費、通信運搬費5万円、使用料及び賃借料、複写機のリース代です、63万9,000円。

工事請負費4,810万円を計上してあります。

○建設課長（中熊俊也君）

この事業の歳入は、国から道路整備事業交付金といたしまして3,360万円、防災安全社会資本整備交付金事業の地方債部分が1,580万円です。

続きまして、7目、同じく防災安全社会資本整備交付金事業、これは橋梁整備事業です。

本年度が2,022万4,000円、前年度ゼロ、比較が2,022万4,000円。

○建設課（増 英介君）

財源の内訳としましては、国庫支出金1,400万円、地方債620万円、一般財源2万4,000円です。

○建設課（久保 等君）

節の説明をいたします。

旅費が22万4,000円。

この事業の主なものとしまして、13の委託料になります。鹿浦にかかっている橋が、長寿命化の設計委託費の中で、もうもたないということで、これの建てかえに関する設計と、あと地質調査です。13、委託料、設計委託料1,350万、地質調査委託料650万、委託の計が2,000万です。

○建設課長（中熊俊也君）

この事業の歳入が、国から橋梁整備事業交付金といたしまして1,400万円、防災安全社会資本整備交付金事業の620万円を地方債で充てることを計画しています。

続きまして、7款土木費3項港湾費1目港湾管理費、本年度が21万2,000円、前年度が21万2,000円、比較ゼロであります。

○建設課（増 英介君）

財源の内訳は、一般財源21万2,000円です。

○建設課（久保 等君）

節を説明いたします。

9の旅費11万2,000円。

19、負担金補助及び交付金、全国港湾協会負担金5万円、県港湾協会負担金2万円、大島地区港湾協会負担金3万円。19の負担金補助及び交付金合計が10万円となっています。

○建設課長（中熊俊也君）

続きまして、同じく7土木費4項住宅費1目住宅管理費、本年度2,275万円、前年度が2,143万9,000円、比較131万1,000円の増になっています。

○建設課（増 英介君）

財源の内訳としましては、国庫支出金600万円、その他1,675万円です。

○建設課（久保 等君）

4項の住宅費の1、住宅管理費、中身といたしましては、ページは69ページ、明細書は63ページからなっていますので、明細書のほうも参考にさせていただきたいと思います。

節の説明をいたします。

4までの共済費は、総務課のほうで行って、7の賃金から説明をいたします。

7、賃金、人夫賃金、これは住宅の修繕等に係る人夫賃金です、100万。あと大工賃金99万、人夫賃金と大工賃金に分けてあるのは、人夫賃金のほうが8,000円、大工賃金のほうが9,000円で積算していますので、この計上になっています。賃金合わせて199万円。

11、需用費、消耗品費が10万円、燃料費5万4,000円、修繕費、住宅の修繕が250万。

11の需用費合計が265万4,000円。

12、役務費、通信運搬費20万、浄化槽検査手数料8万円、口座振替手数料1万、し尿処理費5万、産業廃棄物処理手数料75万円、火災保険料10万、裁判手数料としまして100万。

12の役務費の合計が219万円、計上しております。

13、委託料、白アリ駆除委託料が50万、公営住宅明け渡し訴訟弁護士委託料60万、委託の合計が110万円です。

14の使用料及び賃借料、重機借り上げ料90万。この重機借り上げ料の中に目手久の今、大久住宅が全て転居して空いていますので、そこの取り壊し等が主な中身です、これが90万円。

16、原材料費、これが補修等の材料費となります。270万円。

負担金補助及び交付金、建築住宅行政連絡協議会負担金2万9,000円となっております。

○建設課長（中熊俊也君）

この事業の歳入が、公営住宅使用料といたしまして、使用料の中から1,675万円で、国のほうから公的賃貸住宅家賃低廉化事業費といたしまして600万ほどあります。

続きまして、2目馬根住宅団地建設事業費、本年度1億630万円、前年度772万8,000円、比較

9,857万2,000円。

○建設課（増 英介君）

財源の内訳としましては、国庫支出金4,140万円、地方債は6,490万円です。

○建設課（久保 等君）

それぞれ住宅費の目、馬根団地住宅費についての節の説明をします。

旅費としまして68万4,000円。

11、需用費、消耗品費39万円、旅費8万7,000円、コピー代30万円、需用費計77万7,000円。

12、役務費、通信運搬費5万円、設計性能評価、申請手数料、これは馬根団地のものです、20万円、役務費の合計25万円。

13、委託料、工事管理委託料350万。

14、使用料及び賃借料、コピー機リース料31万4,000円、それから土木積算システム使用料、これは先ほど土木費の中にも出てきましたシステム使用料の6カ月分です、77万5,000円、14の合計が108万9,000円。

15、工事請負費1億、これは馬根団地5棟の5棟建て、1棟建てを5つつくるっていう計画です、これが1億円です。

○建設課長（中熊俊也君）

この事業の歳入が、国からの公営住宅等整備事業費ということで4,140万円、それと地方債といたしまして、公営住宅建設事業費として地方債で充てています。

続きまして、同じく土木費の5項公園費、1目都市公園等統合事業費、本年1,000円、前年度1億260万円、比較1億259万9,000円。

○建設課（増 英介君）

財源の内訳としましては、一般財源整備です。

○建設課（久保 等君）

科目設定。

○建設課長（中熊俊也君）

それ、今、科目設定のみになっています。

続きまして、予算書91ページ、事業明細書82ページをお願いします。

10款災害復旧費2項公共土木施設災害復旧費1目公共土木施設災害査定費、本年度51万6,000円、前年度51万6,000円、比較ゼロであります。

○建設課（増 英介君）

財源の内訳としましては、一般財源51万6,000円です。

○建設課（久保 等君）

それでは節の説明をいたします。

7、賃金16万、災害査定時の伐採等の人夫賃金です。

9、旅費5万6,000円。

14、使用料及び賃借料30万円、これは重機借り上げの費用を計上しております。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

7款の詳細の資料を求める方はいらっしゃいませんか。

○3番（牧 徳久君）

この防災安全社会資本交付金事業を含めて、こういう請負の路線名、あとで資料でもいいですけど、その他の工事請負の全路線、お願いしたいと思います。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

よろしいですか。

○建設課長（中熊俊也君）

はい、じゃあ、後ほど提出いたします。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他にはございませんか。

○5番（美山 保君）

同じく交付金ですけども、これは5の社会資本整備交付金事業、第二西下線、これについては、昨年は1億994万2,000円ですけども、6,154万1,000円になっていると、減額が4,840万1,000円、なっているんですけども、なぜこうなったのか説明ください。

○建設課（久保 等君）

この4目と5目は関連事業でありまして、あと一気に26年度で完済できる見込みがなくて、一応、27年度の完了交付でありますので、その分で分けて、また、伊仙馬根にもその分の計上をしてあるわけです。

○5番（美山 保君）

昨日、この現地を行って見ていますけども、やっぱり距離がかなりまだ残っているんですね。そうした場合、1年、2年で終わるものじゃない。まあ二、三年かかる、そういうことから見たら、減額する事態が欲しいと、これをなぜ、そのようなことになったのか、もう一回、お願いします。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ちょっといいですか。その答えは質疑のときに答えさせますので。

建設課として、その答えられるように準備しとってください。

他にはございませんか。

○4番（上木千恵造君）

4の社会資本整備の一部補償補填及び賠償金、もし場所を差し支えなければ教えていただければ助かるんですが、2,600万の。

○建設課（久保 等君）

ああ、それも準備して。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他にはありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

なければ、次の説明に移らせていただきます。ありがとうございました。

それでは、歳入について税務課のほうで説明をお願いいたします。

○税務課長（樺山正二君）

すみません。改めまして、税務課から歳入についてご説明をさせていただきます。

予算書の12ページ、明細書の6ページをお願いします。

まず、款1町税項1町民税目1個人、現年度分、滞納分、それぞれ計上してあります。

この分で比較をして、900万余りの差額がプラスで出ています。このことに関しましては、東日本大震災からの復興や防災の施策に要する費用の財源を確保するための臨時措置として、平成26年度から町民税の均等割額に、復興特別税として500円が加算されます。

この関係上と、あと、実際に平成23年度分、平成24年度分の実績と、平成25年度分の今現在の見込み額等を勘案して、数字のほうを計上して、この金額を上げてあります。

それから、この個人住民税っていうのは、明細のほうにも均等割と所得割というのに分かれています。所得割っていうのは、普通の所得税というのがありますが、所得税と同じように所得を計算しまして、それに10%を掛けた分で、県税として4%、町税として6%を掛けて計算をされているようです。

均等割につきましては、所得の額もありますが、誰に対しても均一にかかるっていうことで、均等割っていうふうになっているようです。これが、1人に対して3,000円かかるものが、今度、大震災の恒常的なものとして10年間、500円を上乗せして、3,000円から3,500円に上がるということのようです。

続きまして、法人税に関しましては、85万4,000円、前年度よりアップしています。

これに関しても、23、24、それから今年度分を勘案して、これだけの数字は予算として計上しても歳入が見込めるという形で計上してあります。

あと、固定資産税に関しては、マイナス300万余りになっています。これも同じように、23、24、25年の途中の見込みまでの分を勘案して上げていることと、これは滞納額が、滞納繰り越し分が、前年度が800万ぐらい計上されていた分が300万に落としてあるということと、もう税務課の努力のかがあってだと思うんですが、現年度分が現年度中のうちに配慮になっていまして、滞納額が少なくなってきたという形のようなようです。

その次の国有資産等所在市町村交付金、これは国や都道府県等地方公共団体が、前年の3月31日現在で所有する固定資産のうち、使用実態が民間所有のものと類似しているものについて、地方税法で定める固定資産税のかわりに交付される交付金で、これがこの金額は見込まれるっていうこと

で計上してあります。

その次の市町村たばこ税、これも増額でなっています。これも25年度分から県に入るたばこ税が、町のほうに入るようになっていまして、平成25年度分から1本当たり4円、4.618円だった分が、1本当たり5.262円に町に入る分が多くなっています。この関係上、こんだけの予算が見込まれるってことで、市町村たばこ税も、この金額で上げてあります。

一応、それと、あともう一つ、予算書の19ページ、款14、真ん中です。

県支出金、項3県委託金、目1総務費県委託金、それから節1県税出張委託金、これについて説明いたします。

住民税っていうのは、県と町と両方の分を合わせて県町民税と住民税と呼んでいます。

その関係上、県税も町のほうで集めているということで、住民税の中に県税も含まれていますんで、その県税を徴収するっていうことで、県税徴収委託金という形でこの県税徴収委託金が入ってくるということで、このように県の委託金として記述をしてあります。

以上であります。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまの説明において、さらに詳しい説明を聞きたいこと等があれば、これを許します。

ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

では、ここでしばらく休憩いたします。

休憩 午後 4時38分

再開 午後 4時39分

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

休憩前に申し上げた歳入の説明につきましては、明日の委員会において説明をお願いいたします。

お諮りします。3月19日に予定されております現地調査視察については、手元に配付された資料のとおりとし、別紙委員派遣承認要求書を議長宛に行ってもよろしいでしょうか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

異議なしと認めます。したがって、委員派遣承認要求書を提出することに決定しました。

本日は、これで会議を閉じて、3月18日午前10時から、平成26年度当初予算審査特別委員会を開きます。

これで本日は延会とします。

延 会 午後 4時40分

平成26年第 1 回伊仙町議会定例会

第 5 日

平成26年 3 月18日

平成26年第1回伊仙町議会定例会議事日程（第5号）

平成26年3月18日（火曜日） 午前10時 開議

1. 議事日程（第5号）

○日程第1 平成26年度伊仙町一般会計予算他6特別会計当初予算審査特別委員会

1. 出席議員（14名）

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	平博人君	2番	岡林剛也君
3番	牧徳久君	4番	上木千恵造君
5番	美山保君	6番	永田誠君
7番	福留達也君	8番	前徹志君
9番	明石秀雄君	10番	樺山一君
11番	永岡良一君	12番	伊藤一弘君
13番	琉理人君	14番	美島盛秀君

1. 欠席議員（0名）

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長 明勝良君 事務局係長 佐平勝秀君

1. 説明のため出席した者の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町長	大久保明君	副町長	欠席
総務課長	樺山誠君	企画課長	池田俊博君
税務課長	椛山正二君	町民生活課長	西吉広君
保健福祉課長	松田一郎君	経済課長	上木義一君
建設課長	中熊俊也君	耕地課長	穂浩一君
環境課長	益一男君	水道課長	芳田勇人君
選管書記長	佐平浩則君	農委事務局長	益岡稔君
教育長	茂岡勲君	教委総務課長	鶴永宏造君
社会教育課長	當吉郎君	学給センター所長	永島均君
ほーらい館長	仲武美君		
総務課長補佐	田島輝久君		

（委員会による説明者）

説明員：社会教育課 稲田良和君・新里亮人君

保健福祉課 幸孝一君・元原克也君・喜村直喜君・福司銀二郎君

保健センター 澤佐和子君

水道課 春島弘明君・徳永正大君

議会中継班（総括 情報戦略室長 関政樹君）

(終日) 上木雄太君・野島幸一郎君・清水隆也君

～平成26年度伊仙町一般会計予算他6特別会計当初予算審査特別委員会～

△開 会（開議） 午前10時00分

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまから本日の会議を開きます。資料が提出されてますので、まず、提出者の資料の説明をお願いいたします。

○耕地課長（穂 浩一君）

おはようございます。昨日の牧議員のご質問でありました糸木名地区の図面をお配りしております。

上下に走っている道が、これは県道でございます。東西に走っているのが、これは亀津に行く中央線の部分でございます。真ん中に赤く塗っているところが、みのる建設のガソリンスタンドのある場所でございます。ちょっと上のほうにあるのが糸木名小学校の部分でございます。

きのう、牧議員のご質問にありました、中央線より南側の部分につきましては、森山哲久さんのお宅がございますが、そのあたり一帯の畑地を、現在予定しております。

糸木名地区、当初62haだったんですが、西部ダム側のほうにつきましては、養殖場やハウスが絡んでたり、また、一番の問題でありました湧水、ちょっと水持ちがいいもんですから、用水事業はここにはちょっと入れるには反対者が多いということで、その部分を今のところ除外して計画を立てて、44haで区画整理を計画をしております。28年度新規です。

区画整理を44ha、合わせて国営の犬田布団地、八重竿団地の畑かん施設も含めまして、畑かんにつきましては103haを、現在申請を予定しているところであります。

以上で終わります。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

よろしいですか。じゃ会議に入ります。

日程は、平成26年度伊仙町一般会計予算及び6特別会計予算審査を行います。

一般会計予算における歳入の説明をお願いします。

○総務課長（樺山 誠君）

予算書の12ページをお願いします。あと、明細書の7ページをお願いします。

明細書の7ページで説明をしまいたいと思います。

2款地方譲与税、地方譲与税っていうのは、自動車重量税と特別とん譲与税、航空機燃料譲与税、地方揮発油譲与税というのがございまして、本町にかかわるものに関しましては、自動車重量譲与税と地方揮発油譲与税でございます。

まず初めに、1節の地方揮発油譲与税に関してご説明をします。この揮発油譲与税っていうのは、備考の欄に説明をしておりますけども、自動車重量税の4分の1を市町村に譲与するものであります。当該市町村の道路台帳に記載されてる道路の延長あるいは面積で配分をするものであります。これが2,558万円計上されております。

地方譲与税の中の自動車重量譲与税でございますけども、どういう性質のものかといいますと、自動車重量税の4分の1を市町村に譲与する。これも同じように、地方揮発油税と同じような性格で配分をされるものでございます。

これに関しましては、道路の新設、改良、維持、管理経費等に使われるものでございます。

3款利子割交付金1項利子割交付金1目利子割交付金1節の利子割交付金でございますけども、この利子割交付金というものは、預金利息の5%が税収として入るわけですが、これの大体5分の3相当額を案分で配分されるものでございます。これが36万8,000円計上されております。

4款配当割交付金、配当割交付金というのは、株式等の配当にかかわる税収を各市町村に交付するものでございます。これに関しましては24万3,000円を計上してございます。

5款株式等譲渡所得割交付金に関しましては、目的のところなんですけども、所得税において源泉徴収を選択した特定口座における上場株式等の譲渡の対価分を集め配当するという、平たく言えば、株式の譲渡に関する市町村への交付ということになります。

これは1,000円を計上してあります。

地方消費税交付金でございますけども、消費税8%のうち、そのうちの1.7%が地方消費税として県に入ります。県に入った1.7%の2分の1を、国調人口あるいは従事者等の数によって案分をして市町村へ交付される分でございます。これに関しましては4,441万2,000円を計上してございます。

7款自動車取得税交付でございますけども、自動車取得税交付金においては、自動車の取得にかかわる課税において、これを市町村に交付するものでございます。これは610万円を計上してございます。8%になった段階での減税措置がございますので、昨年等と比較して半減になってるということでございます。

8款地方特別交付金に関しましては、恒久的な減税措置を国のほうでしているわけでございますけれども、これの地方税の減収分を補填していただけるということでございます。

地方税の減少分に対する補填というふうに考えてもらえば結構だと思います。これを1,000円計上してございます。

地方交付税に関しましては29億3,504万1,000円を計上してございますけども、これに関しましては、所得税、法人税、酒税、消費税、たばこ税、国税5税の収入額の一定率を総額として、地方公共団体に財源不足分を交付するものでございます。

10款交通安全対策特別交付金というのは、交通違反による反則金の納付に関して市町村に案分で配分されるものでございます。これを160万円計上してございます。

続きまして、23ページ、お開きください。

一緒に下の段、20款町債に関して説明をいたします。町債に関しましては、過疎対策事業債、これに関しましては、下に一覧表がございますけども、まず、町単独で行ってる事業、補助事業じゃない部分に関して少し説明をしていきたいと思っております。

1 節の奄美群島振興開発調査等事業負担金、これの分の町負担分をこの事業債を充てようということでございます。これが説明のところの330万円ということでございます。

まずは町単独事業に関してご説明していきます。あと2 節の民生債の子育て支援事業に関しましては640万円、過疎対策事業債で充てるということでございます。同じく敬老祝金事業、その下のシルバーセンター運営補助事業も一緒に、この過疎債を充てるということでございます。

あと、3 節の産科医師確保支援事業、これに関しましても、町単独事業で充てるということでございます。4 の農林水産事業に関しましては、優良素牛の保留事業を行っております。

5 節の商工債に関しましては、プレミアム付商品券の発行事業費に充ててございます。

今申し上げたのが町単独でしてる事業で、あと事業名の中に、今述べなかった事業に関しては補助の市町村負担分に関して過疎事業債を充ててるということでございます。

過疎事業債に関しましては、後ほど、70%が国から交付税措置で返ってくるということでございます。

あと30%が町の丸々の持ち出しということになります。

その下の20節の町債の2 目の辺地対策事業債におきましては、土木債ということで、町道伊仙馬根線と、町道第二西下線の町の負担分に関しまして、辺地対策事業債を充ててるということでございます。辺地対策事業債におきましては80%が国より交付税として措置されるということで、20%が町の持ち出しということでございます。

数字に関しましては、後ほど目を通していただきたいと思います。

あと、町債の公営住宅施設整備事業債は家賃の収入が入る関係で交付税の措置というのがございません。これは、公営住宅の馬根団地の建設に伴う一般財源の不足分に関して充当する分でございます。

あと、下の4 目の臨時財政対策債というのは、地方一般財源の不足によりまして対処される臨時財政対策債というのが起こされますけれども、国から一時的に、地方交付税の足りない分に関して借り入れを行うということで、元金の100%が交付税として、また後ほど交付されるということでございます。これに係る利子に関しては町の持ち出しということになっております。元利とも交付税ということでございます。

以上、総務課の分の歳入に関してご説明しました。よろしく願いいたします。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまの説明において、さらに詳しい説明を求める、目、節等はございませんか。
ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他になかったら、他に歳入における説明不足は。

○保健福祉課長（松田一郎君）

歳入について、保健福祉課からご説明いたします。

予算書の14ページ、お開きください。事業明細書については9ページの上の方に書いてございます。

まず、11款分担金及び負担金2項負担金1目民生費負担金の中の1節老人福祉費負担金ということで、527万3,000円を措置してございます。これは、徳之島老人ホームの入所者の負担分ということで、65歳以上の者を入所させ養護するものに係る費用でございます。

今現在32名の方が入所してございます。伊仙町の定員枠というのは30名でございますけれども、天城町のほうから入所者がいないということで、その分、待機されている方を2名ほど優先的に入れてございます。今後、またやっぱりあるべき姿の30名に戻す予定ではございますけれども、状況を見ながら判断していきたいと思っております。

これが、昨年度対比26.3%、一応減となっております。約2名ほどの減になっておりますけれども、増えればまた補正等で対応していきたいと思っております。

続きまして、2目の衛生費負担金1節の保健衛生負担金ということで、健診個人負担金としてございます。明細書の9ページに書いてございますけれども、胃がん検診個人負担金他13疾病種類に係る負担金でございます。464万6,000円ということでございます。

次のページ、予算書の15ページ。

13款国庫支出金1項国庫負担金1目民生国庫負担金、これは事業費の明細書では11ページに書いてございます。11ページの中ほどに書いてありますけれども、国民健康保険基盤安定負担金ということで、対前年度比4.6%減の315万5,000円、障害者自立支援給付費等負担金、昨年度対比で24.5%の増額、7,500万です。同じく障害者自立支援医療給付費負担金、対前年度比58.8%増額されておまして、675万ということで、合計で8,490万5,000円ということになっております。

これは、国庫と県費がございまして、国のほうの割合が、国民健康安定基盤の中では4分の1、県2分の1、町4分の1となっております。障害者の自立支援給付費については、国庫については2分の1ということでございます。あと、県からも負担がありますけれども、県のほうでは4分の1となっております。

次のページの、予算書の16ページ、明細書では12ページであります。

13款国庫支出金2項国庫補助金1目民生費国庫補助金ということで、1節社会福祉補助金、地域生活支援事業補助金ということで、これは昨年度対比同額でございます。

今回、新たに、消費税の増税に伴う国庫ということで、臨時福祉給付金が5,181万円、臨時福祉給付金事務費として837万4,000円、これは新規事業ということでございます。

2目衛生費国庫補助金2節保健衛生費補助金、これは感染症予防の補助金でございまして、対前年度比18.2%増額の26万円となっているものでございます。事業明細書は12ページのところに書いてあるとおりでございます。

続きまして、次のページ、17ページをお開きください。明細書では14ページになります。

明細書の下段のほうでございますけども。

14款県支出金1項県負担金1目民生県負担金ということで、先ほど、国庫のほうでも説明ありましたとおり、県の負担割合によるものであります。中身は同じであります。

この中で、1節の社会福祉負担金の中で、重度心身障害者医療費補助金ということで、昨日のほうでも、担当のほうから、身障者手帳を持って、重度を持っている人については、医療費の返りがあるということでありまして、この分の事業費でございます。対前年度比増額なしで900万ということでございます。

次に、2節の老人福祉負担金ということで、後期高齢者医療特別会計基盤安定負担金ということで、対前年度比12.9%の増額で3,573万9,000円、後期高齢者の医療費も増えてきているという状況にございます。

次の14款県支出金2項の県補助金2目の民生費県補助金ということで、1節社会福祉補助金、同じく国の事業に伴う歳出その他のほうの県の補助金ということでございます。

地域生活支援事業費補助金、在宅者アドバイザー、ひとり親家庭医療費助成事業ということで、暮らし安全地域支える事業までの予算ということで、1,102万円ということで計上してございます。

2節の老人福祉補助金ということで、老人クラブの育成補助金ということで、昨年度対比2.2%増額しておりまして65万円となっております。介護保険の低所得者の利用者負担ということで、低所得者に対しては軽減措置があるということで、これの補助金ということで、対前年度比、大幅にアップしておりまして177.3%ということで6万1,000円の増額となっております。

3節の児童福祉補助金の中の地域少子化対策強化事業補助金ということで、新規事業でございます。これは100%補助金ということで、昨日のうちの補佐のほうから説明がございました、保育園とか、そういった方たちの少子化対策につなげる地域の補助金ということで、今回要望してございます。647万6,000円ということで、新規の100%でございます。

3目衛生費県補助金ということで、2節保健衛生費補助金、健康増進事業補助金ということで書いてありますけども、事業明細書の17ページのほうに書いてございます。保健センターの事業費でございますけれども、健康増進事業補助金ということで、対前年度比4.7%減ということで151万3,000円、心の健康づくり事業補助金ということで、自殺対策とかいろいろ、最近の大きな問題になっておりますけれども、こういったことに対するフォローということであります。

一つのピークは過ぎたんですけども、一応相談事とか、そういったものに対しての事業がありましたけれども、この分については、対前年度比69.4%減額の24万5,000円としてございます。

離島地域不妊治療支援事業ということで、昨年度の当初にはなかったんですけども、補正ということで組んでおります。不妊治療に対する補助金ということで40万8,000円となっております。

事業負担割合については、事業の明細書に書いてございますとおり、県が2分の1、町が2分の1ということでございます。

あとは、先ほど総務課長が述べられた町債の中で過疎債を使った負担がでございます。

予算書23ページのところですけれども、過疎債、乳幼児医療費助成事業ということで190万、ひとり親医療費助成事業ということで100万、重度心身障害者医療費助成事業費ということで900万組んで、あとは先ほど総務課長が述べておりますので割愛させていただきます。

以上でございます。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまの説明において、さらに詳しい説明を求める目、節等はございませんか。

○13番（琉 理人君）

16ページ、款13の国庫支出金で、項2の国庫補助金の目1民生費国庫補助金、先ほどの説明をいただきました、節の2の児童福祉補助金の臨時で子育て支援に対する消費税の導入値上げということで説明を受けたんですが、伊仙町において、この対象者数は何名ぐらいおられるのか、それとまた、臨時的なというのは、今回限りなのか、どんなもんか。

○保健福祉課長（松田一郎君）

保健福祉課の管轄は、他の低所得者層でございますけれども、今の委員のおっしゃった2節については、町民生活課がやっておりますので、分担してまた答弁しますので、よろしくお願ひしたいと思います。

子育てについては、町民生活のほうで分けて行います。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

よろしいですか。他に、歳入における説明不足はございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○町民生活課長（西 吉広君）

それでは、町民生活課の歳入のほうのご説明を申し上げます。

14ページをお開きください。明細書は9ページでございます。

11款分担金及び負担金2項負担金1目民生費負担金2節の私立保育所保育費負担金でございます。これは、保護者の保育料の負担分でございます。幸徳保育所が1,228万3,000円、わかば保育所が666万5,000円、伊仙保育所が681万円、広域入所者負担金が22万8,000円、その下のほうの、3節保育費負担金滞納繰越分です。これは5万円見ております。

続きまして、15ページ、お開きください、明細書のほうは10ページでございます。

12款使用料及び手数料2項手数料1目総務費手数料1節諸手数料、これは戸籍抄本とか住民票とかの手数料でございます。これは601万5,000円見込んでいます。

その下のほうです。13款国庫支出金1項国庫負担金1目民生費国庫負担金2節の児童福祉負担金、これは、私立保育所への児童措置費でございます。これは国のほうから2分の1、1億113万円でございます。

3節の児童手当負担金、これは児童手当の負担金でございます。7,839万2,000円でございます。

16ページをお開きください。明細書のほうは12ページでございます。

13款国庫支出金2項国庫補助金1目民生費国庫補助金2節児童福祉費補助金、これは、先ほどの子育て臨時給付金、国から100%出る分でございます。922万、下のほうの子育て臨時給付金の事務費が120万です。対象児童は今のところ確定しておりません。見込みも、今のところ922名です。

続きまして、17ページをお開きください。明細書のほうは14ページでございます。

13款国庫支出金3項国庫委託金1目総務費国庫委託金1節外国人登録事務委託金、これは中期在留者居住地届出等事務委託費でございます。これは国からの100%でございます。19万7,000円。

2目の民生費国庫委託金1節社会福祉委託金、国民年金事務費の交付金でございます。

265万円、これも国からの100%補助でございます。

14款県支出金1項県負担金1目民生費県負担金3節児童福祉負担金、これは、私立保育所、それから広域保育所の措置でございます。5,056万5,000円でございます。

4節児童手当負担金、これは児童手当負担金でございます。2,113万5,000円です。

14款県支出金2項県補助金2目民生費県補助金、18ページの3節児童福祉費補助金、放課後児童対策事業補助金60万、これは県のほうからいただきます。

その下の安心子ども基金総合対策事業補助金、これも県のほうから2分の1、町が2分の1支出する分でございます。

続きまして、19ページ、お開きください。明細書は19ページでございます。

14款県支出金3項県委託金1目総務費県委託金2節人口動態委託金、人口動態の調査の事務手数料でございます。1万3,000円であります。

町民生活課のほうの歳入は以上でございます。よろしくご審議ください。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまの説明において、さらに詳しい説明を求める、目、節等はございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

では、他に歳入における説明不足はございませんか。

次に、款9教育費からの補足説明を許します。

○教委総務課長（鶴永宏造君）

それから、教育委員会のほうを少し紹介したいと思いますが、教育委員会は、一昨年、平成24年の8月に、旧農業高校跡地に移転をいたしました。それで、昨年、平成25年の5月1日付で、鹿児島県のほうから譲与を受け、いわゆる無償譲渡を受けまして現在に至っているところであります。

明日は、現地視察等があるということを知っていますが、もう場所は決定しているようですが、次回は、教育委員会部局と歴史民俗資料館や学校給食センター、また、それぞれ学校施設等の視察をいただきまして、委員の皆さんのご指導、ご鞭撻を、またよろしくお願いを申し上げたいと思います。

それでは、座らせて、説明をさせていただきます。

それでは、予算書の71ページ、お願いします。事業費の明細につきましては65ページをお願いします。

9 款教育費 1 項教育総務費 1 目教育委員会費、本年度予算が213万6,000円で、前年度比9万7,000円の減となっております。

1 節報酬、教育委員長の報酬として月額3万9,000円を、12月分を計上してございます。

それと、教育委員として月額3万7,000円の1年分、3人分を計上してございます。

教育長の分につきましては、常勤でございますので、2 節の給料費に計上をしてございます。

次に、2 目事務局費、本年度5,609万9,000円、前年度より362万5,000円の増でございます。

これは人件費の増でございます。

主なものについてご説明をいたします。

7 節賃金、相談員賃金ですが、13万2,000円計上してございます。これは、心の教育相談員賃金ということで、月に2回程度、各小学校を巡回して、児童や保護者の相談にのる事業でございます。この他に、平成26年度は、県の事業で臨床心理士によるスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー事業が、県より内定の通知が来ていますので、次回の補正予算等で計上していきたいと思っております。

次に、図書司書の賃金ですが、これは昨年から実施をしています。各学校を巡回して、学校の図書室の整理をしていく事業でございます。

次に、8 節報償費の中で、一番下のほうに、教育委員会外部評価委員謝金8万円とありますが、これは、教育委員会のほうで、自分が担当している事業について各自で1次評価をしています。

その1次評価に対して、外部評価の皆さんが点検、評価をして5段階のランクをつけます。

そして、教育委員会で2次評価をして、5月の定例議会でこれを報告して、町のホームページで公表をしてるところでございます。これが外部評価委員の謝金でございます。

次に、73ページ、19節負担金補助及び交付金のところでございますが、一番下のところに、徳之島地区特別支援教育支援員負担金46万4,000円とありますが、これは大島養護学校が徳之島高校を活用して高等部の訪問教育を実施しています。それに支援員が1人ついておりますので、徳之島3町でこの負担金を支出しております。

次に、3 目外国人青年招致事業費についてでございます。本年度413万6,000円、前年度より46万8,000円の減になっておりますが、これはALTの赴任旅費の減でございます。この外国人青年招致事業は、今年で4年目になりますが、英語教科におきましては県平均以上の成績をおさめて、今安定しているところでございます。

次に、74ページ、1 目伊仙小学校管理費、それから2 目面縄小学校から、次のページの8 目阿権小学校管理費までありますが、共通の事業でございますので一括して説明をしたいと思います。

各小学校において、それぞれ需要費と備品購入費を計上されております。

この予算につきましては、それぞれの学校において、児童数に応じて予算配分をしてございます。

委員の皆様にお手元に、各小中学校の児童数を、これは新しい平成26年度の分です、配置してしますので、この人数に応じて予算配分をしてあります。

予算書の75ページ、9目学校管理費についてですが、本年度、4,132万2,000円、前年度と比較いたしまして271万6,000円の増額となっております。

これについて、まず歳入から説明いたします。歳入の20ページ、15款財産収入1項財産運用収入1目財産貸付収入で、1節土地建物貸付収入のところに、教員宿舍貸付収入小学校とありますが、この分の441万6,000円を計上してあります。

次に、21ページのところに、きばらでえ伊仙応援基金繰入金というのがあります。

これより200万円計上してございます。

それから、22ページの売電収入ですが、19款諸収入3項雑入1目雑入の6雑入に、一番下のほうですが売電収入48万円とありますが、これは伊仙小学校の太陽光発電による収入でございます。

歳出の主なものについてご説明いたします。

13節委託料に、パソコン設定委託料114万円とありますが、これは、次のページに、18節備品購入費、パソコン購入費として570万円購入してございます。このパソコン購入によって、それぞれパソコンの設定が必要ですので、その経費となります。

今年度、小学校におきましては、昨年に引き続き、教職員分と子供たち用に49台を予定しております。

それと、18節備品購入費に、町備品購入費150万円とありますが、これも昨年に引き続きまして机と椅子を購入するものであります。これは、A4サイズに対応するため、年次的にまた進めていきたいと思っております。

次に、10目教育振興費、本年度406万円で、前年度より127万円増額となっております。

今年度も、同学年ですが、理科算数設備備品購入費であるんですが、25年度は補正予算で計上していますので、この当初予算にはのっていません。

歳入について説明をいたします。

理科算数等備品購入費100万についてですが、歳入の16ページお願いします。

13款国庫支出金2項国庫補助金5目教育費国庫補助金1節小中学校費補助金のところに、理科算数教育設備等補助金として100万円計上してございます。

それから、20節扶助費ですが、要保護及び準要保護児童援助費でございます。これが114万円でございます。

そして、高度へき地修学旅行費として192万円計上してございます。この分について歳入のほうを説明したいと思っております。また16ページをお願いします。先ほどの5目教育費国庫補助金のところですが、1節小中学校費補助金のところで、高度へき地修学旅行小学校費補助金として89万6,000円を計上してございます。

続きまして、3項中学校費についてご説明をいたします。事業費の明細書については70ページと

なります。

この中学校の管理費につきましても、1目伊仙中学校管理費、2目面縄中学校管理費、3目犬田布中学校管理費、全て共通する事項ですので一括して説明をいたします。

需用費、備品購入費、これも先ほどの小学校と同じように、それぞれ各学校のほうで予算執行をしております。

次に、4目学校管理費について説明をいたします。本年度3,593万1,000円、238万6,000円の増となっております。

まず初めに、歳入のご説明をいたします。歳入の20ページをお願いいたします。

先ほどの小学校と一緒にですが、財産貸付収入のところで教員宿舍貸付収入として、中学校の分で240万円を計上しております。

主なものについて説明しますと、中学校におきましても、13委託料で、パソコン設定委託料69万円と18節備品購入費でパソコン購入と机、椅子の購入費で、備品購入費が507万4,000円となっております。

次に、5目教育振興費についてですが、本年度582万5,000円、前年度より144万円増でございます。

18節備品購入費、理科算数等設備備品購入費の100万円でございます。これは、どうして備品を購入するかということなんですが、それぞれ学校のほうで教材を購入していきます。

歳入といたしまして、16ページ、教育費国庫補助金の中に、小中学校費補助金の中に100万円のところ、中学校が50万計上されております。

それから、20扶助費のところですが、要保護及び準要保護生徒費補助費ということで114万、高度へき地修学旅行費として368万5,000円計上しております。

歳入といたしましては、高度へき地修学旅行費中学校費補助金で166万8,000円を計上をされております。

修学旅行につきましては、中学生が5万5,000円補助、先ほどの小学校のほうで3万2,000円の補助ということであります。

続きまして、予算書の80ページ、4項幼稚園費について説明をいたします。

1目伊仙幼稚園管理費から3目犬田布幼稚園管理費までは共通の予算として予算配分をしております。これも、園児数に応じて予算を計上しております。

4目幼稚園管理費、本年度が4,134万7,000円、前年度比で689万1,000円の増でございますが、これは人件費の増でございます。

主なものについて説明いたします。7節賃金ですが、預かり保育士賃金として210万円計上しております。子育て支援の一環として預かり保育を実施していますが、今年度も引き続き実施していきたいと思っております。

それから、次のページ、80ページですが、19節負担金補助及び交付金で、幼稚園奨励費41万円と

ありますが、これは、国が3分の1、町が3分の2事業で、私立幼稚園に行っている保護者の軽減を図るための措置でございます。

次に、ちょっとページが飛びますが、88ページ、お願いします。事業費の明細につきましては79ページです。

9款教育費6項保健体育費1目保健体育総務費でございますが、本年度401万9,000円、前年度より1万6,000円の減となっております。

歳入としたしまして、16ページお願いします。

13款国庫支出金2項国庫補助金5目の教育国庫補助金ですが、この中に4節保健体育費補助金として心臓検査事業補助金6万7,000円、それと医療費補助金として1万円が計上されております。

それと、19ページに、14款県支出金2項県補助金6目教育費補助金2節保健体育費補助金として地域ぐるみ学校安全体制推進事業費補助金として、19万2,000円が歳入として計上されております。

主なものについてご説明をいたします。

8節の報償費の中に、スクールガードリーダー活動謝金とありますが、これは、子供たちの登下校の安全の確認と通学路の安全点検ということで、各小学校月1回巡回をする事業でございます。

その他につきましては、各幼稚園、小学校、中学校の児童生徒の健康診断のための事業費でございます。

以上、教育委員会総務課関係の予算を説明いたしました。ご審議賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○社会教育課長（當 吉郎君）

こんにちは。社会教育課のほうは、私と稲田補佐と新里係長、3名で説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。座って説明をいたします。

まず、9款教育費5項社会教育費1目社会教育総務費から説明をさせていただきます。

本年度の予算6,475万4,000円、昨年度より1,171万3,000円増ということで計上されております。

主な内容としましては、まず、2節から4節の人件費に関しまして、約800万程度増額となっております。

それと、11節の需用費の中で、今まで社会教育課のほうで、旧農業高校の、今の教育委員庁舎の中の農高の体育館であったり、武道館あたりを社会教育課の体育のほうで借りていた関係上、社会体育のほうで、教育委員会サイドの光熱水費であったり、あるいは浄化槽等の管理料を組んでいたわけなんです。本年度より社会教育課の総務費で対応するということになりまして、光熱水費で265万、それと13節の委託料は、浄化槽が2つあるわけなんです。そちらの委託料を含んだ関係上、1,171万8,000円増額となっております。

あと、19節に負担金補助及び交付金ということで、社会教育関係の団体関係の協議会の運営の負担金であったり、あるいは町内の社会教育団体の補助、あるいは補助事業の補助金等を組み立てられているわけでありまして。

その中で、19節負担金関係の第3行目に、奄美大島社会教育振興会負担金32万1,000円計上してございますが、こちらは、地区内12市町村の社会教育を振興するための負担金でありまして、その中で会報等を作成して、各市町村に先進事例等を紹介して、各市町村の社会教育の振興に当たっているところであります。

そして、一番下の行、青少年育成交流推進事業費補助金110万円計上してございますが、こちらのほうは、毎年冬休みに、町内の4年生以上と中学生を募って、大分県の阿蘇九重スキー場って言われるところで、スキー体験を中心に鹿児島県の曾於市の子供たちと一緒に交流をして、大変有意義な事業を展開しているところであります。こちらの補助金が110万円となっております。

次に、83ページ、2目の公民館費であります。こちらのほうは、本年度1,455万9,000円ということで、昨年よりは406万8,000円少なく計上してございます。こちらのほうは、本年4月より、西公民館を指定管理者制度に移すということでありまして、主に人件費で約233万円、あと、西公民館関係の光熱水費であったり、維持管理等で約250万ほど少なく計上をしてございます。

かわりに、19節の国民文化祭準備委員会負担金ということで、平成27年度に、鹿児島県などで国民文化祭をすることになっておりまして、今年度は伊仙町内で行われる文化祭の企画委員会であったり、また実行委員会を開催し、27年度の国民文化祭に向けて、いろいろ準備をする関係上、83万2,000円を計上してございます。主に企画委員会あるいは実行委員会の費用であったり、あるいは先進地の視察等を行って、27年度に向けて対応をしていきたいと考えているところで。

次に、3目の文化費であります。こちらのほうは従来と変わらないような予算計上でございますのでお目通しをお願いしたいと思います。

次に、84ページ、4目の図書室運営費であります。こちらのほうは525万7,000円ということで、昨年度よりは158万9,000円ほど増額となっておりますが、内容としましては、7賃金のところが、昨年度は1名ほどの賃金が組まれてなかったんですが、本年度は2名、図書の司書の補助賃金ということで2名を組んでいただきまして増額となっております。

あとは、大きなものとしてしましては、13委託料、こちらのほうは、図書室の蔵書を、今システムのほうで管理しておりますが、そちらの保守管理委託料が115万3,000円、あと14節使用料及び賃借料の中で、図書館のセンターツールアイ使用料ということで、こちらは、パソコンのほうで最近では図書を購入予約、そういったことができるようなシステムになっておりまして、そちらのシステムの使用料でございます。

あと、歴民館と文化財関連につきましては新里のほうから説明をいたします。

○社会教育課（新里亮人君）

文化財関係、新里が説明させていただきます。

目で言いますと、5番歴史民俗資料館費、事業費明細で75ページになりますけれども、これにつきましては、従来どおり、歴史民俗資料館の維持管理及び展示品や展示パネル等の作成に関する予算を計上しております。これに関しては、前年度比3,000円アップということで、ほとんど変わり

ませんので、その辺のほうは割愛させていただきたいと思います。

続きまして、費目の9番、86ページの一番下段のほうになりますけれども、町内遺跡確認調査費という予算項目がございます。これにつきましては、文化庁と鹿児島県のほうの補助事業になりまして、町内における重要遺跡の確認及び民間企業の工事に関する文化財の試掘や確認調査を行うための事業費として計上しております。

前年度に比べますと、156万3,000円増額しております。これにつきましては、2007年から進めております面縄貝塚の調査成果を報告書にまとめるために、整理作業賃金を増額いたしまして、27年度刊行に向けて報告書を作成するというために事業費のほうを増額しております。

大きいもので言いますと、基本的には、遺跡の調査に関する労災保険、人件費、専門家への招聘の旅費、指導者への謝金、発掘関係の消耗品費及び重機の借り上げ料や分析の委託費ということになっております。

一番、14節の使用料及び賃借料というのが非常に額が大きいんですけれども、これに関しては、測量機器を借りたり、ユンボ、発掘の掘削及び埋め戻しに使用する重機を借りるためのリース料として76万3,000円を計上しております。

続きまして、10目カムイヤキ陶器窯跡等事業費というのがございます。これは、ページ数でいきますと87ページ、2段目の段になります。

これにつきましても、文化庁と県の補助事業になりまして、文化庁が半額、5割の100万円の補助、残りを伊仙町のほうが負担しながら、両者の予算内訳の中で事業を進めているところです。

これにつきましては、2008年2月に国の史跡になりましたカムイヤキ陶器窯跡を、今後整備に向けて、どこの土地を購入して公有化をするとか、保存関連に向けた計画を策定するための事業として計上しております。これにつきましては、国や県の職員の指導のための旅費及び消耗品費、これを受けまして、13節の委託料として報告書を作成すると、その委託料として48万円を計上しております。

歳入につきましては、16ページ下段のほう、5番の教育費国庫補助金のほうに、3番社会教育費補助金のほうに記入しております。

先ほど説明しました、9目の町内遺跡確認調査費の歳入が、国からが350万、カムイヤキ陶器窯跡の事業費が、国からが100万円、5割の補助となっております。

10目カムイヤキ陶器窯跡の事業費としましては、報告書を作成する委託料として48万円、これを各都道府県自治体に発送するための通信運搬費として88万円を計上しております。

11目のほうに説明を移らせていただきます。11目地域伝統文化総合活性化事業費として、411万1,000円を計上しております。これにつきましては、17ページ上段の3番、13款国庫支出金の3目教育費国庫委託金の中の330万、これが国の文化庁からの委託金の額となっております。

これにつきましては、前年度比585万2,000円減額になっておりますが、事業がおおむね佳境を迎えまして、次年度、過去5年分の調査成果を報告書を作成するために、報告書作成の委託料を60万

円計上しております。

これにつきましては、事業の中で、補助対象の節と対象外の節がございますので、対象外となる社会保険料やコピー機リース料等は町の負担として61万円を計上して、330万円の国からの委託金、これを合計して411万1,000円の額になるという計算式になります。

続きまして、12番徳之島文化遺産保存活用プロジェクト事業費、これにつきましては、事業予算項目で言うと17ページの地域振興、県のほうです。14款県支出金、1目総務費県補助金、うち2節の企画費補助金の地域振興推進事業補助金249万円の負担の中で事業を進めていくということになっております。

これは、徳之島を訪れた研究者個人で集めた伝統文化、島唄とか、地域の政、年中行事等の映像資料や写真記録がたくさん保管されておまして、それを町のほうに寄贈したいという申し出がございまして、それを県の地域振興事業費の中で予算をいただきまして、これを全てデジタルのアーカイブ化にすると、それをもちまして資料館のほうで一般の方にも公開をする、資料を保管して公開をするための事業になります。

これにつきましては、昨年度ではなく今年度から新しく作りました事業ですので、500万円の総額で事業費を計上しております。

文化財関係に関しては以上になります。

○社会教育課長補佐（稲田良和君）

続きまして、社会体育費のほうを説明したいと思います。

予算書85ページ、明細書76ページになります。

6目社会体育費、本年度1,459万8,000円、前年対比49万4,000円マイナスとなっております。

大まかなものとしまして、8の報償費、一番下の学校施設開放管理指導謝金としまして40万計上してあります。これにつきましては、小中学校の体育館等利用しまして、各団体に開放しているところがございます。25年度におきましては29団体が申請して活動しております。

19節負担金及び交付金ですけど、おおむねこれは、各市町村体育協会負担金として計上してあるものと、町体育協会補助金350万、これは、各団体遠征費及び活動費として計上してあります。

町スポーツ少年団育成補助金ですが、これにつきましては、地区の交歓大会出場の遠征費及び県の交歓大会出場の遠征費に150万計上してございます。

続きまして、予算書86ページ、事業明細書77ページ、7目生涯学習振興費でございます。

本年度169万2,000円、前年比較125万8,000円計上しております。これにつきましては、19節負担金補助及び交付金であります。26年度第15回地区生涯推進大会及び広域文化祭が伊仙町で行われます。

そのための補助金として150万計上してございます。

続きまして、8目義名山公園管理費、予算書86ページ、明細書77ページから78ページになります。本年度351万4,000円、前年対比較73万6,000円マイナスになっております。これにつきましては、

7節賃金、通常管理費と夜間管理の賃金を計上してございます。あと、昨年、体育館の増築に伴いまして、昨年備品購入として計上してありましたが、26年度は備品購入がないため、73万6,000円マイナスということになります。

以上で説明を終わります。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまの説明において、さらに詳しい説明を求める、目、節等はございませんか。

○3番（牧 徳久君）

87ページの島唄資料アーカイブ化、アーカイブ化ちゅうのは何するんですか。

○社会教育課（新里亮人君）

説明させていただきます。アーカイブ化といいますと、資料化という意味があると思うんですけども、今、録音機材が、昔のテープだとか、カセットテープとか、昔のカメラで撮った写真とかをきちんと、デジタルでパソコン上でも見れるようにするための事業になります。

これにつきましては、どれをやってはいけないということはないと思いますので、要望があればいくらかでも資料のほうは提供させていただきたいなというふうに思います。また企画の担当の人とも話し合いしたいと思いますので、よろしくをお願いします。唄も、あと映像も残ってますので。

○学給センター所長（永島 均君）

それでは、給食センターの運営について説明いたします。座って説明いたしますので、よろしくをお願いします。

歳入の22ページをごらんください。

19款諸収入4項受託事業収入1目受託事業収入2節製パン加工賃334万であります、これは各小中学校の児童生徒の主食のパンとご飯の1年間の加工賃であります。

歳出のほうを説明いたします。89ページをごらんください。

主なものを拾い上げて説明いたします。

9款教育費6項保健体育費2目給食センター運営費、本年度5,127万9,000円、前年度5,135万4,000円、比較7万5,000円の減となっております。

90ページの14節使用料及び賃借料、重機借り上げ料であります、これは台風時の停電に備えての借り上げ料の10万円であります。

その下、準要保護児童生徒給食費補助金、これは、準要保護児童生徒に給食費の8割を補助するものであります。175万8,000円。その下のへき地学校給食物資供給事業補助金、これは、パン及び米飯その他の添加物を補助するものであります。1,268万4,000円。

3目のパン工場運営費873万7,000円、この財源内訳の中の148万7,000円が製パン加工費と、185万3,000円が米飯加工費、先ほどの歳入の22ページの製パン等米飯加工賃というふうになっております。

以上です。ご審議のほどよろしくをお願いします。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまの説明において、さらに詳しい説明を求める、目、節等はありませんか、教育費を含めて。ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

それでは、款10。

○耕地課長（穂 浩一君）

それでは、耕地課関係の10款災害復旧関係の説明をいたします。

予算書の90ページであります。明細書は82ページになります。

10款1項1目農林水産施設災害査定費でございますが、賃金が32万円、旅費が11万2,000円、重機借り上げ料が5,000円、あとは工事請負費が1,000円出しておりますが、これは、災害が発生した場合、その復旧場所の伐採賃金及び仮復旧をするための重機借り上げの予算でございます。

旅費につきましては、国に災害申請をするときの旅費でございます。

以上です。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

さらに詳しい説明を求める、目、節等はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○建設課長（中熊俊也君）

続きまして、建設課のほうの災害復旧費、10款災害復旧費2項公共土木施設災害復旧費、すいません、91ページです、予算書。そして事業明細書が82ページお願いいたします。

1目公共土木施設災害査定費、本年度が51万6,000円ですが、前年度と同額であります。

内訳といたしまして、賃金が16万円、これは先ほど耕地課からもありましたように伐採賃金です。次が旅費、これは災害前の勉強会やら、災害時の打ち合わせ等の出張旅費であります。

続きまして、使用料及び賃借料、これは仮復旧のための重機借り上げ代であります。

2目道路河川等災害復旧費、これは科目設定のみになっていきます。

3目港湾災害査定費、本年度が28万6,000円、前年度と同額であります。内訳は、賃金が17万4,000円、これは潜水夫の賃金等になってます。

次、旅費ですが、先ほどと同じように、災害前の打ち合わせと、あと災害時の打ち合わせのための旅費になってます。

4目港湾施設災害復旧費、これも科目設定のみになってます。

以上です。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

さらに詳しい説明を求める、目、節等はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

次、11款公債費。

○総務課長（樺山 誠君）

11款公債費 1 項公債費に関してご説明をいたします。

元金に関しましてでございますけども、100ページお開きください。最終ページです、予算書の。地方債の前々年度末における現在高並びに前年度末及び当該年度末における現在高の見込みに関する調書の中の右から 2 番目、当該年度増減見込みという中の右側の当該年度中元金償還見込み額の総額 7 億 5,688 万 1,000 円が今年度償還する部分でございますということで、内訳に関しましては、区分の欄の中でありまして、まち交事業だとか、住宅だとか、学校の建設に使った部分の償還の部分でございます。

あと、予算書 91 ページにお戻りをいただきたいと思っております。

財源内訳の中で、特定財源、その他っていうのがございます。2,325 万円がその他の財源となっておりますけども、これは家賃収入によるものでございます。

2 目の利子に関しましては、1 億 2,092 万 5,000 円を償還していくわけでございますけども、今までの起債の利子の部分が 1 億 1,992 万 5,000 円、一時借入金の利子の部分が 100 万円となっております。この一時借入金の部分に関しましては、予算書の 1 ページの中で、一時借入金、10 億まで借りることができるというものの予算措置でございます。

以上でございます。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまの説明において、さらに詳しい説明を求める点はございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

では、款 12、なし、予備費もなし。

ここでしばらく休憩いたします。午後は 1 時から開会します。

休憩 午前 11 時 30 分

再開 午後 1 時 05 分

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

続きまして、議案第 27 号、平成 26 年度伊仙町国民健康保険特別会計予算について議題とします。議案第 17 号、議案第 18 号、3 議案を一緒に議題とします。

補足説明を許します。

○保健福祉課長（松田一郎君）

保健福祉課ですけれども、ご質問の中で琉委員のほうから、この給付費の人員について町民生活

課ありましたけれども、あわせて私のほうからも一応人数をお知らせします。

歳入の16ページ、13款国庫支出金2項国庫補助金1目の民生費国庫負担金の中の臨時的福祉給付金なんですけれども、この人数の概要をお知らせいたします。基本部の対象者は3,684名、その中で障害者年金とかもらっている加算分の支給対象人数が2,994名ということであります。

あわせて給付費総額が5,181万円ということであります。あわせて情報提供いたしておきます。

それでは、保健福祉課管轄の特別会計についてご説明いたします。

今回、委員長のご許可をいただきましたので、国保と介護と後期高齢、あわせて同時に進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

一応、座らせて報告させていただきます。

私のほうからは、一応概要を説明して、後は担当者のほうから歳入歳出について説明申し上げます。

まず、3つとも私のほうから概要を説明いたします。

国民健康保険特別会計予算でありますけれども、前段階としてご説明いたします。

経済低迷や急激な少子高齢化、疾病構造の変化などに伴う医療費の増加に加え、低所得者や高齢者の加入割合が高いという構造的な問題を抱えておりますが、医療費の動向や事業実施に基づいた予算案となっております。

平成26年度歳入歳出予算総額は歳入歳出それぞれ対前年度比2%減の2,342万円減額となる11億7,606万8,000円となっております。国全体でもありますけれども、脆弱な国保運営と言われております。

歳入につきましては、対前年度の増減の主なものといたしまして、一般会計からの繰入金として355万6,000円、率にして3.4%増額の1億801万2,000円でございます。減額は、前期高齢者交付金の22.7%減額が大きい要因であります。

歳出につきましては、対前年度の増減の主なものといたしましては、一般被保険者療養給付費の4,728万円の減額で、率にして7.9%の減となっております。

それでは国保のほうから歳入歳出、それと保健センターの澤のほうから概要について説明いたします。

○保健福祉課（幸 孝一君）

まず、歳入であります。一般国民健康保険税、退職者被保険税とありますが、これはどういう違いがあるかという、一般はゼロ歳から74歳までの方で自営業の方が主な保険者なんですけれども、退職被保険者というのは、年金を受給して65歳到達までの方を示します。また、後ほどどうしてこういうことになっているかということで、後ほど説明したいと思ひます。それぞれ1億3,002万2,701万円とそれぞれなっております。

続きまして、まず国保のほうから、後、国庫支出金療養給付費等負担金ですけれども、次の10ページ目になります。2億1,600万円ですね約、これについては、療養給付費の負担を国・県・そ

して自治体、そして被保険者と分担していくわけなんですけれども、これに事業明細書の2ページ目にあります100分の33に相当する額ということで計上させていただいております。

続きまして、次の国庫支出金なんですけれども、財政調整交付金、こちらについては前段の療養給付費の負担金でも補填できない部分を、財政調整交付金という形で補助を国のほうからいただいております。本年度の予算として1億7,630万2,000円。

続きまして、特別調整交付金4,432万3,000円ですけれども、これがほとんど精神の關係の療養費の補填になります。これが平成25年度の実績で約4,008万円ほどの歳入がある見込みであります。

続きまして、県調整交付金、こちらにつきましては国の調整交付金でもなおかつ補填が必要だ、不足している部分を調整するために県のほうの交付金という形で、県のほうから調整交付金をいただいております。これにつきましては、説明書のほうにありますように、脳卒中プロジェクト交付金、後は医療費適正化、あと収納対策等の特別調整交付金がこの中に含まれております。

続きまして、療養給付費交付金でありますけれども、これが先ほど説明しました退職者の年金受給から65歳までの方々の医療費を補填するものであります。税は除いた後、その医療費を支払基金のほうから補填するものであります。

どうしてこういうことを行われるかということ、長年、40歳以降ですと15年、トータルで20年以上継続して社会保険を受けた方が、急に国保のほうにいらっしゃって、国保の財源を圧迫するのは少しおかしいということで、制度的にいわゆる今まで働いていた社会保険の原資のほうから医療費を補填するものが、この退職者医療ということであります。

続きまして、前期高齢者交付金でありますけれども、前期高齢者というのは何かというと、65歳から74歳までの方々を示します。この方々の医療費に対する補填が1億1,673万円予定しています。この前期高齢者については、2年ごとに精算がありまして、少し計算のほうも非常に複雑となっております。

続きまして、共同事業ですけれども、歳入としてあるんですけれども、後ほど歳出のほうでも多分、お気づきになるかと思うんですが、1回出して、また戻ってくるというような形で、基金的なものです。緊急的にお金が必要なときに各市町村でもって、みんなで負担し合ってそれぞれで合計して出す、で、また戻ってくるというような、少し制度として私が国保の担当になって、非常に矛盾を感じる事業の中の一つであります。

続きまして、繰入金、主なものが基盤安定繰入金、保険財政を安定化させるために国の補助金をいただいて、一般会計より補填するものであります。その他に、その他で先ほど課長のほうから説明がありましたように、一般会計から法定外繰り入れということで、毎年1億円以上の繰入金をいただいております。

どうしても所得が少ない一般の方々の財源をもとに運営をされているものですから、どうしてもここに毎年1億円ほどの繰り入れをいただいているような状況で、何とかこの辺は改善できないものかなあというふうな気がしますが、非常に国も地方も非常に難しい問題と考えております。

続きまして、引き続き歳出のほうですけれども、予算書のほうの14ページをお開きください。

明細書のほうは1ページ目からあります。

総務費は一般的な事務費であります。

続きまして、主なものは15ページ、収納向上特別対策事業費、これは県のほうから半額ほどの補助があります。最終的に実績でもって精査されるんですけれども、収納対策に関する税徴収の率を上げるための事務費として、県のほうから毎年200万円程度いただいている部分と、あと町の一般財源を持ち出して事業を進めております。

次に、医療費適正化特別対策事業ですけれども、医療費の増加を抑えるためにレセプトの点検事務員さんを1人委嘱いたしまして、現在運用しています。ジェネリック医薬品、それと医療費の差額通知、あと重複受診をされている方々の訪問指導等を保健センターと一緒にっております。

続きまして、16ページの保険給付費があるんですけれども、これもやっぱり一般被保険者と退職とあります。この療養給付費と言われる部分が、いわゆる病院に支払うお金であります。

病院のほうで診察を受けたときに支払うお金が、今年度の予定で言いますと5億4,777万円。

退職のほうが3,000万円ほどとします。

その下に、また同じような内容で、療養費とあります。この療養費というのは、柔道整復、いわゆる鍼灸とか、あとは補装具、コルセット等をつけたときに、とりあえずは10割負担をしてもらうんですけれども、領収書を持って申請すると残りのそれぞれの割合によって、7割、8割なりをお返しするという形のものが療養費です。いわゆる一般の病院以外の治療に関するものが、この療養費に該当するものであります。

続きまして、高額療養費ですけれども、高額療養費1億680万円計上していますが、これは所得によって応じ、1カ月の負担額がある一定額を超えた場合に、その部分を補填するものであります。同様に退職も同じであります。

続きまして、17ページに移りますけれども、移送費、移送費というものは、緊急やむを得ない場合に病院の意見書をもとに、緊急的に島外のほうに搬送する必要があるとか、そういう場合にその旅費を補填する部分であります。出産一時金に関しては、1件につき42万円の出産一時金を支給しております。葬祭費については、1件につき1万円の支給をしております。

後、後期高齢支援金、これは国保のほうからも75歳以上の後期高齢者に対するの負担をしております。その部分の負担金であります。次に、前期高齢者の給付金も同様であります。

前期高齢者の納付金として42万円ほど支払基金のほうに出しております。

次のページ、19ページ目ですね。共同事業拠出金とありますけれども、これが先ほど歳入のほうでありましたように、高額的共同事業と保険財政共同安定化事業ということで、歳入もあるんですけれども、こちらのほうで歳出をしております。歳出をして歳入もまたあるというふうな形になります。

国保のほうからは以上であります。

○保健センター（澤佐和子君）

引き続き、座らせて説明させていただきます。

保健センターのほうから国保の事業としまして実施している項目が3つありますので、説明をさせていただきます。

まず、予算書の19ページになります。保険事業、保険事業費にあります特定検診等事業費にあります。平成20年から特定健診、特定保健指導が始まりまして、第1期が終了しております。

第1期終了時、平成24年度にペナルティがありまして、その時点で特定健診受診率65%、特定保健指導実施率45%という国のほうから定められておりましたが、それをクリアしまして、25年度から第2期特定健診、特定保健指導を実施しています。

第2期に当たりまして、国のほうから基準が変わってきまして、特定健診実施率が60%、保健指導実施率が60%ということで、保健指導の実施率のほうは、今、基準が上がってきております。

これに向けて、今、保健センターの方で保健指導の徹底ということで、力を入れているところです。これにかかります委託料に関しましては、厚生連への委託と、あと島内医療機関の個別検診ということで委託、あと情報提供ということで島内医療機関のほうに委託費として計上してございます。

保健事業の目2国保保健指導事業、予算書の20ページになります。こちらの事業は一般会計で健康増進事業ということで、子供からお年寄りまでの健康増進事業を実施しておりますが、財源も厳しいということもありまして、国保の事業をいただきまして健康増進、重症化予防を医療費適正化の事業を行わせていただいています。その中の一つとして、国保保健指導事業があります。

こういった事業費の中で専門職の賃金を予算化に組んでおります。この中の委託費に関しましては、ほーらい館との連携ということで、ほーらい館の運動指導に委託費として入れておりまして、あと医療費分析、あと専門的な現在、ほーらい館が活用とか、保健指導の実施の展開におきましては、各公民館を使つての遊ばーでいとか、そういった事業を行っておりまして、集落での展開ということで、そういった専門的なご指導をいただくということで、東京のパブリック増えるスリサーチセンター、または熊本の熊本健康支援研究所のほうから委託で、アドバイスをいただきながら事業を実施しております。

それから、すみません、戻りますけれども予算書の15ページ、先ほど説明がありました総務費の医療費適正化特別対策事業にあります。こちらのほうで医療費適正化ということでレセプト点検等の説明が先ほどありましたけれども、保健センターのほうで、今特に、脳卒中对策ということで力を入れております。

脳卒中に关しましては16ページのほうに歳出、健康診査委託料ということでありますけれども、こちらのほうで検診を受けていただいた結果で、ハイリスク、メタボがありましてそれに血圧、糖尿病、高脂血症そういったところのハイリスクの方に関しまして、頸部エコーの検査、あと脳ドックの検査を島内の医療機関に委託しまして実施しております。

あと脳卒中対策としまして、1次予防から3次予防までありまして、1次予防がそういった減塩対策、食生活改善推進員の協力をいただいて、各集落、または、ほーらい館におきまして減塩指導に当たっております。また、野菜摂取を増やせということで、野菜を接種することで減塩効果がありますので、そちらのほうも、「百菜」等とも連携を取りながら事業を進めているところです。

あと2次予防としましては、早期発見ということで特定健診の受診率を上げるということで、第2期では60%の受診率で国のほうで定めておりますが、伊仙町では引き続き65%をキープして実施しようということで、まずは検針を受けていただいて予防のルートに乗せるということで健診を受けていただいて、それからそこで、まだ5年経ちましたけども、まだ特定保健指導の対象者がなかなか伊仙町多うございまして、それに対しましての指導を徹底するというので、保健指導の実施率を上げていくということを今行っております。

それと、3次予防としまして、脳卒中のモデル事業を県下11市町村行っていますが、伊仙町もその一つでありまして、脳卒中プログラムの対策事業として、3次予防で、ほーらい館を拠点に脳卒中のリハビリ対策を今行っております。

県のほうから、広域的な医療圏でリハビリのモデル事業が今行われておりまして、センターとして大島郡の医師会病院のほうから理学療法士の先生に来ていただきまして、島内の関係、リハビリ機関等と今連携を取りながら脳卒中を発症した方の重症化予防ということで対策を行っております。

特に、大まかな事業として3点説明させていただきました。

以上です。

○保健福祉課（幸 孝一君）

保健センター関係の歳入がありますが、事業明細書の3ページ、予算書のほうの11ページになります。

○保健福祉課長（松田一郎君）

予算書の9ページ、2款分担金及び1項の負担金のところの1目の特定健診負担金ということで130万円組んであります、前年度並みですね。

次の10ページのほうで、4款の国庫支出金1項の国庫負担金2目の療養給付費の中で、3節特定健診等負担金ということで323万3,000円ということで組んであります。同じく県支出金ということで、ここにも2目の特定健診負担金ということで組んであります。

今、幸から言われたとおり、県の調整交付金の中で、脳卒中対策プロジェクト交付金というのがありまして、88万円組んであります。

それと、次のページの予算書の12ページ、助産費等の繰入金ということで700万円、一般のほうから入っておりますので、あわせて歳入までご連絡いたします。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまの説明において、さらに詳しい説明を求める目・節等はございませんか。

質問を許します。

○14番（美島盛秀君）

ただいまの脳卒中対策プロジェクト事業について、もうちょっと詳しい話を。例えば特定健診で受診をして、その後の脳卒中の予防とか、もうちょっと説明をしていただきたいんですけど。

○保健センター（澤佐和子君）

特定健診を今65%の方に受けていただいているんですけども、その中で特定健診がメタボ対策重症化予防で、心筋梗塞、脳梗塞を予防するというところでございまして、その中で、また対象者が200人ぐらい特定保健指導対象者がおります。そういった方に関しまして、積極的支援、動機づけ支援、2項目の対象者がいるんですけども、積極的支援に関しましては3カ月間の保健指導ということで教室参観、または個別的なフォローを行って、3カ月とあと終了が6カ月なんですけど、半年間の個別指導を行っております。その中で、血压管理、あとは体重減少、保健師の減塩指導、食事指導、運動指導を行っております。

動機づけ支援に関しましては、初回面接を行いまして、6カ月後のフォロー指導を行っております。そういった中で、当初から比べますと肥満率のほうも改善してきてはおりますが、まだまだ県と比べますと5%ほど高い状況にありますので、まだこの対策については実施していかないといけないということと、保健指導も45%の方が受けるようにはなってきたんですけども、特に6カ月後のフォローが今の製糖時期に重なっております、なかなか保健指導が充分いかない部分があります。

そういったところでフォローして、とにかく肥満、メタボ、内臓脂肪が高血压、糖尿病、高脂血症これらを引っ張り出してくる要因になっておりますので、まずは内臓脂肪を落とすということで、国のほうでもこの事業を行っております。

これを行うことによりまして、40歳から特定保健指導を行っているんですけども、伊仙町におきましては、30代の方が一昨年、3人ほど亡くなられたこともありまして、25年度から国保の医療費適正化事業のほうで若年者検診ということで、30代の方にも特定健診を受けていただいています。30代から早期に保健指導を介入しまして、メタボ対策、ひいては重症化予防というところで心筋梗塞、脳梗塞を発症しないようにということで、今行っております。

今の死亡率で言いますと、心筋梗塞の死亡率が増えています。特に男性が増えてございまして、心筋梗塞、脳梗塞が今増えているような状況です。こういったこともありまして、減塩を含め、高血圧管理を含め、あとは食事指導に力を入れて行かなければいけないということで、今、保健指導の徹底ということを行っております。

今、うちに栄養士が2人ございまして、2人の栄養士と、あと食生活改善推進員が町内42名おりますけども、推進員のほうに協力をいただいて集落の公民館で、こういった減塩指導、あとは塩分摂取を控えるということで、そういった機器も購入してございまして、減塩指導には徹底して今行っているところです。

以上です。

○14番（美島盛秀君）

この脳卒中対策は非常に厄介な病気でありまして、私も心配をしているところなんですけれども、徹底してこれから町民の皆さんに対策を講じていくようお願いをしたいと思います。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他にはございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

続きまして、議案第17号、平成26年度伊仙町介護保険特別会計予算について議題とします。

○保健福祉課長（松田一郎君）

それでは、介護保険特別会計予算について概要をご説明いたします。

介護保険特別会計予算案の編成に当たっては、第5期介護保険事業計画に基づき、介護給付費適正化や介護予防の強化に取り組むため事業実績などに基づいた予算案となっております。

今年度は、第6期の介護保険計画が策定される予定で、前回、介護保険料が高いのではないかといろいろご指摘を受けました。この第6期の中でこういった計画も、また皆さんの意見を聞きながらつくっていくことにいたしております。

平成26年度歳入歳出予算総額は歳入歳出それぞれ対前年度比0.2%減、183万5,000円減額となる9億3,579万2,000円となっております。

歳入につきましては、対前年度の増減の主なものといたしましては、介護保険料第1号被保険者保険料現年度徴収分の6.6%減であります。

歳出につきましては、対前年度の増減の主なものといたしましては、介護給付費、介護予防費の17.6%減であります。この介護予防費については、毎年、包括支援センターの介護予防教室の取り組みによりまして、毎年減になっておって、いい傾向にありますけれども、逆に介護給付費の要介護3以上の重症化が入ってきております。全体としては、横並びみたいに横に並んでおりますけれども、こういったことも介護給付費をいかにして減らしていくか、健康づくりが大きな目標となっております。

それでは、担当のほうから歳入歳出についてご説明いたします。

○保健福祉課（元原克也君）

よろしく申し上げます。座ったまま説明させていただきます。

ただいま課長のほうから説明もありましたが、今一度、私のほうから介護保険制度について、簡単ではございますが説明させていただきます。

介護保険制度は、高齢者の方が介護を必要とする状態になっても、住み慣れた地域で自立した生活ができるように社会全体で支えるために、平成12年度より介護保険制度としてスタートしました。

介護保険を利用するに当たって、介護申請をし、訪問調査、主治医の意見書をもとに審査が行わ

れ、介護認定で要介護と判断された方には介護サービスが、要支援と判断された方には予防サービスが提供されます。

介護保険の財源につきましては、公費50%とプラス保険料50%、で、公費の内訳につきましては、国のほうが25%、県のほうが12.5%、町のほうが12.5%となります。保険料につきましては、第1号被保険者65歳以上の介護保険料です。2号被保険者が40歳から64歳までの方々の医療保険に含まれています介護保険料として徴収されることとなります。

介護サービスには主に3種類ありまして、居宅介護サービス、これは在宅にて介護を利用する訪問介護、通所介護、訪問リハ、通所リハ、ショートステイなどです。

2つ目に、施設入所による介護サービス、これは特別養護老人ホームや介護保険施設などです。

3つ目が、地域密着型の介護サービスと町内にありますグループホームなどの事業所でございます。今の3つのサービスを基本的に自己負担1割で利用し、残りの9割分を介護給付費として、私たちのほうから支払うようになっております。

伊仙町の認定者数につきましては、65歳以上が2月末現在の数字で2,372名、うち認定者数が536名、高齢者の約22.5%の方々が認定を受け、何らかの介護サービスを利用しているということであります。

平成24年度の実績を申し上げたいと思います。

居宅介護サービスにかかった給付費が約3億5,800万円、施設介護サービスにかかった給付費が約2億7,300万円、地域密着型サービスにかかった給付費が約1億7,900万円、その他、住宅改修や福祉用具、あと高額介護などで5,500万円ほどかかっております。全体で約8億7,000万円ほど給付費のほうがかかっております。認定を受けた方が何らかの介護サービスを利用し、年齢とともに介護度が重度化していくことに給付費のほうも上昇していくといった流れでございます。

それでは、予算書のほうの説明に入りたいと思いますが、介護保険の中で地域支援事業というのがありますので、そちらのほうは担当の喜村のほうから説明させていただきます。

すみません、6ページでを開き下さい。

歳入、1款保険料1項介護保険料、目第1号被保険者保険料1億352万1,000円、こちらの内訳につきましては明細書の1ページの備考欄に書かれてあります第1号被保険者保険料現年度分特別徴収8,828万3,000円、普通徴収のほうが1,523万7,000円になります。

続きまして節2第1号被保険者保険料滞納分、こちらについては5月末の出納閉鎖後に現年度分が滞納分に追加されて、改めてこちらのほうは計上いたします。

款の2国庫支出金目1介護給付費負担金、節の介護給付費負担金、現年度分予算額が1億6,313万円、内訳につきましては施設サービス分が4,758万円、居宅介護サービス分が1億1,555万円になります。

続きまして、地域支援事業費交付金について説明させていただきます。

本年度が846万3,000円、前年度が672万9,000円、比較して173万4,000円の増額となっております。

すみません、説明する前に予算書の13ページ、歳出のところを見ていただきたいと思います。

款の3地域支援事業費項の1介護予防事業費、これが明細書にあります予防事業費となります。明細書1ページ、国庫支出金の介護予防事業費交付金に、経費負担割合に書いてあります介護予防事業費になります。

続きまして、予算書の14ページ、款が3地域支援事業費、項が2包括的支援事業費、続きまして項の3任意事業費、これが明細書にあります包括的負担割合のところの包括的支援事業・任意事業になります。これを踏まえまして説明させていただきます。

節の1介護予防事業費交付金、これは介護予防事業費の25%、226万2,000円の国の負担となっております。

続きまして、節の包括的支援任意事業費交付金、これが包括的支援任意事業費の39.5%、620万1,000円の国の負担となっております。

続きまして、款の2国庫支出金項の2国庫補助金、目の1調整交付金、節1調整交付金現年度分、こちらは前年度対比で53万3,000円減となります。今年度予算が1億2,081万8,000円とあります。

続きまして、款3支払基金交付金1目介護給付費交付金1節介護給付費交付金現年度分、こちらにつきましては対前年度比で118万5,000円の減となります。本年度予算が2億6,848万5,000円とあります。

続きまして、目2地域支援事業費交付金の説明をいたします。

節1本年度が262万4,000円、前年度が213万4,000円、49万円の増額となります。

負担内訳が、介護予防事業費の29%、262万4,000円の予算を組んであります。

続きまして7ページをお開きください。

款4県支出金、項1県負担金、目の1介護給付負担金節1介護給付負担金現年度分、こちらにつきましては県の12.5%負担金となります。本年度予算が1億2,772万9,000円となります。

内訳としましては、施設介護サービス費が5,551万円、居宅介護サービス費が7,221万9,000円となります。

続きまして、目2地域支援事業費交付金について説明いたします。

本年度が413万1,000円、前年度が326万5,000円、比較して86万6,000円の増額となっております。節の1介護予防事業費交付金、内訳が介護予防事業の12.5%、103万1,000円、節の2包括的支援任意事業費交付金が包括的支援任意事業費の19.75%、310万円の県負担となります。

続きまして、款4県支出金、項2県補助金、目1介護予防費補助金について説明いたします。

伊仙町では24年9月から「伊仙町高齢者元気度アップ事業」というのを行っています。

この事業は、高齢者の方にポイントカードを配り、健康教室、健診、健康に関する講演会等に参加するためにポイントを押していき、たまったポイントの数に応じて伊仙町商工会の商品券と交換するという事業です。負担割合が事業費のうち報償費、商品券費用の50%及び事業にかかわる経費の12.5%となります。その補助金が70万7,000円となっております。

続きまして、款5繰入金項1一般会計繰入金目1介護給付費繰入金、本年度予算が1億1,186万9,000円、前年度予算が1億1,236万2,000円、比較して49万3,000円の減となります。

こちらについては、先ほど説明したように町の負担分の12.5%で、数字が1億1,186万9,000円となります。

続きまして、目2地域支援事業繰入金について説明いたします。

予算明細書の2ページに移ります。

地域支援事業予算内訳が、本年度が423万3,000円、前年度が336万5,000円、86万8,000円の増額になります。予算内訳が地域支援事業のうち予防事業の12.5%、包括的任意事業の19.75%となりまして、423万3,000円の一般会計の繰入金となります。

○保健福祉課長（松田一郎君）

5款の繰入金2項の繰入金1目の介護給付費準備基金繰入金ということは、科目存置ということでもあります。

6款の諸収入1項の預金利子1目の預金利子ということで、基金にあります還付金の預金の利子ということでもあります。

6款の諸収入2項の雑入1目の利用料と組んでありますけど576万円、前年度比較で36万円増加となっております。これは、歳出にも書いてありますとおり、食の自立支援の利用料ということで、宅配サービスということになっております。「仙寿の里」が今、平均1,000食ちょっと超えております。年々増加傾向にありまして、宅配サービスを希望する方が多くなってきたという現状があります。

7款の繰越金1項の繰越金1目の繰越金は、1,000円の科目存置ということでもあります。

続きまして、歳出について大まかなところを担当から説明いたします。

○保健福祉課（元原克也君）

予算書9ページをお開きください。

款1総務費項1総務管理費目1一般管理費、予算額節7賃金、予算額が129万6,000円、こちらの明細書の3ページをお開きください。事務賃金といたしまして、1名、5,400円×20日×12カ月分といたしましてこの金額となっております。

節の8報償費、こちらが20万円で徴収報償金といたしまして徴収員3名、東部、中部、西部地区1名ずつ徴収員がいますので、こちらのほうに普通徴収分の徴収をお願いしています。

節の9旅費、こちらにつきましては、県内旅費の5万6,000円掛ける5回となっております。

節の11需用費につきましては30万円、目的としましては介護保険事務執行に伴う消耗品の購入及び印刷製本費となっております。

節の12役務費73万1,000円、通信運搬費が25万円、電話料が7万円、共同電算処理手数料が40万円、口座振替手数料が5,000円、公金事務取扱手数料が6,000円となっております。

節の14使用料及び賃借料が61万9,000円、こちらについては地域包括センターのシステムリース

料となっております。節の19負担金補助及び交付金69万6,000円、こちらにつきましては、介護保険電算事務処理負担金となっております。

款の1総務費項の2介護認定審査会費、目1認定審査会委託負担金、節の19負担金補助及び交付金、予算額が1,019万5,000円となっております。前年度予算が889万7,000円で、比較して129万8,000円の増額となっておりますが、こちらにつきましては、介護保険組合の調査員の賃金、公用車購入等のために増額となっております。

続きまして、款2保険給付費、項1介護サービス等諸費、目の1居宅介護サービス給付費といたしまして、本年度予算が2億8,000万円、前年度予算が2億8,500万円、比較して500万円の減となっております。

続きまして、10ページをごらんください。款の2保険給付費、項1介護サービス等諸費、目の3地域密着型介護サービス給付費、本年度予算が1億7,500万円、前年度予算が1億7,000万円、比較して500万円増額となっております。

○保健福祉課長（松田一郎君）

それでは、私のほうから概要を説明いたします。

2款の保険給付費1項の介護サービス等諸費9目の居宅介護サービス計画給付費ということで、居宅介護サービスのほうは最近多くなってきておりまして、県及び国の方針として在宅のほうを重点を置くということになってきております。そのために前年度比較は横並びなんですけれども、今後これが増える可能性があります。

次の、2項の介護予防サービス予防等諸費において、これもそれほど変わりはありませんけれども、最初申し上げたとおり、包括支援センターの取り組み、事業所、福祉協議会、それともろもろの施設のほうの介護サービスに取り組んだおかげで、この予防サービスが25年度と24年度で比較すると、約700万円程度減になってきております。

これはここ二、三年、予防サービス諸費が下がってきている現状があつて、効果が表れてきているという状況であります。

他の款・項・目については、それほど大きな差異はございません。とにかく保健福祉課の介護の中で力を入れているのが、13ページの3款の地域支援事業費の中でございますけれども、この事業がケアマネージャー2名、看護師、ケアマネージャー取り組んでおりまして、もろもろのサービスに対する相談とかそういったものがありますので、ここのほうに力を入れて、将来国から昨対を求められております在宅医療関係におきましても、こういった展開をしていければというふうには保健福祉課としては考えておりますので、よろしくご配慮をお願いしたいと思っております。

担当のほうから、まだ不慣れだということで、要点を示すように言われていたんですけども、ちょっと流れがスムーズにいかなかったようでもありますけども、まあ、いい勉強になったかなあと思っておりますので、皆様のご配慮をお願いしたいと思っております。

一応、介護保険の満足いく説明ができなかったと思いますけれども、また質疑の中でご質問があ

れば、またそれに対応していきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまの説明において、さらに詳しい説明を求める目・節等はありませんか。
他にありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

はい、続きまして、議案第18号、平成26年度伊仙町後期高齢者医療保険特別会計予算について議題とします。

補足説明を許します。

○保健福祉課長（松田一郎君）

それでは座らせていただきます。後期高齢者特別会計予算の編成に当たっては、被保険者に対するきめ細かな対応などを重視し、県後期高齢者医療広域連合との連携を図りながら、制度の円滑な運営を努めていくとともに、今後の医療制度を取り巻くさまざまな動向などを踏まえ、制度運営に必要な経費を計上した予算案となっております。

平成26年度歳入歳出予算総額は歳入歳出それぞれ対前年度比7.1%増で、1億8,158万4,000円となっております。歳入につきましては、対前年度の増減の主なものとしたしましては後期高齢者医療保険料、特別徴収保険料272万2,000円の増額、一般会計繰入金829万5,000円の増額となっております。

歳出につきましては、対前年度の増減の主なものとしたしましては、後期高齢者医療広域連合納付金1,147万9,000円の増額が主な内容となっております。中身について歳入歳出担当の福祉のほうからご説明いたします。

○保健福祉課（福司銀二郎君）

こんにちは。後期高齢担当の福司です。座って説明させていただきます。

この後期高齢者医療保険というのは、75歳以上の方、生活保護受給者は除くんですが、75歳以上の方と、それから65歳以上の方の中で障害者手帳などの1級、2級、3級、あと4級の一部なんですけれども、この方が申請があって認められた方、この方々を被保険者として医療費の給付ですとか、そういったことを行っております。

今、松田課長からの増額分ということがあったのですが、これは2年に一回、後期高齢者医療の保険料を見直して、少しずつ値上げをしていくということが、見直しというのが定められておまして26年度、これ来年はまた値上げの年となっております。

現在が均等割り基本料金、これ4万6,400円が5万1,500円、所得割が8.65%、これが9.32%に4月、26年度からは値上がりするということで、各それに関連する保険料の収入ですとか、また支出そういったものが上がっております。それが主な原因であります。

では、明細書1ページ、予算書の6ページをお開きください。

まず、歳入です。1款1項それぞれ後期高齢者医療保険料というふうになっておりますが、75歳以上の方々からいただく保険料です。この1目特別徴収保険料、これは年金からの天引き分であり、これが2,838万1,000円、それからその下の2目普通徴収、これは年金からではなくて、納付書、払込み用紙で金融機関や役場の窓口、会計課窓口で納める保険料なんですが、これが667万9,000円。それから、前年度分の滞納分です。これを17万5,000円というふうに計上しております。

今の保険料は、また歳出のほうで、また同額を鹿児島県、これは県下全体で一団体という都道府県単位の組織になっておりまして、これは毎月毎月閉めた分を広域連合という本部に送るようになっております。それで同じ金額が歳出にも出てまいります。

それから、次に3款繰入金、事務費の繰入金、この事務費は会計運営事務費で165万6,000円。

それから、次の2目保険基盤安定繰入金、これは先ほどの国保の説明の中でも出てきたんですけども、保険料、先ほど均等割が5万1,500円というふうにお話をしたんですが、それぞれの収入に応じてこの均等割を9割軽減します。8.5割軽減しますといったような軽減措置が設けられておりますが、そこで軽減された、じゃ、軽くなった9割、8.5割、その分を県とそれから町とが、県が4分の3、町が4分の1負担して補填するというようなお金であります負担金。これが4,765万3,000円。

次に、明細書2ページをお開きください。さらに繰入金なんですけれども。

3目療養給付費繰入金、これが9,400万9,000円というふうになっておりますが、これは医療費の町負担分に当たります。後期高齢の医療費は公費、国・県・市町村で5割、それから先ほどの国保の説明にありました現役世代の方からの支援金ということで、国民健康保険や、あと若い人たちの社会保険、そういった健康保険組合の中から4割、それと75歳以上の方々が実際に納める保険料、これが1割というふうな割合で、5、4、1の割合で賄っているんですが、そのうちの町の負担分です。

4目保険事業費繰入金、これは特定健診なんですけれども、75歳以上の方々で受診なさる方、これを長寿健診というふうに呼んでおりまして、町の保険事業では26年度はこの長寿健診事業が1つあります。このうちの町の負担分として72万9,000円、残りはまた広域連合本部からの補助金があって、また、あと下のほうに諸収入というふうにして出てまいります。

それから、次に、繰越金なんです、この前年度繰越金と前年度徴収保険料繰越金、この前年度保険料繰越金というのは、4月1日から5月31日まで出納整理期間に納められた保険料、これを翌年度、26年度の予算繰越金というふうな扱いで、また6月の初めに本部に送金というふうになっているんですが、これが50万円。

その下、今度は5款諸収入、予算書はすみません、7ページお願いします。

1目の保険料還付加算金、これは前年度までの保険料、これについてさかのぼって申告をして保険料が安くなって、払い戻しが出たという場合に、一旦保険料は先ほどお話ししたように、全部月々で本部に送っているんですが、特に前年度、前前年度の保険料はないんですが、こちらのほう

で、まず一旦その被保険者の方にお返しをして、その後、本部に請求して、その分を歳入として入れるという、これが過年度の保険料還付加算金なのですが、これは50万円計上しております。

最後に諸収入、この中の第4項受託収入1目健康診査事業収入、これは先ほどお話をしている特定健診、75歳以上の人については長寿健診、これは広域連合本部から補助金が出てまいります。

これで129万6,000円というふうに計上してあります。このところ、長寿健診、健診の受診者が増加傾向にある関係で少しずつ予算が増えていっております。

続いて、歳出に移ります。明細書の3ページ、それから予算書の8ページ。

1款総務費の1項総務管理費につきましては、賃金、旅費、需用費、役務費、使用料、賃貸料といった一般的なものですので、お目通しをお願いいたします。

2項徴収費1目賦課徴収費、この中の報償費、この中の報償費、先ほど介護の説明にも出てまいりましたが、徴収員に対する報償金であります。

2款後期高齢者医療広域連合納付金、これは先ほど歳入の中でお話をした被保険者からいただいた保険料を、月1回本部に送るといふ、その分の歳出であります。それでこの保険料については前の歳入と同じ額になっております。

一番上の療養給付費、これ先ほどお話ししたように医療費の町負担分であります。

これは一般会計からの繰り入れ、そして歳出として後期高齢から歳出するという形ではありますが、その下、保険基盤安定負担金、これについても同様であります。

金額はそれぞれ歳入と同じ金額で、9,400万9,000円、保険基盤安定負担金4,765万3,000円というふうになっております。以下、特別徴収、普通徴収、前年度徴収、滞納繰越分、これも歳入と全く同じ金額を本部への負担金ということで歳出をいたします。

それから、3款保健事業費1項健康保持増進事業、この委託料であります。この委託料として2つあります。一つのデータ管理システム委託料というのは、国保連合会というところに、健診を受けたときのいろんなデータの維持管理をお願いしております。その委託料であります。

それからその下、健診事業委託料、これは実際に健診を行う、うちでは鹿児島市の病院の厚生連さんに1人5,400円という形で支払いをしております。

それから、最後になりますが、4款諸支出金、これは先ほど前年度、またはそれ以前の分、収入の申告の修正があったというようなことで保険料が減額になった場合の、そのときに還付する分の予算であります。これは50万円歳入と同じく50万円組んであります。

以上です。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまの説明において、さらに詳しい説明を求める目・節等はございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ではここでしばらく休憩します。

休憩 午後 2時20分

再開 午後 2時50分

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議案第19号、平成26年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算について議題とします。
補足説明を許します。

○ほーらい館長（仲 武美君）

それでは、平成26年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算の説明をいたします。

既定の歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ1億1,014万4,000円とするものです。

2ページをお願いいたします。明細書については1ページです。

歳入の款1 使用料及び手数料については、5,014万9,000円とするものです。この中には月会費、有料教室会費、スイミング月会費、都度料、また文化施設使用料等が含まれております。

款2 繰入金については、4,973万7,000円とするものです。明細書においては2ページです。

この中には運営費として3,500万円、職員の給料として1,473万7,000円が含まれております。

款3 繰入金については、1,000円。

款4 諸収入については、雑入、事業収入で1,025万7,000円とするものです。この中にはショップ売上収入と、また、百菜、法務局、電気代等、また社会保険料個人負担金等が含まれております。歳入合計1億1,014万4,000円とするものです。

8ページをお願いいたします。明細書においては3ページです。

1 款総務費 1 項総務管理費 1 目一般管理費の節の7の賃金については、清掃賃金の4名の12カ月分、運転手賃金については、300日の3名分、スタッフ賃金については269日の4名分です。

節の11の燃料費については、A重油125円の10万ℓ、軽油については、165円の1万ℓ、ガソリンについては、180円の1,000ℓ分です。また、光熱水費については、ほとんどが電気代等であります。

9ページをお願いいたします。

節の13委託料の運転管理業務委託料については、電気工作物保安管理、設備管理業務、合わせて703万7,000円とするものです。

4ページをお願いいたします。

次に、1 款総務費 2 項放課後わくわくクラブ推進事業費の1 目放課後わくわくクラブの推進事業費の節の8の報酬の講師謝金ですが、2,000円×3人の2回の11カ月分の13万2,000円です。

次に、2 款健康増進事業費 1 項健康増進事業費 1 目の健康増進事業費の節の報酬については、嘱託職員5名分、7の賃金についてはインストラクター4名分、8の報酬費についてはフリーインストラクター講師の5,000円掛ける4回の5教室の12カ月分の120万円です。

それから9の旅費については、インストラクター研修旅費、東京が2回、福岡が4回、郡内が

4回となっております。

また、節の11需用費については、主にプールの消毒用、温浴施設の清掃用等であります。

以上です。よろしくお願いいたします。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまの説明において、さらに詳しい説明を求める、目・節等はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

なしでよろしいですね。

続きまして、議案第20号、平成26年度伊仙町簡易水道特別会計予算について議題とします。

捕足説明を許します。

○水道課長（芳田勇人君）

それでは、水道事業関係の予算の説明をいたします。

簡易水道特別会計と上水道事業会計を続けて説明いたしますけども、説明の前に簡易水道と上水道の地区の区分を説明いたしたいと思います。

本町におきましては、東部地区簡易水道と西部地区簡易水道と、上水道の大きく3つに区分されております。東部地区簡易水道とは喜念、佐弁、東西目手久、主な地区全体と古里地区までのことを言います。

西部簡易水道とは、木之香、東西犬田布、糸木名、河内、上晴、崎原、小島地区と八重竿地区のことを言います。

上水道とは、残りの上検福、下検福、伊仙地区全体と、東西阿三、東西阿権に馬根地区を加えた地区を上水道と称しております。中山地区に関しましては、飲料水施設網として独立しております。

それでは、予算の説明に入っていきますけども簡易水道特別会計予算、歳入歳出それぞれ9,944万円の増額となっておりますが、これは西部地区簡易水道事業の拡大と、東部地区簡易水道事業を新規に取り入れたのが増額となった理由でございます。

それでは、担当の春島から説明させていただきます。

○水道課長補佐（春島弘明君）

説明させていただきます。

それでは、平成26年度簡易水道特別会計予算についてご説明いたします。

歳入歳出の予算の総額は、歳入歳出それぞれ3億7,818万7,000円と定めるものでございます。

歳入について予算書の7ページからお願いいたします。事業費明細書は、簡易水道特別会計の事業明細書の1ページからでございます。

1款水道使用量及び手数料1項使用料及び手数料1目水道使用料4,470万1,000円とし、内訳といたしまして現年度分3,970万円、滞納分を500万円とするものです。合計が前年度より143万8,000円の減額でございます。

続きまして、2款国庫支出金1項国庫補助金1目国庫補助金として1億1,500万円で、内訳として、西部地区老朽管更新事業補助金として9,000万円。今年度から始まる東部地区老朽管更新事業補助金として2,500万円とするものです。前年度より4,000万円の増額でございます。

続きまして、3款繰入金として7,348万3,000円、一般会計からの繰入金を計上させていただきました。内訳といたしまして、職員3名の給料、手当及び共済費に2,489万8,000円、起債償還元利金に4,311万2,000円で、残りの547万3,000円については水道使用料収入で賄えない分を、一般会計よりの繰り入れにより補っているということでございます。前年度より1,138万3,000円の増額となっており、主に企業債の償還金の増額分でございます。

続きまして、4款繰越金及び5款諸収入については科目の存置でございます。

続きまして、6款町債1項町債1目辺地対策事業債として5,750万円とし、内訳といたしまして西部地区老朽管更新事業債に4,500万円と。

8ページをお願いいたします。

今年度から始まります東部地区老朽管更新事業による起債に1,250万円を計上いたしまして、前年度より2,000万円の増額となっております。

続きまして、2目公営企業債といたしまして8,750万円で、内訳として西部地区老朽管更新事業債に6,500万円、今年度新規の東部地区老朽管更新事業債に2,250万円としまして、前年度より2,950万円の増額でございます。

続きまして、歳出についてご説明いたします。

予算書の9ページをお願いいたします。企業費明細書は2ページからでございます。

まず、1款水道事業費1項一般管理費1目一般管理費3,399万3,000円とするものでございます。

1節報酬372万円、これは嘱託員2名の報酬で15万5,000円×12カ月分です。

続いて、11節需用費、公用車2tダンプの車検整備費などがございます。

続いて、13節委託料、水道メータの検針委託料で1,850戸×100円で、年間222万円です。

続いて、10ページをお願いいたします。

23節償還金利子及び割引料、これは過年度分の水道料の構成による還付に使用します。

続いて、27節公課費、これは税務署への消費税の申告納税分です。

続いて、2項原水浄水費1目原水浄水費11節需用費、これは主に原水のポンプの取水に係る電気代に年間2,028万円で、昨年度6月からの電気料金の値上げ分と4月からの消費税改正による値上げ分を加算してあります。修繕費として216万6,000円、各施設の機器、ポンプや急速ろ過装置の修繕です。薬品代として各浄水場の次亜塩素酸ソーダ及び糸木名浄水場の急速ろ過機の前処理をポリ塩化アルミニウム、凝集剤で合計で258万円などがございます。

続いて、12節役務費、水質検査費として毎月の各浄水、原水の水質検査を実施しております。

これは取水したものをその日の航空便で検査機関に送付することになっております。493万円を計上しております。

13節委託料として、ポンプ保守点検委託料に54万円、急速ろ過装置点検委託料として31万円、各浄水場の水量やポンプの異常が役場のパソコンで確認できるシステムがありますが、今年度からそのネットワーク監視設備保守点検委託料として29万9,000円を形状してございます。

14節使用料及び賃借料といたしまして、漏水工事及びろ過地砂入れかえのときに使用する重機借り上げ料として82万3,000円を計上してございます。

続きまして、16節原材料費といたしまして各浄水場のろ過地のろ過用砂代140万7,000円です。

それと導水管・送水管などの塗り作業代として81万9,000円となっております。

続きまして、10ページと11ページをお願いいたします。

3項配水給水1目配水給水費7節賃金、これは各配水施設の漏水修繕に伴う人夫賃金でございます。

次に、11節需用費といたしまして、修繕費として配水施設の修繕及び漏水修繕等によるものです。量水器取りかえ費として、期限切れの水道メータの交換費用でございます。

次に、14節使用料及び賃借料といたしまして、公用車リース料で、これは公用車4tクレーン車の分でございます。16節原材料費として漏水修理用材料代と水道メータ購入費です。

次の西部と東部の整備事業費については、徳永係長に説明してもらいますので、12ページの公債費をお願いいたします。

2款公債費1項公債費1目元金、起債の償還元金として3,356万5,000円、2目利子として起債の償還金利子の954万7,000円でございます。

○水道課管理係長（徳永正大君）

それでは、11ページをお願いします。

2目西部地区基幹改良事業費について説明いたします。本年度2億63万7,000円を計上しております。前年と比較しますと2,998万8,000円の増額になっております。

節の13、800万円ほどが設計委託料、節の15、1億9,800万円が工事請負費となっております。

目の3、東部地区基幹改良事業費について説明します。本年度6,050万円計上しております。

工事請負費が5,650万円を計上しております。

○水道課長（芳田勇人君）

以上で、簡易水道特別会計予算の説明を終わります。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまの説明において、さらに詳しい説明を求める目・節等はございませんか。

○3番（牧 徳久君）

この西部地区の工事請負費と東部地区の集落名わかりましたら。

○水道課管理係長（徳永正大君）

西部地区は今年度は、木之香地区、崎原の一部がございまして、崎原地区と木之香地区ということでございます。東部地区に関しましては、佐弁の石綿管の交換を考えております。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他にございますか。

○3番（牧 徳久君）

ちょっと質問したわけですが、杉原川のこの川からの管の工事は、今終わっているんですか、当初予算に見えないわけですが。

○水道課管理係長（徳永正大君）

現在進行中でありまして、順調に工事は進んでおります。

○水道課長（芳田勇人君）

当初予算には計上しておりません。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他にないですか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

続きまして、議案第21号、平成26年度伊仙町上水道事業会計予算についてを議題とします。

補足説明を許します。

○水道課長（芳田勇人君）

それでは、議案第21号、平成26年度伊仙町上水道事業会計予算について説明をいたします。

上水道事業会計予算に関しましては、地方公営企業法を適用した事務処理を行っており、独自の予算書となっておりますので、一般家計や他の特別会計とは予算書が異なっております。

こちらのほうも予算担当の春島から説明させていただきます。

○水道課長補佐（春島弘明君）

それでは、平成26年度伊仙町上水道事業会計予算についてご説明いたします。

上水道予算書の3ページをお願いいたします。収益的収入及び支出でございます。

まず、収入のほうから説明いたします。

1 款水道事業収益 1 項営業収益 1 目給水収益といたしまして、5,091万4,000円を予定しております。これは水道料金の基本料金と超過料金を合わせた4,714万3,000円に消費税の8%を加算した合計額でございます。収入額です。

2 目受託工事収益1,000円は科目の存置でございます。

3 目その他営業収益といたしまして3,999万2,000円を予定しております。これは給料手当等、法廷福利費、減価償却費分で一般会計からの繰り入れでございます。

2 項営業外収益 1 目受け取り収益といたしまして1万1,000円を予定しております。

これは、預金の利息でございます。

2 目補助金といたしまして、382万9,000円を予定しております。これは企業債償還利息分などで、一般会計からの繰り入れでございます。

3目雑収益の1,000円は、科目の存置でございます。

以上、収益的収入の合計が9,474万8,000円を予定しております。

続きまして、支出についてご説明いたします。

1款水道事業費1項営業費用1目原水浄水費といたしまして、3,203万3,000円を予定しております。これは原水に係る修繕費、動力費、電気代等と路面復旧費材料代、薬品費等の原水の維持管理に要する費用でございます。

2目配水給水費といたしまして445万1,000円を予定しております。これは配水管に係る修繕費、路面復旧費等の配水の維持管理に要する費用でございます。

3目総係費といたしまして3,087万9,000円を予定しております。これは施設の維持管理を担う嘱託職員の報償費や水道水には欠かせない水質検査等の委託料等の水道事業全般に要する費用でございます。

4目減価償却費といたしまして2,282万4,000円を予定しております。これは建物、構築物や機械及び装置等の有形固定資産1,782万4,000円と、中部ダムの使用权の無形固定資産500万円の合計額でございます。

2項営業外費用1目支払利息といたしまして337万2,000円を予定しております。これは公益企業金融公庫等の企業債の支払利息337万1,000円と、一時借入金の支払利息として科目存置の1,000円の合計額でございます。

2目消費税といたしまして118万8,000円を予定しております。これは前年度分消費税納税額でございます。

3目雑収益1,000円は科目の存置でございます。

以上、収益的支出の合計が9,474万8,000円を予定しております。

続きまして、4ページをお願いいたします。資本的収入及び支出でございます。

まず、収入のほうからご説明いたします。

1款資本的収入1項企業債1目企業債2,000円、これは企業債と借換債の科目存置でございます。

2項他会計出資金1目他会計出資金といたしまして2,240万4,000円を予定しております。

これは繰り出し基準に基づく出資金、企業債償還元金分の繰り入れで、一般会計からの出資金でございます。

2目の他会計補助金は、科目存置でございます。

以上、資本的収入の合計が2,240万6,000円を予定しております。

続きまして支出についてご説明いたします。

1款資本的支出1項建設改良費1目原水施設費といたしまして、300万2,000円を予定しております。これは原水に係るビン法により緊急時中部ダムの緊急ポンプ購入費300万円と漏水管敷設費と請負工事費の科目存置でございます。

2目配水施設費といたしまして600万3,000円を予定しております。これは中部地区の配水管整備

事業の要する費用でございます。

2項事業債償還金1目企業債償還金といたしまして2,240万2,000円予定しております。

これは公営企業金融公庫、財政融資資金、市中銀行の企業債償還金でございます。

以上、資本的支出の合計が3,140万7,000円を予定しております。

資本的収入額が資本的支出額に対し、不足する額、900万1,000円は過年度分損益勘定留保資金で補填するものいたします。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまの説明において、さらに詳しい説明を求める目・節等はありませんか。

○14番（美島盛秀君）

4ページの建設改良費の原水施設費の300万2,000円の内容なんですけども、阿権ダムの水源は祐徳岳のそのほうにありまして、そのところにミニダムを建設してあるんです。そのミニダムの下から取水口から水をとっているんですけども、今言ったように大雨とかいろんな災害が来たときは流されて、これは毎年取水口の工事補修費にかかっているんですけども、あれをこの予算、ミニダムから直接受けるようなことは考えられないですか。

○水道課長（芳田勇人君）

お答えします。

今ミニダムの貯水は八重竿の原水として利用しています。白水川のことですよ。

白水川は八重竿の原水として今使用しているところでございます。

ただ、阿権ダム水自体は阿権の表流水に比べると水質が劣りますので、確かに雨天時とかは濁るかもしれませんが、阿権原水と八重竿原水を接続すれば利用することは可能です。

ただ、今はそれは考えておりません。

○14番（美島盛秀君）

よく言われるんですが、あその水利権は阿権にあるわけですよ。それを上にミニダムをつくって阿権を八重竿から、またさらには糸木名にも送っているんじゃないですか。

○水道課長（芳田勇人君）

はい、確かに以前は八重竿の原水を糸木名の急速ろ過まで送水していましたが、現在は止めております。現在は糸木名浄水場へはヤクタ川の原水を入れて急速ろ過をしている状況でございます。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他にはございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

以上で、平成26年度一般会計予算及び6特別会計予算審査に伴う説明を終わります。

あすの現地調査については、昨日お配りのとおりいたします。午後9時、ほーらい館前から出

発となりますのでよろしくお願いいたします。

本日は、これで会議を閉じ、あすは午後2時から平成26年度当初予算審査特別委員会を続開します。

これで本日は延会とします。

延 会 午後 3時30分

平成26年第 1 回伊仙町議会定例会

第 6 日

平成26年 3 月19日

平成26年第1回伊仙町議会定例会議事日程（第6号）

平成26年3月19日（水曜日） 午後2時 開議

1. 議事日程（第6号）

○日程第1 平成26年度伊仙町一般会計予算他6特別会計当初予算審査特別委員会

1. 出席議員（14名）

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	平博人君	2番	岡林剛也君
3番	牧徳久君	4番	上木千恵造君
5番	美山保君	6番	永田誠君
7番	福留達也君	8番	前徹志君
9番	明石秀雄君	10番	樺山一君
11番	永岡良一君	12番	伊藤一弘君
13番	琉理人君	14番	美島盛秀君

1. 欠席議員（0名）

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長 明勝良君 事務局係長 佐平勝秀君

1. 説明のため出席した者の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町長	大久保明君	副町長	中野幸次君
総務課長	樺山誠君	企画課長	池田俊博君
税務課長	椛山正二君	町民生活課長	西吉広君
保健福祉課長	松田一郎君	経済課長	上木義一君
建設課長	中熊俊也君	耕地課長	穂浩一君
環境課長	益一男君	水道課長	芳田勇人君
選管書記長	佐平浩則君	農委事務局長	益岡稔君
教育長	茂岡勲君	教委総務課長	鶴永宏造君
社会教育課長	當吉郎君	学給センター所長	永島均君
ほーらい館長	仲武美君		
総務課長補佐	田島輝久君		
議会中継班（総括情報戦略室長	関政樹君）		
（終日）	稲田大輝君・野島幸一郎君		

～平成26年度伊仙町一般会計予算他6特別会計当初予算審査特別委員会～

△開 会（開議） 午後 2時00分

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまから特別委員会に付託された平成26年度伊仙町一般会計予算及び6特別会計予算審査を行います。

本日は、17、18日の説明及び午前中の現地調査を踏まえて、質疑から討論、採決までとします。一般会計予算については、款1から区分けをして行いますので、ご異議ございませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

それでは、議案第15号平成26年度伊仙町一般会計予算について、歳入から質疑を許します。質疑ございませんか。

○3番（牧 徳久君）

20ページ、公園休憩所貸し付け収入等12万6,000円。今年、前回資料配付では、そこが取り壊し、解体して新しくつくるわけですので、この貸し付け収入は、全額までは取れないんじゃないかと思いますが、どうですか。

○企画課長（池田俊博君）

牧議員のおっしゃるとおりで、7月、8月に工事着手ですので、その後のやつは取れないということ、また補正のほうで対応していきたいと思います。よろしくお願いします。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他にございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

それでは、歳出の款1から款4までの質疑を許します。

○14番（美島盛秀君）

25ページの、款2総務費項1総務管理費の目1一般管理費の節の2給料5,454万2,000円が計上されておりますけれども、この中には、去年行われた採用試験で合格した新しく採用された職員がいるのかどうか伺います。含まれてるのか。

○総務課長（樺山 誠君）

ただいまの質問でございますけれども、24名の新規職員採用予定者の給料も入っております。

○14番（美島盛秀君）

24人が採用されたと、合格されたということを知っておりますけれども、この人たちの採用は7月以降ということを知っておりますけれども、7月1日からの発令はしてないということでしょうか。

○総務課長（樺山 誠君）

ただいまのところの予定といたしましては、新規の採用の方に関しましては、3カ月間の研修をしっかりと後に、7月1日から順次採用していく予定でいます。

○14番（美島盛秀君）

去年の9月に試験をしてあるわけなんですけれども、普通であれば、今までは4月1日付で発令をしていると思いますけれども、その理由は何でしょうか。

○総務課長（樺山 誠君）

今まで4月1日で発令をいたしまして、県等で研修期間を設けてやってたんですけども、今回、大人数ということで、町のほうで4月から6月までの間にしっかりと研修をしていきたいということで、今、カリキュラムの作成等に入ってるところでございますけども、3カ月間のしっかりと研修を行った後に、7月1日から発令していくという考えでいます。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他にございませんか。

○9番（明石秀雄君）

94ページ、参考資料のところです。

総括表で、本年度の職員数が136名、前年度が126名という形で、今、出てるんですが、先ほどの総務課長の説明で、新しく採用分も人数に入ってるということでありましたが、この136名分しかこれに入っていないんじゃないですか。職員、条例定数は151ですよ。みんなこれに入らないとおかしいんじゃないですか。

○総務課長補佐（田島輝久君）

一般会計上は、職員を136名、あと上水道、簡易水道のほうに3名ずつおりまして6名、合計142名の職員を見込んでおります。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

よろしいですか。他にございませんか。

○3番（牧 徳久君）

26ページ、先ほどの質問に関連しますが、この事務賃金、24名分だという説明であったんですが、これが7月採用までの事務賃金となるわけですか。

○総務課長（樺山 誠君）

事務賃金のほう、7の賃金のほうがそういうことになります。

○3番（牧 徳久君）

今年は、31ページ、印刷製本費に100万ほど組んでるわけですが、総合計画の更新の年だと思いますが、以前、策定したときもかかわったんですが、10年となると、非常に10年たったら時代が変わってくる。これを10年後ということですが、もっと年度を、5年計画ぐらいにして新しく組みかえるとか、こういった方法も考えたらどうでしょうか。

○企画課長（池田俊博君）

例年は10年計画ということで、前期5年、後期5年の、5年の見直しということで計画を立てているみたいでございますが、今年度は少し工夫をいたしまして、前期・後期・中期ということで、前期3年、中期4年、後期3年ということで割り振りして、見直しの期間を早めたいと今のところは考えております。

以上です。

○3番（牧 徳久君）

非常に工夫しているようですので、これで安心しとるわけですが、このようにして、10年というのは長いようですので、今後、また検討していけばいいと思います。

あと、そのページの航路航空路運賃の負担軽減負担金ですが、これについては一般質問でもしましたが、奄美群島民の一般客に対する航空運賃の補助であります。観光客も対象に考えているということですが、学生とか帰省、島出身の方がおるわけですが、学生あたりはしょっちゅう4月とか盆とか正月には帰ってくるわけですので、こういった方にも範囲を拡大する考えはあるのかお伺いします。

○企画課長（池田俊博君）

学生とかそういう関係になってくると、スカイメイトとかそういう割引で安い運賃があるかと思っておりますので、今のところは観光客誘致ということで、同じように観光課との形で、キャンペーン事業とかそういうのでやっていく予定でございます。

以上です。

○町長（大久保明君）

先般、国土交通省と連絡取って状況をお聞きしましたら、まだかなり流動的な状況であります。決定はしていませんけれども、地元からの要望は、学生だけじゃなくて、観光客でもなくて、出身者が冠婚葬祭で帰れるようにということで、同じような形の割引制度は、鹿児島から徳之島は、これは今の状況をお聞きしますと、可能になる確率のほうが高いと、今、思っております。

そのかわり、今、島内在住者が鹿児島まで57%引きということは、これは余りにもやっぱり優遇されすぎじゃないかということで、これを50%以下にして、その分を外から来る出身者、観光客に配分していこうということで、これは、そうなる可能性がかなり高くなってきていると思います。

○3番（牧 徳久君）

ぜひ、観光客向けを含めて、今、町長がおっしゃいましたように、冠婚葬祭でしょっちゅう帰ってくる出身者とか、学生はスカイメイトであります。こういった方にも範囲を広げていただきたいと思っております。今の件は、それでよろしいです。

40ページ、助産費等の補助の繰出金として700万計上されておりますが、これについては、産科医師を2人確保して常時体制で組むということで、非常に子宝の町として日本一ですのでいいことと思っておりますが、今後、またこういった産科医がいなくなることがないように、確保を随時毎年できるのか、お尋ねいたします。

○保健福祉課長（松田一郎君）

今、徳之島の医療を考える会の中で、25年度については県の補助金もいただきまして、一応、支援策ということで進めてきました。その中で、今年の4月から、2名産科医確保、常駐医です、これはもちろん。確保できて、さらに、来年はもう一人入る可能性もあります。

だけど、これは流動的なもので確約はできませんけれども、だけど、そういった状況に陥ったときには、徳洲会のグループの中とか、不足になれば、今、市立病院のほうとも連携取っております。鹿児島県のほうも支援をいただいておりますので、この中で対応できると思います。あと、またこれに不随して、新生児科、赤ちゃん、これを見るためにも、また市立病院のほうから、4月以降も継続して延長するというようになっておりますので、そういった面に関しては、医療を考える会の中で、医療機関と行政と県と連絡取って対応しておりますので、今の段階では万全だと思っております。

○3番（牧 徳久君）

産科医が不足しますと、都会へ嫁さんに行ってる子供たち、島で親の元で出産したいという方もいるわけですので、ぜひ、これが欠員をしないように、続行できるように努力していただきたいと思っております。

48ページ、今年からハブ買い上げ代が、県のほうが500円減額ということですが、非常に農業に対しても、これから世界遺産の登録に向けて外部からお客様もいっぱい来るわけですが、こういった中で、ハブ撲滅運動等、一生懸命やっとなら、喜界島とか与論、沖永良部はハブがないわけですが、観光立島として、このハブを撲滅するためにも、これ減額はしないで、3町で話し合って、町費でも組んで、額を今までの額、以前は5,000円ということもありましたが、今ごろは値段が下がって燃料代が上がって、ハブを捕獲する方も少なくなりましたので、農業の阻害要因ということもありますし、ぜひ復活をできないのかお伺いします。

○環境課長（益 一男君）

ただいまの質問についてお答えをいたします。

25年度暮れから今年2月までに、県のほうから説明会等が3度ぐらいありまして、こういう趣の説明を受けましたが、3町としても500円を減ずるとするのは、非常に担当者のほうで3町ともに足並みを合わせて、これは非常に厳しいです、そういう500円減額するのはしないようにという要請もしまして、去年の9月の臨時会、天城町の議会においてもこういうお話がございましたが、議会のほうをもって県に陳情をするというような趣の、新聞等にも載っておりますが、県のほうから、やむを得ない減額ということも強く申されまして、県の500円減というのはいかなければいけないという結果になりましたが、また、これに対して町側の負担はどうしましょうかという話、検討会において、3町では、財政面もあります、1,500円負担を下げないように、現状維持のまま1,500円を負担をして、県と町合わせて3,000円の買い上げ額と決定をいたしておるところです。

今後の500円についての補充に関しては、今後、さらにまた検討を進めて、財政等も協力を得な

がら対応していきたいと、このように思っております。

以上であります。

○3番（牧 徳久君）

町の費用では、3町とも財政の関係上難しいということですが、県議の先生も、大島郡区選出の県議会議員の先生もいらっしゃるわけですので、県議あたりに要望するとか、500円を復活させるという方法を、今後、県議の先生方にも陳情して、ぜひ、このハブを撲滅していただきたいと。そうしないと、農業するにも、若干、子供達も危ないし、観光客迎えるにも危ないわけですので、ぜひこの500円は復活させていただくよう要望していただきたいです。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他にございませんか。

○7番（福留達也君）

30ページをお願いします。

8目の文書広報費、ここに該当するのかどうかちょっとわからないんですけども、昭和53年に伊仙町史というのが発行されてるんですね。それから、約35年ぐらいたっているんですね。

去年、一昨年伊仙町町政50周年あるいは復帰60周年、そういったのに合わせて、これがまた改訂されたらという思いでありましたけれども、間に合わなかったようなんですけれども。

この伊仙町史を今後新たに見直しながら、いろんな人に分野、分野、担当していただきながら、年次的に計画を立てて再発行していく予定、そういったのはないか伺いたいと思います。

○企画課長（池田俊博君）

町制施行50周年記念の事業で、一応、そういうことも持ち上がっていたみたいですけど、50周年の記念誌を作成した関係で、またそれができなかったようでございますが、いろんな資料を取りそろえて、これから町史編さんの委員会等立ち上げまして、また検討していくようにはいたしましたと思います。よろしくをお願いします。

○7番（福留達也君）

そうですか。突然、急にはできない事業であると思いますから、きちんと計画は年次的に立てて、2年後、3年後見据えて、ぜひこれをまた再刊行していただきたいと思います。

次のページ、31ページをお願いします。

真ん中あたりに、徳之島空港利用活性化事業負担金20万が計上されてます。

これは、去年の当初予算のときに質問が出て、そのときは687万あったんですけども、機材の購入ですね。

タラップとか、そういったものの購入代だったと思うんですけども、そのときに質問されたときに、駐車場の利用、もうちょっと使いやすくするようにできないかと、補助金も出してるわけですから。そういった質問があったときに、要望しておきますというふうな企画課長の答弁があったんですけども、その後、要望出したのか、出したら、どういった回答が返ってきたのか、そこい

らあたり、お願いしたいと思います。

○町長（大久保明君）

駐車場の利便性ということで、今、新しく県が一方通行で対応していますけれども、まだ年末年始などは、非常にスペースが小さいということなどがありますけれども。

県への要望ですけれども、あの駐車場は県の管理ですから、あそこの駐車料を取るというのは、本来取らなければいけないんですけれども、それは今のところ、県がまだ大目に見てる状況ですけれども、いずれ、料金を取って駐車するとか、あと、我々が要望してることは、南国的な植栽をしてほしいということなどは要望しましたけれども、それもまだできてないような気がいたします。

○7番（福留達也君）

去年出たのは、ずっと停めるわけではなくて、乗りおりすると。例えば、人を迎えに行ったりとか、降ろしたり、そこいら、それを夏休み期間中しようとしても、そのときできえいっぱいできなかった使い勝手が悪かったと。それをどうにか改善できないかと、そういった要望があったから、それがどうなったのかなということを知ったわけですね。まあ、わかりました。

それと、これはどこに要望するのか、ちょっと見間違いかもわからないんですけれども、最近、飛行機利用すると、機材故障で欠航になりましたとか、遅れましたとか、結構あると思うんですけれども、これ、大丈夫なのかなとか思うときがあるんですけれども、こういったものJALに要望するのは、町経由で天城町に行って、そこから要望するんですか。

○町長（大久保明君）

空港の利用促進協議会の会長、天城町長で、それから周辺の管理に関しても天城町でございますので、これは、天城町長が中心となった徳之島空港利用促進協議会っていうのも天城町にありますので、そこを通じて県とJAL、JACに要望していきます。そして、このJAL、JACの我々株主ですから、株主総会の中でもいろんな新しい航空路の開発など、それから徳之島・与論や沖縄直行便、徳之島から東京・大阪の直行便の要望などはしていますので、利便性に関しては、今かなりよくなってるんじゃないですかね。

○7番（福留達也君）

確かに、4便体制っていうことで、利便性は確かによくなってきてるとは思うんですけれども、機材故障で欠航になりましたとか結構あるもんですから、かなり不安になるよねという思いがあったから聞きましたけれども、要望する機会があれば、ぜひそういったところも要望していただきたいと思っております。

40ページ、お願いします。

節19の負担金及び交付金、この中のシルバー人材センター運営補助金350万ですね。

これ、25年度の当初予算では127万ほど計上されて、内訳として5,300円の20日掛ける12カ月、事務員の賃金ということで当初計上されてあった。その後、補正が100万程度あって、二百数十万あったんですけれども、このシルバー人材派遣センターというのは、これ、今どういった状況になっ

てるんですか。当初、何名ぐらいで募集して、そこに登録されている方、何名ぐらい目標にして、今現在どれぐらいなのかとか、そういったところから教えていただきたいと思います。

○保健福祉課長（松田一郎君）

シルバー人材センターについては、今、議員おっしゃったとおり、昨年、設立されまして、当初は準備の段階ということで募集もかけて、160名ぐらいの規模で募集をしておりましたんですけども、なかなか集まらずに、そういった人為的な、そういったのがありました。

あと、補正したのは、機材とか運営費を、まだまだ弱体の組織ということで、しばらく1年の間は行政からの大きな支援がなければ運営ができないという状況がありましたので、今年も昨年の実績に基づいて、要望、満額ではありませんけれども、当初の満額では400万超えてたんですけども、人件費がちょっと高いということで、中の事務員3名いらっしゃるんですけど、その方たちには、職員の給与が高いというのもありまして、それを是正するというので350万に落とした経緯があります。あとしばらくは、行政からの支援がないとなかなか運営ができないという状況に追い込まれておりますので、運営改善する段階で、組織としても、料金体系とか募集関係についても再度検討するというに、今なっております。

当初の目標の人数にはまだ達していないという状況であります。これは、もう半年前の資料ですので、まだ決算段階で、また判断していかなければいけませんけども、今の段階では、各町シルバー人材センターはそうですけども、自治体からの何がしかのやっぱり補助金がいただかないとやっていけないという状況は確かにあります。今後の決算状況見ながら、また判断していきたいと思っております。

○7番（福留達也君）

まあ、どうなのかな。どうもこういったところに助成金なり補助を出すときに、民間並みにちょっとシビアに見てるのかなと。そこが何か要求すれば、その満額出してるんじゃないかなと、そういった思いもあるから、きちんとシビアにチェックして、今後、考えていただきたいと思います。

決算は、いつになるんですか、時期は。

○保健福祉課長（松田一郎君）

大体6月から7月の間だと考えております。その中で、結局は26年度の予算も本当は策定しなければいけないんですけども、とりあえず、当初の顔出しをして、私たちとして、約120万ほど、これで一応削減はしております。その中で、後は状況を見ながら、また増減については検討していくということでいたしております。決算については、もう6月から7月の間ということで理解していただければと思っております。

○7番（福留達也君）

わかりました。

すいません、ちょっと前に戻るんですけど、いいですかね。23ページ、いいですか。

5節の商工費、プレミアム付き商品券、200万。これ、去年より100万多めに計上したということ

であります、Aコープ進出による地元商店街の救済策みたいな意味合いだと思うんですけども、この商品券はAコープでも使えるんですか。

○企画課長（池田俊博君）

プレミアム商品券の場合は、商工会の会員様のところのお店のほうで利用できるということで、Aコープが商工会のほうに入っていたいただければ、そこでまた利用できるということでございます。

○7番（福留達也君）

わかりました。こういった補助ももちろん大事なことだと思うんですけども、地元の今まであった商店街の方に、不安に感じてると思いますよ。そういった人たちに、経営アドバイザー的な人を必要があれば派遣するとか、不安に思ってることを解消するような、そういった手立ても考えていただけたらと思います。

以上であります。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他に質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

次に、款5農林水産業費から款8消防費の質疑を許します。質疑はございませんか。

○3番（牧 徳久君）

58ページの19の負担金。いよいよ奄振の農林水産物輸送コスト支援事業負担金として計上してありますが、これは、議会の議会だよりも今期バレイショには適用しないということですが、バレイショと何々、サトウキビ含めて他の作物がいっぱいありますが、どういった作物を選定してるのか、バレイショだけなのか、お願いします。

○経済課長（上木義一君）

牧議員の質問にお答えします。

まだこれは、どの品目に該当するかというのは、具体的な品目としてはまだ調整中ということで、まだ確定はしてないということです。

○3番（牧 徳久君）

バレイショも含めて、今年はまた価格が相当落ちてるような感じではありますが、来年からバレイショをつくる人がいなくなったら、もう農業生産額50億円も大変ですので、この事業、農家の意向も聞きながら、輸送の作物名を考えていただきたいと思っております。

次の、10項の青年就農給付金600万計上してありますが、これ、説明では4名ということでしたが、4名はどこの方なのか、名前が申し上げられなかったら、東部、西部、中部でもよろしいです。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

個人名は言わないでください。

○経済課長（上木義一君）

牧議員の質問にお答えします。

4名分600万円、計上しておりますけど、東部で、あと、西部と中部ですね。4名。

○3番（牧 徳久君）

町内近郊のバランスがとれてるようでありますので、これでよろしいかと思えます。

次に、63ページ。

8の、報償費。有害鳥獣捕獲出動報償費として50万円計上してございますが、これについては、一般質問でも行いましたが、先般の説明では1頭当たり1万円ということでありましたが、一般質問でも申し上げましたとおり、天城町、徳之島町では、2万から3万円を1頭当たり支給してると。そうした場合、これを町の費用だけでは大変ですので、糖業振興会あたりから半額を拠出したり、こういったことを広報しながら両町では頑張ってるわけですので、今後、こういったことが、また猟友会でも1回出て、必ずイノシシがとれるわけじゃないですので、ぜひ、3町、同額に近い形にもっていけないのかお伺いします。

○経済課長（上木義一君）

質問にお答えします。

予算計上としては、1頭1万円の50万円で計上しておりますが、あと実績で国のほうに8,000円を申請をして、猟友会の該当者の皆さんに、歳入され次第お支払いするというので、今、進めるところでございます。

あと、糖業振興会等は、また今後話し合いをしながら、また両町の2万円、そこも確認は取っておりますので、3町並ぶような方向で前向きに検討はしていきたいと考えております。

○3番（牧 徳久君）

その下のカラス駆除委託料ですが、これも一般質問でもお話ししましたとおり、ある地区ではヤギを入れてあるということを確認したと思えますが、今後、こういった方には強く指導して、これは大金を上げて、国の事業で立ててるわけですので、ぜひ、これを移転するなりして有効活用していただきたい。小島集落あたり、河地集落あたりでは、なお、今、天城町含めてカラスが多いという苦情がありますので、牛の飼料あたりを置けないという苦情もありますし、ぜひ、この事業を再開して頑張っていたきたいんですが、これを移転できるのかできないのかお願いします。

○経済課長（上木義一君）

質問にお答えします。

牧議員のほうから一般質問でもありましたように、すぐ担当のほうに確認をしてもらいまして、写真等で今確認をしております。地主の方とも、電話ですけどお話をして、移転するというので合意には至っておりますけど、日にち的には、予算が伴いますので、予算とも相談をしながら、また1日でも早く移動したいと考えております。

あと、また、移動先に関しては、集落からまたいろんな影響がないところに、区長さん等も通じ

て現地等を調査しながら、いろいろ問題等が発生しないような場所に設置を、そしてカラスが天城と伊仙町境に何かいるという話を聞いておりますので、その辺も調査をしながら移動したいと考えております。

○3番（牧 徳久君）

これについては、やっぱ生の豚肉の肉とか入れてカラスを呼び寄せるといふあれですので、それがほったらかして臭くなって、地主としてはこれもさせたくないということですので、他の方もそういう点があると思いますので、ぜひ、小島あたり主にするのであれば、上成線の空き地がありますが、そこは町有地ですので問題ないかと思いますが、こういったところを選定して、早急に移転を有効活用するようにお願いしたいと思います。

あと、66ページ、ここに電子入札等システム共同利用負担金を組まれておりますが、いよいよ伊仙町においても、今年から電子入札が入るといふことでして、非常に喜ばしいことですが、これはいつごろから電子入札は導入する考えかお伺いします。

○副町長（中野幸次君）

昨年度の議会で答弁したんですが、今年度になりまして、建設課のほうでもスケジュールを決めて、試行する期間ということで、その検討に入っております。また、他町村、和泊町や、それから鹿児島県の指導等受けながら実施してる市町村の例等を参考にして取り組んでいくということで、実際に施行されるのは27年度からと、こういうことになると思います。

○3番（牧 徳久君）

すばらしい制度でありますので、早めに導入していただいて、皆さん、足を運ばなくても入札ができるという形にさせていただけたらありがたいなと思っております。

以上です。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他に質疑はございませんか。

○9番（明石秀雄君）

58、下の6次産業化の推進事業が廃目になってるんですが、町長の施政方針の中には、今後とも続けてまいりますということをやっているんですが、町長が施政方針として唱えるものと、この予算書は一致しない。どれを我々は信用して町民に説明すればよろしいでしょうか。

○経済課長（上木義一君）

明石議員の質問にお答えします。

この前、予算の説明のほうで、うちの担当の西川からの説明もしましたけど、これは、徳之島3町で徳之島営農推進対策の本部に吸収されるということで、その3町で6次産業化に向けた話し合いをするということで、廃目という形になっております。

○9番（明石秀雄君）

そうすると、町長の施政方針で今後やりますというのは、予算には出てこないということですね。

予算に出てくるものが、1年間の町が行く方向性を示してるものだと思うんです、僕は。

しかし、予算に出てこないとなんの意味もない。であるならば、施政方針、今後もやりますとか言わないでほしい。

それと、もう一つは、町の総合計画実施計画書があるのですが、その中に載っているものでさえも予算書には出てこないのがある。26年度で終了だと、今年しなきゃいけないんだというのを載ってるものが、予算書に出てきてないものがある。予算を計上するときには、実施計画書をもとにしてやるんじゃないですか。どこを見てやってるんですか。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

答弁をお願いします。

ただいまの質疑については、後ほど答弁させますので、他の質疑を許します。

○9番（明石秀雄君）

住宅が26年度2億2,500、既存住宅の改修で2,000万、26年度計画書に載っております。それから、港湾整備です。その上のほうの。これも、計画書では、26年度実施計画書の3ページ、前泊が、今年度。その他のところで、4ページ目に面縄の整備が1,000万、トイレ休憩施設及び舗装工事というふうに、執行のほうはもう終わってる。このように、先日の一般質問でも、港湾整備のほうで、同僚議員から一般質問でも出ておりましたが、これは、町長のほうは、また27年度、8年度から計画しますっていうのをうたってる。施政方針の最後のほうです。終わりじゃなくて。18ページ。27年度以降に、面縄防波堤等の測量設計工事を行う予定でありますとうたってるが、出てるものが全然合わない、予算書も。出てないので、今、もしかすると補正あたりでやる気持ちがあるのかどうかわかりませんが、この問題は、一般質問のほうでも先日出ておりますので、補正でやるならやる、また、計画変更するのであればそのとおり、早めに我々に示していただきたいと思えます。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

今の明石議員の質問に対して、町長の答弁を求めます。

○町長（大久保明君）

施政方針の内容と予算書、また実施計画書が合わないということで、施政方針に書いてある前泊港、面縄港の事業が載ってないということはなぜかということだという質問に対しまして、今、確認をして……。

前泊港、面縄港ですね。

課長がよくわかってるようですので答弁させて……。

○建設課長（中熊俊也君）

一般質問でもお答えしましたが、いろいろ予算の都合やら、トイレの管理体制が結論が出なかったということで、延び延びになっていまして、時期、第5次振興計画に載ってますよって答えたつもりだったんですけども。

そして、また、その件に関しまして、昨日、港湾担当の県のほうから電話きまして、27、8、やるつもりがあるんでしたら、手を上げてくださいということで連絡がありましたんで、それに向けて、早急に取り組みたいと思っています。

以上です。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

計画書を変更するのか、補正であるのか、後ほど明確な答えを出していただきたいと思います。

○総務課長（樺山 誠君）

先ほど、企画課長のほうからの答弁もあったんですけども、26年度に第5次振興計画を作成していくわけですけども、その中で3段階に分けて計画をつくっていくと、それも必要でしょうけども、まず、この一年一年のチェック、それをちゃんと実施をして、27年度の中でできなかった事業に関してどう見直しをしていくかと、そういうチェック機能も据えた振興計画を一緒につくっていくというような、今、議論を始めてるところですので、次回の第5次振興計画からに関してはこういうことがないように、頭出しだけをしていかないというような状況で、しっかりチェック機能も働かせるような形でやっていきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

○9番（明石秀雄君）

住宅の件なんですけど、実施計画のほうでも、50戸とか20戸を改修するとかいう話はこれに出てるんですけど、つくるのはいいです、大いにつくってください。しかし、住宅の使用料の徴収率が、もしかすると50%ぐらいじゃないですかね。どうですか、徴収率、住宅の。

○建設課長（中熊俊也君）

現年度分のほうは、2年前から95%をクリアできるぐらいの徴収率いつているんですけど、滞納分がなかなか伸びなくて、今回、3件、弁護士を通じまして法的措置をとるようにしていたんですけど、1件は全額ではないんですけど持ってきましたもんで、2件だけ、顧問弁護士に頼みまして、法的手続きを進めてる段階であります。

以上です。

○9番（明石秀雄君）

ただいまの答弁のとおり、住宅使用料の徴収が非常に悪い。今後、これのいかに徴収率を高くするかが問題になると思います。ぜひ、そういうことが指摘されないような日常の仕事に精を出していただきたい、そう思ってるところです。

もう続けて全体のことを申し上げますけれども、なぜ住宅使用料、特に取り上げたかと申しますと、全庁は単年度の実質収支が低い。むしろ赤字。今持つてる資料は、25年の上半期です。

23、4は赤字です、実質単年度です。そうすると、積立金、それぞれのものから取ってこないとかくれない。そうすると、翌年度の計画している事業が思うようにいかない。そういうものの繰り返し、今いつている事業の見直しをしなきゃいけないとか、実施計画書にのってやれないとかいう問題が出てくると思うんですよ。ぜひ、徴収率の悪いところは、徹底して。徴収が、今しやすく

なっている条例もつくってると思います。いろいろな問題でね。特に、住宅が悪いと私の感じでありますので、特に申し上げときますので、今後、十分に気をつけられて仕事をやっていただきたいと思ひます。そう希望して終わります。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他にございませんか。

○14番（美島盛秀君）

55ページ、節の21貸付金500万。百菜の運営貸付金でありますけれども、毎月の決算の報告を町長にするとということ、去年の議会でありましたけれども、町長にその報告等は来てるのかどうか、まず伺ひます。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

ただいまの質問に関しましては、後ほど答弁をさせます。次に移ってください。

○14番（美島盛秀君）

目6の糖業振興費、サトウキビの原種の委託料を種子島にお願いをしてると、種子島から送ってきてるといふ説明でありましたけれども、この理由。また、島の農家に委託はできないのかお尋ねをいたします。

○経済課長（上木義一君）

美島議員の質問にお答えします。

種子島のほうに育苗をする試験場、そういう関係で、種子島から種苗取ってるということです。

○14番（美島盛秀君）

種子島に糖業振興の試験場があつて、そこから新しい品種の。ああ、わかりました。

その下の、19負担金補助及び交付金、何種類か出ておりますけれども、私は、この予算では農家への増産意欲はまだまだ足りない、増額をしてほしいということ、を一般質問のほうでもお願いをしたわけなんですけれども、もっと増額をして増産につなげる施策等、考えはないのか、お伺ひします。

○経済課長（上木義一君）

美島議員のおっしゃるとおり、生産者の意欲を高めるためにも補助等は必要ではないかとは考えますけど、今の時点ではちょっとできますとは答弁はできませんので、これはまた関係機関といろんな相談をしながら、また前向きな検討をしつつ、また補助金だけを上げて、あとは生産農家の認識も高めながら、そうしてちゃんとした適正管理ができて、その中で反収アップがまた処理できるように、そういうのも踏まえながら、前向きにまた検討します。

○14番（美島盛秀君）

ぜひ、後で町のハウスの移転等の予算が出てますけれども、こういうハウスを移転したら、経済管理、そういう増産プロジェクトみたいな感じの組織をつくってでも、種苗の、一芽苗の補植用の苗を育成できるような施設を考えて、そして今、20円ですか。メリクロンも30円から20円というこ

とだったんですけれども、20円あるいはそれを10円で出せば、農家は意欲が出てきて、どんどん補植をして、生産が上がってくると。というのは、私がそれを経験していますので、ぜひそういうふうにして、農家に10円程度で、諸経費あたりで増額をしてやっていただきたいと思いますのが、そこらあたり、今、経済課でそういう施策とか、そういう農家との研修等、考えられるのかどうか伺います。

○経済課長（上木義一君）

美島議員のおっしゃるとおり、議員の圃場は非常に管理がされとって、草1つない、模範となるような圃場だと、私が見た限りでは思っております。今後も、先ほども申しましたように、1番管理ですので、ちゃんとした管理、防除した中での反収アップ、そうすれば、おのずと生産額は上がりますので。

あと、移転した後のハウスの中では、そういった種苗等の植えつけをしながら、そして1日でも早く生産者の方々に供給できるように、また生産者の皆さんの声も聞きながら、そしてちゃんとした生産者に返せるように、そして、ひいては生産額向上に努められるように努力します。

○14番（美島盛秀君）

ぜひ、行政の手助けがあれば、農家もやる気が出てきます。職員の何人かいますけれども、ぜひ農家へ足を運んで、農家の皆さんと真剣に話し合いをして、増産あるいは農業所得向上に取り組んでいただきたいということをお願いしておきます。

続きまして、63ページ。

先ほどの答弁もありましたけれども、63ページの報償費。有害鳥獣捕獲出動報償費の50万なんですけれども、天城町、徳之島町は、柵をやっております。以前に、私が質問をしたときに、もう世界遺産に向けて、柵をつけると産業廃棄物になると、後、困るといようなことが答弁でありましたけれども、天城町、徳之島町やって、その間があいたら、伊仙町に入ってくるのは、もう決まり切ってます。だから、天城町と徳之島町の人たちにこの話をして聞いたら、もう全部伊仙町に逃げて、天城町、徳之島町は少なくなってるという冗談めいた話までしたんですけれども、ぜひ、伊仙町も柵をつくる予算等を確保してほしいんですけれども、そこらあたり、検討をしているのかどうか伺います。

○経済課長（上木義一君）

質問にお答えします。

牧議員の質問にもお答えしましたが、天城町さん、徳之島町さんにも確認をしております。伊仙町としても、材料支給のほうは国から申請をして、あと設置のほうは集落に管理をさせながら、そして、これはまた実績報告が伴いますので、ちゃんとそうした手続き等ができるか、できないか、そういうのを、集落そして代表者の方に確認を取った後に、そういう申請をしていきたいと考えております。

あと、議会が終わって、4月以降、牧議員と一緒に現地調査をしながら、西部の山際に調査しな

がら、設置の方向に向けて、今検討はしてるところです。前向きな検討ですね。

そうしないと、非常に、私のほうも現地を確認しております。生産意欲はなくさせないように、経済課としても努力をしていきたいと考えております。

○14番（美島盛秀君）

八重竿の中央線、糸木名、河地、主に中央線から山手のほうに畑を耕作してる人たちの100%とっていいでしょう、大概の人がそういう話をします。もうイノシシにやられて、もう作物できないと、こういうような被害の話をしております。地主さんにとっては、もうあの手この手、いろんなことを考えてやってるみたいなんですけれども、それもイノシシが頭がよすぎて、すぐ見抜かれてしまうというようなこと等の話もあります。ですから、ぜひここあたりは農家さんともしっかり話し合いをして、さっき足を運びなさいと言ったのはそのあたりなんですけれども、しっかり掌握して、農家の声を吸い上げていただきたいと思います。お願いいたします。

それから、64ページ。

商工費の節19の負担金。先ほどもありましたけれども、プレミアム付き商品券。

Aコープの話等も出ましたけれども、もちろんAコープは商工会に入れてもらわないと私は思いますので、そういうことはあり得ないだろうと思います。

そこで、やはり町が主に利用している商工会の会員さん、あるいは西部とか、あるいは東部、余り利用しない、少ない商店街もあると思いますので、そういう余り売り上げが伸びないような、まあそれは商品の価値とかいろんな賞味期限とかいろいろ問題等もあるとは思いますが、そういうことを商工会としっかり歩み寄りして、話し合いをして、プレミアム券を発行していただきたい。これは、100万円から200万円ということは、増額して努力されていることに対しては、議会の声も町民の声も聞いてくれてると、こういうことを思いますけれども、やはり商工会としっかり話し合いをして、島の商店、こども助けられるような方法、方策をしていただきたいと思っておりますけれども、そのあたりの点について、どういう考えをしてるのか伺います。

○企画課長（池田俊博君）

先ほどの福留議員のほうでもそういった質問がございましたが、商工会の内部のほうでも、指導員が県のほうから派遣されてきておりますので、また指導員の指導と、また町のほうとの協議なども行いながら、商工会の発展に努力していきたいと思っております。

以上です。

○14番（美島盛秀君）

ぜひ、これ、当初予算でありますので、この予算がスムーズに執行できて、商工会の、あるいは地域に少しでも還元できるような予算執行であることをお願いをいたしたいと思っております。

次が、65ページ。

目の4徳之島地域文化情報発信施設運営費、現在、どのような運営方法をとってるのか、まず説明をいただきます。

○企画課長（池田俊博君）

徳之島地域文化情報発信施設ですけど、通称なくさみ館ですけど、今、施設のほうに、向こうの文化施設のほうですけど、観光協会のほうから1人臨時職員がいまして、彼女が週休2日の、月20日の勤務で勤務しております。また、あと、賃金として清掃賃金とか、そういった賃金で1人雇って運営をしております。

また、闘牛開催とか、そういうときには使用料を徴収し、それを運営費に充ててます。以上です。

○14番（美島盛秀君）

節の7賃金に129万6,000円、これは、観光協会に払うお金ということですか。

○企画課長（池田俊博君）

臨時職員2名おりまして、1人が観光協会のほうの持ち出しで支出していただいております。

1人が清掃関係とかそういうので町のほうから持ち出して、1人の分だけの賃金でございます。

○14番（美島盛秀君）

毎日開いてない、そういう行事もない、そういうところに2人も職員をやって、賃金を組んであるんですけども、これ、無駄遣いと私は思うんですけども、そこらあたり、何か検討する余地はないものですかね。

○企画課長（池田俊博君）

観光協会のほうで、各町のほうに1人ずつ臨時職員配置しておりまして、伊仙町のほうにおいても、なくさみ館のほうに1人配置いたしまして、観光案内とかそういうのをやっている状態です。今のところ、清掃とかそういうので管理の運営上、やっぱりどうしても1人いないことには、どういうことになるかわかりませんので、2人体制で一応はやっていきたいと思っております。

○14番（美島盛秀君）

ここらあたりは、ぜひ、もうちょっとしっかり精査をして、2名も必要なのか、どういう事務内容してるのか、きちんとした報告書等がきてるのかどうか、そういうあたりをきちんと精査して、またこの予算執行の、6月、9月とありますので、報告をいただきますのでよろしくお願いいたします。

目の5観光拠点連携整備事業費なんですけれども、節の15工事請負費の中に7,740万円、これ、岬と思いますけれども、阿権はそういう観光地として指定はされていないんですけども、これ、企画が出したウォーキングマップがあります。ウォーキングマップで何人が歩いたりしている人もいるし、あるいは土曜日、日曜日を利用して歩いているよそからの人もおります。その中で、阿権に「幸ちゃんの家」がありまして、そこに芝が公園的になって、そして、また民間の空き屋敷を利用して整備をして、公園化になっておるんですけども、歩いてる人あるいは観光に来る人、非常にトイレがなくてですね。両方に民家があるんですけども、そこに入って借りたり、あるいはグラウンドゴルフをコースをつくってみんなで楽しんでるんですけども、来た場合にはトイレに困るとい

うようなことと、あるいはその地域あたりが土地基盤整備が進んでおいて、農作業中のトイレ使用等に不便を来しているということで、ぜひここに観光事業予算をつかってのトイレできないか、伺いたいと思います。

○企画課長（池田俊博君）

観光客の来客によって、また必要なことであります、トイレというのはですね。

一応、喜念浜とか小原海岸の見晴らし台のほうにトイレをつくってあるんですが、どうしてもやっぱり使用の仕方が少しずさんというか、維持管理のほうに、少し、企画課としては手間暇かかっておりますが、阿権のほうも石垣積みとかそういうので観光名所のほうになっていくと、これから思いますので、またそういうのが財政のほうと協議し、許せるものでしたら、また整備は行ってきたいと思っております。

○14番（美島盛秀君）

ぜひ、そういう予算措置ができるようお願いをいたします。

あとは、もう他の皆さんが質問をしてありますので、これで終わります。

あと、百菜の報告書の件について答弁をお願いします。

○経済課長（上木義一君）

質問にお答えします。

私が1月異動に来てからは、口頭でお話はしてありますけど、まだ百菜のほうで整理がなされていないということで、その書類が、毎月月間売り上げの調書はつくってるんですけど、ちょっと私のほうに来てすぐで、なかなか日程調整ができなかったということで、町長に書類的なのはまだ見せてはいたいです。

以上です。

○14番（美島盛秀君）

私は、この組合の組合長と個人的に話をする機会があったんですけども、売り上げも順調に伸びていると。そのことは、町長もお話がありました。ですから、私は、もう5年目ですから、5年もして独立できない企業は、私は赤字でないかなと。もうそういうところは、今後も運営が厳しいんじゃないかなと思ったりするんですけども。また、近くにAコープが来たら、さらに厳しくなるんじゃないかなと思うんですけども、やはり自助努力、組合の努力も必要ですので、こういう貸付金あたりに頼るんじゃなくて、もうそろそろこれは返してもらって、組合に責任を持ってもらうというこのほうが、私はかえってやる気を出させることだと、町としても財源不足でありますので、こういうような余裕のある財政でもありませんので、そこらあたりは、もう5年もなりますので、ぜひ検討をしていただきたいと思います。

以上で終わります。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他に質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○7番（福留達也君）

70ページをお願いします。

消防費ですね。非常勤消防費について、ちょっとお伺いしたいと思います。

現在、伊仙町の消防団員の報酬と、定年は今何歳になってるのでしょうか。

○総務課長（樺山 誠君）

定年に関しては、60歳となっております。

ちょっと消防費に関しては、少しお待ちください。すぐお答えします。

○7番（福留達也君）

細かい報酬じゃなくて、他の大島郡の市町村と比べて報酬がどうかとか、定年がどうかとか、そこいらあたりをちょっと聞きたかったものですから。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

後ほど、比較の資料提出をお願いいたします。

款9から款13までの質疑を許します。

○14番（美島盛秀君）

まず、72ページ。

節の7賃金の図書司書賃金、説明で、各学校を回って指導するというような説明だったと思うんですけども、後でまたどっかに出てきますけれども、今、まとめて何人で、小中学校、どのような方向でこの司書の取り組みをやっているのか、まず伺います。

○教委総務課長（鶴永宏造君）

美島議員の学校図書司書の賃金についてなんですが、今現在、1人の臨時職員がそれぞれ各学校を回ってます。一月で学校のスケジュールを決めて、一月に2校ぐらい、スケジュールを決めて巡回しているという状況でございます。

○14番（美島盛秀君）

この司書の件については、後、小中学校の件でもあるいは町の図書館のほうでも出てきますけれども、ちなみに、伊仙町には図書館がないわけですよ。徳之島町、天城町には図書館というのがあります。私が調べたところによりますと、徳之島町が図書館の中に5万6,000冊ぐらいあるそうです。天城町が4万5,000冊。そして、伊仙町が1万5,000冊と。大分差があるんですけども、各小中学校の図書の内容は充実しているのでしょうか。伺います。

○社会教育課（新里亮人君）

各学校の図書の充実ということでもありますけれども、我々、伊仙町の図書室のほうに1万5,000冊ほどあるわけなんですが、各学校の先生方に、各学校にない図書等ありましたら、また子供たちが要望する図書などがありましたら、図書室のほうへ来て、借りていただいて、図書室のほうで貸し出している状況にあります。

○教委総務課長（鶴永宏造君）

各小中学校の学校図書室の充実しているかというご質問なんですが、決して充実しているとはいえませんが、9目の学校管理費13節の委託料で学校図書運営委託費というのがありますが、これは毎年予算措置をされていますが、この中においてこれを8校で分けるわけですが、予算的には少ない予算ですので、年次的に学校図書のほうも整備を進めているという状況でございます。

○14番（美島盛秀君）

よく一般質問でも言いましたけれども、子供は島の宝とよく言います。それで、犬田布中学校には卒業生が寄贈して、何々文庫というのもつくってあります。こういうことを財政が少なかったら、予算が少なかったら一般の人たちに呼びかける。あるいは、各集落に呼びかけて各家庭で読んで終わった図書とか、そういうのを寄贈してもらおうと。各小学校でもいいでしょうし、町の図書室でもいいでしょうし、そしてもっと冊数をふやして幼児からあるいは若い人たちへのこういう読書習慣というのをつけさせる必要があると。これが私は教育の原点だと思っておりますけれども、教育長、また町長には図書館建設の予定などがあるか伺います。

○教育長（茂岡 勲君）

美島議員の質問にお答えいたします。

私もそのように思っております。それで、読書はサトウキビで言えば堆肥なんです。

それくらい大事な、後でじわりじわりときいてくるのがこの堆肥なんです。それと同じように読書を好む子供は必ず伸びていきます。そういうことで、もう一つ例えばちょっと失念いたしましたが、日高さんといって校長を終えた人が鹿児島を終えもう出ていくと、その人たちもたくさんの寄贈をして、その書を持ってあります。そういうようなこと、そして伊仙町の図書に入れたりしてやっておりますので、本当に読書をもっともっと広げていきたいなど、こう思っております。

以上です。

○町長（大久保明君）

図書館の件に関しましては、相当直接いろいろ要望する方々もたくさんいらっしゃいます。

今、茂岡教育長のほうから読書は堆肥であるという話でした。いろいろ図書館の形態もいろいろ変わってきております。

例えば、滋賀県は読書ということで日本一になろうという明確な目標を打ち出して、そのことが20年くらい前から結果が出てきております。

また、佐賀県の武雄市長が市長になった公約が新しい図書館文化のまちということで、大型の図書館を建設いたしました。これは、民間移管いたしました。それをツタヤとかいう会社が経営して、そこは図書だけでなく、そこにいろんな交流ひろばがあり、レストランがあり喫茶店がありという形で、この読書の形態も大きく変わってきているのが大成功しているというのが今、かなり評価を受けておりますので、今後時代にあった図書館というもの、例えば最近では東京の本屋に行っても、本屋ももう中が喫茶店になっているというふうな流れがありますので、そういった図書の時代の流

れをつかんで、そしてじゃあ徳之島ではどうしたらいいか、伊仙町の図書はどうしたらいいかということなども、これはもう今までのような図書館ではなくて、いろいろ交流ができる図書の場合ということが一つの鍵になると思います。

ですから今、百葉にもいろんな文化的な本を置いたりしているわけでありますので、これは教育委員会が単に行政がやるのではなくて、文化を育んでいくという意味において、そして将来子供たちが世界的視野を持つということだけでなく、読書は生涯学習ですから、いろんな人生を豊かにするために大規模な図書というのは必要だし、多くの出身者や先輩方やたくさんの蔵書を寄附していますけれども、それをまた分類してちゃんと置く場所も今ないような状況などは、本当に恥ずかしい状況であると、自責の念に駆られております。

ですから、計画書を先ほど福留議員から町政要覧の刷新、新しいのを計画的につくっていかねればいけないということなども含めて、総合的なまちづくりの一環としての図書館を構想、ビジョンを描きながら計画をしていくことは大変重要であると思っております。

○14番（美島盛秀君）

ぜひ、そういう町長の今、あるいはまた教育長の思いを町のインターネット等に載せて、全国に発信をしてみんなからの意見を募りながら、そしてまたみんなで知恵を出し合ってやっていけば、町長の言っているそういうのも実現ができるんじゃないかなと思いますので、ぜひ努力をさせていただきたいと思います。

それと、徳之島町は学士村あるいは天城町はチャレンジ教室ということで、地元の教員が土曜日を利用していろいろ塾的なことをやって、子供の教育に熱心に取り組んでいるということでありますけれども、今後道徳教育ということから考えてみますと、私はやはり地元のいろんな昔からの格言、あるいは先人に学ぶというようなことからすれば、島の民謡とかあるいはテイキ話とか、そういうのを取り組んでいく教育が土曜日に必要だと思いますけれども、そこらあたり教育委員会のほうで検討をしていただきたいと思いますけれども、どう考えていらっしゃるでしょうか。

○教育長（茂岡 勲君）

美島議員の質問にお答えします。

私もそのように考えております。この前、議員の一般質問にお答えした中身ですが、私は地域の人たちが学校に行って、学校の第2のふるさと先生、そういうような地域おこしをしてくださいとお願いしております。

また、今もうあと二、三日で教員の異動等の発表もあろうかと思うんですが、なかなか島出身がないと、こういう現状でありますので、やはり地域の人たちをやはりふるさと先生としてあるいは第2の先生として、どのように引き出すか、そして学校に来てもらうかということそれぞれやっております。

各学校、これは小中学校にかかわらずやっております。今、確かに足りないところもあろうかと思うんですが、今学校の学力、生徒指導その他に、それは万全ではないが今の私たちが考える中で

は先生方も一生懸命頑張ってやっておるし、それから地域も頑張っておると。そのように見ております。いろいろそれは不足はあろうかと思うんですが、今のところやっていますので、私は一応先生方も一生懸命やっているとこのように考えております。

以上です。

○14番（美島盛秀君）

本当に子供は島の宝でありますので、子供の幼児教育からあるいは大人になるまでの教育が大事だと考えます。

私の地元の阿権は一集落、一校区でありますので、非常にそういう面においては自慢ができるのではないかなと思っております。そういうことで、クリーン作戦なども子供から大人、お年寄りまでもう90歳くらいの人も一緒になって参加しているんですよ。ですから、他の集落がどうなっているのか、そこらあたりも気になる場所なんですけれども、よく話を聞くと範囲の広いところではなかなかそれが行き届かないと、クリーン作戦などもなかなか進まないということなんですけれども、これも町の一つの大きな行事でありイベントであると。そこらあたりから考えて、それぞれも子供たちへの教育も結いの心を養うとかいうようなことも大事だと思いますので、ぜひ私が言いましたオール伊仙という気持ちで全員で取り組んでいただきたいと思います。

終わります。

○3番（牧 徳久君）

施政方針の中に、教職員がいる児童生徒用のパソコンを年次的に配布するというようになっておりましたが、これ教育委員の中にはないんですが、総務課のほうに組んであるこのパソコンですか。

○教委総務課長（鶴永宏造君）

牧委員のご質問にお答えしますが、学校関係のパソコン購入は9目学校管理費、77ページの18節備品購入費、パソコン購入費として570万円計上してございます。これは小学校の分でございます。

○3番（牧 徳久君）

さかのぼりますが、総務費に組んであるパソコンは、これは役場の内部用ですか。わかりました。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

質疑はございませんか。

○8番（前 徹志君）

87ページでございます。私がよくいうカムイヤキのことなんですけど、前年度も200万ほど今年度204万1,000円ですか、見てみますと費用弁償の分が多いんですけど、これはどういった指導者呼んでもらっているのか。

○社会教育課長（當 吉郎君）

このカムイヤキ窯跡事業費というのは、国指定の文化財になっておりまして、国のほうでも早くカムイヤキの窯等整備するなりして活用しなければいけないよということでありまして、この事業そのものは今後カムイヤキをどのように活用していくかということで、保存管理計画書をつくるの

が目的であります。

今、質問にありましたように費用弁償のほうが大分多いんですが、これは実際の大学の先生とか専門的な先生方に来てもらって、いろいろ指導をしていただくための費用弁償であります。

いろんな分野がありまして、その専門方を例えば東京とか大阪とか、そういった遠いところから呼ぶ関係上、費用弁償のほうが多くなっております。

○8番（前 徹志君）

わかりました。この保存管理計画書というのはいつごろでき上がる予定なんですか。

○社会教育課長（當 吉郎君）

たしか、この計画書そのものは今年度でき上がる、26年度でき上がる予定になっております。

でき上がりましたら、皆さんのほうにもまたご報告させていただきたいと思っております。

○8番（前 徹志君）

それで、このカムイヤキの事業はずっと続くんですね。2年間200万ついでありますが、少しはね、私が一般質問でもしましたけど、町民に観光客、全然わからん人は全然わからんですよ。

少しでも、私が一般質問でも看板設置とか言ったんですけど、ただ言っただけで何もないんですけど、余り言いたくもないんですけど、そういうのを町民、観光客にわからせるようなこともやってもらいたいと思っております。どうですか。

○社会教育課長（當 吉郎君）

おっしゃるとおりでありますけれども、この保存管理計画書をつくった後にそういった前議員がおっしゃれましたように、案内板であったりあるいは観光に活用できるようないろんな施策を講じて今後活用できるようにしていきたいと考えております。

計画書を作成した後に、そういった整備をまた、本格的な整備を進めていきたいと考えております。

○8番（前 徹志君）

計画書はできるんですね。ぜひ、うちの実家のほうにレンタカーがずっと回ってきて説明してくれっていうんですよ。わからんわけです。私も。困っていますので、そこら辺、うちの実家のほうの集落はずっと下からおりてきて、観光客が聞くものでみんな困っているんですよ。

そういう面も考えて、私が言っているのをちょっとお願いしておきます。

終わります。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他に質疑はございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

質疑なしと認めます。

これから議案第15号について消防団の比較資料を、大丈夫ですか。

○総務課長（樺山 誠君）

他市町村との比較はしてございませんので、しっかりまた比較をしていきたいと思っています。
ちなみに、報酬の年額ですけども、団長のほうが6万円、副団長のほうが5万円、分団長のほうが4万4,000円、あと部長が3万6,000円、班長が3万5,000円、団員が3万4,000円となっております。
年間。よろしくをお願いします。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

質疑なしと認めます。これから議案第15号について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

討論なしと認めます。

これから議案第15号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。本案は起立採決となっておりますので、本案に賛成の方の起立を求めます。

[賛成者起立]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

起立多数。よって、本案は原案のとおり可決することに決定しました。

ここでしばらく休憩します。

休憩 午後 3時00分

再開 午後 3時20分

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議案第16号、平成26年度伊仙町国民健康保険特別会計予算について質疑を許します。

質疑ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

質疑なしと認めます。

討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

討論なしと認めます。

これから議案第16号について採決します。この表決は起立によって行います。

本案について原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

起立多数。したがって、議案第16号、平成26年度伊仙町国民健康保険特別会計予算は原案のとおり可決されました。

次に、議案第17号、平成26年度伊仙町介護保険特別会計予算について質疑を許します。

○3番（牧 徳久君）

介護保険制度が平成12年度から始まりまして、今現在に至っているわけですが、地域密着型の施設、伊仙町にも何件かあろうかと思いますが、以前次期計画で希望者がおればこれも許可するというものでありましたが、その後この地域密着型施設の要望等あるのか、またこれを伊仙町でも待機者が多数おるとありますが、これをする考えはあるのか、ないのかお伺いします。

○保健福祉課長（松田一郎君）

今のご質問にお答えします。

3年ほど前、2施設ほど開所申請がありましたけれども、第5次の介護保険計画の中では計画はありませんでした。そういったことを説明して第6次のほうでも要望があれば、この中で保険業とか介護給付費の推移を見る中で対応したいということで対応しております。

今回、第6期の介護保険計画を策定するわけでありましてけれども、この中で果たして町の財源が伴うわけですので、給付費が追いつくかどうか、そういったことを考えながら、この1年間の中で検討していきたいと思っております。

待機者もいることは間違いありません。そのかわり給付費も上がっているという現状がありまして、そのために第5期の中で保険料が上がったという経緯もあります。

このもし施設をつくれれば、それなりにも介護保険料の負担も求めざるを得ないというのが現状でありまして、それがクリアできればやはり待機者対策ということも考え合わせて、財政等そういったのを考えながら1年間協議していきたいと思っております。結論はまだ出ておりません。

以上です。

○3番（牧 徳久君）

今年中で、この6次計画は作成するのでしょうか。

○保健福祉課長（松田一郎君）

おっしゃるとおりです。今の段階、高齢者の実態調査、介護施設に入所されている方とか、職員とか、介護福祉に従事されている方々のアンケートを取って、それを集計中であります。

それに基づいて、26年度の中で3月を目途にして一応策定を行うということで進めております。

○3番（牧 徳久君）

介護保険料が去年から上がったんですが、これについても介護保険の支払いは45歳以上ですが、一般年金受給者の方々も、我々一般公務員の方々は給料から自然に差引かれるわけですが、その中間層の給料所得者じゃない方については徴収していると思いますが、こういった滞納が増えているからこの介護保険料が上がっておるわけでありまして、こういった対策を介護保険組合のほうで

強く指導し、この滞納をなくすれば、この介護保険も運営できるわけですので、一般給料所得者じゃなくて中間層の方々、年金受給者じゃなくて中間層の方々にも支払い、これを徹底していただかないと、この施設も上がったからできないとか、こういう考えになりますので、こういった対策をできるのかできないのかお願いします。

○保健福祉課長（松田一郎君）

今の滞納については、確かに現在で3,000万余り長期滞納があります。これは、平成12年の介護保険の施行から通じて滞納されているのがありまして、なかなか滞納対策が進んでいないというのが現状であります。いろいろペナルティーとか、そういったサービスの制限もかけてはおりますけれども、これを見直しが必要だと思っております。

それと、介護保険組合のほうで徴収とかそういうことはできませんので、あくまでも町の段階で進めていくわけですので、滞納対策本部とかそういったものの中で対応していきたいと考えております。そういうような中間層も、どうのこうのありますけれども一律、法に基づいて徴収とかそういったのは行っておりますので、その分については中間層から取れないとか取れるとかそういった判断はまた別の問題だと思っております。

○3番（牧 徳久君）

例えば、健康保険証の場合には支払いをしないと保険証が取れないということではありますが、介護保険についてはそういった保険証が取れないとかないわけですので。

○保健福祉課長（松田一郎君）

関連されている国保については、払えない方については交付しないということはしておりません。そのかわりその滞納にかかる分納契約とか、短期保険者証の交付ということで対応しております。介護保険についても、これはやっぱり生命等そういったものに関するものもありますので、一律にこれはとめていることはありません。ただ、その中で強く説明して分納契約とか、サービスを受けるときにはこのサービスを制限させていただきますよということは説明しております。

○3番（牧 徳久君）

ぜひこの滞納も一生懸命頑張って、待機者がおるわけですのでこの対策においてもぜひこの施設ができるような状況に持っていくのが行政の務めだと思いますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

以上です。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他に質疑はございませんか。

○14番（美島盛秀君）

7ページ、款5の繰入金、目1の介護給付費繰入金の1億1,186万9,000円ですけれども、これ全額一般会計からの繰り入れのようすけれども、ちなみに25年度の介護料が5,800円だったと思いますけれども、県下でスリー、それから郡で1位と。医療費が高いということだったんですけれど

も、次期見直しでこれを普通の平均並みに下げれる予想はつくでしょうか、伺います。

○保健福祉課長（松田一郎君）

厳しいご質問です。確かに、一般会計繰り入れはあります。25年度の第5期の中で保険料が5,800円となりまして、県下でも第3位にありまして、こういったのはやっぱ介護は給付をしているわけですので、もし下げようと思えば給付を制限せざるを得ないということになりますので、今の現状がぎりぎりの状態だと思っております。

介護給付費の保険料については、この5年先を見ますと6,000以上になるという国の予算、設定が6,000円くらいになっております。ただ、今の中で基金も3,200万ほどございますけれども、これも勘案しながら第6期の中で設定を行うわけなんですけれども、結局は給付費が高くなって保険料で現実的に、逆に言えば上げざるを得ないかなという感じの状況です。運営状況が。

だから、これを介護保険料を抑えながら、そして医療費を抑えるためには介護予防が必要だと思って、包括支援センターの中では介護予防に取り組んで、その効果はあらわれております。

医療費の適正化ということで。

ただ、何回も申し上げておりますけれども、要介護3以上の方の重症化が特にひどくて、その中の医療費が高くなるということでもあります。これはもういたし方ございません。ただ、介護予防を続けていく中で、保険料を極力抑えるというような対策はやっぱ講じていきたいと思っております。

○14番（美島盛秀君）

給付金が高額になっていると。平たく言えば、手厚い介護ができていうふうを受け取れるんですけれども、そういうことでこの介護を給付して、介護給付金を給付して介護がきちっとできているために5,800円、高いと私は受け取りますけれども、そのために伊仙町が長寿の島と、あるいは手厚い介護できているという結果が長寿につながっているというふうを受け取ってもいいわけですかね。

○保健福祉課長（松田一郎君）

手厚い支援とか、これは結局医療費にかかわるものですから、これはやっぱり病気のほうへの移行がされているわけですので、その介護についてはそういった対応をするということで、充実はしているとは思っておりません。要介護3まで、なるべくいかせないような対策を講じていけば、ある程度の介護保険については皆さん支え合う制度ですので、その中でやっぱりお互いがやっぱ助け合いをしながら、その中で対応していくのが保険制度の概要だと思っておりますので、充実しているということは考えておりません。

○14番（美島盛秀君）

私の周囲にも90と過ぎたお年寄りがいまして、自分でも我慢強く、増えるパーも要らないというくらい我慢強くやって、たまには病院に救急車で搬送したりということややるんですけれども、やはりこういう手厚い介護、これからやらなければならないということは福祉の充実にもつながるわけですので、ぜひそういうあたりを確認をしながら努力をしていただきたいと思います。

終わります。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他に質疑はありませんか。

○7番（福留達也君）

昨日からの課長の説明で、介護に移る前の要支援の方に対しては、保健福祉課、その中でも特に地域包括を中心にいっちも一れ教室などさわやかサロンだのそういったサロン活動、そういったので要介護に移るのを何とか防止して、その給付を抑えているという説明、現状はよくわかっております。

悲しいことというか、残念なことに要介護に移った後に、それを重くならないようなそういった手だてというのは、要支援と違ってなかなか要介護に移った後というのは考えられないものなんでしょうか。

○保健福祉課長（松田一郎君）

おっしゃるとおりでありますけれども、その中で今保健センターが取り組んでいるのが、例えば生活習慣病を何とか解決していけば重症化につながらないというデータも出てきております。

それで、鹿児島県の中で11市町村の中で伊仙町が、その脳卒中対策プロジェクトチームなんかつくって、こういったことで対応して重症化にならないような手だてをしているのが、今は保健センターの頑張りであります。

それと、食育、そして要支援1になった方たちへのきめ細やかな健康づくりということで、各集落福祉協会を通じ、各介護施設のほうからもご協力いただいて頑張っておりますので、そういった重症にならないような手だてというのは保健所、保健センター、包括支援センター、介護施設ともに頑張っております。

以上です。

○7番（福留達也君）

今おっしゃったような、課長がおっしゃったような対策を講じながら、要介護度に入った人も重くならないような対策をとっていただきたいと思います。

また、今はどうかわからないんですけど、以前聞いたところによると伊仙の傾向として隣のばあちゃん、仲よししていたばあちゃんがデイサービスに行くものだから、私もお願いしていくと。

そういった傾向が伊仙はその3町の中で多かったという話を聞いたことがあるんですけども、そういったところは本当に必要でなければ、そこいらあたりは厳しく切って、本当に必要な人に必要なサービスを提供できるそういった体制であってほしいと思っております。お願いします。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他に質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

質疑なしと認めます。

討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

討論なしと認めます。

これから議案第17号について採決します。この表決は起立によって行います。

本案について原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

起立多数。したがって、議案第17号、平成26年度伊仙町介護保険特別会計予算は原案のとおり可決されました。

次に、議案第18号、平成26年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算について質疑を許します。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

質疑なしと認めます。

討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

討論なしと認めます。

これから議案第18号について採決します。この表決は起立によって行います。

本案について原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

起立多数。したがって、議案第18号、平成26年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算は原案のとおり可決されました。

次に、議案第19号、平成26年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算について質疑を許します。

○14番（美島盛秀君）

説明のときに、民間委託、4月にするというものでありましたけれども、一般会計からも3,500万の繰り出しがあるわけです。ですから、その以前の3,500万を指定管理費として出せばという話、これは前置きですけれどもいう話だったんですけれども、その指定管理についてもう一遍詳しい説明を、以前の結果を踏まえて説明をお願いいたします。

○ほーらい館長（仲 武美君）

平成24年度においては4業者が申請書を提出いたしました。経費削減の目的に合致しないと審

査委員会のほうで判断をいたしております。また平成25年度においては1業者が申請書を提出してありますが、これに関しても審査委員会のほうでは経費削減の目的に合致しないと判断いたしまして、町長のほうに報告をいたしております。また、平成26年度においては再度公募いたしますが、4月から5月の末にかけて公募を募りまして、6月、7月、8月と審査委員会を開催し、9月の議会には報告なり、議案の上程なりさせていただきます。

以上です。

○14番（美島盛秀君）

4月から公募を募って、9月には発表したいということですが、町長の説明でも民間業者がホテルを兼ねた委託を希望しているという説明もありましたけれども、ぜひ経費削減とかいうことでなくて、将来の施設の維持あるいは伊仙町の将来のこれからの発展性を考えたときのことを考慮して、民間委託もいいんじゃないかなと思います。

そこで、質問をしますけれども、9ページ、款2の健康増進事業費のフリーインストラクターの、報奨費のフリーインストラクターというのは資格を持った人なのかどうか伺います。

○ほーらい館長（仲 武美君）

フリーインストラクターに関しましては、ヨガとかの免許を持っている方、またフラダンス、キッズダンス等の先生の報奨費となります。

○14番（美島盛秀君）

そうしますと、健康増進施設の機械類あるいは水泳、そこには専門的なインストラクターがいて、その7の賃金なんですけれども、賃金として専門的な職員がいるということですね。

○ほーらい館長（仲 武美君）

7の賃金の、インストラクターの賃金ですが、これに関しましては日本水泳連盟の指導免許とかを持っている方がおられます。

○14番（美島盛秀君）

再度、町長に伺います。町長は、その経費削減等を考えないで伊仙町の将来のためにということで、向こうからの提示があれば受ける気持ちがあるのかどうか伺います。

○町長（大久保明君）

指定管理者制度の移行ということは、これは議会でも方向性は示しております。

今、仲館長が経過を説明したようになかなかこの条件面の問題とか、また今後維持管理に関しまして、全て更新した、機器を更新した後に指定管理者にするかどうかの問題なども判断しなければならない問題。

そして、インストラクターたちの給与の問題、それからあとは指定管理者にした場合でも雇用の問題、その辺の確保、確約など、確約ということはないですけれども、いかに永続的に勤務できるかなども我々の責任だと思っております。

そして、このインストラクターをさらにふやしていくということも必要だし、今例えば水泳教室

においてはもう待機者が非常に多いという状況で、いかに時間配分をやりくりしていいかと、また
いろんな先ほどフリーインストラクターのいろんな事業、レッスン教室などをいかに増やしていく
かと。

また、この前の民間企業との話し合いの中では、要するに癒ていなホールをさらに、結婚式とか
そういうことに活用していくとか、そういうことが非常にフリーになっていったら来客数が増えて
くる可能性もありますので、行政としての限界がある中で、民間の自由な発想のもとで、しかもこ
れはその宿泊施設と連携をしていくというふうな構想は、今の時期に沿った方はかなうような状況
になると思いますので、今年がよいよ今まで何回か交渉してきた中で折り合いがつかないんで
すけれども、宿泊施設をつくるという、これは指定管理者を担った場合につくっていくわけですけ
れども、その辺を判断を誤らないような形で、しっかりと熟慮して、議会のほうでもいろんな提案
があると思いますので、皆さん方ともしっかりと話し合いをしていけば、ここに多くのこの地域、
エリアがコンパクトシティという形で発展していくための総合的な、有機的な状況、周囲の状況な
ども見通した中での前向きの判断をしていくことが重要であると思っております。

○14番（美島盛秀君）

ぜひ、この施設を建設した目的、国の補助事業を申請した目的が公設民営という目的であります
ので、指定管理者制で民営化をしてぜひ地域発展につなげていただきたいと思っております。

終わります。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他に質疑はございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

質疑なしと認めます。

討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

討論なしと認めます。

これから議案第19号について採決します。この表決は起立によって行います。

本案について原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

起立多数です。したがって、議案第19号、平成26年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計
予算は原案のとおり可決されました。

次に、議案第20号、平成26年度伊仙町簡易水道特別会計予算について質疑を許します。

○3番（牧 徳久君）

1点だけ申し上げてみたいと思いますが、一般質問でもいろいろカルキの問題を質問してありましたが、この予算書を見ますと地下水のポンプアップの電気代が年間2,000万と、相当な額に上っておりますが、これを10年もすると2億という大きな莫大な金ですので、表流水、一般質問でも申し上げましたとおり、表流水を1回管を引けばずっと電気代も要らなくてただですので、こういった考えにのっとった場合は、この2,000万が浮くわけですので、ぜひこれを表流水に西部地区の住民に対しましては、温水器の故障とかポットの故障とか、いろいろ修理費も多額な金になっておりますし、また家庭でも水を買って飲むと。こういった経費節減の面からも住民にとってもすばらしいことですので、ぜひこれを表流水に変える、この2,000万も節約できるわけですので、これを努力できるのかできないのかお伺いします。

○水道課長（芳田勇人君）

ご質問にお答えいたします。

確かに電気代の値上げ等で2,000万という莫大な費用を計上しております。この電気代といたしまして、今牧議員ご指摘されましたように高速の地下水の大きなポンプの電気代がこの中を8割方占めております。

今、一般質問でも答弁いたしましたように、まず老朽化した河地浄水場の復旧、この作業に向かって今、25年度予算で施設の整備を行っております。その後また、材料等レンガ等の敷き詰めですね。砂と、この辺の整備も行っておりますので、杉原川も確実に原水の量も増えてきています。

ですから、この電気代をもう半額に落とすとか、あるいは3分の1まで落とすとかいう努力を今しているところでございます。

以上です。

○3番（牧 徳久君）

努力しているということですので、住民にも申しわけが立つことだと思います。

他にも原水が、西部地区には川がいっぱいあるわけですので、随時調査しながら電気代が要らないような工夫をしていけるのかいけないのか。

○副町長（中野幸次君）

地区のこの会合等でもいろいろ石灰の対策をどうなるのかということでありましたので、水道課を中心に杉原川を町長と一緒に上流から下流にわたって、どこが水漏れしているのか、増水しているのかそれを探し当てるのに相当かかりまして、いろんな業者等呼んだんですが、埋設されている中で腐ってしまって、そこから漏水しているというのが、相当いろんな手だてをしてやっとわかった次第です。

それで、水道課のほうでも西部地区の方々の念願の、いわゆる石灰分の少ない水をどうして提供するかというのを水道課の使命であると、こういう捉え方をして、それから杉原川、いわゆる河地浄水場の改修で表流水が60%を占める水が提供できるのではないかと、現段階では捉えております。

それで、八重竿のほうにミニダム等もございまして、議員がおっしゃるとおり、いろんな水源

を利用してとりあえずミニダムを清掃して、そして西部地区全般にわたってのいわゆる表流水を提供するという体制を整えようということで、今取り組んでいるところでございます。

とりあえず現段階は先ほど水道課長からありましたように、河地浄水場の整備、今整って間もなく表流水が、の比率が高くなった飲料水をお届けすることができると思っておりますが、その後八重竿のミニダムを清掃して、そこらにまた表流水を入れて、そして比率を高めていくとこういう計画でございます。

○3番（牧 徳久君）

よう説明を受けまして安堵しているわけですが、ぜひこの60%を100%に持って行って、電気代も要らないという形にさせていただきたいと、努力をしていただきたいと思って質問を終わります。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他に質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

質疑なしと認めます。

討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

討論なしと認めます。

これから議案第20号について採決します。この表決は起立によって行います。

本案について原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

起立多数です。したがって、議案第20号、平成26年度伊仙町簡易水道特別会計予算は原案のとおり可決されました。

次に、議案第21号、平成26年度伊仙町上水道事業会計予算について質疑を許します。

○14番（美島盛秀君）

今の副町長の答弁で、ミニダムの水を使いたいと、使うというような表現で答弁でありましたけれども、阿権の上流にある犬田布岳の下にあるミニダムのあの水利権は阿権にありますので、阿権の水不足にならないように他にまた考えていただきたいと要望しておきます。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

他に質疑はございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

質疑なしと認めます。

討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

討論なしと認めます。

これから議案第21号について採決します。この表決は起立によって行います。

本案について原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

起立多数です。したがって、議案第21号、平成26年度伊仙町上水道事業会計予算は原案のとおり可決されました。

本日の日程は全て終了しました。

平成26年度伊仙町一般会計予算他6特別会計予算審査特別委員会を閉じます。

次の会議は3月20日午前10時から開きます。この後、全員協議会を開きますので、委員会室にご参集ください。

閉 会 午後 4時40分

平成26年第 1 回伊仙町議会定例会

第 7 日

平成26年 3 月20日

平成26年第1回伊仙町議会定例会議事日程（第7号）

平成26年3月20日（木曜日） 午前11時 開議

1. 議事日程（第7号）

- 日程第1 議案第15号 平成26年度伊仙町一般会計予算（質疑～討論～採決）
- 日程第2 議案第16号 平成26年度伊仙町国民健康保険特別会計予算（質疑～討論～採決）
- 日程第3 議案第17号 平成26年度伊仙町介護保険特別会計予算（質疑～討論～採決）
- 日程第4 議案第18号 平成26年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算（質疑～討論～採決）
- 日程第5 議案第19号 平成26年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算（質疑～討論～採決）
- 日程第6 議案第20号 平成26年度伊仙町簡易水道特別会計予算（質疑～討論～採決）
- 日程第7 議案第21号 平成26年度伊仙町上水道事業会計予算（質疑～討論～採決）
- 日程第8 陳情第2号 T P P（環太平洋連携協定）交渉に関する陳情書
- 日程第9 陳情第3号 日本マルコ株式会社伊仙町事業所及び社員住宅等阿権集落地内誘致の陳情書
- 日程第10 発議第1号 T P P（環太平洋連携協定）交渉に関する意見書
- 日程第11 議員の派遣について
- 日程第12 議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の件について
- 日程第13 常任委員会の閉会中の所管事務調査の件について

1. 出席議員（14名）

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	平博人君	2番	岡林剛也君
3番	牧徳久君	4番	上木千恵造君
5番	美山保君	6番	永田誠君
7番	福留達也君	8番	前徹志君
9番	明石秀雄君	10番	樺山一君
11番	永岡良一君	12番	伊藤一弘君
13番	琉理人君	14番	美島盛秀君

1. 欠席議員（0名）

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長 明勝良君 事務局係長 佐平勝秀君

1. 説明のため出席した者の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町長	大久保明君	副町長	中野幸次君
総務課長	樺山誠君	企画課長	池田俊博君
税務課長	椛山正二君	町民生活課長	西吉広君
保健福祉課長	松田一郎君	経済課長	上木義一君
建設課長	中熊俊也君	耕地課長	穂浩一君
環境課長	益一男君	水道課長	芳田勇人君
選管書記長	佐平浩則君	農委事務局長	益岡稔君
教育委員長	大山惣二郎君	教委総務課長	鶴永宏造君
社会教育課長	當吉郎君	学給センター所長	永島均君
ほーらい館長	仲武美君		
総務課長補佐	田島輝久君		
議会中継班（総括情報戦略室長	関政樹君）		
（終日）伊藤晋吾君・富育美君・清水隆也君			

△開 会（開議） 午前 1 1 時 0 0 分

○議長（琉 理人君）

ただいまから本日の会議を開きます。

- △ 日程第 1 議案第15号 平成26年度伊仙町一般会計予算
- △ 日程第 2 議案第16号 平成26年度伊仙町国民健康保険特別会計予算
- △ 日程第 3 議案第17号 平成26年度伊仙町介護保険特別会計予算
- △ 日程第 4 議案第18号 平成26年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算
- △ 日程第 5 議案第19号 平成26年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算
- △ 日程第 6 議案第20号 平成26年度伊仙町簡易水道特別会計予算
- △ 日程第 7 議案第21号 平成26年度伊仙町上水道事業会計予算

○議長（琉 理人君）

日程第 1 から日程第 7 まで議案第15号、平成26年度伊仙町一般会計予算、議案第16号、平成26年度伊仙町国民健康保険特別会計予算、議案第17号、平成26年度伊仙町介護保険特別会計予算、議案第18号、平成26年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算、議案第19号、平成26年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算、議案第20号、平成26年度伊仙町簡易水道特別会計予算、議案第21号、平成26年度伊仙町上水道事業会計予算、以上 7 件を一括して議題とします。

本議案の 7 件については、平成26年度伊仙町一般会計予算及び各特別会計予算審査特別委員会に付託し、審査が行われておりますので、その結果について特別委員長の報告を求めます。

○当初予算審査特別委員長（樺山 一君）

当初予算審査特別委員会の委員長報告をします。

去る 3 月 11 日の本会議において当初予算審査特別委員会が設置され、平成26年度伊仙町一般会計他 6 特別会計予算を付託し、3 月 17 日から 19 日の 3 日間集中審議いたしました。

審議の詳細について、順次ご報告申し上げます。

まず、今回の特別委員会設置に当たり、委員長より各委員に特別委員会の趣旨として、「本町の行財政運営を賄う上で重要な年間予算であることから、今後の財政の見通しを鑑みた上で、建設的な質疑をしていただくとともに、改めて町民の代表であることを自覚して、予算審査を行うよう」要請いたしました。このことを踏まえ、3 月 17 日から 18 日の 2 日間において、各種予算にかかわる担当課の職員に説明員として出席を要請し、歳入歳出について詳細な説明をいただきました。

説明終了後には常任委員会事に分かれて、各会計の予算項目を精査し、現地調査の必要な場所の選定を行った上で、3 月 19 日の午前中に現地調査を実施いたしました。

現地調査の行程については、平成26年度伊仙町一般会計予算に関する調査を 5 件行い、まず 1 件目は 7 款 4 項 1 目 12 節内の産業廃棄物手数料、また 14 節の重機借り上げ料に関して、老朽化により取り壊しが予定されている目手久地区の町営住宅について、地元住民より倉庫として利活用した旨

の要望があるとの意見が委員より出されました。

また、目手久地区の駐在員及び要望を出された地元住民にも直接意見を聴取した結果、要望している件について町側よりご理解いただけた場合は、地元住民の所有している農地と同物件の敷地を用地交換してもよいとの意見が出されましたが、今後、町執行部と地元住民と正式な交渉の場を持ち、この件についての予算執行は交渉状況に応じて慎重に対応していくよう担当課へ要請しました。

2件目は、7款2項5目の社会資本整備総合交付金事業第二西下線について、担当課より今後の計画を踏まえて工事の進捗状況についての説明がありました。このことについて、交通アクセスの利便性や安全性の確保の観点から、事業目的に沿って適正な事業執行されていましたが、第二西下線と県道をつなぐ周辺道路の幅員など、いまだ課題が残されている箇所があり、今後の事業進捗にあたっては慎重に協議を行った上で、道路整備を行うよう担当課へ要請いたしました。

3件目は、7款4項2目の馬根団地住宅建設事業費について、担当課より今後の住宅建築の工程について説明を受け、その後、建設地の馬根地区の駐在員からも意見を聴取した結果、建設完了後の居住希望者の状況について、町外より若い子育て世代の家族を中心に7件の要望があることや、住宅の構造についても地元集落の意向に添った形で、町執行部が今回の建設計画にしっかりと反映したことについて評価すべき点がありました。

今後は、工事を進める中で特に災害対策や外溝工事など、考えられる全ての問題をクリアできるよう、地元住民並びに工事受注業者と協議を重ねながら工事を進めていくよう要請いたしました。

4件目は、7款2目4項社会資本整備総合交付金事業伊仙馬根線について、担当課より現在の進捗状況についての説明があり、道路整備に関する工作物補償費など、適正であるか現地調査を行ったところ、周辺の状況や今後の計画を考慮して、今回の予算計上は適正であるとの意見が委員全員より出されました。今後は、他の予算項目の執行に当たっても無駄のない予算執行をされるよう要請いたしました。

現地調査の最終地として施政方針内にある園芸振興について、新規作物として推進中のまあざくとコーヒー苗の育苗状況について調査を行いました。現在、農高跡地のハウスにおいて担当課の職員と非正規職員の2名体制で管理をしており、約9,000本の苗を育苗中であり、今後はこの苗を会員だけでなく、町民へも産業祭などを通じて無料配布して周知徹底を図るなど、生産から販売に向けたPR活動を積極的に講じていくよう担当課へ要請いたしました。

次に、同日午後より再開された7会計について各委員より出された主な質疑内容と答弁についてご報告いたします。

まず、議案第15号、平成26年度伊仙町一般会計予算の歳入について、公園休憩所貸付収入において犬田布岬の公園改修工事により全額まで歳入として見込めないのではとの質疑に対し、担当課より工事により収入が見込めない部分に関しては補正等において対応していきますとの答弁がありました。

歳出については、新規採用職員に関して採用発令に関する時期や人件費についての質疑があり、

4月からの3カ月間は臨時職員として事務賃金を計上しており、採用発令については順次行っていくとの答弁がありました。

次に、総合計画書の更新時期に当たり、印刷製本費が100万円計上されていることについて、総合計画書の内容が10年を目途に計画されているが、10年の間に計画がそぐわない部分が出てくると思うが、これを5年ごとに計画を見直すなど考慮する必要があるのではないかと質疑に対して、例年は10年計画として前期5年、後期5年と分けて計画を作成していたようですが、今回は工夫をして前期3年、中期4年、後期3年と割り振りをして見直し時期を早めていきたいとの答弁がありました。

次に、航路航空路運賃軽減と事業負担金について、奄美郡島民の一般客や観光客などの負担軽減策としてそれぞれ割引を講じていくとありますが、学生や島出身者の方々が帰省する際に、この割引範囲を拡大する考えはあるのかとの質疑に対して、学生などはスカイメイトなど現在も割引をされていますが、現時点では観光客誘致ということで、いろんなキャンペーン等で対応していきたいとの答弁がありました。

また、町長からは「先般国土交通省から話を聞いたところ、今はまだ流動的であるとのことで、地元から要望が出されています出身者が冠婚葬祭等で帰省する際には、同じ割引率を適用できるかというようなことについては、鹿児島から徳之島間は可能になる確率が高いですが、そのかわりに島内在住者が鹿児島まで57%の割引があるというのは優遇されすぎではないかとの意見もあり、それを50%以下にしてその分を島外から来る観光客や出身者に配分していこうということも考えられます」との答弁がありました。

次に、助産費等補助繰出金について、産科医がいないということにならないように随時産科医確保について働きかけていくことができないかとの質疑に対し、現在徳之島の医療を考える会において、平成25年度については県の補助金もいただいており、支援策としてこれらを進めてまいりました。その結果、今年の4月からは2名の常駐医を確保することができました。不足することになれば市立病院と連携をとっており、さらに県からも支援をいただいているので、その中で対応できると思いますとの答弁がありました。

次に、シルバー人材センター運営補助金や直売所百菜における貸付金については、自立していけるようにしっかりと決算状況を鑑みて予算配分をするよう質疑があり、これらの件について決算状況を十分に考慮した上で判断していく旨の答弁がありました。

農業関連の予算項目については、有害鳥獣の駆除に関する報奨費が他の町と比較して均等でないことから、今後は糖業振興会などからも助成してもらうことも検討した上で、報奨費について見直す必要があるのではないかと質疑に対し、今後同額になるよう鋭意努力していくとの答弁がありました。

さらに、サトウキビ増産については農家に手厚い施策等を講じることは考えられないかとの質疑に対し、関係機関と協議して増産意欲を高めるために農家を指導していきたいとの答弁がありました。

た。

農林水産物輸送コスト支援事業負担金について、こういった作物を選定しているのかとの質疑に対し、現在品目は調整中であるとの答弁がありました。

6次産業化推進事業については、廃目となっていました。施政方針の中で「農商工連携と6次産業化を引き続き推進し、より付加価値の高い農産物の販売所を探り、農業所得向上を目指します」と明記されていながらも、施政方針と当初予算書、また年次的な計画を盛り込んだ総合計画書との整合性が図られていないことも指摘事項として上げられました。このことに関して担当課は、徳之島営農推進本部において対応していく旨の答弁がありましたが、今後町の農業政策において重要な政策であることから、今後検討していく必要性が感じられました。

次に、電子入札制度に関しての質疑があり、平成27年度から本格的に導入する予定であり、今後1年を通じて他の導入した町村、県の指導を受けながら本格的な導入に向けて準備を進めていくとの答弁がありました。

住宅建設については、各種計画に基づいて建設されているが、入居後の住宅料の徴収率について質疑があり、現年度においては95%以上の徴収率となっているが、滞納分に関する徴収率が伸び悩んでいることから、現在弁護士を通じて法的措置を講じながら徴収にあたっているとの答弁がありました。

これら住宅料をはじめ各種税金、負担金関係については財政運営を行う上で非常に重要な財源であり、これらの徴収率が上がらないことで、実質単年度収支は赤字に転落することも考えられ、強いては主な事業計画等が全て見直しを迫られる恐れもあることから、各種税及び負担金を取り扱う担当課においては、これまで以上に緊張感と責任感を持って職責を果たされるよう要望いたします。

教育関連の予算項目については、全体的に適正な予算措置を講じられていますが、カムイヤキ窯跡に関する前回の指摘事項について、是正されている様子が伺えない箇所も見受けられ、今回策定される計画書に応じて対応するとの答弁がありましたが、当特別委員会としては迅速に対応できるものに関しては確実に対応されるよう望むものであります。

また、図書の蔵書数に関しても他町と比較して不足している感が否めないことから、生涯学習において重要な時期に必要な参考文献がないことは、町の宝である子供たちの今後の教育過程において致命的であり、今後は図書の蔵書についても予算措置されるよう要望いたします。

以上のことを踏まえ、議案第15号、平成26年度伊仙町一般会計予算は起立採決の結果、全会一致で原案可決することと決定しました。

続いて、議案第16号、伊仙町国民健康保険特別会計予算、議案第17号、伊仙町介護保険特別会計予算、議案第18号、伊仙町後期高齢者医療特別会計予算の3件について、適正に予算措置が講じられていましたが、その中で今後は医療費の抑制に向けて担当課のさらなる努力を期待し、特に包括支援や保健センターが実施している介護予防や若年層の生活習慣病をはじめとする主な病気の予防に向けて、町を挙げて啓発活動に努められることを強く要望いたします。

以上を踏まえ、議案第16号、伊仙町国民健康保険特別会計予算、議案第17号、伊仙町介護保険特別会計予算、議案第18号、伊仙町後期高齢者医療特別会計予算については起立採決の結果、全会一致で原案可決することと決定しました。

続いて、議案第19号、徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算についても、指定管理者制度に向けて努力している様子が伺えますが、いずれも経費削減の点で合致しないとの理由で断念していることから、改めてほーらい館運営審議会や町財政担当と指定管理者制度公募に関する募集要項の見直しを含めて協議し、指定管理者制度に向けて新たな施策を講じることを要望いたします。

以上を踏まえ、議案第19号、徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算については起立採決の結果、全会一致で原案可決することと決定しました。

続いて、議案第20号、伊仙町簡易水道特別会計予算、議案第21号、伊仙町上水道事業会計予算の2件については、長年町民から寄せられている水質改善や老朽管の更新、水道使用料の徴収などさまざまな課題が山積している中で、担当課が日夜努力されていることについては敬意を表します。

その中で、西部地区による水質改善や電気料金節約の方策として表流水の利用について本格的に調査を行い、安心安全な水の供給について財政面を考慮しつつ、少しずつではありますが町民の要望に応えられるよう、今後も鋭意努力されるよう要望いたします。

以上を踏まえ、議案第20号、伊仙町簡易水道特別会計予算、議案第21号、伊仙町上水道事業会計予算については起立採決の結果、全会一致で原案可決することと決定しました。

以上、当特別委員会に付託された7会計については全て原案可決することとし、特別委員会は閉会いたしました。

結びに、財政難の折、平成26年度における予算編成に当たっては、町職員全ての英知を結集されたことを高く評価いたしますが、今後の町の財政の行方を左右する自然災害や非常時に対応するために、弾力性のある予算執行を平時から心がけ、職員全員が伊仙町のリーダーであることを自覚しつつ、ますます研鑽されることを期待します。

我々議会議員といたしましても、今後は議会改革の一環として毎月開催の全員協議会並びに常任委員会の活動を通じて、今回原案可決されました予算について議会の権能であるチェック機能を最大限に発揮し、町執行部とともに町民の福祉向上と町政発展に寄与することをお誓い申し上げ、委員長報告といたします。

平成26年3月20日。

伊仙町議会当初予算審査特別委員会特別委員長樺山 一。

○議長（琉 理人君）

これから委員長報告に対する質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

質疑なしと認めます。

これから、議案第15号、平成26年度伊仙町一般会計予算について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。

これから議案第15号について採決します。この表決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は原案可決です。本案について委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（琉 理人君）

起立多数です。したがって、議案第15号、平成26年度伊仙町一般会計予算は委員長報告のとおり原案可決されました。

これから、議案第16号、平成26年度伊仙町国民健康保険特別会計予算について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。

これから議案第16号について採決をします。この表決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は原案可決です。本案について委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（琉 理人君）

起立多数です。したがって、議案第16号、平成26年度伊仙町国民健康保険特別会計予算は委員長報告のとおり原案可決されました。

これから、議案第17号、平成26年度伊仙町介護保険特別会計予算について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。

これから議案第17号について採決します。この表決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は原案可決です。本案について委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（琉 理人君）

起立多数です。したがって、議案第17号、平成26年度伊仙町介護保険特別会計予算は委員長報告のとおり原案可決されました。

これから、議案第18号、平成26年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。

これから議案第18号について採決します。この表決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は原案可決です。本案について委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（琉 理人君）

起立多数です。したがって、議案第18号、平成26年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算は委員長報告のとおり原案可決されました。

これから、議案第19号、平成26年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。

これから議案第19号について採決します。この表決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は原案可決です。本案について委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（琉 理人君）

起立多数です。したがって、議案第19号、平成26年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算は委員長報告のとおり原案可決されました。

これから、議案第20号、平成26年度伊仙町簡易水道特別会計予算について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。

これから議案第20号について採決します。この表決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は原案可決です。本案について委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（琉 理人君）

起立多数です。したがって、議案第20号、平成26年度伊仙町簡易水道特別会計予算は委員長報告のとおり原案可決されました。

これから、議案第21号、平成26年度伊仙町上水道事業会計予算について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。

これから議案第21号について採決します。この表決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は原案可決です。本案について委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（琉 理人君）

起立多数です。したがって、議案第21号、平成26年度伊仙町上水道事業会計予算は委員長報告のとおり原案可決されました。

△ 日程第8 陳情第2号 TPP（環太平洋連携協定）交渉に関する陳情

△ 日程第9 陳情第3号 日本マルコ株式会社伊仙町事業所及び社員住宅等阿権集落地内誘致の陳情書

○議長（琉 理人君）

日程第8 陳情第2号、TPP（環太平洋連携協定）交渉に関する陳情及び日程第9 陳情第3号、日本マルコ株式会社伊仙町事業所及び社員住宅等阿権集落地内誘致の陳情書について一括して議題とします。

この2件の陳情について、委員長の報告を求めます。

○経済建設常任委員長（前 徹志君）

経済建設常任委員会委員長報告をします。

去る3月11日、当委員会に付託されました陳情第2号、TPP（環太平洋連携協定）交渉に関する陳情書は、3月11日議会委員会室において陳情の趣旨及び主な陳情項目について議会事務局より説明を受け、慎重に審査いたしました。

この陳情書については、平成23年9月定例会においてもTPP（環太平洋連携協定）交渉参加に反対する陳情書が提出され、例外なき関税撤廃は農業を主産業としている我が伊仙町にとって致命的な政策であり、断固反対すべきものとして全会一致で採択されております。

また、その時点で本町議会としてはTPP交渉参加に関する件については反対する意見書も関係省庁へ提出しております。そのような経緯を踏まえ、政府においても農業を機関産業とする自治体や国民の意見を最大限に尊重するとした上で、平成25年3月15日に安倍総理大臣より交渉参加を表明され、今日までTPP交渉に参加している各国と協議を進めてまいりましたが、交渉が大詰めを迎える今、衆参農林水産委員会や自民党による決議においてTPP交渉に参加する場合は、国益がしっかり守られ結果として日本の繁栄につながるよう、政府が一体となって交渉を進めることとして決議されていることなど、政府は最大限に尊重し、陳情の趣旨である同委員会の決議を必ず実現

すること、さらにＴＰＰ交渉に関する国民への情報開示を徹底することに対して、委員全員より賛成する旨の意見が出され、陳情第２号、ＴＰＰ（環太平洋連携協定）交渉に関する陳情書は採択すべきものと決定いたしました。

以上で委員長報告といたします。

続いて、陳情第３号、日本マルコ株式会社伊仙町事業所及び社員住宅等阿権集落地内誘致の陳情書について経済建設常任委員会委員長報告をします。

去る３月１１日、当委員会に付託されました陳情第３号、日本マルコ株式会社伊仙町事業所及び社員住宅等阿権集落地内誘致の陳情書は、３月１１日議会委員会室において陳情に趣旨及び主な陳情項目について議会事務局より説明を受け、慎重に審査いたしました。

同陳情書は、町の事業施策の一環である企業誘致に基づく関係施設の誘致に関する陳情書であります。阿権集落においては１小学校１集落という特性があり、阿権小学校の校章である「阿権青ばと」（博愛と郷土を愛する心を育む）の精神をもとに、長年自発的な活動を行い、その成果が実を結び、「平成２３年度鹿児島県共生・協働の農村づくり運動表彰、農村集落部門鹿児島県知事賞」を受賞するなど、今鹿児島県内はもとより全国的にも本町を代表する集落へと発展してきた集落であります。

今回、阿権集落においてさらなる集落の活性化に向け、積年の課題であります児童数の減少を解消するために、同企業の誘致を望むものとして陳情が提出されました。同委員会ではそのような陳情の趣旨を踏まえ、町当局へ同企業との協議内容及び進捗状況を各議員の一般質問等も含めて聴取した結果、企業側においては交通アクセスの利便性や企業立地条件の中で、重要な塩害を避けるための適正な場所として糸木名地区を最優先に検討しているとの回答がありました。

しかしながら、同企業による雇用人材の確保やそれに付随する住居施設に関して、いまだ詳細部分まで決定していない状況であることから、町当局においても企業側と協議し、阿権集落をはじめ西部地区周辺への誘致に向けて鋭意努力する旨の答弁があり、当委員会といたしましてもそのような経緯を今後も注視し、他の西部集落の各集落へも誘致の効果が得られるよう議会と町当局が情報交換を行いながら、継続して協議していく必要があるとの意見に対し、陳情第３号、日本マルコ株式会社伊仙町事業所及び社員住宅等阿権集落地内誘致の陳情書は継続審査とすべきものと決定いたしました。

○議長（琉 理人君）

これから陳情第２号、ＴＰＰ（環太平洋連携協定）交渉に関する陳情書について質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。

これから陳情第2号について採決をします。

お諮りします。この陳情に対する委員長の報告は採択です。この陳情は委員長報告のとおり採択することにご異議ございませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。したがって、この陳情第2号、TPP（環太平洋連携協定）交渉に関する陳情書については、委員長報告のとおり採択することに決定しました。

陳情第3号、日本マルコ株式会社伊仙町事業所及び社員住宅等阿権集落地内誘致の陳情に質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。

これから陳情第3号について採決します。

お諮りします。この陳情に対する委員長の報告は継続審査です。この陳情は委員長報告のとおり継続審査することにご異議ございませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。したがって、この陳情第3号、日本マルコ株式会社伊仙町事業所及び社員住宅等阿権集落地内誘致の陳情書については、委員長報告のとおり継続審査することに決定しました。

△ 日程第10 発議第1号 TPP（環太平洋連携協定）交渉に関する意見書

○議長（琉 理人君）

日程第10 発議第1号、TPP（環太平洋連携協定）交渉に関する意見書について議題とします。提出者の趣旨説明を求めます。

○経済建設常任委員長（前 徹志君）

発議第1号、TPP（環太平洋連携協定）交渉に関する意見書についての趣旨説明を行います。

同意見書は、陳情第2号、TPP（環太平洋連携協定）交渉に関する陳情書が採択されましたの

で、地方自治法第99条の規定により以下の件について、提出者前 徹志他12名の賛成者の署名を添えて意見書を提出いたします。

1つ、T P P交渉において衆参農林水産委員会決議や自民党決議を必ず実現すること。

2つ、T P P交渉に関する国民への情報開示を徹底すること。

以上、趣旨説明を終わります。

○議長（琉 理人君）

発議第1号について質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

質疑なしと認めます。

これから発議第1号について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。

これから発議第1号を採決します。

お諮りします。発議第1号については原案のとおり決定することご異議ございませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。したがって、発議第1号、T P P（環太平洋連携協定）交渉に関する意見書については、原案のとおり可決されました。

△ 日程第11 議員の派遣について

○議長（琉 理人君）

日程第11 議員の派遣についてを議題とします。

お諮りします。議員の派遣については、先日配付してあります議員派遣予定表のとおり、議員を派遣したいと思いますのご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。したがって議員派遣予定表のとおり議員を派遣することに決定しました。

△ 日程第12 議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の件について

○議長（琉 理人君）

日程第12 議会運営委員会の閉会中の所掌事務の継続審査の件を議題とします。

議会運営委員長から、会議規則第75条の規定によって、お手元にお配りしました本会議の会期日

程等議会の運営に関する事項について、閉会中の継続審査の申し出があります。

お諮りします。委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続審査とすることにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。したがって、委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続審査とすることに決定しました。

△ 日程第13 常任委員会の閉会中の所管継続事務調査の件について

○議長（琉 理人君）

日程第13 総務文教・建設経済常任委員会からの閉会中の特定事務の継続調査の申し出について議題とします。

会議規則第75条の規定によって、各常任委員長からお手元にお配りしました所管事務の調査事項について、閉会中の継続調査の申し出がありました。

お諮りします。各常任委員長の申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。したがって、総務文教・経済建設、各常任委員長の申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

これで、本日の日程は全て終了しました。

会議を閉じます。

平成26年第1回伊仙町議会定例会を閉会します。ご苦労さまでございました。

閉 会 午前11時50分

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

伊仙町議会議長 琉 理 人

伊仙町議会議員 牧 徳 久

伊仙町議会議員 上 木 千恵造